

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第421集

のっこ
野古A遺跡第15次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

岩 手 県 盛 岡 市

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

野古A遺跡第15次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地に分布しております。これら、先人の遺した貴重な文化遺産を保存し、後生に伝えていくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました盛岡南新都市計画整備事業を例にあげるまでもなく現代社会を豊かにし快適な生活を送るために地域開発も県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの設立以来、埋蔵文化財保護の立場に立って、岩手県教育委員会生涯学習文化課の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、盛岡南新都市計画整備事業に関連して、平成14年度に行われた野古A遺跡第15次調査結果について収録したものであります。調査の結果、本遺跡は零石川右岸の河岸段丘上に立地する奈良～平安時代の集落跡であることが明らかになりました。竪穴住居跡からは土師器や須恵器を中心とする土器を始め各種遺物が出土しており、隣接する飯岡沢田遺跡や熊堂B遺跡との関連、さらには北西側約2kmに位置する古代城柵の志波城跡と集落構造の関連性を考える上で貴重な資料を提供することができました。

本書が広く活用され、考古学の研究に関与するとともに埋蔵文化財に対する关心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力とご支援を賜りました盛岡市都市整備部盛岡南整備課、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に心より感謝申しあげます。

平成15年3月

財団法人岩手県文化振興事業団

理事長 合 田 武

例 言

1 本報告は、岩手県盛岡市下鹿妻字北40-1他に所在する野古A遺跡第15次発掘調査の結果を収録したものである。

2 本遺跡の発掘調査は、盛岡南新都市計画整備事業に伴い遺跡の一部が消滅するため、記録保存的目的として実施した緊急発掘調査である。調査は、盛岡市都市整備部盛岡南整備課と岩手県教育委員会事務局文化課（現・生涯学習文化課）の協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3 岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号はL E 16-2155、遺跡略号はON K -02-15である。

4 発掘調査の期間・担当者・調査面積は次のとおりである。

平成14年8月1日～平成14年11月6日・阿部眞澄 石崎高臣 菊池 賢・3,527m²

5 室内整理の期間・担当者は次のとおりである。

平成14年11月1日～平成15年3月31日・阿部 真澄

6 出土石器類の石材鑑定は花崗岩研究会、炭化材同定は木炭協会の早坂松次郎氏とバリノ・サーヴェイ（株）、火山灰・骨同定はバリノ・サーヴェイ（株）、鉄製品保存処理は岩手県立博物館に依頼した。

7 基準点の測量・打設は、（株）土木技術コンサルタント、航空写真は東邦航空サービスに委託した。

8 野外調査および室内整理・報告書作成にあたり、次の方々ならびに機関から指導・助言・協力をいただいた。
(敬称略)

相馬信吉（青森県埋蔵文化財センター） 木村浩一（浪岡町教育委員会） 高杉博章（浪岡町大沢迦工楽団地調査会） 藤井安正・花海義人（鹿角市教育委員会大潟ストーンサークル館） 千葉正彦（岩手県立盛岡商業高等学校） 菅原靖男（肥沢町立南都田中学校） 菊地貴広（遠野市立小友中学校）

9 野外調査では地元盛岡市の方々にご協力いただいた。

10 本報告書の執筆・編集・校正は、当センター臨時職員の協力を得て、阿部眞澄が担当した。

11 本報告書では、国土地理院発行の次の地形図を使用した。

1/25,000 盛岡・小岩井農場・矢巾・南昌山

1/50,000 盛岡・日詰

また、上層の色調観察は、「新版 標準土色図」（小山正忠・竹原秀雄 1990年版）を使用し表記した。

12 調査で得られた出土遺物および調査の諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターで保管し、保存活用を図る予定である。

13 調査成果の一部については現地説明会資料および「平成14年度岩手県埋蔵文化財発掘調査報告」において公表したが、記載内容については本報告書が優先する。

目 次

| | |
|----------------------|-----|
| I 調査に至る過程 | 2 |
| II 遺跡の位置 | 2 |
| 1 位置の位置 | 2 |
| 2 遺跡周辺の地形と地質 | 2 |
| 3 基本層序 | 5 |
| 4 周辺の遺跡 | 5 |
| III 調査の方法と室内整理 | 11 |
| 1 野外調査 | 11 |
| 2 室内整理と掲載方法 | 13 |
| IV 検出された遺構と遺物 | 16 |
| 1 壁穴住居跡 | 16 |
| 2 掘立柱建物跡 | 31 |
| 3 土坑 | 31 |
| 4 窓穴状遺構 | 36 |
| 5 焼土遺構 | 37 |
| 6 溝跡 | 37 |
| 7 その他の遺構 | 39 |
| 8 遺構外出土遺物 | 40 |
| V まとめ | 124 |
| 1 遺構について | 124 |
| 2 遺物について | 127 |
| 3 遺跡について | 134 |
| 鑑定 | 158 |
| 報告書抄録 | 231 |
| 職員名簿 | 232 |

〔図 版〕

| | | | |
|----------------------------------|----|----------------------------------|-----|
| 第1図 遺跡の位置 | 1 | 第37図 RB003掘立柱建物跡 | 69 |
| 第2図 調査区と周辺の地図 | 3 | 第38図 RD064・065・066・067・068・069土坑 | 70 |
| 第3図 地形分類 | 4 | 第39図 RD070・071・072・073・074土坑 | 71 |
| 第4図 調査区各地点の層序 | 6 | 第40図 RD075・076・077・078・079・080土坑 | 72 |
| 第5図 周辺の遺跡 | 8 | 第41図 RD081・082・083土坑 | 73 |
| 第6図 グリッド配置図 | 12 | 第42図 RF001堅穴状遺構・RF001焼土遺構 | 74 |
| 第7図 凡例 | 14 | 第43図 RG015・017溝跡 | 75 |
| 第8図 遺構配置図 | 15 | 第44図 RG015・018・019・020・021溝跡 | 76 |
| 第9図 RA041堅穴住居跡 | 41 | 第45図 RZ003土坑状遺構 | 77 |
| 第10図 RA042堅穴住居跡(1) | 42 | 第46図 RZ004北側調査区柱穴状土坑 | 78 |
| 第11図 RA042堅穴住居跡(2) | 43 | 第47図 RZ004東側調査区柱穴状土坑(1) | 79 |
| 第12図 RA042堅穴住居跡(3) | 44 | 第48図 RZ004東側調査区柱穴状土坑(2) | 80 |
| 第13図 RA042堅穴住居跡(4) | 45 | 第49図 RA041(1)出土遺物 | 81 |
| 第14図 RA043堅穴住居跡 | 46 | 第50図 RA041(2)出土遺物 | 82 |
| 第15図 RA044堅穴住居跡 | 47 | 第51図 RA042(1)出土遺物 | 83 |
| 第16図 RA045堅穴住居跡(1) | 48 | 第52図 RA042(2)出土遺物 | 84 |
| 第17図 RA045堅穴住居跡(2) | 49 | 第53図 RA042(3)出土遺物 | 85 |
| 第18図 RA046堅穴住居跡(1) | 50 | 第54図 RA042(4)出土遺物 | 86 |
| 第19図 RA046堅穴住居跡(2) | 51 | 第55図 RA042(5)出土遺物 | 87 |
| 第20図 RA047堅穴住居跡(1) | 52 | 第56図 RA042(6)出土遺物 | 88 |
| 第21図 RA047堅穴住居跡(2) | 53 | 第57図 RA043出土遺物 | 89 |
| 第22図 RA047堅穴住居跡(3) | 54 | 第58図 RA044出土遺物 | 90 |
| 第23図 RA048堅穴住居跡(1) | 55 | 第59図 RA045(1)出土遺物 | 91 |
| 第24図 RA048堅穴住居跡(2)・カマド芯材土器 | 56 | 第60図 RA045(2)・RA046(1)出土遺物 | 92 |
| 第25図 RA048堅穴住居跡(3) | 57 | 第61図 RA046(2)出土遺物 | 93 |
| 第26図 RA048堅穴住居跡(4) | 58 | 第62図 RA047(1)出土遺物 | 94 |
| 第27図 RA049堅穴住居跡 | 59 | 第63図 RA047(2)出土遺物 | 95 |
| 第28図 RA050堅穴住居跡(1) | 60 | 第64図 RA047(3)出土遺物 | 96 |
| 第29図 RA050堅穴住居跡(2)・RA051堅穴住居跡(1) | 61 | 第65図 RA047(4)出土遺物 | 97 |
| 第30図 RA051堅穴住居跡(2) | 62 | 第66図 RA047(5)出土遺物 | 98 |
| 第31図 RA051堅穴住居跡(3) | 63 | 第67図 RA047(6)出土遺物 | 99 |
| 第32図 RA051堅穴住居跡(4)・RA052堅穴住居跡(1) | 64 | 第68図 RA047(7)出土遺物 | 100 |
| 第33図 RA052堅穴住居跡(2) | 65 | 第69図 RA047(8)出土遺物 | 101 |
| 第34図 RA052堅穴住居跡(3) | 66 | 第70図 RA048(1)出土遺物 | 102 |
| 第35図 RA053堅穴住居跡(1) | 67 | 第71図 RA048(2)出土遺物 | 103 |
| 第36図 RA053堅穴住居跡(2) | 68 | 第72図 RA048(3)出土遺物 | 104 |

| | | | |
|-------------------------|-----|---------------------------|-----|
| 第73図 RA048 (4) 出土遺物 | 105 | 第88図 RD076・079 (1) 出土遺物 | 120 |
| 第74図 RA048 (5) ・049出土遺物 | 106 | 第89図 RD079 (2) 出土遺物 | 121 |
| 第75図 RA050出土遺物 | 107 | 第90図 RE001 (1) 出土遺物 | 122 |
| 第76図 RA051 (1) 出土遺物 | 108 | 第91図 RE001 (2) ・RZ003出土遺物 | 123 |
| 第77図 RA051 (2) 出土遺物 | 109 | 第92図 壁穴住居跡床面積・主軸方向分析 | 137 |
| 第78図 RA051 (3) 出土遺物 | 110 | 第93図 上器集成図 (1) | 138 |
| 第79図 RA051 (4) 出土遺物 | 111 | 第94図 上器集成図 (2) | 139 |
| 第80図 RA052 (1) 出土遺物 | 112 | 第95図 土器集成図 (3) | 140 |
| 第81図 RA052 (2) 出土遺物 | 113 | 第96図 砂底土器 (1) | 141 |
| 第82図 RA052 (3) 出土遺物 | 114 | 第97図 砂底土器 (2) | 142 |
| 第83図 RA052 (4) 出土遺物 | 115 | 第98図 不掲載遺物・造構別 | 143 |
| 第84図 RA052 (5) 出土遺物 | 116 | 第99図 不掲載遺物・造構別器種別 (1) | 144 |
| 第85図 RA052 (6) 出土遺物 | 117 | 第100図 不掲載遺物・造構別器種別 (2) | 145 |
| 第86図 RA053 (1) 出土遺物 | 118 | 第101図 時代別壁穴住居跡分布図 | 157 |
| 第87図 RA053 (2) 出土遺物 | 119 | | |

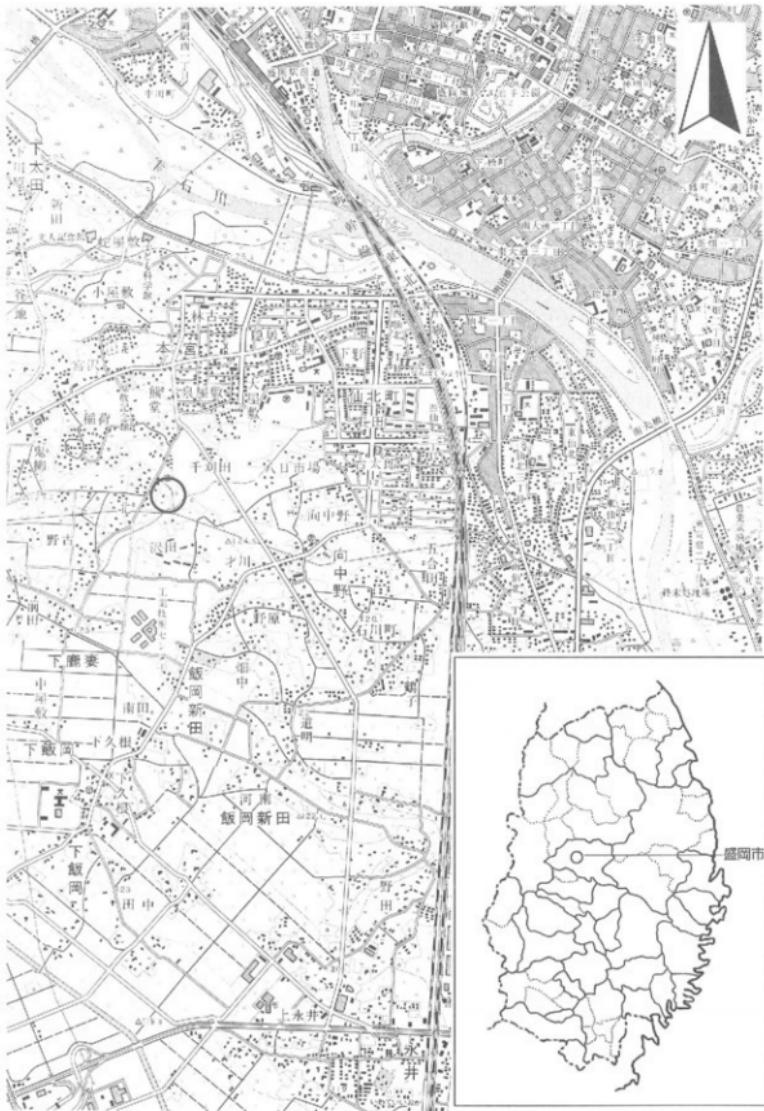
[写真図版]

| | | | |
|---------------------|-----|------------------------|-----|
| 図版 1 遺跡と遺物 | 167 | 図版22 RD068～072土坑 | 188 |
| 図版 2 盛南地区の変遷 1 | 168 | 図版23 RD073～076土坑 | 189 |
| 図版 3 盛南地区の変遷 2・基本土層 | 169 | 図版24 RD077～080土坑 | 190 |
| 図版 4 遺跡全景 | 170 | 図版25 RD081～083土坑 | 191 |
| 図版 5 RA041壁穴住居跡 | 171 | 図版26 RE001壁穴状造構 | 192 |
| 図版 6 RA042壁穴住居跡 (1) | 172 | 図版27 RF001焼土遺構・RG015溝跡 | 193 |
| 図版 7 RA042壁穴住居跡 (2) | 173 | 図版28 RG017溝跡 | 194 |
| 図版 8 RA043壁穴住居跡 | 174 | 図版29 RG018・019溝跡 | 195 |
| 図版 9 RA044壁穴住居跡 | 175 | 図版30 RG020・021溝跡 | 196 |
| 図版10 RA045壁穴住居跡 | 176 | 図版31 RZ003土坑状造構 | 197 |
| 図版11 RA046壁穴住居跡 | 177 | 図版32 RA041出土遺物 | 198 |
| 図版12 RA047壁穴住居跡 | 178 | 図版33 RA042 (1) 出土遺物 | 199 |
| 図版13 RA048壁穴住居跡 (1) | 179 | 図版34 RA042 (2) 出土遺物 | 200 |
| 図版14 RA048壁穴住居跡 (2) | 180 | 図版35 RA042 (3) 出土遺物 | 201 |
| 図版15 RA049壁穴住居跡 | 181 | 図版36 RA042 (4) 出土遺物 | 202 |
| 図版16 RA050壁穴住居跡 | 182 | 図版37 RA042 (5) 出土遺物 | 203 |
| 図版17 RA051壁穴住居跡 | 183 | 図版38 RA043・044出土遺物 | 204 |
| 図版18 RA052壁穴住居跡 | 184 | 図版39 RA045出土遺物 | 205 |
| 図版19 RA053壁穴住居跡 | 185 | 図版40 RA046出土遺物 | 206 |
| 図版20 RB003掘立柱建物跡 | 186 | 図版41 RA047 (1) 出土遺物 | 207 |
| 図版21 RD064～067土坑 | 187 | 図版42 RA047 (2) 出土遺物 | 208 |

| | | | |
|------------------------|-----|--------------------------|-----|
| 図版43 RA047 (3) 出土遺物 | 209 | 図版54 RA051 (3) 出土遺物 | 220 |
| 図版44 RA047 (4) 出土遺物 | 210 | 図版55 RA052 (1) 出土遺物 | 221 |
| 図版45 RA047 (5) 出土遺物 | 211 | 図版56 RA052 (2) 出土遺物 | 222 |
| 図版46 RA048 (1) 出土遺物 | 212 | 図版57 RA052 (3) 出土遺物 | 223 |
| 図版47 RA048 (2) 出土遺物 | 213 | 図版58 RA052 (4) 出土遺物 | 224 |
| 図版48 RA048 (3) 出土遺物 | 214 | 図版59 RA052 (5) 出土遺物 | 225 |
| 図版49 RA048 (4) 出土遺物 | 215 | 図版60 RA053 (1) 出土遺物 | 226 |
| 図版50 RA048 (5)・049出土遺物 | 216 | 図版61 RA053 (2) 出土遺物 | 227 |
| 図版51 RA050出土遺物 | 217 | 図版62 RD076・RD079 出土遺物 | 228 |
| 図版52 RA051 (1) 出土遺物 | 218 | 図版63 RE001 (1) 出土遺物 | 229 |
| 図版53 RA051 (2) 出土遺物 | 219 | 図版64 RE001 (2)・RZ003出土遺物 | 230 |

〔表〕

| | | | |
|---------------------|-----|-----------------------|-----|
| 第1表 周辺の遺跡 (1) | 9 | 第11表 不掲載遺物一覧 (3)(4) | 147 |
| 第2表 周辺の遺跡 (2) | 10 | 第12表 不掲載遺物一覧 (5)(6) | 148 |
| 第3表 柱穴状土坑一覧 (1) | 78 | 第13表 不掲載遺物一覧 (7)(8) | 149 |
| 第4表 柱穴状土坑一覧 (2) | 80 | 第14表 不掲載遺物一覧 (9)(10) | 150 |
| 第5表 奈良時代堅穴住居跡一覧 | 126 | 第15表 不掲載遺物一覧 (11)(12) | 151 |
| 第6表 平安時代堅穴住居跡一覧 | 126 | 第16表 不掲載遺物一覧 (13)(14) | 152 |
| 第7表 土坑一覧 | 127 | 第17表 不掲載遺物一覧 (15)(16) | 153 |
| 第8表 溝跡一覧 | 127 | 第18表 不掲載遺物一覧 (17)(18) | 154 |
| 第9表 砂底土器一覧 | 132 | 第19表 不掲載遺物一覧 (19)(20) | 155 |
| 第10表 不掲載遺物一覧 (1)(2) | 146 | 第20表 不掲載遺物一覧 (21)(22) | 156 |



第1図 遺跡の位置

盛岡・矢幅、1:25,000

I 調査に至る過程

盛岡南新都市開発計画は、盛岡市が21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市として発展していくことをめざし、現在の既成市街地の他に南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた輪状都市を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、平成2年9月に岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者が地域振興整備公団に対して事業要請を行い、これを受け公団が実施計画を作成した。平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成3年度から平成17年度までの15年間を事業予定期間とし、面積約313haを対象とした上地区画整理事業が実施されることになった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取り扱いについても協議が重ねられた。その結果、本調査に関しては盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、調査を必要とする範囲を確定し、（財）岩手県文化振興事業団の受託事業とすることになった。

当遺跡15次調査については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成14年度の事業として確定した。これを受け、平成14年4月1日に、（財）岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長との間で委託契約が締結され発掘調査を実施するはこびとなった。野外調査は平成14年8月1日～11月6日迄、室内整理は同年11月1日～翌15年3月31日迄行われた。

II 遺跡の位置

1 遺跡の位置

野古A遺跡の所在する盛岡市は、岩手県の中央部に位置している。総面積は489.15km²、人口288,318人（平成15年2月1日）、東側は下閉伊郡岩泉町と川井村、西側が岩手郡寺石町、南側が紫波郡矢巾町と紫波町及び稗貫郡大迫町、北側が岩手郡滝沢村と玉山村の5町3村に隣接する。南部藩主南部重直公による盛岡城完成の1633年より経ること370年、現在岩手県の県庁所在地であり、北東北における中核都市として発展を続けている。

野古A遺跡は、岩手県盛岡市下鹿妻字北40-1他に所在し国土地理院発行の2万5000分の1の地図「盛岡」N J - 54 - 13 - 14 - 2（盛岡新庄14号-2）の図幅に含まれ、北緯39度40分47秒、東経141度8分40秒付近、JR東北本線仙北町駅の西約1.5km、奥羽山脈より東流する半石川右岸の微高地に位置する。

第15次調査区は、北側が畑地、西側がゲートボール場、南東側が畑地で占められ、過年度に行われた第12次調査区に隣接する。

調査区の標高は123～125m前後、西側と南東側は緩やかに東に向かって傾斜し、北側は微高地縁辺部にあたり北西より続く旧河道に至る。

本遺跡は、鹿妻用水路を隔てて南東側に飯岡沢田遺跡、北東側に熊堂B遺跡に隣接する。周辺は盛岡南新都市計画整備事業に伴い宅地造成がすすみ、その下に調査の終了した古代の集落跡と古墳群が静かに眠る地域である。

2 遺跡周辺の地形と地質

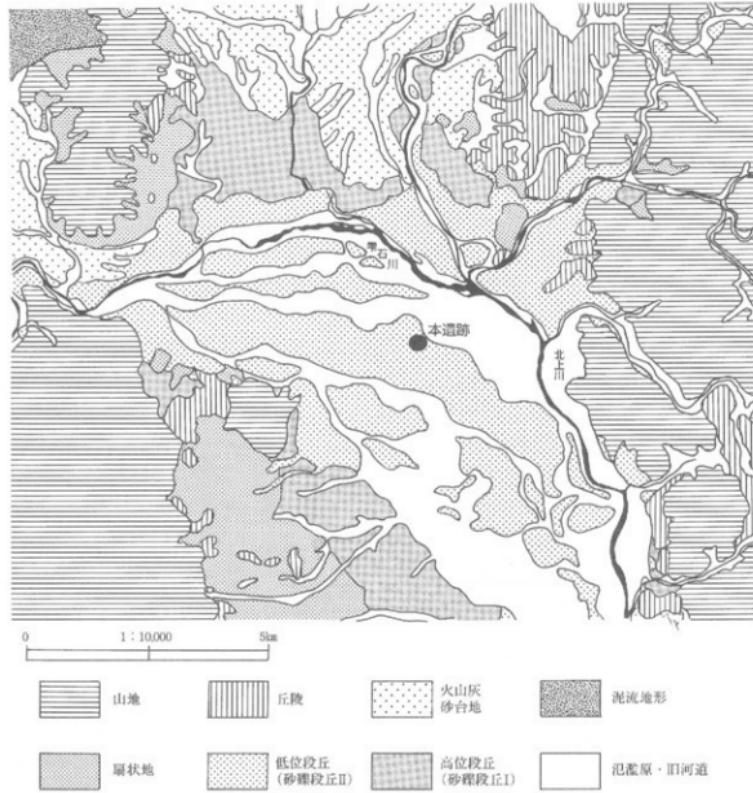
盛岡市は東西に迫る山々に挟まれた盆地を中心に広がる、緑と水の街である。市街地からは北西にコニーデ火山特有の裾野を東側に広げる岩手山（標高2,038.2m）、北東側に船神山（1,124.5m）、南東側に笠峰早池峰山（標高1,917m）を望むことができる。いずれも、歌人石川啄木が遠い異郷からその姿を詠み、詩人宮澤賢治が自らの中の宇宙を見つめながら生命の輝きを讃えた山々である。



第2図 調査区と周辺の地形

また、盛岡市は水の街でもある。東北新幹線が盛岡駅に近づきスピードを落とすとき、まず目にはいるのは白鳥が羽根を休める綺やかな北上川の流れである。急峻な山々に囲まれた盆地は、また、北上川とその支流中津川・梁川・零石川が合流し、力強く南下を始める地点でもある。

北上川は東北地方最大の1級河川で、主流部の延長294km、流域面積10,250km²、支流数216を有し、西側に連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。古代より人と物の流れは北上川により司られ、時には荒れ狂う自然の恐ろしさを人間に知らしめ、またある時にはその豊かな恵みを人々に分け与えてきた大河である。流域は、盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市弘禪寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられており、盛岡市は中流域北部にあたる。



第3図 地形分類

中流域の地形は、背後に控える山地構造の違いにより対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、各支流に多量の土砂を供給し、西岸に大小の扇状地が複合する広い平野部を作り出している。これらの扇状地は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開析され段丘化している。これに対して老年期山地がその後の地殻変動によって隆起準平原化した北上山地側では、山地に続く丘陵縁辺部に小規模な段丘と冲積地が観察されるにすぎない。

北上川流域の第四系及び地形の研究は中川久夫ほかの業績が大きく、中流域の段丘を上部から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類した。中流域北部ではこれらに相当するものとして石鳥谷段丘、二教橋段丘、都南段丘が設定されている。

本遺跡の所在する北上川中流域北部右岸では、大規模な平野と奥羽脊梁山脈から供給される多量の堆積物による扇状地が形成されており、零石川以南北上川以西には零石川の下削・堆積作用により高位から順に「砂礫段丘Ⅰ」「砂礫段丘Ⅱ」「砂礫段丘Ⅲ」の沖積段丘面が形成されている。低位の「砂礫段丘Ⅲ」面には零石川の河道変遷に伴う4期にわたる旧河道が確認されている。文献史料によれば、志波城は零石川の水害が原因で廃絶したとされており、発掘の結果からも志波城北辺部分は零石川の旧河道によりきられて消失していることが確認されている。さらに小河川の河道痕跡が網目状に入り組んでおり、小規模な自然堤防状の微高地を形成する。本遺構を含めた古代遺跡の多くは「砂礫段丘Ⅲ」面の微高地や扇状地の縁辺部に位置している。

3 基本層序

第15次調査において、調査区を北側・西側・東側の三区に区分した。西側と東側は、前述の如く、緩やかに東に向かって傾斜し、北区は零石川河岸段丘上の微高地縁辺部にあたり、北西の熊堂B遺跡より続く旧河道に至る。

調査区において畑地部分が占める割合が多かったため、遺構の残り状態がよく検出が容易で、地表面下の厚めのⅢ層下面（漸移層）～Ⅳ層上面で遺構を検出した。加えて、北側と東側に於いてはⅢ層下面10YR2/2黒褐色土とその中の灰白色火山灰の広がりで遺構の検出ができた。

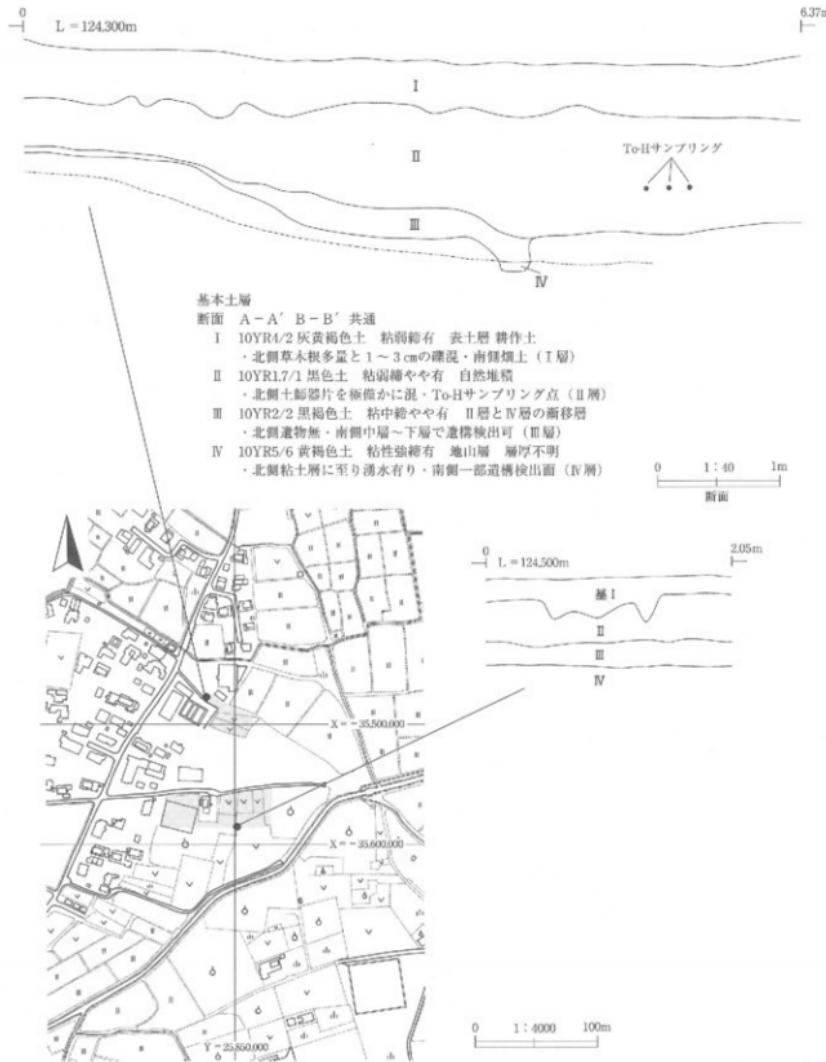
一方で遺構の残り状態がよく検出しやすいということは、精査階級で出る土量が多く、遺構精査に時間がかかるということでもあった。平成14年度前期に行った台太郎遺跡に比べ、調査した遺構数は半分であったが、調査に費やした時間はほぼ同じかそれよりも多い状態であったことも記しておく。

4 周辺の遺跡

盛岡市内における遺跡は、岩手県遺跡台帳平成7年度によれば、521箇所余が登録されている。第5回は野古A遺跡周辺の主な遺跡の分布を零石川右岸を中心に図示したものである。これらの遺跡分布状況を見ると、零石川左岸（北岸）と右岸（南岸）では対照的な様相を示している。

左岸の台地上には、人跡遺跡群をはじめとする繩文時代の集落群が数多く分布している。それに対し右岸の低位段丘面上には、繩文時代の遺構は陥し穴状遺構が散在する程度となり、僅かに熊堂A遺跡から繩文時代晚期の堅穴住居跡が1棟発見されたにすぎない。しかし、古代の遺跡は多く、八掛遺跡などの8世紀時代の集落跡や太田般舟森古墳群、延暦22年（803）に造営された古代城柵である志波城や林崎遺跡などの集落跡も数多く分布している。このような遺跡の分布域の相違は立地する地形面と大きく係わるものと考えられる。

以下は近年周辺で調査された志波城跡、熊堂B遺跡、台太郎遺跡、飯岡沢田遺跡の調査概要である。



第4図 調査区各地点の層序

(14) 志波城跡

本遺跡の北西約2kmに位置する太田方八丁遺跡は、昭和51・52年に東北縦貫自動車道建設に伴う調査が行われた。その後に盛岡市教育委員会による範囲確認調査を経て、所在地が不明であった古代城柵「志波城跡」と認定された。昭和55年度から59年度に亘る5カ年の発掘調査によって、陸奥の国最北端の城柵跡としての独自性が明らかになるにいたり、昭和59年に国指定史跡となった。

発掘調査は昭和55年から毎年継続して行われており、平成11年度迄に第85次調査を数えている。平成5年度からは史跡保存整備事業も着手され、柵および堀地盤の復元工事が行われている。

(30) 熊堂B遺跡

JR仙北町駅の西約1.5kmに位置し、零石川南岸の標高123m前後の河岸段丘上に立地している。調査区の現況は休耕田と畠地である。盛岡市教委と当センターで第13次までの調査が行われ、奈良～平安時代の集落跡が確認されている。

平成14年度の第14・15次調査の結果、検出した遺構は竪穴住居跡13棟、土坑52基、溝跡19条、竪穴状遺構1基、柱穴状土坑、出土遺物は土師器（壺・高台付壺・甕）、須恵器、土製品（勾玉）、鉄製品（刀子等）と縄文土器片である。

(36) 台太郎遺跡

JR仙北町駅の西約900mに位置し、零石川南岸の河岸段丘上に立地している。調査終了区域は宅地化がすすみ、近年の調査は新しい住宅に囲まれた宅地跡、畠地や休耕田が中心である。

本年度の調査は第44次を数え、調査区は東西南北に四散した宅地跡と畠地で、大部分は建物の基礎や配水管工事の影響で遺構の残存状態はよくなかった。

検出した遺構は竪穴住居跡20棟（奈良時代9棟、平安時代11棟）、掘立柱建物跡4棟、土坑41基、竪穴状遺構2棟、焼土遺構2基、溝跡・塙22条、井戸跡1基と柱穴状土坑である。

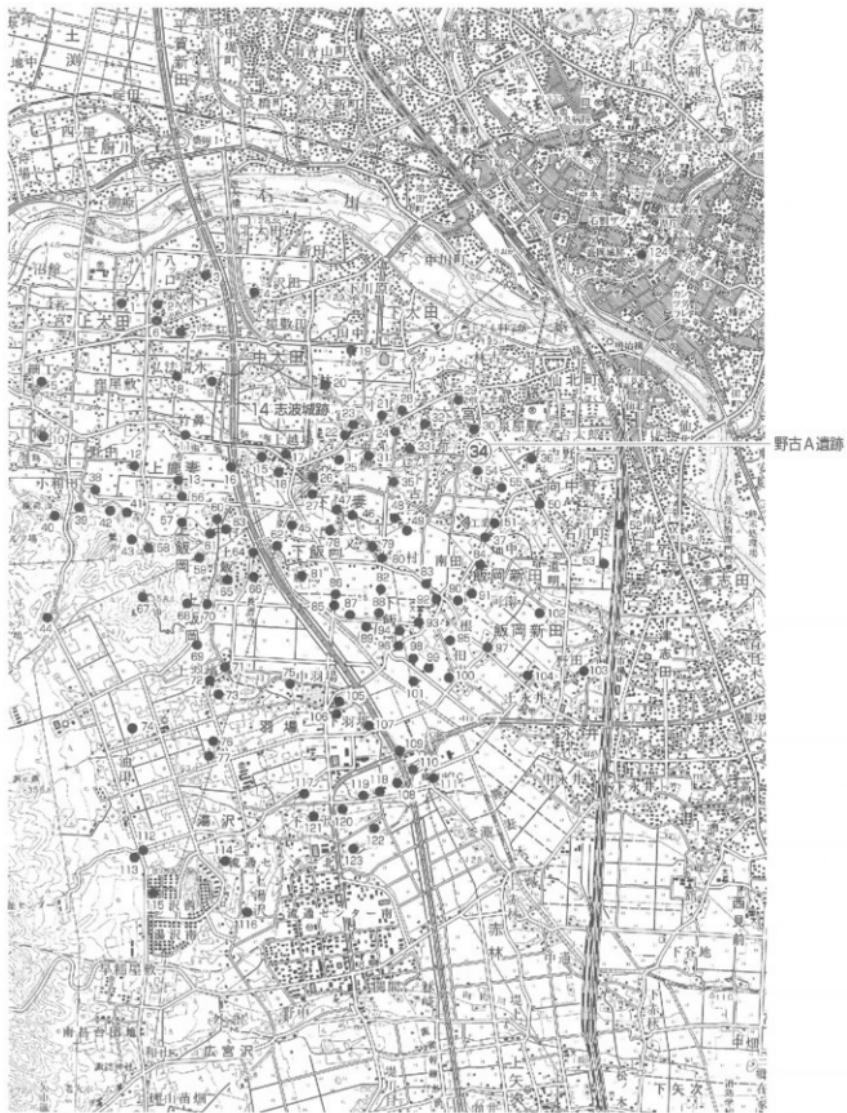
(54) 飯岡沢田遺跡

JR仙北町駅の西約1.5kmに位置し、零石川南岸の河岸段丘上に立地している。調査区の現況は畠地、果樹園と休耕地である。本遺跡の西側には「鹿妻塙」を隔てて野古A遺跡が隣接する。

平成13年度と同14年度の2ヶ年にわたる当センターによる約12,000m²の調査の結果、主に奈良～平安時代の古墳及び円形・方形周溝が45基、中世のものと考えられる人形の方形周溝が1基、古代の竪穴住居跡が20棟、掘立柱建物跡2棟、土坑86基、溝跡12条、竪穴状遺構5棟、及び縄文時代の陥入穴状土坑を検出した。

多くの古墳及び円形・方形周溝群を多数検出し、当遺跡は奈良～平安時代を中心とした大規模な古代の墓域であったことを確認した。

((30) (36) (54) の内容は、「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第423集：岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成14年度）」による。)



第5図 周辺の遺跡

| No. | 遺跡名 | 種別 | 時代／備考 |
|-----|---------|-----|--------------------------|
| 1 | 細田 | 散布地 | 平安／土師器 |
| 2 | 松ノ木 | 集落跡 | 平安／土師器 |
| 3 | 八ツ口 | 散布地 | 古代／土師器／住居跡 |
| 4 | 八掛 | 集落跡 | 古代／土師器／住居跡／土坑 |
| 5 | 太田駒ヶ森古墳 | 古墳 | 奈良／土師器／刀・玉・和同開珎 |
| 6 | 館 | 集落跡 | 平安／土師器／住居跡／城館跡／扇 |
| 7 | 上野屋敷 | 散布地 | 古代／土師器 |
| 8 | 烟中 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 9 | 小沼 | 集落跡 | 平安／土師器・縁柱陶器／住居跡 |
| 10 | 一本木 | 集落跡 | 平安／土師器／住居跡 |
| 11 | 五兵衛新田 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 12 | 天沼 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 13 | 竹鼻 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 14 | 志波城 | 城櫓跡 | 平安／土師器／掘立柱建物跡／門跡 |
| 15 | 田貝 | 集落跡 | 古代／土師器／住居跡 |
| 16 | 竹花前 | 集落跡 | 平安／土師器・縁柱陶器／住居跡 |
| 17 | 新堀藻 | 城櫓跡 | 绳文・古代・绳文土器（晩）・土師器 |
| 18 | 石仏 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 19 | 田中 | 散布地 | 平安／土師器 |
| 20 | 林崎 | 集落跡 | 平安／土師器／掘立柱建物跡 |
| 21 | 小堀 | 集落跡 | 平安／土師器／住居跡／掘立柱建物跡 |
| 22 | 大宮北 | 集落跡 | 古代・中世／土師器／住居跡 |
| 23 | 鬼柳A | 散布地 | 平安／土師器／住居跡／土坑／溝跡 |
| 24 | 鬼柳B | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 25 | 小林 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 26 | 水門 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 27 | 上越場 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 28 | 宮沢 | 散布地 | 平安／漢状瓦構 |
| 29 | 熊堂A | 散布地 | 绳文・绳文土器（晩）／住居跡等 |
| 30 | 熊堂B | 集落跡 | 奈良～近世／土師器／住居跡／土坑／掘立柱建物跡 |
| 31 | 鬼柳B | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 32 | 桶荷 | 集落跡 | 平安／土師器・須恵器／溝跡 |
| 33 | 鬼柳C | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 34 | 野古A | 集落跡 | 古墳末～平安／土師器・須恵器／住居跡／溝跡／土坑 |
| 35 | 野古B | 散布地 | 古代／土師器 |
| 36 | 台太郎 | 集落跡 | 奈良～近世／土師器／住居跡／溝跡／掘立柱建物跡 |
| 37 | 矢盛 | 集落跡 | 平安／土師器／住居跡／土坑／溝跡 |
| 38 | 蟹沢下 | 散布地 | 古代／土師器 |
| 39 | 一ツ沢 | 散布地 | 绳文・古代・土器（中・後）／土師器 |
| 40 | 小和田館 | 城櫓跡 | 中世／塙／郭 |
| 41 | 蟹沢 | 散布地 | 绳文・古代・绳文土器・土師器 |
| 42 | ヘビ堂 | 散布地 | 绳文・古代・绳文土器・土師器 |
| 43 | オミ坂 | 散布地 | 绳文・平安・绳文土器・土師器 |
| 44 | 大ケ森 | 散布地 | 绳文・古代・绳文土器・土師器 |
| 45 | 辻屋敷 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 46 | 西田A | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 47 | 上越場B | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 48 | 西田B | 集落跡 | 古代／土師器・須恵器 |
| 49 | 煎田 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 50 | 向中野館 | 城櫓跡 | 中世／塙／土塁 |
| 51 | 細谷地 | 集落跡 | 平安／土師器／住居跡／陥穴状土坑／溝 |
| 52 | 南仙北 | 集落跡 | 绳文・古代・绳文土器・土師器 |
| 53 | 向中野幅 | 集落跡 | 古代／土師器 |
| 54 | 飯岡沢田 | 集落跡 | 古墳末～中世／土師須恵・古墳・周溝・環濠・住居跡 |
| 55 | 飯岡才川 | 集落跡 | 平安／土師須恵・円形周溝・掘立柱建物跡／住居跡 |
| 56 | 中村 | 散布地 | 平安／土師器・須恵器 |
| 57 | 月見山 | 散布地 | 绳文・古代・土師器 |
| 58 | 山中 | 散布地 | 绳文・古代・绳文土器・土師器 |
| 59 | 飯岡館 | 城櫓跡 | 中世・绳文・绳文土器（中）・空堀 |
| 60 | 高堤 | 散布地 | 绳文・古代・绳文土器・土師器 |
| 61 | 古墳群 | 古墳 | 奈良～平安／土師器・兼手刀 |
| 62 | 藤島II | 散布地 | 平安？／土師器 |

第1表 周辺の遺跡（1）

| No. | 遺跡名 | 種別 | 時代／備考 |
|-----|------------|-----|------------------|
| 63 | 高 館 | 集落跡 | 縄文／縄文土器（中）・石器 |
| 64 | 大 柳 I | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 65 | 大 柳 II | 散布地 | 古代？／土師器 |
| 66 | 館 野 前 | 散布地 | 縄文／縄文土器（後） |
| 67 | 飯 園 山 鮎 | 城館跡 | 中世 |
| 68 | 飯 園 赤 坂 | 散布地 | 古代 |
| 69 | い た こ 墳 | 祭祀跡 | 近世 |
| 70 | 赤 坂 II | 散布地 | 平安？／土師器 |
| 71 | 羽 場 鮎 | 城館跡 | 中世／空堀 |
| 72 | 羽 場 百 目 木 | 散布地 | 縄文／縄文土器（中） |
| 73 | 砂 子 墳 | 散布地 | 古代／小塚 |
| 74 | ア イ ノ 野 | 散布地 | 縄文／縄文土器（晩） |
| 75 | 因 輪 | 散布地 | 縄文・古代／縄文土器・土師器 |
| 76 | 木 節 | 集落跡 | 平安 |
| 77 | 福 千 代 | 集落跡 | 奈良 |
| 78 | 二 又 | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 79 | 内 村 | 集落跡 | 平安／土師器・常滑 |
| 80 | 中 屋 敷 | 散布地 | 古代／土師器 |
| 81 | 藤 鳥 I | 集落跡 | 縄文・古代／縄文土器・土師器 |
| 82 | 深 渓 I | 集落跡 | 平安／住居跡 |
| 83 | 高 屋 敷 | 散布地 | 古代／住居跡 |
| 84 | 法 律 権 現 塚 | 祭祀跡 | 時代不明 |
| 85 | 飯 国 林 嶺 II | 集落跡 | 古代／土師器・須恵器・硯／住居跡 |
| 86 | 飯 国 林 嶺 I | 集落跡 | 平安／土師器 |
| 87 | 上 新 田 | 集落跡 | 平安／土師器／住居跡 |
| 88 | 深 渓 II | 集落跡 | 平安／住居跡 |
| 89 | 上 新 田 I | 集落跡 | 平安／住居跡／上新田と重複 |
| 90 | 下 久 根 I | 散布地 | 縄文・古代／縄文土器・土師器 |
| 91 | 石 特 | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 92 | 高 屋 敷 II | 散布地 | 平安／土師器・須恵器 |
| 93 | 西 | 集落跡 | 平安／土師器／住居跡 |
| 94 | 西 出 | 集落跡 | 平安／須恵器 |
| 95 | 下 久 根 II | 散布地 | 縄文・古代／縄文土器 |
| 96 | 熊 堂 I | 集落跡 | 縄文・古代／縄文土器・土師器 |
| 97 | 松 島 | 集落跡 | 古代／土師器・須恵器 |
| 98 | 燕 堂 里 | 集落跡 | 平安／土師器・須恵器／住居跡 |
| 99 | 熊 堂 II | 集落跡 | 平安／土師器・須恵器・住居跡 |
| 100 | 田 中 | 集落跡 | 平安／土師器・須恵器・石器 |
| 101 | 南 谷 地 | 集落跡 | 平安／土師器・須恵器／住居跡 |
| 102 | 夕 竜 | 散布地 | 古代／土師器 |
| 103 | 橋 屋 | 集落跡 | 古代／土師器・須恵器 |
| 104 | 葛 本 | 散布地 | 古代／土師器・石器 |
| 105 | 新 井 田 I | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 106 | 新 井 田 II | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 107 | 新 田 | 集落跡 | 平安／土師器・須恵器 |
| 108 | 間 渡 I | 散布地 | 古代／土師器 |
| 109 | 下 羽 場 | 集落跡 | 平安／土師器・須恵器・綠釉陶器 |
| 110 | 下 湯 沢 | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 111 | 大 鳥 島 | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 112 | 湯 壺 | 散布地 | 縄文／縄文土器（晩）・石器 |
| 113 | 湯 壺 経 塚 | 経 塚 | 中世／常滑 |
| 114 | 後 島 | 散布地 | 縄文／縄文土器・石器 |
| 115 | 湯 沢 | 散布地 | 縄文／縄文土器（前・中・後） |
| 116 | 島 墳 | 墳 墓 | 時代不明／小塚 |
| 117 | 小 田 I | 散布地 | 古代／土師器 |
| 118 | 間 渡 II | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 119 | 間 渡 III | 散布地 | 古代／土師器・須恵器 |
| 120 | 森 子 | 散布地 | 古代／土師器 |
| 121 | 小 田 II | 散布地 | 平安／土師器 |
| 122 | 湯 沢 大 鮎 | 城館跡 | 古代～中世／土師器・須恵器 |
| 123 | 猪 沢 | 散布地 | 古代／土師器 |
| 124 | 盛 岡 城 | 城築跡 | 中世～近世／瓦・陶磁器・その他 |

第2表 周辺の遺跡（2）

III 調査の方法と室内整理

1 野外調査

(1) 調査の過程

平成14年8月1日 台太郎遺跡より移動 午後現場設営

8月2日～8月7日 北側調査区→西側調査区→東側調査区の順に試掘調査を行う。

8月7日～8月26日 試掘と並行して重機による表土除去と検出・精査を行う。

北側調査区において表土が厚く除去に時間がかかった。

8月29日 北側調査区と並行して西側調査区の検出・精査を行う。

9月18日 西側調査区の精査をほぼ終了し、東側調査区の精査を開始する。

東側調査区の遺構は大きく残りも良かったため、精査に時間がかかる。

10月1日 台風のため野外調査休み。風台風でシートが飛ぶことを心配した。

10月2日～3日 城西中2年生4名体験学習実施 4日金田一中2年生6名体験学習実施

10月19日 現地説明会 約40名の参加あり。

10月23日 午後航空写真撮影 引き続き終了確認を行う。

10月30日 午後現場撤収翌31日 精査と実測終了。

10月30日～11月6日 重機による埋め戻しの後、予定していた野外調査を終了する。

変電所と高庄鉄塔の下、ひたすら安全に留意し調査を行った。

現場撤収の日は、岩手山からの寒風が身にしみる日であった。

(2) グリッドの設定

グリッドの設定にあたっては、盛岡市教育委員会の方針に準じ、平面直角座標第X系を座標変換した調査座標を用いた。野古A遺跡の調査座標原点は、 $X = -35,000.000$ 、 $Y = +25,000.000$ である。この座標原点を基点として、遺跡全体を一辺50mの大グリッドに区画した。北西隅を基点に、東方向へはアルファベットの大文字でA～Y、南方向へは1～25の数字を付して、これを組み合わせて1A、2B、24X、25Yというように表示した。小グリッドは大グリッドを25等分して $2 \times 2\text{ m}$ に区画し、北西隅を基点に東方向へはa～y、南方向へは1～25をつけて1a、1b、25yというような設定にした。

報告書への掲載には、過去の野古A遺跡報告書に準じ、12R 24gというように表示している。(第6図参照) また、基準点及び補点の成果値と杭高(標高)は第8図のとおりである。

(3) 粗掘りと遺構検出

今次調査に先立ち、盛岡市教育委員会および当センターの第12次調査結果から、今次調査対象区域のほぼ全面について遺構と遺物の状況がある程度把握されていた。このため、層序が比較的単純でしかも地形が水平であること、灰質褐色土(1層)中には遺物が僅少であることから、粗掘りには重機(パワーショベル)を使用し、その後人力によって遺構の検出を行った。

(4) 遺構の命名

検出した遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に準じ、下記の通りに行った。各種遺構の遺構番号は、第3次調査からの通し番号で付しており、欠番となっているものについては調査進行中、または整理

作業の過程で遺構としての認定から除外したものである。

堅穴住居跡・R A 挖立柱建物跡・R B 土坑・R D 堅穴状遺構・R E

炉・焼土遺構・R F 溝跡・R G その他・R Z

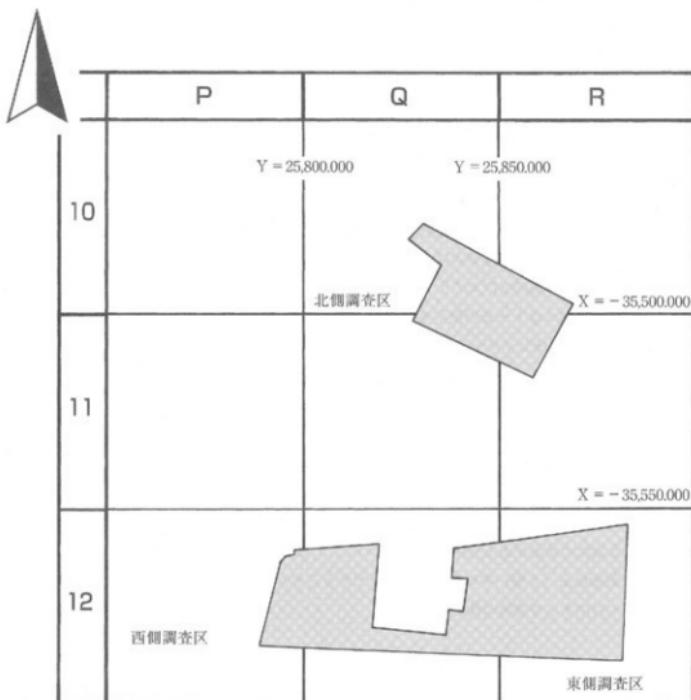
調査途中で種別を決めかねた遺構と柱穴状土坑群については、全てその他として扱った。

(5) 遺構の精査と実測・遺物の取り上げ

検出された遺構は、堅穴住居跡・堅穴状遺構および土坑を除く遺構は4分法、土坑については2分法を原則とし精査を行った。ただし、必要に応じてはその他の方法も併用した。記録として必要な図面及び写真撮影は、精査の各段階で適宜これを行った。溝跡については一部平板測量で平面図を作成した。

実測図の縮尺は1/20を基本とし、平面図と断面図を作成した。

遺構内出土遺物は、埋土の場合上層・中層・下層に分けて取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区毎に出土位置または層位を記して取り上げた。



1 : 1250

第6図 グリッド配置図

(6) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ（モノクロ）と35mm判カメラ（モノクロとリバーサルフィルム）を使用し、この他にボラロイドカメラ1台とデジタルカメラ1台をメモ的な用途として使用した。撮影にあたっては、撮影内容を記載した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混亂を防止した。また、調査終了間近に小型飛行機による空中写真的撮影を実施した。

2 室内整理と掲載方法

野外調査の終了後、平成14年11月1日～平成15年3月31日の期間に、調査記録及び出土遺物の整理を行った。整理作業の大まかな内容は以下の通りである。

(1) 遺構

遺構の実測図は遺構毎の分類・整理及び点検を行った後に、第二原図（修正図）を作成しトレースした。次に図版・写真図版を作成した。原図と第二原図には番号を付して、図面台帳を作成した。

遺構配置図は、発掘作業時に作成した原図をもとに1/400の第二原図を作成し、印刷仕上がり1/800で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にそれぞれスケール・縮尺率を付した。

| | | | | | |
|-------|----------|---------|--------|---------|---------|
| 竪穴住居跡 | 平面図1/60 | 断面図1/60 | 掘立柱建物跡 | 平面図1/80 | 断面図1/80 |
| 土坑 | 平面図1/60 | 断面図1/60 | 竪穴状遺構 | 平面図1/60 | 断面図1/60 |
| 溝跡 | 平面図1/150 | 断面図1/60 | 焼土 | 平面図1/30 | 断面図1/30 |

(2) 遺物

野外調査の段階で出土遺物の洗浄を行っており、室内整理開始と同時に注記、統合接合、復元、登録を行った。

土器については、遺構・グリッド別に注記・接合・復元・選別・登録を行った。登録については、出土遺物の多い遺構については立体として反転実測可能な状態まで接合した土器、出土遺物の少ない遺構についてはその基準を破片実測可能な土器まで下げた。

登録した遺物は、実測・撮影作成・写真撮影を行った後、図版・写真図版を作成した。

土器の実測は、原則として反転可能なものに限ったが、一部は破片実測して掲載した。掲載遺物の縮尺率は原則として、上縦器・須恵器1/3、石器1/3、鉄製品1/2、土製品1/2又は1/3、繩文土器1/3である。

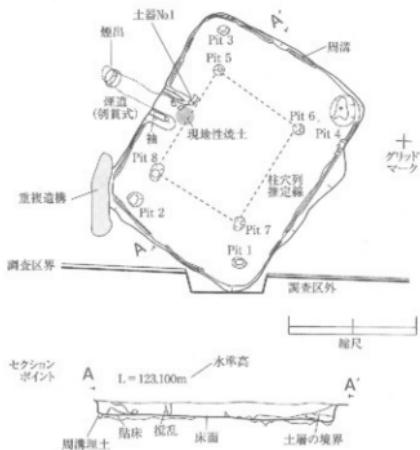
遺物写真的縮尺は原則として図版の縮尺と一致しているが、例外については縮尺率を付した。

(3) 実測図版中の土器の器面調整方法等は実測凡例図と第50回観察表の下に記した。

(4) 遺物観察表中の記号や分類については、下記の報告書を参照した。

- 「小幡遺跡第4次発掘調査報告書」（1995 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第265集）
- 「台太郎遺跡第18次発掘調査報告書」（2000 同 第369集）
- 「熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書」（2001 同 第377集）
- 「野古A遺跡第12次発掘調査報告書」（2003 同 第420集）

<遺構の表現方法>



トーンの種類

重複遺構



現地性焼土



被熱による地山

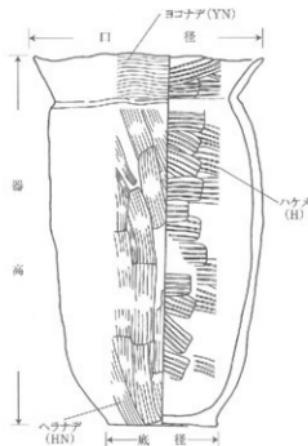


土器黒色処理部分



<遺物の表現方法>

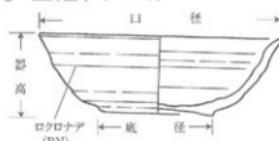
① 土師器(壺)



② 土師器(非口クロ・壺)



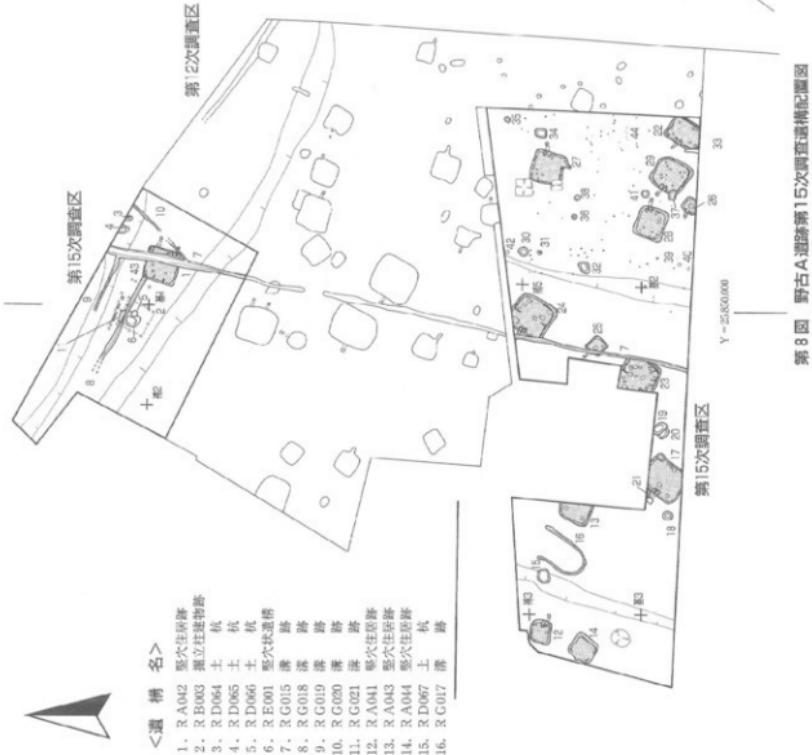
③ 土師器(ロクロ口・壺)



④ 須恵器



第7図 凡例



第8図 野古A遺跡第15次調査遺構配置図

IV 検出された遺構と遺物

1 穩穴住居跡

RA041 穩穴住居跡

遺構（第9図 写真図版5）

<位置>①西側調査区、12P7y~12P9yグリッド付近に位置し、黄褐色地山層上面の黒褐色土上の広がりで検出した。

<重複関係>②無 ③北西コーナーと北東コーナー部分が電柱埋設時の搅乱のため一部不明である。

<平面形>方形 <規模>東西3.9×南北3.6m <床面積>約14m² 小形 <主軸方向>N-15°-E

<堆土>黒褐色土～黒色土を主体にした6層に区分した。東壁以外の壁際の黒色土及び貼床構築土中に灰白色火山灰が微量混じる。壁際の4層と5層は自然堆積層か。1～3層は層状に堆積する。

<壁高残存値>①北壁34cm 東壁30cm 南壁30cm 西壁36cm②壁はほぼ垂直に立ち上がり、明瞭である。

<床面>縫まりがあり平坦である。南東コーナー部分にPit1、北東コーナー部分にPit2あり。床面中央とカマド付近に土師器片が散乱する。

<貼床>凹凸はあるが、住居跡全体にみられる。構築土は黒色土と黒褐色土の混じる褐色土主体で一部に炭片と灰白色火山灰が微量混入する。

<土坑>①Pit1 - 平面楕円形 長径60×短径50cm 深さ平面部分で10cm 墓土黒色土主体 用途不明 墓土中に焼土や土師器片等みられないが、位置的にみてカマドに関する土坑と考えられる。

②Pit2 - 平面楕円形 長径68×短径60cm 深さ20cm 贊床粘合時に検出 用途不明

<カマド>①位置 東壁の南寄りに位置し、円形突出部分の存在により検出、作り方は倒貰式である。

②煙道方向 S-67°-E ③袖構成土 やや縫まりのある黒褐色土主体。中心になる14層にはにぶい赤褐色焼土が微量混じる。④燃焼部 不明瞭で現地性焼土等は認められない。袖間に黒褐色土～暗褐色土主体のにぶい赤褐色焼土を含む埋土（4・5層）がありこの部分が燃焼部土体であったと考えられる。また袖北側寄りに径6cm深さ6cm埋土中に暗褐色土と赤褐色焼土を含む小土坑が認められる。支脚抜取痕ともみられ、この部分も中心に含まれると考えられる。⑤煙道・便出 袖先端部分より掘り込みの後約9°上方に1.6m削り貰かれ、先端の径40cm深さ30cmの通穴に至る。煙上は縫まりの無いか弱い黒褐色～にぶい黄褐色土～暗褐色土が主体であり、煙出下層のにぶい黄褐色土には微量のにぶい赤褐色焼土が含まれる。

出土遺物（第49・50図 写真図版32）

<土器>①不掲載遺物の整理より、体部破片を主に埋土中層～d層、床面とPit中より、非ロクロ・壺と壺、ロクロ・壺と壺（体部破片数比較 内黒6≈あかやき5）が出土している。②登録数7点、うち壺2点、壺4点、高台付壺1点について図化・掲載した。③壺はいずれも非ロクロ、残りの状態は悪く全体の傾向は把握できない。壺2点は放射状ミガキが明瞭な内黒、他2点はあかやき土器である。RA041-3は回転糸切後ヘラナデによる再調整が施されている。壺4点は器高4.6～5.0cm内、体部下半が丸みを帯び口縁はやや外反するものも有る。

<その他>①鉄製品：埋土中層よりRA041-9鉄鎌？とRA041-10刀子が出土した。②石製品：RA041-8はカマドで使われた石か？

時期 カマドの向きと出土遺物の傾向（壺の形態及び内黒とあかやき土器の割合）より平安時代（9世紀後半以降）に属する。

RA 042 敷穴住跡跡

遺構（第10～13図 写真図版6・7）

＜位置＞北側調査区、10R25f～11R3fグリッド付近に位置し、黒褐色土下面の暗褐色土の広がりとTo-Hの混入により検出した。

＜重複関係＞①有 ②北側調査区のRG015より古い。

＜平面形＞方形 ＜規模＞東西5.5×南北5.2m ＜床面積＞約28.6af 中形 ＜主軸方向＞N-20°-E

＜埋土＞①暗褐色土～緻まり粘性とも弱かやや有るにぶい黄褐色土主体の10層に区分した。分層基準は埋土中に散見するTo-H粒とブロックの割合による。②層状堆積であることと床面で検出されるPit埋土中にもTo-Hが含まれ、人為堆積の様相を呈する。

＜壁高残存仙＞①北壁28cm 東壁37cm 南壁44cm 西壁40cm ②住跡断面は南側が厚く北側が薄い（第10図参照）。これは住跡跡が北側旧河道に向かう傾斜地に作られているからである。③壁の立ち上がりは明確、ほぼ垂直に立ち上がる。

＜床面＞①床面の綺まりは有り、平坦である。断面ベルトの厚さが異なるため大きく傾いている感じではあるが、北壁側と南壁側の比高差は1～5cmである。②2号カマド付近に土器器片散乱する。Pitは床面全体に1～11まで有り。③間仕切り様の溝が西壁より直角に延びる。埋土主体はにぶい黄褐色土でTo-Hが3%混じる。・北側-長さ0.6m 幅上端15～22cm下端8～15cm 深さ2～5cm・南側-長さ0.58m 幅上端18cm下端8cm 深さ1～4cm

＜貼床＞床面全体にみられる。緻まりのやや有る黒色土、褐色土、黄褐色土を含む黒褐色土が構築土の主体である。

＜土坑＞①Pit 1 - 平面円形 径0.45m 深さ25cm ②Pit 2 - 平面円形 径0.44m 深さ20cm

③Pit 3 - 平面円形 径0.3m 深さ13cm ④Pit 4 - 平面円形 径0.57m 深さ17cm

⑤Pit 5 - 平面形輪円形 長径0.3×短径0.25m 深さ12cm ⑥Pit 6 - 平面円形 径0.4m 深さ10cm

⑦Pit 7 - 平面形方形 長径0.65×短径0.55m 深さ8cm 土器器片多数有り焼土無 西隅に径3cm深さ6cmの掘り込み有り ⑧Pit 8 - 平面方形 長径0.5×短径0.3m 深さ10cm 土器器片有り焼土無

⑨Pit 9 - 平面形輪円形 長径0.8×短径0.68m 深さ12cm ⑩Pit 10 - 平面形輪円形 長径0.65×短径0.45m 深さ(10)cm ⑪Pit 11 - 平面形輪円形 長径0.4×短径0.2m 深さ(10)cm

Pit 1-11-6、Pit 3-5、Pit 4-10は位置的に対になるものであるが、浅く形も不整形である。ゆえに主柱穴とは断定できない。

＜カマド＞1号カマド

①位置 東壁の南側南コーナー近く、円形の焼出部分の存在で検出する。作り方は朝貫式である。

②焼造方向 S-68°-E ③袖構成土 断面I-I'の8層と対になる位置にある10層を袖構成土と考えたが、8層の下に焼土があることから袖部分の検出はできなかった。④燃焼部 中心は③の西側、平面円形で径50cm、層厚10cm、焼成前のにぶい赤褐色焼土部分か。⑤煙道・煙出 ④の部分より0.3m西に延びた後、径28cm深さ35cmに掘り込まれている煙出に向けて約1m、8°下降する。埋土は暗褐色土主体、煙出下層までにぶい赤褐色焼土が認められる。煙出には深さ15～25cmの部分に土器器と須恵器が投げ込まれている。

2号カマド

①位置 東壁の北側北コーナー近く、円形の焼出部分の存在で検出する。作り方は朝貫式である。

②煙道方向 S-75° - E ③軸 無 ④燃焼部 中心は煙出西側、平面円形、径0.5m層厚6cm。焼成弱いにぶい赤褐色土部分か。 ⑤煙道・煙出 ⑥の中心部分より長さ1.5m、15°下降しながら先端の径28cm深さ68cmに掘り込まれた煙出に至る。埋土は黒褐色土主体、煙出中層まで焼土が認められる。また7層上の連山部分は被熱により一部赤変している。煙出部分には上層の10層～下層の9層まで、約6段に分けて土器部と須恵器が投げ込まれている。(第11～13図参照)

出土遺物 (第51～56図 写真図版33～37)

<土器部・須恵器>①不掲載遺物の整理より1号・2号カマド、埋土(上層～下層)、床面より非ロクロ・壺と坏(口縁部～体部)、非ロクロ・壺と坏(体部破片数 内黒24^{あかやき}106)が出土している。②登録数33点、うち土師器壺10点、坏18点、高台付坏1点、須恵器壺1点と坏1点について同化・掲載した。③土師器：坏18点中12：6と不掲載遺物破片数に反し、立体となるものには内黒坏の割合が多い。器高は4.2～5.1cm、体部下半が丸く口縁部が外傾するものは6点である。あかやき土器6点は器高4.7～5.6cm、内黒坏に比べて口縁が僅かに外傾し体部下半に丸みを帯びる傾向にある。RA042-2坏は外面体部～底部までヘラナデ調整の後、線刻が認められる。壺10点については小型壺2点を除きIAに属する。RA042-20・22・24・26・27のように、体部下半に螺旋状のヘラケズリが施される。RA042-26壺は砂底土器である。④須恵器：RA042-30壺は整った器形で底部にヘラケズリ調整が施される。RA042-31壺は体部下半ヘラケズリ、内面ハケメ調整が明瞭である。

<その他>①鉄製品：2号カマドとPit中より鉄滓3点出土、登録のみとした。②石器：3点掲載、RA042-32は1号カマド周辺に散らばる砥石である。他2点はカマド付近から出土した砾である。RA042-33は被熱による赤変部分がある。RA042-34とともに支脚またはカマドで使用されていた可能性がある。

時期 カマドの向きと遺物の傾向(ロクロ・壺と内黒の割合が多いことロクロ・壺の出土)から、平安時代(9世紀後半)に属する。

RA043 積穴住居跡

遺構 (第14図 写真図版8)

<位置>西側調査区、12G9j～12G12jグリッド付近に位置し、黄褐色地山層上面の黒褐色土の広がりで検出した。

<重複関係>①無 ②北東コーナー付近と東壁の大部分が柵立区外(民家下)へのびるため全容は不明である。③東側部分には垣根の根が、住居跡を中心部分には立木の根とゲートボール場トイレ跡が入る。

<平面形>推定で方形 <規模>東西(4.7)×南北48m <床面積>約19m² 中形 <主軸方向>N-24°-E <壇土>黒褐色土～黒色土～暗褐色土～明褐色土を主体にした9層に区分した。明褐色土が全体に混じる。壇際の5層は壇土崩落土、6・7・8層は層状に堆積する。

<壁高残存値>①北壁34cm 東壁不明 南壁38cm 西壁32cm ②壁の立ち上がりはやや急で、明瞭である。

<床面>①ほぼ平坦ではあるが締まりは弱い。立木の根痕と植物跡が残り、床面の土が汚れている状態である。南東コーナー付近にPit1・2・3、北壁沿いにPit4・5がある。②溝溝の一部か、南壁際に長さ2m深さ10～15cmの溝状の部分がみられる。貼床精査時に検出した。

<貼床>①床面の締まりが弱く断定できないが、黒褐色土主体の層が床面全体にみられる。

②Pit5の南東、平面図に点線で示したアーバー状の部分は、貼床とみられる黒褐色土が厚く、

部は10YR2/2黒色土の部分がある。但し、立木根の先端部にあたり、細かい根が入り込んでいる部分でもある。

<土坑>①Pit 1 - 平面円形 径38cm 深さ20cm 埋土黒褐色土～暗褐色土主体 暗赤褐色土～にぶい赤褐色土混 用途不明 ②Pit 2 - 平面円形 径40cm 深さ8cm 埋土中に土器片埋 貼床精査時に検出 用途不明 ③Pit 3 - 平面長楕円形 長径63×短径40cm 深さ20cm 埋土中に土器片埋 貼床精査時に検出 用途不明 ④Pit 4 - 平面円形 径50cm 深さ10cm 埋土黒褐色土主体 a赤褐色焼土を含み床面で目立つ 埋土中に土器片有り b床面で何か燃やした後かそのまま焼土は東側に広がる 南北1m東西0.6m(推定)の範囲 縞まり弱 層厚3cm 混2.5YR3/4暗赤褐色焼土と10YR2/2黒色土7%2.5YR4/6赤褐色焼土3% ⑤Pit 5 - 平面円形 径18cm 深さ15cm 小規模 用途不明

<その他>①南西コーナーを挟んで長い不整形の部分あり。貼床部分にあり、埋土は明黄褐色土粒を含む黒褐色土であり貼床に近い。深さは15cm、西側の南北に長い部分には土器片が含まれる。貼床の厚い部分か。前述のように細かい根が入り込んでいる部分でもある。

出土遺物 (第57図 写真図版38)

<土器類・須恵器>①不掲載遺物の整理より、床面、Pit埋土、貼床無土、埋土上層～下層より、非ロクロ・壺(口縁部～体部)、ロクロ・壺(口縁部～体部)、ロクロ・壺(口縁部～体部～底部・内黒とかやき土器)が出土している。破片数が多い割に立体数が少ないのは住居跡全てを調査していないためであろう。

②登録数6点、うち土器・壺2点、壺2点(いずれも小型壺?)、高台付壺1点、須恵器・壺1点について図化・掲載した。③登録遺物数が少ないため、全体の傾向については把握できない。

<その他>①鉄製品：西壁際床面よりRA047-7刀子出土。

時期 カマド部分未精査のため推定であるが、平安時代に属する。

RA044 壁穴性居跡

遺構 (第15図 写真図版9)

<位置>西側調査区、12P10x～12P12xグリッド付近に位置し、黄褐色地山層上面の黒褐色土の広がりで検出した。

<重複関係>①無 ②壁穴性居跡北西部分に搅乱があるが、その上部を取り除いていくと、不完全ながら壁の立ち上がりと周溝の一部を検出することができた。③西壁と煙道の一部、煙出は調査区外に延びる。

<平面形>隅丸方形 <規模>東西3.8×南北4.0m <面積>15.2m² 小形 <主軸方向>N-60°-W

<埋土>①黒褐色土～にぶい黄褐色土～黒色土～褐色土を主体にした7層に区分した。②1～3層はやや層状、4～5層は壁際に流れ込んだ状態にある。6層部分は壁崩落土であろう。

<壁高残存値>①北壁40cm 東壁38cm 南壁37cm 西壁28cm (西壁部分のみ搅乱のため全容把握できない。)

②壁はほぼ垂直に立ち上がる。立ち上がりは明瞭である。<床面>平坦で縞まりがある。

<貼床>厚くは無いが、住居跡全体にみられる。構築土はやや縞まりの有る褐色土主体である。<土坑>無<カマド>①位置 西壁の中央部分に位置し、カマド埋土3層のにぶい赤褐色焼土の存在により検出した。

作り方は倒置式である。搅乱のため天井部分は完全には検出できない。煙道埋土断面C-C' とD-D' にも地山天井部分は残らないが、調査区外まで掘り込んでいくと、円形の煙道が西側に延びるこ

とが確認できた。②煙道方向 N - 60° - W この方向は住居跡の主軸とは同じである。③袖残り状態は良くない。南側袖13層やや綺まりの有るにぶい黄褐色土が袖の構成土とみられる。北側の11・12層も構成土と考えられるが、凹凸についての確認はできなかった。④燃焼部 袖間やや北側の袖よりの部分が中心部とみられる。焼成はやや弱いが、径25cm層厚4cm、円形の赤褐色焼土が検出されている。この焼土の北東部分に窯有り。支脚として使われていた可能性がある。⑤煙道・煙出 ④の燃焼部中心より北西方向に約0.7m、ほぼ真っ直ぐにのびる。埋土は暗褐色土～黒褐色土主体、途中にみられる4層と6層部分は天井崩落土か。煙出は調査区外にある。

出土遺物（第58図 写真図版38）

<土器類・繩文土器>①不掲載遺物の整理より、住居南側擾乱（住居跡に接する表土部分）、埋土下層、カマド部分、床面より非クロ・甕（口縁部～体部）、非クロ・壺（口縁部～体部）、ロクロ・甕（口縁部）1片、ロクロ・壺（口縁部～体部）1片が出土している。②登録数3点、甕1点、壺1点、繩文土器1点を図化・掲載した。③RA044-2 甕は内外面のハケメ調整が明瞭、RA044-1 壺は外面に段を有し、平底に近い丸底である。RA044-3は、最終確認時住居跡南側の搅乱より出土した。

<その他>①石器・RA044-4は埋土下層から出土した使用面の認められる砥石である。

時期 出土遺物が少なく断定できないが、カマドの方向より奈良時代（8世紀後半）に属する。

RA045 積穴住居跡

遺構（第16・17図 写真図版10）

<位置>西側調査区から東側調査区へのわたりの部分、12Q16 j～12Q19 j グリッドに位置し、黒褐色土下面で検出した。

<重複関係>①有 ②R Z003（土坑状遺構）、R D068と重複するが、そのいずれよりも古い。

<平面形>方形 <規模>東西6.2×南北（5.5）m <床面積>約34m² 中形 <主軸方向>N - 56° - W

<埋土>黒褐色土主体の6層に区分、壁際については黄褐色土粒の有無により分層した。全体として自然堆積の様相を呈する。<壁高残存値>①北壁残存部分22cm 東壁25cm 南壁18cm 西壁22cm ②西壁及び東壁で壁は緩やかに立ち上がる。

<床面>①床面南側に於いては綺まりが強い。②カマド周辺部分に土師器片散乱する。カマドの東側にPit 3、南西コーナー部分にPit 2、東壁沿いにPit 1・4・5がある。

<貼床>床面下全体にみられる。にぶい黄褐色砂質土が主体だが、中心部分にはそれに黒褐色土が混じる。

<土坑>①Pit 1 - 平面円形 径50cm 深さ約30cm 層状堆積 埋土中に土師器片混 用途不明 ②Pit 2 - 平面円形 径30cm 深さ約40cm 埋土暗褐色土主体 埋土中に土師器片混 用途不明 ③Pit 3 - 平面円形径75cm 深さ75cm 埋土にぶい黄褐色土主体 用途不明 他の住居跡においても言えることだが、カマドの前に土坑がある。④Pit 4 - 平面方形 25cm四方 深さ12cm 断面箱形 埋土は黒褐色土主体 用途不明 ⑤Pit 5 - 平面円形 径30cm 深さ13cm 埋土は黒褐色土主体 用途不明

<カマド>①位置 一部推定であるが西壁の中央部分に位置する。方形の焼出の存在により検出、作り方は例貫式である。②煙道方向 N - 62° - W ③袖構成土 主体はやや綺まりの有る褐色土～にぶい黄褐色土～黒褐色土、中心となる11層は地山を削りだしたものとみられる。④燃焼部 袖間に焼成は弱いが、径20cm層厚6cmの暗赤褐色焼土部分あり。ここが中心である。⑤煙道・煙出 燃焼部中心から0.55mまでは約6°の傾斜でゆるやかに下降、その後の1.25mは14°の傾斜で下降し、先端の上端が

20×20cmの方形で深さ55cm、下端は上端より西側に張り出すように掘り込まれた焼成まで削り貫かれる。埋土は灰黄褐色土主体、中程に獸頭焼骨片、煙道先端部分まで赤褐色焼土が認められる。

出土遺物（第59・60図 写真図版39）

<上部器>①不掲載遺物の整理より、検出面、埋土下層、ベルト中央部、カマド部分より、非クロ・変（口縁部～体部）、非クロ・坏（口縁部と底部）、ロクロ・坏体部破片1点が出土している。②登録数8点、うち變6点、高坏1点、小型手捏ね土器1点を図化・掲載した。RA045-2・3・4・5・7變は一部推定ながらA I類に属し、内外面ともハケメ調整が明瞭である。RA045-2・4とも体部径より口縁部径が広く、前者は大きく開く。小型手捏ね土器は形は整わない。体部外面に炭化物（植物等）が付着している。

時期 出土遺物の傾向（変、外面のハケメ調整と坏口縁部の外縁の様子）及び煙道方向から余良時代（8世紀中葉～後半）に属する。

RA046 壁穴住居跡

遺構（第18・19図 写真図版11）

<位置>東側調査区、12R19n～12R19rグリッド付近に位置する。検出は暗褐色土下面、黒褐色土の広がりで行った。

<重複関係>①有 ②R D075よりも古い。 <平面形>隅丸の長方形 <規模>東西4.2×南北5.5m

<床面積>約18m² 中形 <主軸方向>N-60° - W

<埋土>①黒褐色土～暗褐色土～黒色土主体の5層に区分した。4層と6層は、暗褐色土に黄褐色土ブロックが混じった状態との解釈も可能である。②全体に自然堆積の様相を呈する。壁際から暗褐色土と黒色土が堆積し、その後中央の黒褐色土が堆積していったとみられる。

<壁高残存値>①北壁38cm 東壁38cm 南壁32cm 西壁33cm ②壁の立ち上がりは明確、床面よりほぼ直角に立ち上がる。

<床面>①平坦でありやや綺まりがある。中央部分は綺まっているが周辺はやや砂質傾向である。②Pit 1～9まで、カマド付近に上部器片あり。Pitについては後述する。③途切れ途切れではあるが削溝が認められた。埋土は黒褐色土主体、幅は上端6～10cm、下端6cm、深さ10cm前後と比較的浅い。壁を掘り込んだ土坑等は無い。

<貼床>中心部分にはみられない。周辺に向かってみられる。構築土は黒褐色土主体で綺まりは弱い。

<土坑>①Pit 1～4-Pit 1・2 平面円形 径30cm Pit 3・4 平面円形 径28～40cm 深さ32～48cm 1層 黑色土部分柱痕 Ⅰ期（旧）柱穴 ②Pit 5～7-平面楕円形 径28～40cm 深さ8～16cm 黑褐色土主体 Ⅱ期（新）柱穴 ③Pit 8-Pit 2と似ているが用途不明 ④Pit 9-平面楕円形 長径70×短径62cm 深さ16cm 埋土は層状堆積 埋土中に焼土粒と土師器片有り

<カマド>①位置 西壁の中央、円形の煙道部分の存在で検出した。作り方は削式である。②煙道方向 N-60° - W 住居跡の主軸方向とはほぼ同じである。③袖構成上 綺まりの有る褐色土～暗赤褐色土～暗褐色土が主体である。周辺に土師器が散らばるが、芯材に使用されていた様子はない。④燃焼部 Ⅱ期（新）住居跡のカマド中心部分は袖間やや北袖寄りにある。椭円形を呈し長径50×短径38cm、層厚5cmの赤褐色焼土部分で焼成は弱い。Ⅰ期（旧）住居跡のカマド中心部分は、Ⅱ期の東寄り、ほぼ円形を呈し径20cm、層厚8cmの焼成中のぶい赤褐色焼土主体である。Ⅱ期の部分のみとを考えたが、

そこより東側にⅠ期の燃焼部中心を検出することができた。

⑤Ⅱ期作居跡に於いては、燃焼部中心より長さ18m、約9°にゆるやかに下降しながら縫30cm深さ60cmに、上端より北西側へ袋状に掘りこまれている煙出しに続く。⑥煙道埋土は終まりの弱い灰褐色土～にぶい黄褐色土～黄褐色土が主体、煙出し下層の5層に褐色焼土と明赤褐色焼土を含む。

<その他>Ⅰ期とⅡ期に分かれる柱穴、位置のずれたカマド燃焼部中心、中央に無く周辺にいくにつれて厚くなる貼床等から、RA046は北東側と南西側に拡張され、縮長となった住居跡であると考えられる。

出土遺物（第60・61図 写真図版40）

<土師器>①不器用遺物の整理より、埋土中層～下層、貼床埋土、カマド煙道より、非ロクロ・窯（口縁部～体部）、非ロクロ・环（体部）、ロクロ・环（口縁部～体部・内窓）破片が出土している。②登録数6点、うち窯1点、小型窯3点（一部推定）、环2点を同化・掲載した。③小型窯の割合が多い。いずれもハケメ調整が明瞭である。RA046-2环は平底に近い底部を有し、RA046-1环は外側にのみ段が認められる。

<その他>①石器：RA046-7はカマド付近で出土、カマドに使用されていた砾である。

時期 カマドの方向及び出土遺物の傾向（小型窯が多く环の底部平底化と外側有段）より奈良時代（8世紀後半）に属する。

RA047 窒穴住居跡

遺構（第20～22図 写真図版12）

<位置>東側調査区、I2Q14w～I2Q17wグリッド付近に位置し、黄褐色地山層上面の黒色土の広がりで検出した。太い木の根が床面付近まで入り込んでいた。

<重複関係>①有 ②RG015よりも古い。不充分ながら東壁のラインは予想できるので、平面図では点線で表示した。西壁全部と北壁の一部が調査区外に延びる。<平面形>推定であるが隅丸方形

<規模>東西（5.2）×南北2.6m <床面積>（32.2）m² 中形 <主軸方向>N-19°-E

<埋土>黒色土～黒褐色土～明黄褐色土を主体にした6層に区分した。主体は黒色土と黒褐色土であり、その間に木の根に関わる明黄褐色土が入り込んでいる様子である。

<壁高残存値>①北壁6～10cm 東壁5cm残 南壁25～30cm 西壁調査区外に延びる。②壁の立ち上がりは明瞭であり緩やかである。

<床面>①縫まりはあるが、木の根とPitのため凹凸が目立つ。②北壁～東壁～南壁に沿って周溝がある。断面B-B'に示したが埋土は黒褐色土主体、幅上縫12cm前後、下縫4cm前後、深さ10cmである。東壁の周溝に関してはRG015との重複のため不明瞭な部分もある。③②の周溝より延びる間仕切り状の溝が5カ所において検出された。②の周溝とは90°に交わり、南壁から延びる3本について先端が円形になっている。埋土は黒褐色土主体、深さ6～11cm、断面D-D' E-E'にある。

<貼床>床面硬く縫まり、貼床は無い。

<土坑>①Pit1-平面不整形 長径1.25×短径1.1m 深さ30cm 埋土黒色土主体焼土混 層状堆積 用途不明
間仕切りに統く ②Pit2-平面円形 径0.75m 深さ25cm 断面袋状 埋土黒褐色土主体焼土土師器片混（第21図参照） 用途不明 ③Pit3-平面楕円形 長径0.75×短径0.5m 深さ12cm 埋土暗褐色土主体焼土混 用途不明 ④Pit4-平面円形 径0.4m 深さ12cm 黑色土～暗褐色土主体 用途不明

黒色土の埋まった部分 ⑤Pit 5 - 平面楕円形 長径0.48×短径0.32m 深さ40cm 墓土暗褐色土・主体用途不明 深い ⑥Pit 6 - 平面円形 径0.52m 深さ20cm 墓土灰黄褐色土～褐色土・主体 用途不明 ⑦Pit 7 - 平面不整形 長径1.4×短径(1)m 深さ22cm 墓土灰黄褐色土～黒褐色土・主体焼土・土師器混 カマドに関する土坑か? ⑧Pit 8 - 平面楕円形 長径0.8×短径(0.4)m 深さ30cm 墓土灰黄褐色土～黒褐色土・主体 用途不明 ⑨Pit 9 - 平面不整形 長径0.72×短径0.7m 深さ60cm 断面袋状 墓土にぶい黒褐色土・主体焼土混 周辺に土師器片有り ⑩Pit10 - 平面楕円形 長径0.6×短径0.5m 深さ12cm 墓土黒褐色土・主体 用途不明 ⑪Pit11 - 平面楕円形 長径0.7×短径0.6m 深さ20cm 墓土黒褐色土～黒褐色土・主体 用途不明 間仕切りに続く ⑫Pit12 - 平面不整形 長径0.9×短径0.65m 深さ18cm 墓土黒褐色土・主体 用途不明 ⑬Pit13 - 平面円形 径0.4m 深さ10cm 墓土黒褐色土・主体 黒褐色土の埋まった部分 ⑭Pit14 - 平面楕円形 長径0.9×短径0.65cm 深さ10cm ⑮に同じ性質か ⑯Pit15 - 平面円形 径0.4m 深さ26cm 墓土黒褐色土～にぶい黒褐色土・主体 細い間仕切り近く

以上をまとめると、まずPitの数が多い。すべてをPitとすると生活スペースが無くなるので、一部は木の根があり込んだ部分や黒褐色土の固まりの部分もあるとみられる。また、Pit 1・2・3・7・8は貯蔵に関係した土坑、配置からPit 6・10・11・15は主柱穴とも考えられるが、その位置や深さから可能性として記すこととする。

<カマド>①東壁、南壁、北壁に無い。 ②西壁中央部分に有りか。断面C-C'からみて、1～4層は抽構成土の可能性がある。平面図に示すように南袖が残っているとみられる。またこの断面には12・13・14層に焼成は中～弱、床面より下に現地性焼土とみられる部分がある。北側にあるPit 7は墓土中に焼土がありカマドに関するPitとみられる。位置は今後の調査で明確になるであろう。

出土遺物（第62～69図 写真図版41～45）

<土師器>①出土遺物数は第15次調査の堅穴住居跡中では一番多く、非ロクロ・亮（体部）、非ロクロ・坏（体部）が主である。出土場所は墓土Q 2～4（東～南側）、検出面、Pit墓土である。不掲載遺物を整理した表によると、体部破片が100点を越す場所もみられる。住居跡を廃絶する時点で廃棄されたものが大部分であろう。②登録数51点、うち亮16点、坏16点、高坏2点、鉢1点、甑1点、器種不明2点について図化・掲載した。③甕：作りが丁寧であり、口縁部のヨコナデ調整は線の間隔が一定、内外面ともハケメ調整が明瞭であり、RA 047-31のように縱に長い調整も見られるが、方向と幅もほぼ一定である。長胴甕においては、口徑部径×体部径から口徑部径×体部径のものまで見られる。口縁部が外側に向くもの、L型部が多少上向くものがある。坏：RA 047-1は他に比して大形、底部に線刻が認められる。RA 047-2・3・4・5・6は、RA 047-5のように内面の段が弱いものも見られるが、總じて内外とも有段で丸底、ミガキ調整明瞭、口縁部が段から上方へ立ち上がる。また、RA 047-9・10は底部が丸底から平底に移り内面の線が弱くなる。そしてRA 047-13・15のように段は外側だけになっていく傾向が伺われる。甑：RA 047-34は明瞭なハケメ調整が施され、底部に僅かに孔が残る。RA 047-36・37の器種は不明である

<その他>土師器同様やはり出土遺物は多種にわたる。①石器：南ベルト埋土下層から出土したRA 047-39には砥石として使用された痕跡が残る。②上製品：RA 047-40は床面から出土した土製紡錘車で側面に細かいヘラミガキが残る。RA 047-41は1点のみであるがPit 2から出土した土錐、RA 047-42・43はQ 3と床面から出土した土玉である。③鉄製品：4点登録、器種は2点が刀子であり、図化・掲載した。

時期 奈良時代に属する。投げ込みによる遺物が多数出土している。壙の形態の変化等より8世紀前半から中葉まで使用された住居跡であろう。まとめの部分で述べるが、RA014（大形）とRA026（大形）のいずれのまとまりにも属する住居跡と考えられる。このことが出土遺物の多さとも関係があるのであろうか。

RA048 積穴住居跡

遺構（第23~26図 写真図版13・14）

＜位置＞西側調査区、12R5c~12R9eグリッド付近に位置する。黄褐色土上面に黒色土及び灰白色火山灰ブロックを含む黒色土の広がりで検出した。

＜重複関係＞①有 ②RG015と重複する。RG015よりも古いが、南西コーナーからカマド煙道部分については、深い位置にあるため検出が可能であった。また、果樹園整地のため傾斜する土地が平坦にされ、遺構北東コーナー部分は推定位置である。

＜平面形＞方形 ＜規模＞東西6.4m×南北6.4m ＜床面積＞約41m² 大形 ＜主軸方向＞N-27°-E

＜埋土＞①黒色土～黒褐色土主体の4層に区分した。上層～中層にあたる2層にのみ灰白色火山灰が認められる。②最初に壁際の4層が、統いて自然に3→2→1層の順に堆積したものか。

＜壁高残存値＞①北壁RG015の底面から29cm 東壁6cm 南壁52cm 西壁RG015の底面から21cm ②壁の立ち上がりは南壁と西壁については明瞭で、床面よりほぼ垂直に立ち上がる。東壁と北壁については前述の整地の関係で上面が欠けてしまった様子である。

＜床面＞①およそ平坦であるが、東側は6cmほど低くなっている。②北壁沿いにPitが3基、北西コーナーと南西コーナーに細長いPitが各1基、南東コーナーや北側に土師器が投げ入れられている。③問仕切りは3条有り。南壁に垂直に長さ1.1m、幅上端10~16cm下端4~7cm、深さ7cm。北壁に垂直に1条は長さ1.35m、幅上端12~20cm下端5~10cm、深さ7cm、先端に径15cm深さ34cmのPit2有り。もう1条は長さ1.5m、幅上端13~20cm下端5~10cm、深さ5cm、先端に径34cm深さ11cmのPit7有り。④周溝は南壁～東壁の一部と北壁で検出した。幅上端7~12cm下端4~7cm（ちょうど板一枚の厚さか）深さ2~7cmである。埋土は縛まりのない黒褐色土主体である。特記事項として、第23図に黒ドットで示した位置に、埋土黒褐色土主体で褐色土と明黄褐色土をマーブル状に含む小土坑を12基、貼床積査時に検出した。壁板を内側で押された杭痕の可能性もあることを記す。⑤壁を掘り込んで作られているPit等は無い。

＜貼床＞全体に一部欠けながらみられる。構築土は暗褐色土主体である。

＜土坑＞①Pit1 - 平面隅丸方形 内側に円形部分2カ所有 長径1.5×短径0.8m 深さ34cm 埋土黒褐色～黒色土主体の層状堆積 焼土と骨片混 カマドに関する土坑か ②Pit2 - 平面円形 径0.15m 深さ34cm 問仕切り先端の杭部分か ③Pit3 - 平面円形 径0.14m 深さ20cm 黒褐色土主体 新しい時代の杭痕か ④Pit4 - 平面円形 径0.5m 深さ30cm 暗褐色土主体 焼土混 用途不明 ⑤Pit5 - 平面隅円形 長径1×短径0.7m 黑褐色土 用途不明 ⑥Pit6 - 平面隅丸方形 長径1.5×短径0.76m 埋土灰黃褐色土～黒褐色土主体の層状堆積 骨片と土師器片混 ⑦Pit7 - 平面円形 径0.34m 深さ11cm Pit2に同じ ⑧Pit8 - 平面円形 径0.65m 深さ11cm 贼床の集まつた部分か ⑨Pit9 - 平面円形 径0.66m 深さ10cm 贊床の集まつた部分か ⑩Pit10 - 平面隅円形 径0.62m 深さ10cm 贊床の集まつた部分か ⑪Pit11 - 平面小隅円形 長径0.8×短径0.3m Pit3に同じか

<カマド> 1号カマド

- ①位置 西壁北寄り 方形の煙出上端とR G015下の煙出により検出した。作り方は刎貫式である。
②煙道方向 N-57° - W ③袖 最初は袖構成土を探したが縫まりのある土に至らない。燃焼部埋土から並んだ土器部・甕が現れ、これを袖中心と考えた。第24図平面、第26図断面に詳しい。断面II-II' I-I' J-J' にあるように8・9層の地山に近いか黒褐色土を含む砂質褐色土の上にからの甕を逆さまにして立てる。奥の部分には大きめの、手前は小さめの甕が使われる。直立させた場合は不安定であるが、さかさの場合は口縁部の開きが大であるため安定している。それを5・11・12・13層のやや縫まりのある赤褐色焼土を含む黒褐色土で止めている状態である。S-1は天井石として使用されたものとみられる。
- ④燃焼部 平面不整形、長径0.8×短径0.65m 壁厚 5cm、焼成中の暗赤褐色焼土部分を中心、付近に使用されていた土器片が散乱する。⑤煙道・煙出 燃焼部中心より長さ1.8m、ゆるやかに下降しながら楕円に矧り貫かれ、先端の径30cm深さ60cm上端が方形に掘り込まれている煙出に至る。埋土は縫まりの弱い暗褐色土～褐色土が中心、煙出下層まで暗褐色焼土混じる。また3層部分には、骨片（獣類焼骨片）がみられた。

2号カマド

- ①位置 西壁南寄り、壁面の黒色土の染みとその東側の現地性焼土の存在で検出、作り方は刎貫式。
②煙道方向 N-62° - W ③袖 無 ④燃焼部 平面不整形、長径0.8×短径0.46m 壁厚 3cm、燃焼中の暗褐色焼土部分を中心、先端部入り口に土器部甕有り。⑤煙道・煙出 燃焼部中心より長さ1.2m 16°に下降しながら円形に矧り貫かれ、先端の上端0.3×0.24mの上端方形に底面はやや丸く掘り込まれている煙道に至る。埋土は灰黄褐色土主体、赤褐色焼土が混じる。

出土遺物（第70~74図 写真図版46~50）

- <土器部> ①不掲載遺物の整理より、埋土、Pit、カマド部分より、非クロ・甕（体部）、非クロ・坏（体部・内里）、クロ・坏（口縁部～体部・内里）が出土している。②登録数21点、うち甕11点、坏3点、高台付坏1点、不明1点について図化・掲載した。③甕：RA048-5・6・7・8・9ともA I Tに属し口縁部径～体部径である。いずれもカマド袖を構成する土器である。小型甕はRA048-12・13、球削甕RA048-11・14に於ては、器形は整い、口縁部の反りは大きい。最大径が体部上半～下半であり、底径は口径の1/3であるにもかかわらず、8.9～9.7cmで厚みがあり安定し、ハケメ調整が明瞭である。坏：RA048-1・2とも内里であるが内面に段の認められない坏である。甕の数に比して坏の数が少ない。

<その他> ①鉄製品：4点登録、刀子1点について図化、掲載した。

時期 カマドの向きと出土遺物の傾向（甕口縁部の反り大と坏外面有段）より、奈良時代（8世紀中葉～後半）に属する。

RA049 壁穴住居跡

遺構（第27図 写真図版15）

<位置> 東側調査区に位置し、12Q11x～12Q13xグリッド付近、黄褐色土上面で検出した。

<重複関係> ①有 ②RG015より占い。溝との重複のため堆部分については検出できなかった。

<平面形> 方形 <規模> 28×2.8m <床面積> 7.8m² 小形 <主軸方向> N-42° - W

- <埋土>黒褐色土～黒色土主体の5層に区分した。壁際は黒色土單層、他は黄褐色混の複合で分層した。
- <壁高残存値>①北壁26cm 東壁24cm 南壁32cm 西壁31cm ②壁の立ち上がりは明瞭、床面よりほぼ垂直に立ち上がる。<床面>平坦であるが縫まり剥い。中央部分にPit1、南東コーナー近くにPit2有り。
- <貼床>厚くないが床面全体に有り。構築土は黒褐色土である。
- <土坑>①Pit1 - 平面楕円形 長径1×0.85m 深さ40cm 埋土黒褐色土主体で縫まりも土師器片も無い。用途不明 ②Pit2 - 平面円形 径0.46m 深さ23cm 用途不明
- <カマド>①位置 重複のため一部推定であるが、西壁中央部に有り。褐色土上面の円形の煙出の存在により検出、作り方は刎貫式である。②主軸方向 N-48° - W ③袖構成土 R G015との重複のため全容は不明である。精査は行ったが、残っていたのは縫まりが弱い黒褐色土の固まり部分で、袖構成土とは断言できなかった。多少の凹凸はあるので第27図には示した。④燃焼部 ⑤の凹凸部分の先端に径30cm不整形赤褐色焼土部分有り、焼成は良好である。その上には暗赤褐色焼土を含む埋土も認められ、ここが中心である。⑤煙道・煙出 ④の中心から0.5mは平坦に、その後約1mは20°に下降しながら、先端の径30cm、深さ70cmに掘り込まれた煙出まで削り貫かれている。埋土は縫まりの無い暗褐色土が主体、6層まで暗赤褐色焼土が混じる。
- <その他>貼床下に長さ6m、幅30～50cm、深さ30～40cm、溝状の部分有り。西に延びる可能性有り。陥し穴か。
- 出土遺物**（第74図 写真図版50）
- <土師器>①不掲載遺物の整理より、埋土上層とPit1から非ロクロ・壺（口縁部～体部）、非ロクロ・壺（口縁部～体部）、ロクロ・壺と壺（口縁部と底部）破片が出土している。②登録数は壺（口縁部～体部）1点のみである。
- <その他>①石器：R A049-2はカマドで使用された礫（わずかに使用痕跡が認められる砥石）である。
- 時期** 遺物が少ないがカマドの向きより奈良時代（8世紀代）に属する。

R A 0 5 0 積穴住居跡

- 構造**（第28・29図 写真図版16）
- <位置>東側調査区、12R 20 i～12R 20 k グリッド付近、黒褐色土下面で黒色土の広がりで検出した。
- <重複関係>無 南コーナー上端一部が調査区外へ <平面形>隅丸方形 <規模>東西2.5×南北2.65m
- <床面積>約6.5m² 小形 <主軸方向>N-32° - E
- <埋土>黒色土主体の6層に区分した。床面と壁際に黒褐色土の強い部分がある。
- <壁高残存値>①北壁40cm 東壁36cm 南壁26cm 西壁20cm ②小形の住居跡ではあるが、壁の立ち上がりは明瞭である。
- <床面>①縫まりは弱くやや砂質、平坦である。②中心部分にPit1、カマド南袖南にPit2がある。床面には土師器や礫等もみられる。
- <貼床>ところどころにあり、構築土は黒褐色土が主体である。
- <土坑>①Pit1 - 平面楕円形 長径0.8×短径0.75m 深さ7cm 埋土黒褐色土主体 用途不明 ②Pit2 - 平面円形 径0.35m 深さ6cm 埋土黒褐色土主体 焼土等は無いが位置的にみてカマドに関するPitであろう。
- <カマド>①位置 西壁中央部分、円形の煙出の存在で検出する。作り方は刎貫式である。②煙道方向N-

60° - W ③袖構成上 やや縫まり有る黒褐色土主体 ④燃焼部 中心部分の平面は梢円形、長径0.42×短径0.35m層厚3cmの赤褐色焼土で焼成は中、北端にS-1有り。支脚として使用されたものか、19層黒褐色土で止められている。⑤煙道・煙出 ④の中心部分より長さ1.25m、0.3m直進の後15°に下降しながら、先端径35cm深さ60cmにまっすぐに掘り込まれた煙出に至る。埋土主体は縫まりの無い黒褐色土、煙道下までにぶい赤褐色焼土が混じる。

出土遺物（第75図 写真図版51）

<土器部>①出土遺物の整理より、埋土中、床面、Pit、カマド部分から、非ロクロ・甕（体部）、非ロクロ・坏（口縁部～体部）、ロクロ・坏（口縁部）が出土している。②登録数4点、甕3点、坏1点を岡化・掲載した。③坏：R A 050-1は内面外面有段で黑色処理が施されている。甕：3点中RA 050-2は小型甕、RA 050-3・4はAITに属し、ハケメ調整が明瞭である。後者は形が整わないが口縁部が開く形である。3点とも底部に木葉痕が認められる。

<その他>①石器：RA 050-4はカマド支脚として使用された砾である。

時期 カマドの向きと遺物の傾向から奈良時代（8世紀前半～中葉）に属する。

RA 051 積穴住居跡

遺構（第29～32図 写真図版17）

<位置>東側調査区、12R70～12R10eグリッド付近、黒褐色土中に混じる黄褐色土の広がりで検出。

<重複関係>①無 ②西コーナー部分が電柱痕の搅乱により不明瞭である。

<平面形>方形 <規模>東西5.2×南北5.1m <床面積>約65m² 中形 <主軸方向>N-13° - E

<埋土>黒褐色土～黒色土主体の7層に区分した。6・7層は黒褐色土と褐色土中の明黄褐色土ブロックの集まった部分である。

<壁高残存値>①北壁42cm 東壁32cm 南壁28cm 西壁42cm ②壁は床面よりまっすぐ立ち上がる。

<床面>①西側コーナー搅乱部分がやや低いが他の部分は平坦である。床面は全体的に縫まりは弱い。ただ第29図平面に示した範囲（不整形 2.8×2.8m）部分は床面が硬化している。②1号カマド南袖南側、北側コーナーと2号カマドの西側にPitがみられる。また、東壁中央部分により東側に張り出すようPit2がある。1号カマド付近、南側コーナー部分、2号カマド付近床面に土器片が散乱する。③南壁の一部のみ溝状の部分あり。

<貼床>中央不整形の床面硬化部分には貼床は無い。周辺には黒色土主体の貼床是有り。

<土坑>①Pit 1 - 平面円形 径0.6m 深さ20cm 埋土にぶい黄褐色土～黒褐色土主体 位置と焼土を含む埋土よりカマドに関する土坑とみられる。②Pit 2 - 平面方形 長径0.6×短径0.2m 横状に東壁沿いにあり。埋土黒褐色土主体 横状土坑と考えたが前の床面には土坑や焼土等はみられない。故に壁際方に方形に固まった黒色土部分とも考えられる。③Pit 3 - 平面円形 径0.5m 深さ10cm 埋土暗褐色土～黒褐色土主体 用途不明 床面黒褐色土の厚い部分か。④Pit 4 - 平面円形 径0.4m 深さ17cm 埋土暗褐色土～黒褐色土主体 用途Pit 3に同じ ⑤Pit 5 - 平面円形 径0.42m 深さ23cm 埋土暗褐色土主体 用途Pit 3に同じ ⑥Pit 6 - 平面円形 径0.4m 深さ23cm 埋土暗褐色土主体 用途Pit 3に同じ ⑦Pit 7 - 平面楕円形 長径1.1×短径0.72m 深さ37cm 埋土暗褐色土～黒褐色土主体 埋土中に土器片あり。

<カマド> 1号カマド

①東壁の北寄り、円形の煙出の存在により検出、作り方は矧貫式である。②煙道方向 S-72° - E
③袖構成土 北側と南側（第31図 断面E-E'）に示すように縋まりのやや有る灰黄褐色～黒褐色土主体である。袖間とその周辺には黒褐色土と3層性天井崩落土が固まっている。その東壁20cmの断面（F-F'）の位置では、カマド袖芯材に縁が使用されている。3層上に縁を入れ、それを黒褐色土～黒色土で固めている。④燃焼部 不明瞭で現地性焼土は認められない。袖間にある焼土はたまたものであろう。⑤煙道・煙出 東壁より東へ約0.9m、18°下降しながら先端の径30cm深さ56cmに真っ直ぐ掘り込まれた煙出に至る。煙出中層から下層に縁が認められる。埋土は縋まりの無い黒褐色土～灰黄褐色土主体で、煙出下層まで焼土が認められる。

2号カマド

①南寄りの東寄り、カマド煙出両側の赤瓦部分（削平により検出面に現れる）により検出、作り方は掘込式である。②煙道方向 S-33° - W ③袖 無い。ただし、煙道西側に細長い縁有り。位置的に袖芯材に使用されていた可能性有り。④燃焼部・煙道・煙出 燃焼部の中心になる部分に焼土は認められない。焼土は7層にみられるように床面近くと煙道に沿った検出面にみられるのみであるが、1・2・3層、縋まりが無く一部に焼土を含む暗褐色～黒褐色土部分を煙道埋土とみることはできる。削平により上部が欠如したため、検出部分に埋土中の焼土が現れた状態であろうが、煙道は南壁より0.9m南側へ延びるが、一部東側に向けて掘り込まれている部分がある。

出土遺物（第76-79図 写真図版52~54）

<土師器>①不規則造物の整理より、床面、1号カマド埋土、2号カマド埋土、埋土上層～中層より、非口クロ・壺と坏（内黒）、ロクロ・壺と坏の破片が出土している。ロクロ・坏においてはあかやき土器の割合が多い傾向にある。（体部破片数比較 内黒39くあかやき152）②登録数24点、うち壺9点（小型壺2点）、坏6点、高台付坏4点について岡化・掲載した。③坏：R A051-1以外はあかやき土器で、器高は4.8～5.4cm底径5.2～6.0cm、口縁部が外傾する傾向にある。高台付坏はR A051-7以外はあかやき土器である。壺：9点中2点は小型壺、またR A051-13・14・15・17の4点は砂底土器、外面体部下半にヘラケズリとヘラナデを有する。R A051-14・15のヘラケズリは体部下半を螺旋状に巡る。口縁部は外反し、短い。

<その他>①石器：カマドで使われた礫を圓化・掲載。②鉄製品：ベルト埋土中よりR A051-22鉄製紡錘車出土。③土製品：埋土上層よりR A051-21羽口出土。残存状態は良くない。

時期 カマドの向き及び出土遺物の傾向（あかやき土器の割合が多いこと、壺の口縁部短く外反する形態）により平安時代（9世紀後半以降）に属する。

R A 0 5 2 穹穴住居跡

遺構（第32・33・34図 写真図版18）

<位置>東側調査区、12R 15～12R 18グリッド付近、黒褐色土下面の黑色土の広がりで検出した。
<重複関係>無 <平面形>整わないが隅丸方形 東壁沿いにPit 1・8～10とカマドがあり、その関係で一部段になる。 <規模>東西5.3×南北4.85m <床面積>約25.4m² 中形
<主軸方向>N-22° - E <埋土>①黑色土～黒褐色土主体の4層に区分した。②煙際より黑色土、黒褐色土、黑色土の順に堆積した自然堆積である。
<壁高残存値>①北壁30cm 東壁40.1cm 南壁33cm 西壁33cm ②壁の立ち上がりは明確である。床面より

約55°、野古A遺跡の他の住居跡よりはなだらかに立ち上がる。

<床面>①第32図の点線部分を参照されたい。床面上と北東コーナー付近に、焼土及び焼土を含んだ黒褐色土の分布が認められた。焼土は2.5YR4/6赤褐色焼土と5YR4/4にぶい赤褐色焼土でやや綺まりが有る。焼土を含んだ黒褐色土は、北壁沿いと北東コーナー付近に広く分布し、床面の4分の1を占める。床面はこの焼土と黒褐色土の下にある。Pitの部分に凹凸があり、第32図と第33図に示すように、床面中央部分東西3m×南北2.7mが硬化している。<貼床>無

<上坑>①Pit 1 - 平面格円形 長径1.45×短径0.85m 深さ28cm 墓土黒褐色土主体1層赤褐色土混 用途不明 ②Pit 2 - 平面格円形 長径0.6×短径0.4m 深さ12cm 墓土黒褐色土主体 用途不明 ③Pit 3 - 平面格円形 長径0.5×短径0.36m 深さ17cm 墓土黒褐色土主体 位置的に主柱穴の可能性有 ④Pit 4 - 平面格円形 長径0.55×短径0.4m 深さ30cm 墓土黒褐色土主体 1層部分は柱痕か 位置的に主柱穴の可能性有 ⑤Pit 5 - 平面格円形 長径0.37×短径0.26m 深さ56cm 墓土黒褐色土主体 1層部分は柱痕か 位置的に主柱穴の可能性有 ⑥Pit 6 - 平面格円形 長径0.56×短径0.4m 深さ12cm 墓土黒褐色土主体 用途不明 ⑦Pit 7 - 平面格円形 長径0.45×短径0.37m 深さ15cm 墓土黒褐色土主体 位置的に主柱穴の可能性有 ⑧Pit 8 - 平面円形 径0.36m 深さ22cm 墓土黒褐色土主体焼土混 用途不明 ⑨Pit 9 - 平面円形 径0.45m 深さ20cm 墓土黒褐色土主体 用途不明 ⑩Pit 10 - 平面格円形 長径0.62×短径0.45cm 深さ20cm 墓土黒褐色土主体赤褐色焼土混 カマドに関する上坑

<カマド>①位置 東壁の北寄り部分北東コーナー近く円形の煙出の存在で検出、作り方は剖貫式である。②煙道方向 S-70°-E ③袖 第34図平面と断面図E-E'に示すように、礎を主体にしたカマド袖である。地山部分を少し掘り込み、S-2を置き、それを2層黒褐色土とS-1で押さえて北側の袖に、同様にS-3を1層の綺まりのやや有る赤褐色焼土で止めて南側の袖にしている。④燃焼部 中心は袖間や西寄り部分、径50cm層厚3cm綺まりの有る赤褐色焼土で形成される。周辺及び埋土上部には土器片やカマド付近には使用された礎が散乱する。⑤煙道・煙出 燃焼部中心より0.7m南側へ延び、その後1mは14°の傾斜で、先端の径40cm深さ55cmに掘り込まれた煙出へ至る。墓土は綺まりの無い灰黄褐色土～にぶい黄褐色土主体、煙出下層までにぶい赤褐色焼土を含む。煙出検出面から30～35cmの部分に礎有り。

<その他>①以下可能性として記すものであるが、2時期の住居跡（拡張あり）である。Pit 4-5に係わる硬い床を有する旧住居跡とPit 3-7に係わる拡張された新住居跡である。対になる柱穴はみつけられない。また床の様子がRA051とも似ている。②北東コーナー部分の形が整わない。断面F-F' 8・9・10・11層にあるように焼土混の黒褐色土主体、礎があること、クリ材炭の残り（炭1・5）と床面の焼土分布状況より、住居跡が焼けた、または焼いた可能性がある。

出土遺物（第80～85図 写真図版55～59）

<土師器・須恵器>①不掲載遺物の整理より、床面、埋土上層～中層、カマド部分、カマド北側焼土部分（北東コーナー）Pit埋土中から、土師器・非ロクロ・壺と壺・須恵器・壺と壺（体部）破片が出土している（体部破片数比較 内黒34>あかやき13）。②登録数26点、土師器壺12点、高台付壺？1点、壺8点（1点は推定）、須恵器壺3点について図化・掲載した。③壺：内黒とあかやき土器の割合は半々、RA052-7を除いては体部下半に丸みを帯び、口縁部の外反も目立たない。RA052-7は器高が低く、口縁部の形は整わない。壺：12点中4点は小型壺、RA052-12・14は砂底土器である。RA052-14の体部下半はヘラケズリとカキメ、RA052-12の体部下半は、他の野古A遺跡の砂底土

器同様、螺旋状のヘラケズリが明瞭で、口縁部は短い。④須恵器：R A052-22・23・24について図化・掲載した。

<その他>①鉄製品：埋土中より、鉄錐と雁股式鉄錐の2点出土、図化・掲載した。②石器：R A052-25は煙道部埋土中層より出土、一部砥石として使用された面が残る。

時期 カマドの向き及び出土遺物の傾向（甕の口縁部の形態と内黒坏がわずかにあかやき土器に比して多くの傾向）より平安時代（9世紀後半）に属し、R A051より少し古い住居跡とみられる。

R A 0 5 3 積穴住居跡

遺構（第35・36図 写真図版19）

<位置>東側調査区12R 16m～12R 20mグリッド付近、黒褐色土に黑色土の広がりで検出した。

<重複関係>①有り②R D079より古い。R D079との重複のため、またカマド部分は風倒木痕との重複のため不明瞭になっている。

<平面形>隅丸方形 <規模>東西5.7×南北5.9m <床面積>約33.6m² 中形 <主軸方向>N-30° - E

<埋土>①黒色土～黒褐色土～暗褐色土主体の5層に区分した。5層の明黄褐色土は2層黒褐色土中のプロックとも考えられる。②黒褐色土～黒色土の自然堆積である。

<壁高残存値>①北壁48cm 東壁42cm 南壁53cm 西壁60cm ②壁の立ち上がりは明瞭で、床面からほぼ垂直に立ち上がる。

<床面>①平坦 締まり中 ②北西コーナー部分に砾と土師器片、南壁沿いにも土師器片有り。北西コーナー近くにPit 6・7、北東コーナー近くにPit 1・8、南東コーナー部分にPit 2・3・4・5、R D 079の東にPit 9有り。③周溝は南壁と南・東・北コーナー部分に残る。幅上端6～13cm下端4cm前後 深さ5～10cm、ちょうど板一枚入るくらいの厚さである。住居跡の壁を掘り込んで作られたと見られる土坑等は見られない。また住居床面中央より北側に溝状の産み有り。埋土は黒褐色土主体、用途不明である。

<貼床>中央部分薄く、周辺にいくにつれて厚くなる。構築土は締まりがややある暗褐色土が主体である。

<土坑>①Pit 1 - 平面円形 径0.5m 深さ35cm ②Pit 2 - 平面梢円形 長径0.48×短径0.35m 深さ25cm 周辺に土師器片有り ③Pit 3 - 平面円形 径0.3m 深さ10cm ④Pit 4 - 平面不整形 長径1.2×短径0.8m 深さ32cm 用途不明 ⑤Pit 5 - 平面円形 径0.4m 深さ15cm 用途不明 ⑥Pit 6 - 平面梢円形 長径0.7×短径0.43m 深さ12cm ⑦Pit 7 - 平面梢円形 長径0.45×短径0.36m 深さ22cm ⑧Pit 8 - 平面梢円形 長径0.48×短径0.40m 深さ13cm ⑨Pit 9 - 平面梢円形 長径0.35×短径0.3m 深さ35cm 位置、貼床の様子と埋土主体よりPit 1・3・7・9はⅠ期（旧）、Pit 2・6・8はⅡ期（新）の主柱穴になる可能性がある。ただし、深さが一様ではなく柱痕も不明瞭である。

<カマド>①位置 北西壁北側、実際の煙出よりも西側で検出、すなわち掘りすぎであった。作り方は倒貫式、天井部分に風倒木痕があり、黄褐色土地山よりもかなり暗褐色土の様相を呈する。②煙道方向 N-58° - W ③袖 南側袖は検出できなかった。北側袖については土師器・甕をいれ芯材としている。④燃焼部 平面は梢円形、長径0.68×短径0.52m厚層3～5cm、締まりのやや有る赤褐色焼土主体である。住居跡で替え可能性を示唆したが、カマドに関しては作り替えの様子は無い。ただし、燃焼部中心現地性焼土平面が梢円である。⑤煙道・煙出 燃焼部中心より約1.5m、15°に下降しながら先端の推定で径22cm深さ85cmに上端より西側に向けて袋状に掘り込まれている煙出に続く。煙道埋

土はにぶい黄褐色土～暗褐色土主体で煙出下層まで赤褐色焼土を含む。

＜その他＞R A046とR A052同様に、Ⅱ時期にわたる住居跡とも考えられる。ただし、主柱穴の検出が不十分だったので、その可能性を記すのみである。

出土遺物（第86・87図 写真図版60・61）

＜土師器＞①不掲載遺物の整理より、床面、埋土上層、Pit、貼床埋土より、非ロクロ・壺（口縁部～体部）、非ロクロ・壺（口縁部～体部）が出土している。②登録数は10点、うち壺6点、壺1点、器種不明の土師器2点について同化・掲載した。③壺：R A053-1は内外面有段である。壺：小型壺は1点、壺5点はA T Tに属する。内外ともハケメ調整が明瞭である。R A053-2・3・4・5は口縁部が大きく開き、体部径よりも広い。R A053-9は壺に属するか、体部下半～底部に重心があり、厚くどっしりしている。R A053-8の器種は不明である。

時期 壺の出土量が少ないので断言出来ないが、器種が豊富でかつ口縁部の大きく開く壺の出土より奈良時代（8世紀中葉～後半）に属する。

2 挖立柱建物跡

R B 0 0 3 挖立柱建物跡

遺構（第37図 写真図版20）

＜位置 重複関係＞①北側調査区、11Q1w～11R1aグリッド北側、段丘縁辺部に位置する。

②重複 間接的にR E001と、直接はR G018と重複し、R G018より新しい。黒褐色土下面において黒色土～灰白色火山灰土を含む黒褐色土の存在で検出した。

＜規模 方向＞①2間×2間の方形、主軸方向はN-28°-Eである。

②東西方向 断面C-C' 2.25m+2.4m D-D' 2.35m+2.2m

南北方向 断面A-A' 2.25m+2.35m D-D' 2.4m+2.3m

＜掘り方・埋土＞①規模は径40cm前後、深さ30～52cmを測る。平面形は円形を基準にしている。埋土は褐色土の混じる黒褐色土が主体である。②大部分の柱穴に柱痕が認められる。埋土は粘性も縮まりも弱い黒褐色土～黒色土が主体である。③掘り方または柱痕、掘り方と柱痕の両方に灰白色火山灰が認められる。④断面C-C'の北側にR Z004北側調査区柱穴状土坑に属する柱穴が見られる。間隔は一定しないが、平面形や灰白色火山灰を含む埋土の状態がR B003と似ていることから、この掘立柱建物跡の外側に位置する横列跡であるとも考えられる。

＜遺物 時期＞①遺物の出土は無い。②時期については不明であるが、平面形及び灰白色火山灰を含む黒色土～黒褐色土主体の埋土から、周囲の遺構と同時期、古代の倉庫のような建物跡と考えたい。

3 土坑

R D 0 6 4 土坑

遺構（第38図 写真図版21）

（1）位置 北側調査区10R24hグリッド付近 （2）重複 無 北側の一部調査区外へ

（3）①平面不整形 ②開口部長径（1.2）×短径（1.0）m ③深さ40cm ④長軸方向 N-35°-W ⑤埋土

灰褐色土～にぶい黄褐色土～黒褐色土主体の4層に区分 西側下層に黒褐色土部分有 ⑥断面不整形

- (4) ①用途不明 ②調査区境黒色土の落ち込み部分か

出土遺物<土師器> (1) 非クロクロ・壺体部破片出土、小片により不掲載とする。

<その他> (1) 鉄製品 登録のみとする。 時期 不明

R D 0 6 5 土坑

遺構 (第38図 写真図版21)

- (1) 位置 北側調査区10R 24gグリッド付近 (2) 重複 無 北側の一部調査区外へ

- (3) ①平面不整形 ②開口部径1.0m ③深さ12cm ④長軸方向 N - 5° - W ⑤埋土灰黄褐色土～にぶい黄褐色土～黒褐色土主体の2層に区分 ⑥断面浅い皿状

- (4) ①用途不明 ②調査区境黒色土の落ち込み部分か

出土遺物 無 時期 不明

R D 0 6 6 土坑

遺構 (第38図 写真図版21)

- (1) 位置 北側調査区10R 24aグリッド付近 (2) 重複 有 R E 001より新

- (3) ①平面不整形 ②開口部長径 (1.0) × 短径 (0.9) m ③深さ20cm ④長軸方向 N - 70° - W

⑤埋土 黒色土～黒褐色土主体の5層に区分。重複するR E 001埋土中に見られる灰白色火山灰は無い。⑥断面中央が深い皿状

出土遺物 無 時期 不明

R D 0 6 7 土坑

遺構 (第38図 写真図版21)

- (1) 位置 西側調査区12Q 8eグリッド付近 楕円形に巡る溝の西側に位置する。(2) 重複 無

- (3) ①平面ほぼ円形 ②開口部径2.5m ③深さ12cm

④埋土黒色土～暗褐色土主体の3層に区分、検出面に灰白色火山灰散見する。⑤断面 浅い皿状

- (4) ①用途不明 ②広い円形プランで検出する。椭円形に巡る溝西側に位置するため関連のある遺構かとも考えたが浅い土坑であり遺物も無い。暗褐色の埋土が削平によりかなり削られている様子である。

出土遺物 無 時期 不明

R D 0 6 8 土坑

遺構 (第38図 写真図版22)

- (1) 位置 西側調査区と東側調査区のつなぎ部分12Q 18eグリッドの北側付近

- (2) 重複 有 R A 045より新

- (3) ①平面不整形 西側に張り出す形で東側が中心 ②開口部長径1.4×短径1.1m ③深さ50cm

④長軸方向 S - 74° - W ⑤埋土黒褐色土主体の2層に区分 ⑥断面一部断面部分で箱形

- (4) 底面に目立つ凹凸有り、根痕の可能性大。

出土遺物<その他> (1) 陶磁器片出土。小片のため登録しない。 時期 不明

R D 0 6 9 土坑

遺構（第38図 写真図版22）

- (1) 位置 西側調査区境12Q18iグリッド付近 (2) 重複 無 (3) ①平面隅丸方形に近い円形 ②開口部長径(1.2) × 短径(1.0) m ③深さ20cm ④埋土黒褐色土・主体の2層 ⑤断面箱形 (4) 黒褐色土の集合か。

出土遺物 無 時期 不明

R D 0 7 0 土坑

遺構（第39図 写真図版22）

- (1) 位置 西側と東側調査区つなぎの部分12Q18qグリッド付近
(2) 重複 有 R D71より新一部調査区外へ
(3) ①平面隅丸方形 ②開口部長径2.4×短径1.1m ③深さ20cm ④長軸方向N-34° - W
⑤埋土黒褐色土～にぶい黄褐色土・主体 層状堆積北側6層部分に暗褐色焼土層有 ⑥断面浅い皿状
(4) ①当初は小形住居跡として検出したが、精査の過程で住居跡としては壁の立ち上がりも明確にはならず、床面の縁まりも弱い。結果として重複した土坑として精査した。②地面に穴を掘り、火を焚き、その上に土を被せたか跡か。形態は墓壙とも考えられるが出土遺物も骨片も無い。

出土遺物 無 時期 不明

R D 0 7 1 土坑

遺構（第39図 写真図版22）

- (1) 位置 西側と東側調査区つなぎの部分12Q18pグリッドの東付近 (2) 重複 有 R D070より古く
全容不明
(3) ①平面 重複のため一部不明だが円形 ②開口部長径2.1×短径(0.75) m ③深さ14cm ④長軸方向
N-34° - W R D070に同じ ⑤埋土黒褐色土・主体 R D070より埋土黒い状態 ⑥断面開いた皿状
(4) ①検出と精査の状況はR D070に同じである。
②土坑としては壁の立ち上がり等は認められるが住居跡の壁としては弱い。

出土遺物 無 時期 不明

R D 0 7 2 土坑

遺構（第39図 写真図版22）

- (1) 位置 東側調査区12Q6gグリッドの東 (2) 重複 無
(3) ①平面不整形 ②開口部長径1.75×短径1.5m ③深さ30cm ④長軸方向N-73° - E
⑤埋土黒色土～黒褐色土・主体 3層は地山部分 ⑥断面開いたU字形
(4) ①R D070同様に地面に穴を掘り、火を焚き、その上に土をかけたものか。
②2層に炭とにぶい赤褐色焼土が混入する。範囲は平面図に示す。

出土遺物<土器類> (1) 檵出面より非ロクロ・甕と壺(内黒 口縁部～体部～底部) 破片出土、小片のため不掲載。 時期 不明

R D 073 土坑

遺構（第39図 写真図版23）

- (1) 位置 東側調査区12R 7fグリッドの南 R D072の南 (2) 重複 無
(3) ①平面円形に近い不整形 R D072を小規模にしたもの ②開口部長径0.9×短径0.8m ③深さ12cm
④長軸方向N-73°-E ⑤埋土褐色灰色土～黒色土、1層搅乱、3層地山。⑥断面開いたU字形
(4) ①R D072を少し狭くしたもの。用途は同じか。R D072とR D073は対になっている可能性がある。

出土遺物 無 時期 不明

R D 074 土坑

遺構（第39図 写真図版23）

- (1) 位置 東側調査区12R 11dグリッドの西 (2) 重複 無 (3) ①平面不整形 ②開口部長径1.9×短径1.5m ③深さ断面部分で35cm ④長軸方向N-77°-E ⑤埋土黒色土～明黄褐色土
(4) 堆積状況について明確に解説できない部分有り。大きな根痕の可能性有り。

出土遺物 無 時期 不明

R D 075 土坑

遺構（第40図 写真図版23）

- (1) 位置 東側調査区12R 20nグリッドの北東 (2) 重複 有 R A046より新 (3) ①平面長楕円形 ②開口部長径1.9×短径0.4m ③深さ20cm ④主軸方向N-5°-E ⑤埋土黒色土主体 ⑥断面狭いU字形
(4) 平面図に示すように凹凸有り。周辺にみられる根痕の可能性有り。形は縮穴状であるが浅い。

出土遺物<その他> (1) 鉄製品・釘？（埋土）出土、登録のみとする。

時期 不明 R A046（古代）より新

R D 076 土坑

遺構（第40図 写真図版23）

- (1) 位置 東側調査区12R 8pグリッドの北西 (2) 重複 無
(3) ①平面一部不整だが方形 ②開口部長径1.6×短径1.55m ③深さ20cm ④主軸方向N-7°-E
⑤埋土黒～黒褐色土主体 4層は黒褐色土中の明黄褐色土ブロックの多い部分、東側の壁の立ち上がり部分は明瞭である。⑥断面逆台形
(4) 下記の遺物に記すように、人手が加えられた上部器が溶てられている土坑である。

出土遺物（第88図 写真図版62）

- <土器> (1) 不掲載遺物の整理より検出面と埋土上層～下層より非ロクロ・壺（口縁部～体部～底部）
ロクロ・壺（内黒・あかやき）（口縁部～体部～底部）が出土している。
(2) 登録数4点、壺1点、环1点、高台付环2点を図化・掲載した。R D076-2高台付环体部には線刻有り。R D076-3は、意図的に体部下半を内側から欠いた形跡がみられる。
<その他> (1) 鉄製品・角釘？（埋土上層）出土、登録のみとする。

時期 出土遺物の特性より古代（平安時代）に属する。

R D 0 7 7 土坑

遺構（第40図 写真図版24）

- (1) 位置 東側調査区12R5gグリッドの北側 (2) 重複 無
(3) ①平面ほぼ円形、東側にやや深い部分有り。 ②開口部径1.1m ③深さ15cm ④埋土黒色土単層
⑤断面浅い皿状

出土遺物<土師器> (1) 壁土中より非ロクロとロクロ・壺（体部・底部）各1点の破片出土、小片のため登録のみとする。 時期 不明

R D 0 7 8 土坑

遺構（第40図 写真図版24）

- (1) 位置 東側調査区12R10iグリッドの西 (2) 重複 無 (3) ①平面円形 ②開口部径0.9m ③深さ12cm ④埋土黒色土～暗褐色土 ⑤断面皿状 (4) R D077に類似 用途不明

出土遺物 無 時期 不明

R D 0 7 9 土坑

遺構（第40図 写真図版24）

- (1) 位置 東側調査区12R18jグリッドの東 (2) 重複 有 R A 053より新
(3) ①平面方形 ②開口部長径2×短径1.2m ③深さ70cm ④主軸方向N-75°-W ⑤埋土黒褐色土主体 2・5・6層に土師器片、3層ににぶい赤褐色焼土一部ブロックで5層灰白色火山灰混、層状堆積である。
(4) 烧土の塊が有り。この部分をR A 053のカマド部分と標造と考えて精査するが、袖等検出できず土坑とする。検出時点で埋土の違いが認識できたのでR A 053より新しいと考えた。用途等は不明である。

出土遺物（第88・89図 写真図版62）

<土師器・須恵器> (1) 不拘載遺物の整理より、埋土中から非ロクロ・壺（体部）、ロクロ・壺と坏（口縁～体部）破片出土する。(2) 登録数12点、うち土師器壺2点、坏4点、高台付坏1点、須恵器壺1点を同化・掲載した。不拘載遺物中でもあかやき土器の割合が多くなり、坏口縁が外傾する傾向にある。

時期 R A 053より新しい平安時代（9世紀後半以降）に属すると考えられる。

R D 0 8 0 土坑

遺構（第40図 写真図版24）

- (1) 位置 東側調査区12R10jグリッド付近 (2) 重複 無 (3) ①平面ほぼ円形 ②開口部径1m ③深さ16cm ④埋土黒色土～暗褐色土主体 3層は地山 ⑤断面皿状

出土遺物 無 時期 不明

R D 0 8 1 土坑

遺構（第41図 写真図版25）

- (1) 位置 東側調査区12R19dグリッド付近 (2) 重複 無

(3) ①平面円形 ②開口部0.8m ③深さ12cm ④埋土黒色土～暗褐色土 ⑤断面不整形
出土遺物 無 時期 不明

R D 0 8 2 土坑

遺構 (第41図 写真図版25)

(1) 位置 東側調査区12R 20eグリッド付近 (2) 重複 無
(3) ①平面楕円形 ②開口部長径1.1m×短径0.7m ③深さ14cm ④長軸方向 N-85°-E ⑤埋土黒色土～褐色土主体 ⑥断面不整形
出土遺物 無 時期 不明

R D 0 8 3 土坑

遺構 (第41図 写真図版25)

(1) 位置 東側調査区12R 16eグリッド付近 (2) 重複 無
(3) ①平面ほぼ円形 ②開口部径1.1m ③深さ30cm ④埋土にぶい黄褐色土～黒褐色土主体 1・2・4・5層は層状に堆積 2層上層にぶい赤褐色焼土混 (4) R D 072・073と類似する堆積状況
出土遺物 無 時期 不明

4 壺穴状遺構

R E 0 0 1 壺穴状遺構

遺構 (第42図 写真図版26)

<位置>①北側調査区、11Q 24x～11R 24aグリッド北側に位置する。②Ⅲ層黒褐色土下面に於いて、褐色土と灰白色火山灰の混じった黒褐色土の存在により検出した。③直接はR D 066・R G 018と重複し、これらより古い。また間接にR B 003と重なる。R B 003の内側に入っている状態である。④当初は小形の壺穴住居跡として精査したが、カマドが検出できず、壺穴状遺構として登録した。

<平面形・規模>平面形は方形、規模東西2.3m×南北2.6m、主軸方向はN-23°-Eである。

<埋土>①褐色土と黄褐色土が混じた黒褐色土を主体にした13層に区分した。②堆積は自然堆積状であるが、北側下層(7層)まで灰白色火山灰を含むことと中層～下層まで上層器片を含むこと、3層に多くのぶい赤褐色焼土を含むことから人為的に埋め戻されていると考えた。

<壁・床>①床は検出面より65～70cm掘り込まれ、深い状態である。壁は床面より垂直に立ち上がり、床面は砂質、貼床等は認められない。

遺物 (第90・91図 写真図版63・64)

<土師器・須恵器>①検出面、埋土中層～下層、西側3層に集まる焼土部分から、非ロクロ・甕と壺(口縁部～体部)、ロクロ・甕と壺(あかやき土器が多い)が出土した。②登録数11点、土師器甕3点、壺3点、須恵器・甕2点を図化・掲載した。③土師器：R E 001-3 甕は回転糸切り痕が明瞭である。R E 001-2・4 壺は僅かに口縁部が外反するあかやき土器である。④須恵器：体部下半にヘラケズりがみられる。

時期 埋土の傾向、壺(あかやき土器)が多いことから近くのR A 042と同時期かそれより少し新しい9世

紀後半～10世紀前半の竪穴状遺構とみられる。

5 焼土遺構

R F 0 0 1 焼土遺構

遺構（第42図 写真図版27）

<位置>東側調査区、12R 6cグリッド付近に位置する。

<平面形・規模>①平面形は方形、規模東西1m×南北0.8m、明赤褐色焼土の厚さ8cm、焼成は弱い。

②東側調査区に見られる土坑の中でもを焼いた跡の可能性有り。

遺物・時期 出土遺物は無く、時期は不明である。

6 溝跡

R G 0 1 5 溝跡のI 東側調査区

遺構（第43・44図 写真図版27）

(1) 位置 12Q6w～12Q19wグリッド付近

(2) 重複 有 R A047・048・049と重なりそのいずれよりも新しい。竪穴住居跡はR G015の埋土下で検出可能であった。

(3) ①規模長さ約30m 東側調査区→第12次調査区→北側調査区に至る。 ②流路方向N-12° - E

③幅開口部50～80cm底面20～40cm ④壁面50°のはっきりした立ち上がり ⑤深さ断面部分で30～40cm 底は平坦 断面逆台形

(4) 壁土黒色土～黒褐色土主体 自然堆積 R A047とR A048と重複する部分で土師器片が出土するが、流れ込み又は竪穴住居跡にかかる遺物と推測される。

R G 0 1 5 溝跡のII 北側調査区

遺構

(1) 位置 10R 23f～11R 10eグリッド付近

(2) 重複 有 R A042・R G019・020と重なる。R A042より新だがR A042中で検出できない部分有り。R G019・020より古い。

(3) ①規模長さ約23.2m 北側調査区を縱断し北端の旧河道に至る。②流路方向N-10° - E ③幅開口部50～150cm底面20～70cm ④壁面50°のはっきりした立ち上がりである。⑤深さ断面部分で25～40cm 底面半円 断面はU字 ④ 壁土黒褐色土主体で黄褐色土が混じる。

(5) 北側調査区中央部分より二股に分かれる様子である。もともと幅広い流れがより深くなったのか。溝跡自体がII時期になる（作り替え）可能性もある。

出土遺物

<土師器・須恵器> (1) 不掲載遺物の整理より、東側調査区検出面と埋土中より非ロクロ・甕と壺（口縁部～体部破片）、ロクロ・壺（内黒・口縁～体部）破片が出土している。北側調査区埋土中から、非ロクロ・甕と壺（口縁部～体部～底部）、ロクロ・壺（内黒・あかやき）と須恵器の壺破片が出土している。(2) 立体にならず且つ住居跡との重複のため溝跡そのものの遺物とは断定出来ず、登録は

しなかった。

時期 古代（R A042よりは新）に属するとみられる。

R G 017 溝跡

遺構（第43図 写真図版28）

- (1) 位置 西側調査区 12Q8d～12Q8hグリッド付近 (2) 重複 無
(3) ①規模全長約19m ②幅開口部30～70cm 底面20～30cm 底には凹凸があり又杭跡のように深くなる部分もある。 ③壁面 約80°の急な立ち上がり ④深さ15～60cm 断面はU字形で東と西側部分の流路方向はN-30°～E (4) 埋土黒褐色土主体 褐色土混
(5) 過年度実施されている盛岡市教委の調査によると北側民家下で円形溝跡を1基検出している。(直径6m、幅0.8m 圓形を呈する)

出土遺物<上部器> (1) 不掲載遺物の整理より、非クロロ・堺（体部）破片2点出土、小片のため登録せず。

時期 不明 古代に属するか。

R G 018 溝跡

遺構（第44図 写真図版29）

- (1) 位置 北側調査区10Q21u～10R 25cグリッド付近
(2) 重複 有 R B003とR E001より新 R A042西側で消滅するためR A042との新旧関係は不明
(3) ①規模全長約16.5m ②幅開口部50～100cm 底面40～80cm 底面平坦 ③壁面壁はゆるやかに立ち上がる浅い溝 ④深さ約10cm ⑤断面は皿状 流路方向はN-63°～W
(4) 埋土黒色土～黒褐色土主体 流れ込みとみられる土師器片有り
(5) 北側調査区段丘縁を東西に流れる浅い溝跡である。

出土遺物<上部器> (1) 不掲載遺物の整理より、埋土中から非クロロ・堺（口縁部～体部～底部）、ロクロ・坏（内黒・口縁部一体部）出土、小片のため登録せず。

時期 不明 古代（平安時代）に属する。

R G 019 溝跡

遺構（第44図 写真図版29）

- (1) 位置 北側調査区10Q21a～10R 23eグリッド付近
(2) 重複 有 R G015に流れ込みR G015より新
(3) ①規模全長約10m ②幅開口部40～100cm 底面10～55cm 底面半円 ③壁面壁はゆるやかに立ち上がる。④深さ約30cm ⑤断面はU字形 流路方向はN-66°～W (4) 埋土黒褐色土主体
(5) R G019とほぼ平行に段丘を東西に流れる溝跡である。

出土遺物 無

時期 不明 付近の遺構と同じ古代に属するか。

RG 020 溝跡

遺構（第44図 写真図版30）

- (1) 位置 北側調査区10R24e～11R4eグリッド付近
- (2) 重複 有 RG 015より新
- (3) ①規模全長約12m ②幅開口部20～40cm 底面10～20cm 底面半円 ③壁面壁はゆるやかに立ち上がる。④深さ約10cmと浅い溝 ⑤断面は小円形 流路方向はN-50°-E (4) 埋土黒褐色土主体
- (5) RG 015から細く枝分かれし北側の旧河道に至る。

出土遺物 無

時期 不明

RG 021 溝跡

遺構（第44図 写真図版30）

- (1) 位置 北側調査区10Q22x～10R24bグリッド付近
- (2) 重複 有 調査区北側柱穴群
- (3) ①規模検出部分で全長約4.6m 東西両端で消滅 ②幅開口部約30cm 底面約10cm 底面半円 ③壁はゆるやかに立ち上がる。④深さ約10cmと浅い溝 ⑤断面は小円形 流路方向はN-50°-W
- (4) 埋土 黒色土主体 灰白色火山灰混
- (5) ①RG 018とはば並行に流れ、埋土に灰白色火山灰を含む。②RB 003の横列を構成する可能性のある柱穴群の下を流れる。板を埋めた跡か。

出土遺物 無

時期 不明 (5) より古代に属するとも考えられる。

7 その他の遺構

(1) RZ 003 土坑状遺構

遺構（第45図 写真図版31）

<位置>①西側調査区と東側調査区の間、12Q17jグリッド東に位置する。②RA 045と重複し、それよりも新しい。

<平面形・規模>平面形は隅丸方形、規模は検出部分では東西1.8m×南北0.6mを測る。

<特性>①検出はⅢ層黒褐色土下面、埋土主体は褐色土を含む黒褐色土で、床面と埋土下層に焼土を含む。その焼土上より土器部、甕部破片が出土している。床面は綺まりがある。②検出当初は、北西から延びる褐色土を含む黒褐色土の直線ラインとコーナー部分が明瞭であったため竪穴住居跡として精査を行った。ただ、野古A遺跡に於いては住居跡どうしの重複は少ないと、また遺構の大部分が調査区外に延びること等から最終的には土坑状遺構として登録した。結論は今後の調査を待ちたい。

遺物（第91図 写真図版64）

- ①主に埋土中から非クロロ・甕（体部）破片出土、1点について図化・掲載した。ハケメ調整が明瞭で口縁部が聞く形である。

時期 RA 045との重複より、RA 045より新しい古代の遺構と見られる。ただし、一部のみの精査である

で全容は不明である。

(2) RZ004 柱穴状土坑（北側調査区・東側調査区）

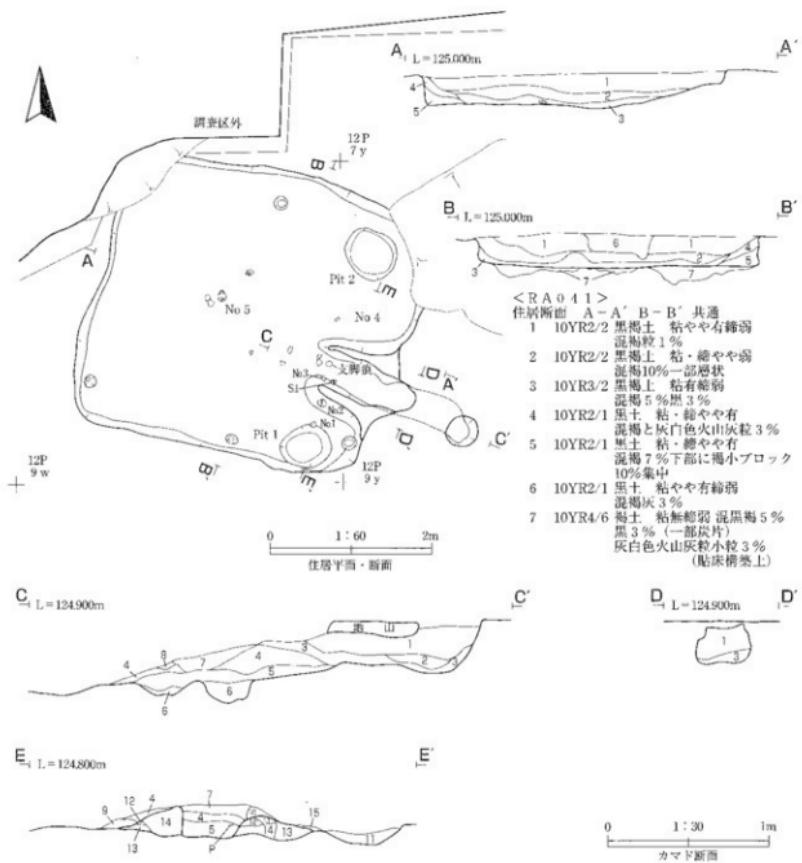
遺構（第46～48図）

北側調査区22基においては、そのうち8基についてRB003に属す。平面はほぼ円形、埋土主体は黒色土～黒褐色土で縫まりは弱い。深さも15～26cmの範囲である。

一方東側調査区においても100基の柱穴状土坑が確認できたが、掘立柱建物跡を構成するには至らなかった。埋土は黒色土～黒褐色土主体で縫まりはない。東側12R11rグリッド付近の柱穴の一部に灰白色火山灰が認められた。

8 遺構外出土遺物

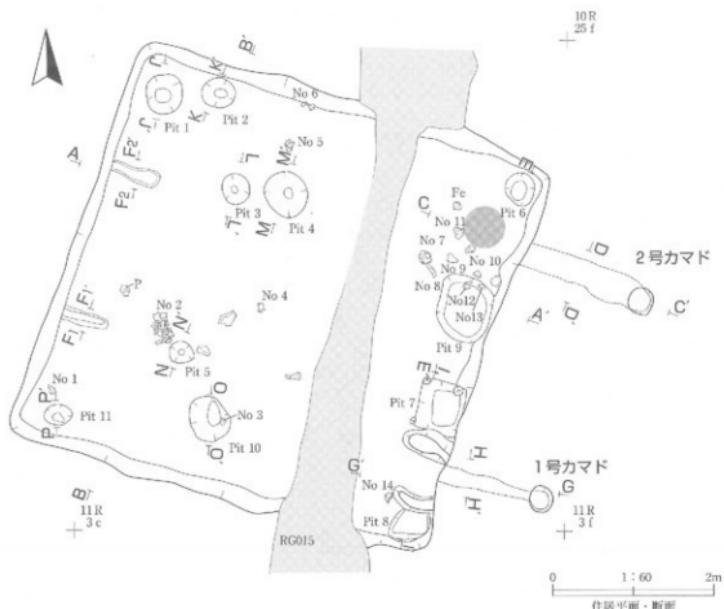
遺構外出土遺物として同化・掲載した遺物はない。これは、検出が漸移層下面～地山面と、比較的高い位置ででき、遺物が散らばらず遺構内の遺物との接合が可能であったこと、出土位置が明確な破片類は不掲載遺物として分析したためである。



カマド断面 C-C' D-D' E-E' 共通

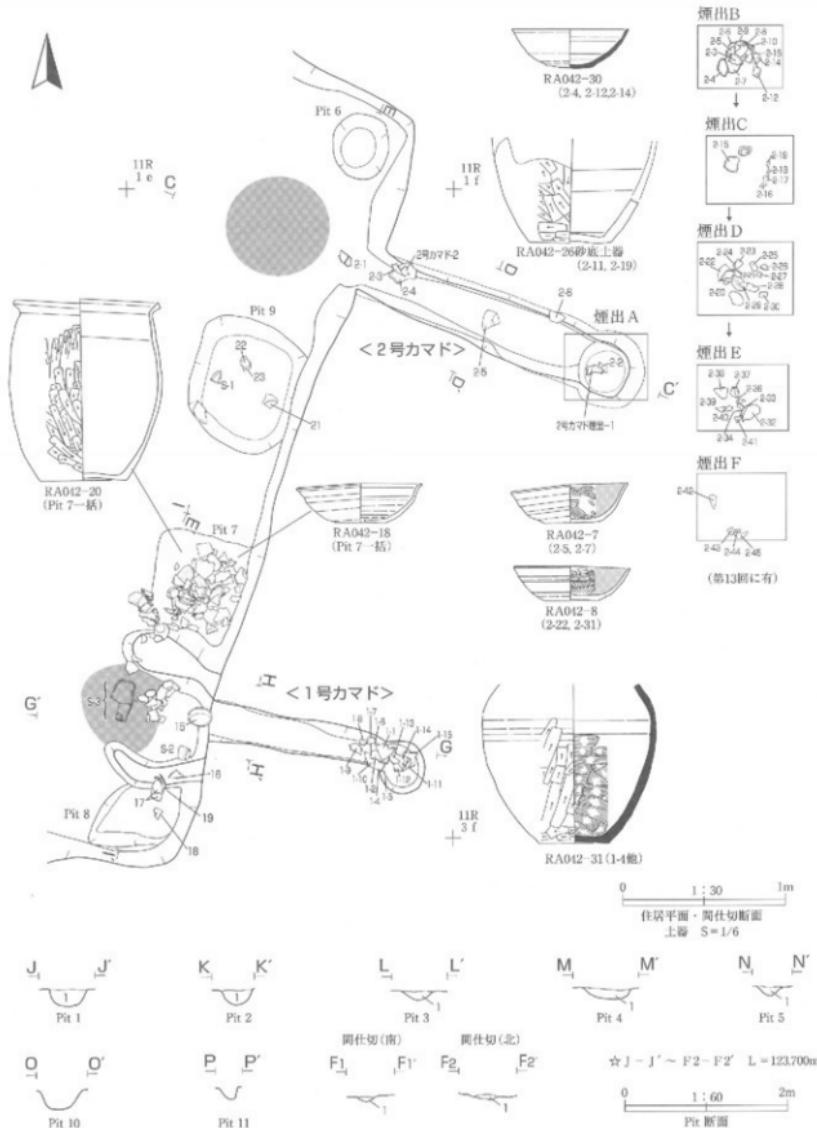
- | | |
|---|--|
| 1 10YR3/2 黒褐色 粘弱無 混凝物と粘 5%黑 3% (煙道壁上) | 6 10YR5/6 黄褐色 粘無縫弱 燃焼部下の掘り込み? |
| 2 10YR3/2 黒褐色 粘弱無 混凝物7%黑 5%にぶい赤褐焼土3% (煙道壁上) | 7 10YR2/3 黑褐色 粘無縫やや有 混凝物 3% |
| 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘弱無 混凝物10%以上西側黒褐とにぶい赤褐焼土 3% (煙道壁上) | 8 10YR2/3 黑褐色 粘無縫やや有 混にぶい赤褐焼土 3% |
| 4 10YR2/3 黒褐色 粘・練弱 混凝物 5%にぶい赤褐焼土 3%上部に層状に有 (煙道壁上) | 9 10YR2/3 黑褐色 粘弱無やや有 混凝物10% |
| 5 10YR3/4 暗褐色 粘・練弱 混凝物10.5%黒褐と褐とにぶい赤褐焼土 3% (煙道壁上) | 10 10YR2/3 黑褐色 粘無縫やや有 |
| | 11 10YR3/2 黑褐色 粘弱無混にぶい黄褐色1% (Pit 1埋土) |
| | 12 10YR3/2 黑褐色 粘無縫やや有 混凝物 1% (袖構成土) |
| | 13 10YR3/2 黑褐色 粘無縫やや有 混凝物と黒褐3% (袖構成土) |
| | 14 10YR3/2 黑褐色 粘無縫有 混凝物とぶい赤褐焼土 3% (袖構成土) |
| | 15 10YR4/4 褐上 粘無縫有 |

第9図 RAO41 竪穴住居跡



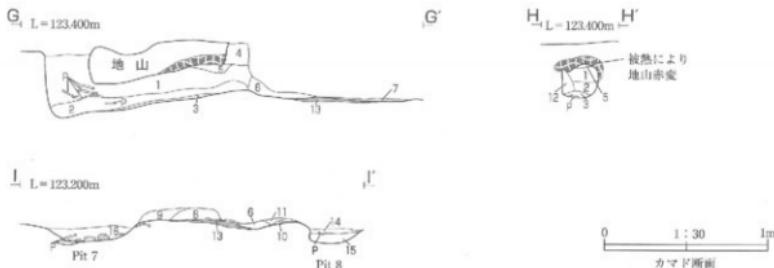
- <RA042>**
- 住居断面 A-A' B-B' 共通
- 1 10YR3/3 喀褐土 粘・繊弱
混黄褐4% 黒1%
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘・繊弱
混褐土5% To-H粒1×1~3cm粒5%
 - 3 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘・繊弱
混褐5% To-H粒5×5mm散見
 - 4 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘・繊弱
混黑褐7% (東側部分多) 褐5% To-a1%
 - 5 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘やや有繊弱
混褐3% To-H粒7mm散見
 - 6 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘やや有繊弱
混褐3% To-H1×3cm5% (西側ブロック多)
 - 7 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘やや有繊弱
混褐とTo-H3%以下
 - 8 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘やや有繊弱
混褐3% To-H5% (標層多 7層に類似)
 - 9 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘・繊弱
混黑褐10% To-Hブロック5×5mm(2層に類似)
 - 10 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘・繊弱 (砂質類同)
混黑褐10% 黄褐3% To-H粒5%
 - 11 10YR3/2 黑褐土 粘無繊や有
混黑と褐と黄褐3% (基床構築土)

第10図 RA042 壺穴住居跡 (1)



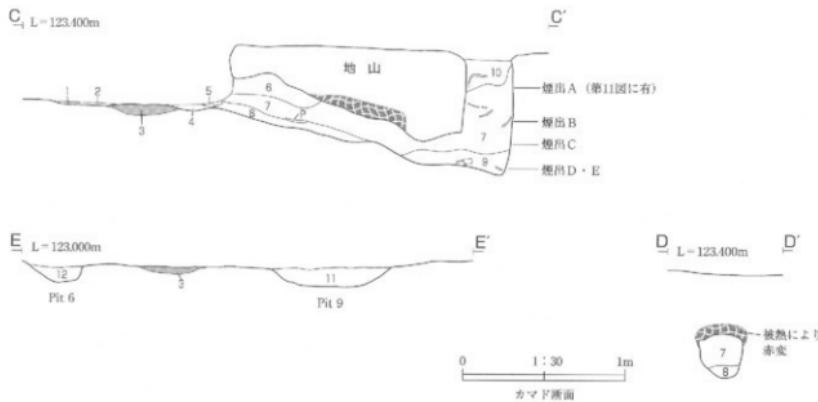
第11図 RAO42 竪穴住居跡 (2)

- Pit 1 J - J'
1 10YR3/3 喀褐土 混褐5% 黑褐3% To-H 5×5mm
ブロック5%
- Pit 2 K - K'
1 10YR3/2 黑褐土 混褐5% (下層ほどブロック大)
黑褐3%
- Pit 3 L - L'
1 10YR4/2 灰黄褐土 混褐5% 暗褐3% To-H 1×1cm
ブロック3% To-H粒1%
- Pit 4 M - M'
1 10YR3/4 喀褐土 混黑と黑褐3% To-H 1.5×1.5cm
ブロック7%
- Pit 5 N - N'
1 10YR3/1 黑褐土 混褐と黒とTo-H粒3%
- Pit 10 O - O'
記無
- Pit 11 P - P'
記無
- 同仕切(南), 同仕切(北)共通 F1 - F1' F2 - F2'
1 10YR4/3 にぶい黄褐土 黏・鈣弱
混褐と黒とTo-H 3%



- 1号カマド断面 G - G' H - H' I - I' 共通
- 1 10YR3/3 喀褐土 黏無鈣弱
混にぶい赤褐焼上と褐3% 黑褐1%
(燒道埋土)
 - 2 10YR3/3 喀褐土
混褐5% にぶい赤褐焼上3% (1層より粗)
(燒道埋土)
 - 3 10YR3/3 喀褐土 黏無鈣弱 混黑7% 褐5%
(燒道埋土)
 - 4 10YR3/3 喀褐土 黏無鈣弱 混褐7%
 - 5 10YR3/3 喀褐土 黏無鈣弱 混黄褐7% 褐3%
 - 6 7.5YR3/3 喀褐土 黏無鈣弱
混にぶい赤褐焼土10%以上 赤褐焼土粒3%
 - 7 7.5YR3/3 喀褐土 黏無鈣弱
混黑(炭)10%にぶい赤褐焼土と赤褐焼土5%
 - 8 10YR3/2 黑褐土 黏弱鈣や有
混褐と黒3% To-H粒5%
 - 9 10YR3/2 黑褐土 黏やや有鈣弱 混褐10% 黑3%
 - 10 10YR3/2 黑褐土 黏弱鈣や有
 - 11 10YR3/2 黑褐土 黏弱鈣や有
混褐5% 黑3% To-H粒1% (わずか)
 - 12 10YR3/2 黑褐土 黏無鈣や有
混褐10%以上 (地山崩落土?)
 - 13 5YR4/2 にぶい赤褐焼上 燃成弱 (現地性焼土)
 - 14 10YR2/2 黑褐土 黏やや有鈣弱
混褐7% (Pit8埋土)
 - 15 10YR4/3 にぶい黄褐土 黏・鈣弱
混褐7% 黄褐3% (Pit8埋土)
 - 16 10YR3/1 黑褐土 黏やや有鈣弱
混黄褐粒5% 黑3% (Pit7埋土)

第12図 RAO42 竪穴住居跡(3)

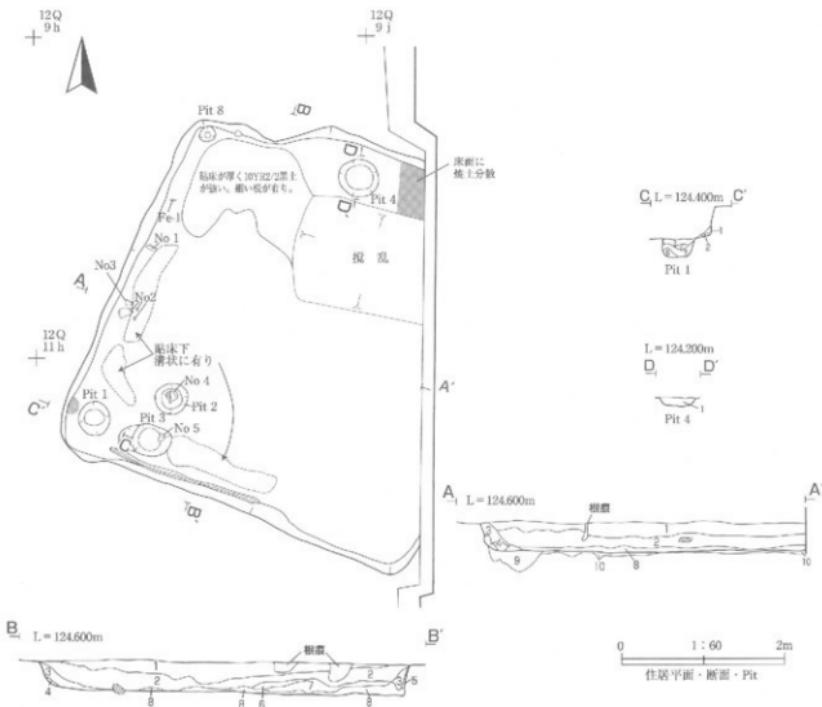


2号カマド断面 C - C' D - D' E - E' 共通

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘やや有縫弱
混黒褐 5% 黄褐 3%
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘やや有縫弱
混黒褐色にぶい赤褐焼土 5%
- 3 5YR4/4 にぶい赤褐焼土 粘無縫弱
混赤褐焼土 7% 黑褐と明赤褐焼土 3%
(現地性焼土)
- 4 10YR3/3 暗褐色 粘・縛やや有
混褐色と明赤褐焼土 3%
- 5 10YR5/6 黄褐色 粘無縫弱 混黒 5%
- 6 10YR3/2 黑褐色 粘やや有縫弱
混褐 3% (煙道理土)

- 7 10YR3/2 黑褐色 粘やや有縫弱
混焼出部分に赤褐焼土 7% 明赤褐焼土 5%
黒 3% 褐 1% (煙道理土)
- 8 10YR3/2 黑褐色 粘やや有縫弱
混褐と黒 3% (煙道理土)
- 9 10YR3/2 黑褐色 粘・縛弱 (煙道理土)
- 10 10YR3/2 黑褐色 粘・縛弱
混褐 3% (煙道理土)
- 11 10YR3/2 黑褐色 粘・縛やや有
混褐と黒 7% (炭片) 明赤褐焼土 3% (Pit9埋土)
- 12 10YR3/2 黑褐色 粘・縛やや有
混褐 7% (Pit6埋土)

第13図 RAO42 穴住居跡 (4)



<RA043>

住居断面 A-A' B-B' 共通

1 10YR2/2 黒褐土 粘弱繊やや有

2 10YR3/2 黒褐土 粘弱繊やや有

説明黄褐全体に3%土器片わずか

3 10YR2/1 黒土 粘弱繊やや有

説明黄褐全体に1%

4 10YR3/3 暗褐色 上 粘・弱弱

説明黄褐全体に20%

5 10YR5/6 黄褐土 粘・弱弱 (崩落土?)

6 10YR1.7/1 黒土 粘弱繊やや有

説明黄褐1%

7 10YR6/6 明黄褐土と10YR2/2黒褐土との混合土
粘弱繊やや有繊維～練大ブロック40%

(人為的堆積土層)

8 10YR2/3 黑褐土 粘弱繊やや有

説明黄褐繊粒1%南側密

9 10YR3/2 黒褐土 粘無繊弱

説明黄褐繊粒10% (點付近溝状に有)

10 10YR3/2 黒褐土 粘無繊弱

説明黄褐繊粒7% (點床構築上)

Pit 1 断面と壁面焼土 C-C'

1 5YR4/6 赤褐焼土 混黒褐と黒褐3%

2 5YR3/2 暗赤褐土 混黒褐焼土5%赤褐焼土3%

3 10YR2/2 黒褐土 混黄褐と暗赤褐焼土5%散在

4 10YR2/2 黒褐土 混黄褐と暗赤褐焼土3%

5 10YR3/2 暗褐土 混にぶい赤褐焼土3%

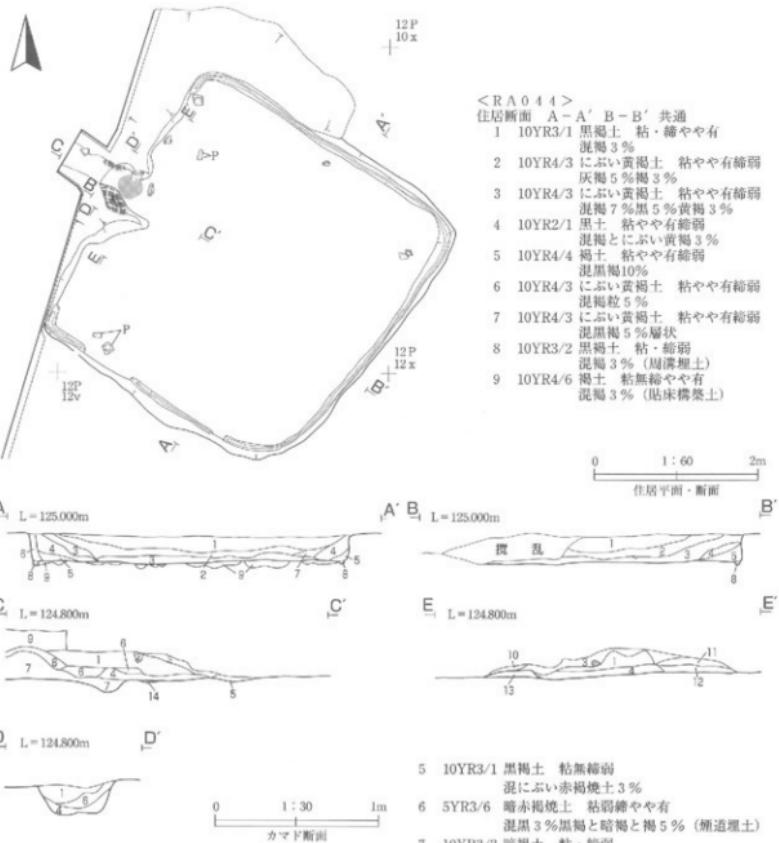
6 10YR2/3 黒褐土 粘やや有繊弱 混黄褐3%

Pit 4 断面 D-D'

1 10YR3/2 黒褐土 混にぶい赤褐焼土10%

にぶい橙褐土3%

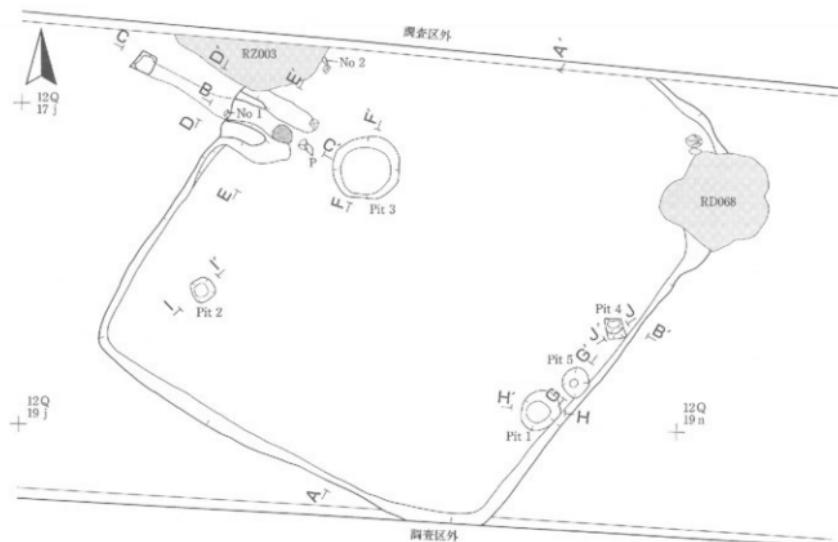
第14図 RAO43 積穴住居跡



- カマド断面 C-C' D-D' E-E' 共通
- 10YR4/3 にぶい黄褐色・粘やや有縫弱
混褐色5%黒褐色3% (煙道理上)
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色・粘やや有縫弱
混褐色5%黒褐色3%にぶい赤褐色3%
 - 10YR3/1 黒褐色・粘無縫弱
混褐色5%黒褐色3%にぶい赤褐色1%
 - 5YR4/4 にぶい赤褐色・粘無縫弱や有
混褐色5%黒褐色3% (煙道理上、天井崩落?)

- 5 10YR3/1 黒褐色・粘無縫弱
混にぶい赤褐色3%
6 5YR3/6 暗赤褐色焼土・粘弱縫弱や有
混褐色3%黒褐色と褐褐色と褐3% (煙道理上)
7 10YR3/3 暗褐色・粘・縫弱
混褐色5%黒褐色3% (煙道理上)
8 10YR3/2 黑褐色・粘・縫弱
混褐色層状に7%黒褐色3% (煙道理上)
9 10YR3/2 黑褐色・粘弱縫弱有 混褐色3%
10 10YR4/3 にぶい黄褐色・粘無縫弱 混褐色3%
11 10YR4/3 にぶい黄褐色・粘無縫弱
混褐色3% (カマド下部、焼土堆積部分)
12 10YR4/3 にぶい黄褐色・粘無縫弱
混褐色と明赤褐色3% (カマド下部、焼土堆積部分)
13 10YR4/3 にぶい黄褐色・粘無縫弱や有 (袖部残)
14 25YR4/6 赤褐色焼土・粘無縫弱や少 (現地性焼土)

第15図 RAO44 墓穴住居跡



0 1:60 2m
住居平面・断面

<RA045>

住居断面 A-A' B-B' 共通

1 10YR2/2 黑褐色 粘無繊やや有
混黄褐5%

2 10YR2/2 黑褐色 粘無繊やや有
混黄褐粒7%同ブロック3%

3 10YR3/2 黑褐色 粘弱繊やや有
混黄褐7%褐5%

4 10YR2/2 黑褐色 粘無繊やや有
混黄褐10%黑3%

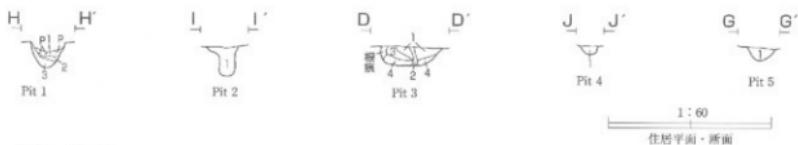
5 10YR3/2 黑褐色 粘・繊やや有
混黄褐7%黑5%

6 10YR3/2 黑褐色 粘・繊やや有
混にぶい赤褐洗土3% (カマド近く)

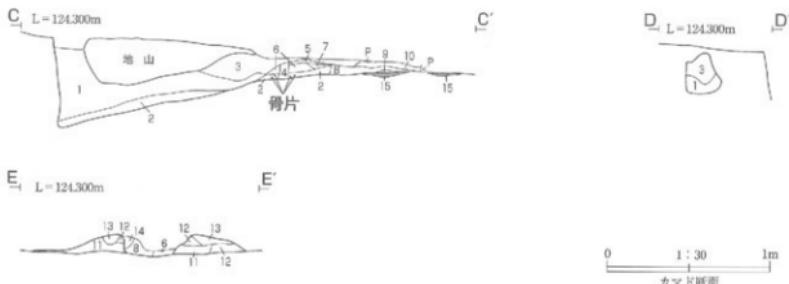
7 10YR3/2 黑褐色 粘無繊やや有
混黄褐5%暗褐3% (貼床構築上)

8 10YR5/4 にぶい黄褐砂質土 粘無繊やや有
混黄褐と黒と明黄褐3% (貼床構築上)

第16図 RA045 竪穴住居跡 (1)

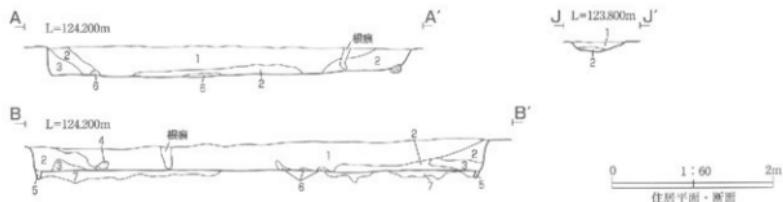
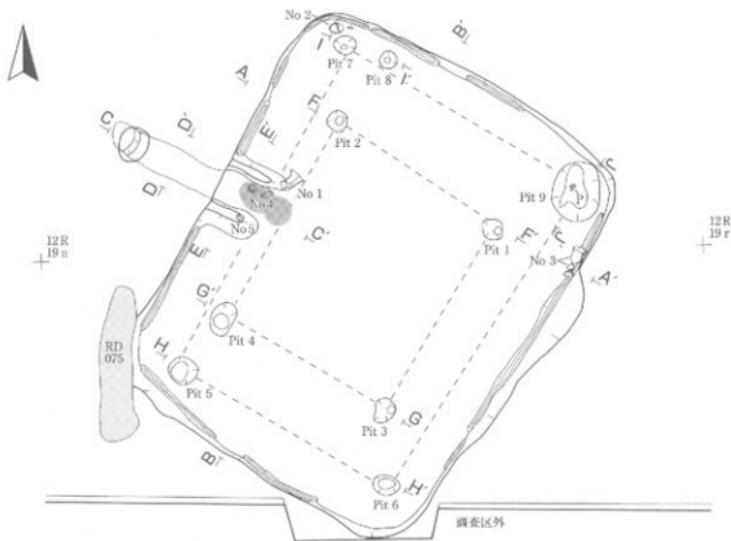


| | | | | |
|-------|---------------------------------|---|------------------------------|--------|
| Pit 1 | H - H' | | Pit 4 | J - J' |
| 1 | 10YR3/2 黒褐色 混にぶい黄褐色5%土師器片 | 3 | 10YR5/4 にぶい黄褐色 混黒と黄褐色3% | |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色 混にぶい黄褐色10% | 4 | 10YR5/4 にぶい黄褐色 混黒3% | |
| 3 | 10YR5/4 にぶい黄褐色 混黒褐5% | | | |
| Pit 2 | I - I' | | Pit 5 | G - G' |
| 1 | 10YR3/4 暗褐色 混褐色5% | 1 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 混黒3% | |
| Pit 3 | F - F' | | Pit 5 | G - G' |
| 1 | 10YR5/4 にぶい黄褐色 混黒粒5%にぶい黄褐色3% | 1 | 10YR3/2 黒褐色 混黒とにぶい黄褐色と灰褐色粒3% | |
| 2 | 10YR5/4 にぶい黄褐色 混黒10%黄褐色3% | | ☆H - H' ~ G - G' L = 124.00m | |



| カマド断面 C - C' D - D' E - E' 通共 | |
|-------------------------------|--|
| 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 粘やや有繊無 混黒褐5%黒と赤褐色上3% (煙道埋土) |
| 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 粘やや有繊無 混黒褐と赤褐色土7%以上骨片有 (煙道埋土) |
| 3 | 10YR3/3 暗褐色 粘無繊やや有 混暗褐10%赤褐色土5% (煙道埋土) |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色 粘無繊やや有 混黒10%赤褐色土7%明赤褐色上5% (支脚抜き取り痕?) |
| 5 | 5YR4/4 にぶい赤褐色上 粘無繊やや有 混黒と明赤褐色土3% |
| 6 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘無繊やや有 混黒褐3% |
| 7 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘無繊やや有 混黒褐3% |
| 8 | 5YR3/6 暗赤褐色上 粘・繊弱 混明赤褐色土5%黒土3% |
| 9 | 5YR3/6 暗赤褐色 粘・繊弱 混明赤褐色土と黒土3% |
| 10 | 10YR2/2 黒褐色 粘無繊弱 混明赤褐色土5%黒3% |
| 11 | 10YR4/4 褐土 粘無繊やや有 (袖構成土) |
| 12 | 10YR4/3 にぶい黄褐色上 粘無繊やや有 混褐10%以上 (袖構成土) |
| 13 | 10YR3/2 黒褐色 粘無繊やや有 混黒5%にぶい黄褐色3% (袖構成土) |
| 14 | 7.5YR2/2 黑褐色 粘・繊弱 混にぶい赤褐色土と明赤褐色土3% |
| 15 | 5YR3/6 暗赤褐色 粘無繊弱 混黒3% (現地性燒土) |

第17図 RAO45 墓穴住居跡(2)



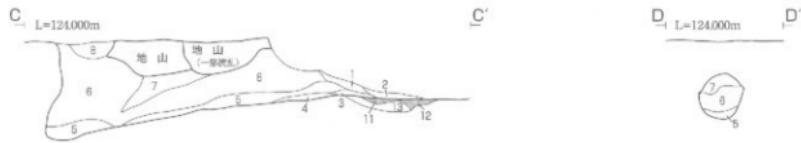
<RA046>

住居断面 A-A' B-B' 共通

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘・繊弱
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘弱繊無
混黄褐色ブロック 5%
- 3 10YR1.7/1 黑土 粘弱繊無
- 4 10YR3/4 暗褐色 粘弱繊無
- 5 10YR3/2 黑褐色 粘・繊弱
混明黄褐色と黒 3% (周溝埋土)

- 6 10YR5/6 黄褐色 土 粘・繊無
床面近くにあり砂層一部ブロック状
- 7 10YR3/2 黑褐色 粘・繊弱
混明黄褐色 5% (粘床構築上)
- Pit 9 J-J'
- 1 10YR3/2 黑褐色 混粘 5%
- 2 5YR4/4 にぶい赤褐色 土 混赤褐色土 3%

第18図 RA046 竪穴住居跡 (1)



カマド断面 C-C' D-D' E-E' 共通

- 1 7.5YR3/1 黒褐色上 粘やや有縫無
混にぶい赤褐焼土と明赤褐焼土 5%
- 2 5YR4/4 にぶい赤褐焼土 5% 粘やや有縫無
混黒褐 7% 明赤褐焼土 5%
- 3 2.5YR5/8 明赤褐焼土 5% 黑褐 3%
混明赤褐焼土 7% 黑褐 3%
- 4 2.5YR5/8 明赤褐焼土 粘無縫やや有
混明赤褐焼土 10% 黑褐 5%
- 5 10YR4/2 灰黄褐色上 粘無縫弱
混にぶい赤褐焼土 5%
黑褐と明赤褐焼土 3% (煙道埋土)
- 6 10YR4/3/ にぶい黄褐色上 粘無縫弱
混黒褐 5% 貨褐 3% (煙道埋土)

- 7 10YR4/4 黄褐色土 粘無縫弱
混にぶい貨褐 5% 黑褐 3% (煙道埋土)
- 8 10YR2/2 黑褐色上 粘やや有縫弱 混褐 3%
- 9 10YR3/3 暗褐色上 粘・締弱
混黑褐 5% 明赤褐焼土 3%
- 10 10YR3/4 暗褐色上 粘弱縮やや有 混黑褐 3%
- 11 5YR4/8 赤褐焼土 粘・締無 (Ⅱ期現地性焼土)
- 12 5YR4/3 にぶい赤褐焼土 上 粘無縫やや有
混黄褐 5% (Ⅰ期現地性焼土)
- 13 10YR3/3 暗褐色上 粘・締無
混赤褐焼土粒 7%
- 14 10YR4/4 褐土 粘無縫有 (油構成土)
- 15 5YR3/6 暗赤褐土 粘無縫有 (油構成土)
- 16 10YR3/3 暗褐色上 粘無縫やや有 (油構成土)



Pit 1, Pit 2, Pit 3, Pit 4 F-F' G-G' 共通 (Ⅰ期支柱穴)

- 1 10YR3/2 黑褐色上 混褐 3%
- 2 10YR4/4 褐土 混黑褐 5%



Pit 5, Pit 6 II-II' 共通 (Ⅱ期支柱穴)

- 1 10YR3/2 黑褐色上 混褐 3%

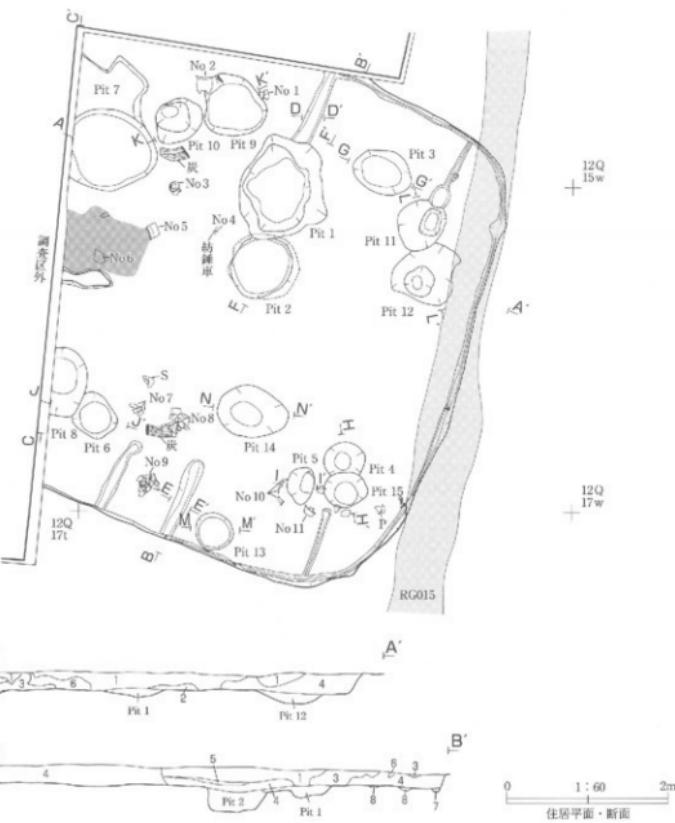


Pit 7 I-I' 共通 (支柱穴)

- 1 10YR3/2 黑褐色上 混褐 5%



第19図 RAO46 竪穴住居跡 (2)



<RA047>

住居断面 A-A' B-B' 共通
1 10YR2/1 黒土 粘弱繊やや有
混明黄褐 5%

2 10YR2/2 黒褐色 粘弱繊やや有

3 10YR1.7/1 黒土 粘弱繊やや有

4 10YR2/3 黒褐色 粘・繊弱
混明黄褐 5%

5 10YR7/2 に近い黄橙土 粘・繊無
6 10YR6/8 明黄褐色 粘・繊弱

混黑褐 5%

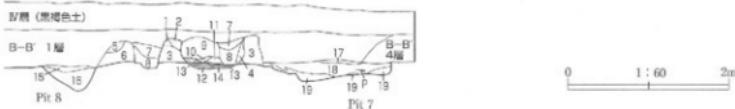
7 10YR2/3 黑褐色 粘・繊弱

混褐 5% (周溝埋土)

8 10YR3/3 暗褐色 粘・繊やや有
(貼床構築土一床面硬く貼床薄)

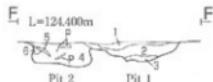
第20図 RAO47 竪穴住居跡 (1)

C₄ L=125.200m



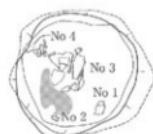
西側壁面 C-C'

- | | | | | | | |
|---|----------------|--|----|--------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 10YR4/4 黒土 | 枯無縫弱 混黒褐 5% (袖構成土?) | 10 | 5YR3/6 喀赤褐焼土 | 粘無縫やや有 混赤褐焼上ブロック 3% (袖間の焼土) | |
| 2 | 10YR3/2 黒褐土 | 粘無縫やや有 混褐 3% (袖構成土?) | 11 | 5YR4/4 | にぶい赤褐焼土 | 粘無縫弱 混赤褐焼土と黄褐 3% (袖間の焼土) |
| 3 | 10YR3/3 暗褐土 | 粘無縫やや有 混褐 3% (袖構成土?) | 12 | 2.5YR4/6 | 赤褐焼土 | 粘弱縫無 混黒 3% (現地性焼土) |
| 4 | 2.5YR4/6 赤褐焼土 | 粘無縫やや有 混黒と明赤褐焼土 3% (袖構成土?一部内側赤変) | 13 | 5YR5/6 | 明赤褐焼土 | 粘弱縫有 混赤褐焼土と橙と黒 3% (現地性焼土) |
| 5 | 10YR4/3 にぶい黄褐土 | 粘・縫無 混褐 5% | 14 | 10YR3/2 | 黒褐土 | 粘無縫やや有 混赤褐焼土と橙と黒 3% (現地性焼土) |
| 6 | 10YR3/2 黒褐土 | 粘有縫やや有 混黒と褐 3% | 15 | 10YR4/2 | 灰黄褐土 | 粘・縫無 (Pit8埋土) |
| 7 | 10YR4/3 にぶい黄褐土 | 粘無縫やや有 混褐 7% 黑 3% | 16 | 10YR3/2 | 黒褐土 | 粘やや有縫無 混褐 5% (Pit8埋土) |
| 8 | 10YR4/3 にぶい黄褐土 | 粘無縫弱 混褐と黑 3% | 17 | 10YR4/2 | 灰黄褐土 | 粘・縫無 混褐 3% (Pit7埋土) |
| 9 | 10YR5/4 にぶい黄褐土 | 粘無縫やや有 混褐 3% | 18 | 10YR3/2 | 黒褐土 | 粘やや有縫無 混明赤褐焼土 7% 黑 5% (Pit7埋土) |
| | | | 19 | 10YR3/2 | 黒褐土 | 粘やや有縫無 混明赤褐焼土と黒 3% (Pit7埋土) |



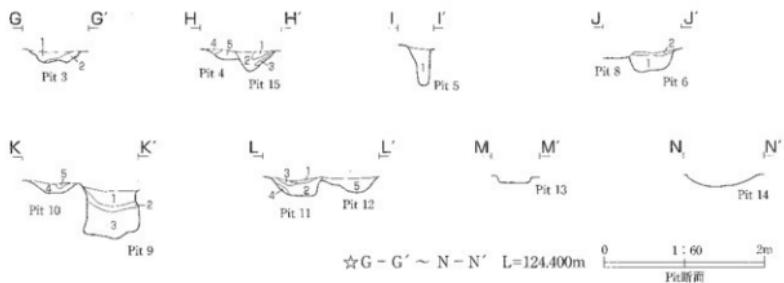
12Q
15u

< Pit 2 中 土器出土状況 >



- Pit 1, Pit 2 F-F' 共通
- | | | |
|---|----------------------|--------------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐土 | 混褐 3% (Pit1埋土) |
| 2 | 10YR2/3 黒褐土 | 混褐 5% 黑と赤褐焼上 3% (Pit1埋土) |
| 3 | 10YR4/4 黒褐土 | 混明赤褐 3% (Pit1埋土) |
| 4 | 10YR2/3 黒褐土 (Pit2埋土) | 土師器片混 |
| 5 | 5YR4/6 赤褐焼土 | 混明赤褐焼土 7% (Pit2埋土 焼土部分) |
| 6 | 10YR2/3 黒褐土 | 混赤褐焼土と橙 3% (Pit2埋土) |

第21図 RAO47 積穴住居跡 (2)



Pit 3 G - G'

- 1 10YR3/3 暗褐色 土混褐色 5% 黑 3%
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色
混黒 5% 明赤褐色土 3%

Pit 4, Pit 15 H - H' 共通

- 1 10YR2/3 黑褐色 混褐色 3% (Pit15埋土)
- 2 10YR2/3 黑褐色 混褐色 7% (Pit15埋土)
- 3 10YR3/3 にぶい黄褐色 混黒褐 10% (Pit15埋土)
- 4 10YR2/1 黑土 根痕人 (Pit4埋土)
- 5 10YR3/4 暗褐色 土混褐色 3% (Pit4埋土)

Pit 5 I - I'

- 1 10YR3/3 暗褐色 土混褐色 3%

Pit 6 J - J'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色
混黑土にぶい黄褐色と暗赤褐色 3%
- 2 7.5YR4/4 壤土 粘・雜弱 混黑褐色 3%

Pit 9, Pit 10 K - K' 共通

- 1 10YRA/3 にぶい黄褐色 土混褐色 3% (Pit9埋土)
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 土混赤褐色土 10% (Pit9埋土)
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 土混褐色 5% (Pit9埋土)
- 4 10YR3/2 黑褐色 土混褐色 7% (Pit10埋土)
- 5 10YR3/2 黑褐色 土混褐色 3% (Pit10埋土)

Pit 11, Pit 12 L - L' 共通

- 1 10YR3/2 黑褐色 土混褐色 1% (Pit11埋土)
- 2 10YR3/2 黑褐色 土混褐色 5% 精 (Pit11埋土)
- 3 10YR2/2 黑褐色 土混褐色 3% (Pit11埋土)
- 4 10YR5/6 黄褐色 土混黑褐 5% (Pit11埋土)
- 5 10YR3/2 黑褐色 土混黄褐色 5% 褐 3% (Pit12埋土)

Pit 13, Pit 14 M - M' N - N'

記無

D - D'



E - E'



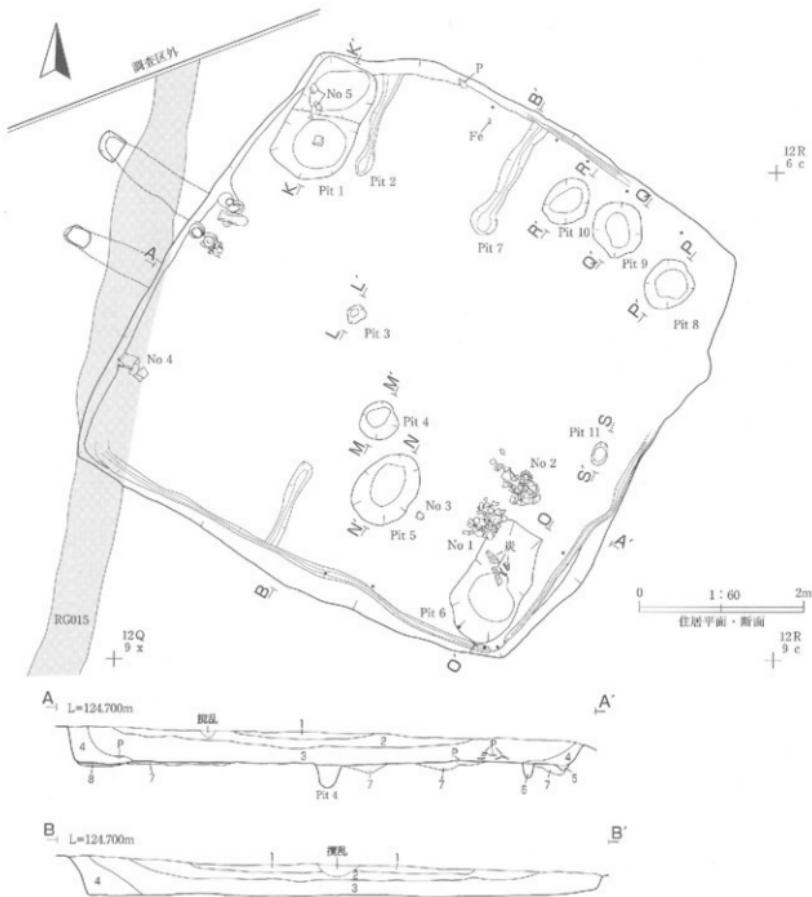
間仕切り断面 D - D' E - E' 共通

- 1 10YR2/3 暗褐色 土粘・雜弱
混褐色 5%

☆ D - D' ~ E - E' L=124.400m



第22図 RA047 積穴住居跡 (3)

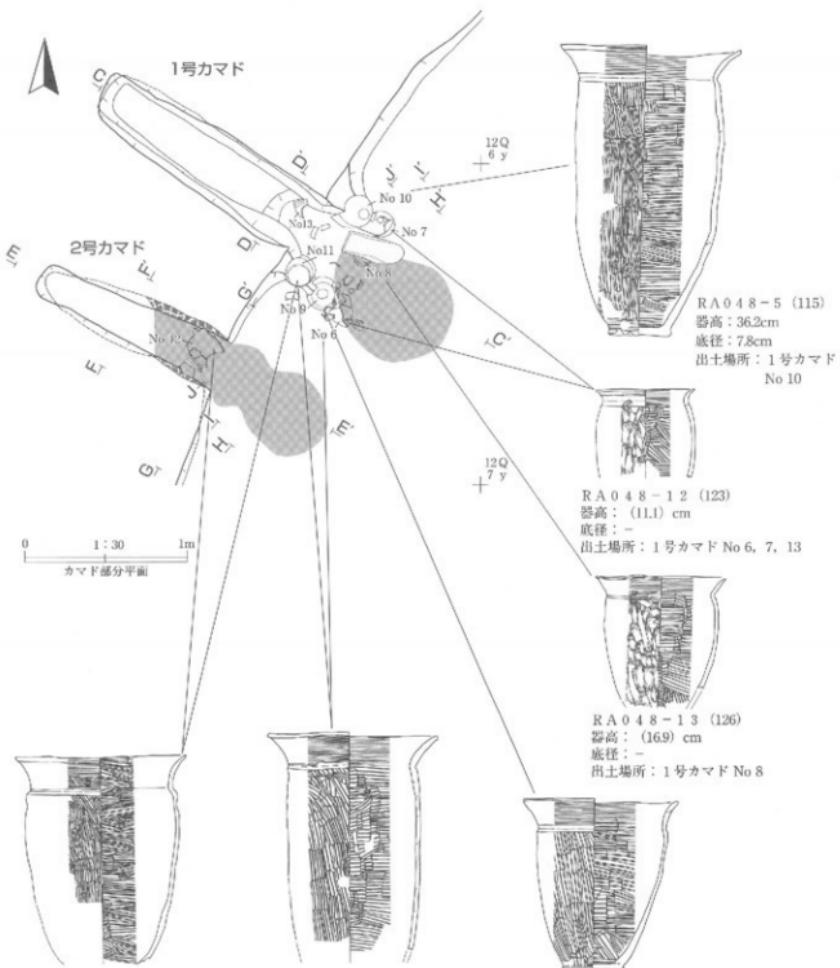


<RAO48>

住居断面 A-A' B-B' 共通

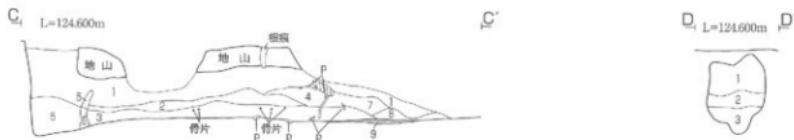
- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 10YR1.7/1 黒土 粘・繊弱 | 6 10YR2/2 黒褐色 粘無繊弱;合成 混黄褐10%明黄褐5% |
| 2 10YR1.7/1 黒土 粘・繊弱 | 径5×6cm深6cmの孔有り (周溝板を止めた坑あとの可能性有・合成) |
| 3 10YR1.7/1 黒土 粘弱繊やや有 | |
| 4 10YR2/2 黒褐色 粘・繊弱 混黑1% | 7 10YR3/3 暗褐色 粘無繊やや有 混黄褐10%以上(貼床構造上) |
| 5 10YR3/2 黒褐色 粘やや有繊無 混黄褐5%(周溝埋土) | 8 H-H' I-I' の3層(現地性焼土部分) |

第23図 RAO48 壁穴住跡(1)



S = 1/6

第24図 RAO48 積穴住居跡(2)・カマド芯材土器



1号カマド断面 C-C' D-D' 共通

1 10YR3/3 暗褐色 粘・繊弱

混褐色小粒 5% 黒褐と黒 3%

煙出検出部に暗赤褐色焼土

小ブロック 3% (煙道埋土)

2 10YR4/4 褐土 粘無繊弱

混黒褐色 1% (煙道埋土)

3 10YR3/3 暗褐色 粘無繊弱

混暗赤褐色燒土と赤褐色燒土 5%

4 10YR3/3 暗褐色 粘無繊弱

混赤褐色燒土 5% 褐 3%

5 7.5YR3/2 黒褐色 粘無繊弱

混暗赤褐色燒土 5% 黒 3% (煙出下層部分)

6 10YR4/4 褐土 粘無繊弱

7 10YR3/2 黒褐色 粘無繊弱

混黒 3% 暗赤褐色燒土 1%

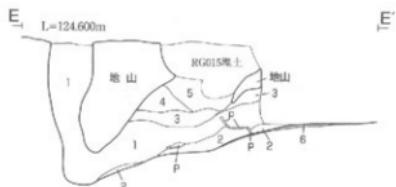
8 10YR3/2 黒褐色 粘やや有繊弱

混黒と暗赤褐色燒土と赤褐色燒土 5%

9 2.5YR5/8 明赤褐色燒土 粘弱繊やや有

混骨片 5% 黒と明赤褐色燒土と橙 3%

(現地性焼土)



2号カマド断面 E-E' F-F' G-G' 共通

1 10YR4/2 灰黄褐色 粘無繊弱

混褐 5% 黒とぶい赤褐色燒土と橙 3%

(煙道埋土、2層近くは砂質傾向)

2 5YR3/4 暗赤褐色燒土 粘無繊弱

混灰黃褐色と黒褐色とぶい赤褐色燒土

と赤褐色燒土 5% (煙道埋土下層)

3 10YR4/2 灰黄褐色 粘・繊弱

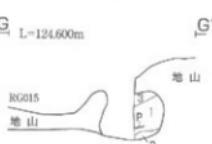
4 10YR4/2 灰黄褐色 粘・繊弱 地山に近い

5 10YR3/2 黑褐色 粘やや有繊弱

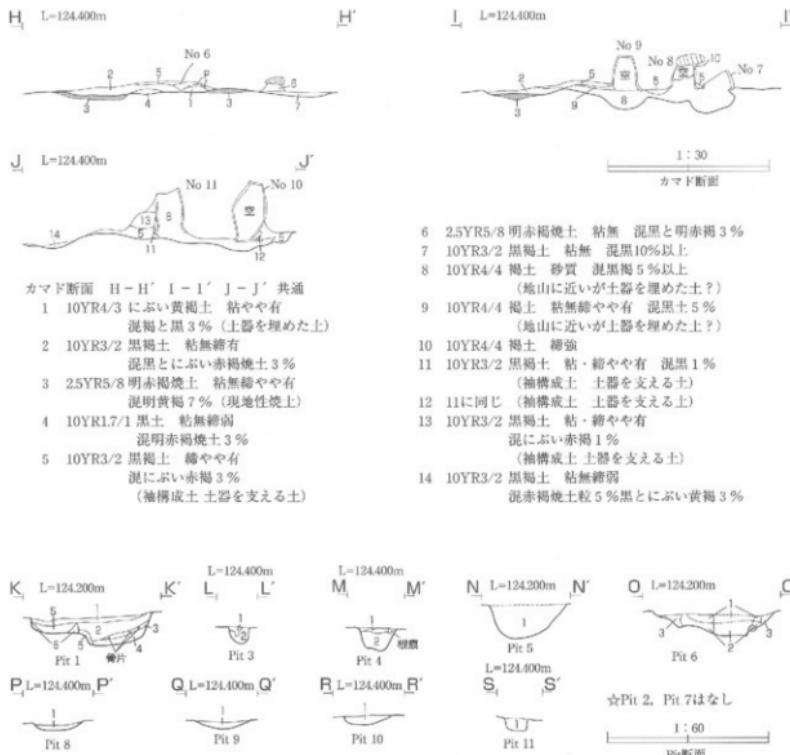
混褐 7% 黒 5%

6 2.5YR5/8 明赤褐色燒土 粘無繊やや有

混明黃褐色 3% (現地性燒土)

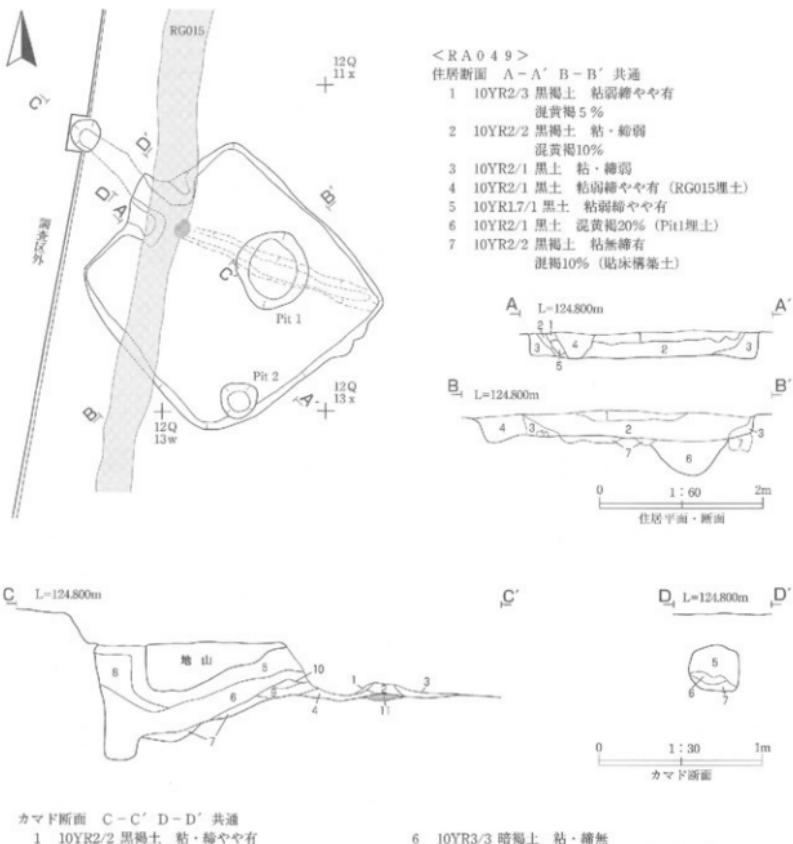


第25図 RAO48 壺穴住居跡 (3)



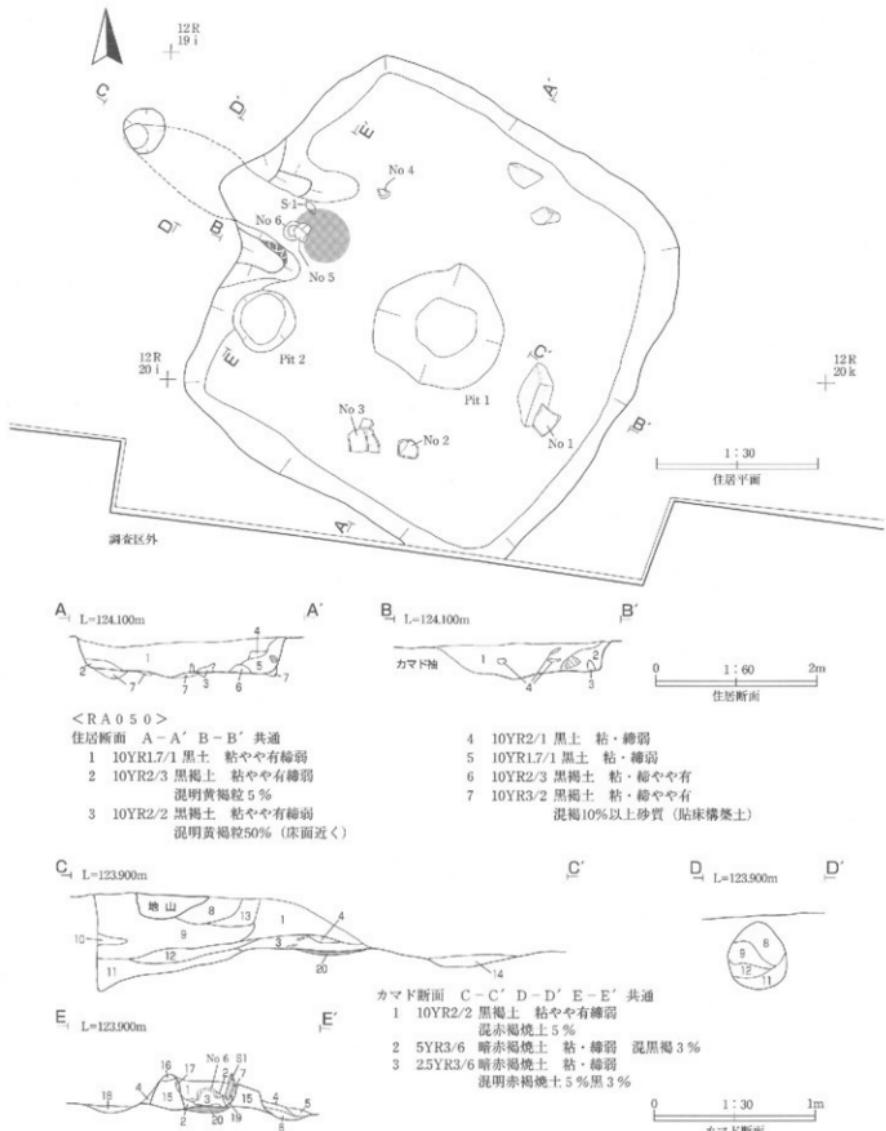
- Pit 1 K - K'
- 1 10YR3/2 黒褐土
混褐と黒5%褐とにぶい赤褐焼土3%
 - 2 10YR5/6 黄褐土
混黒褐とにぶい黄褐5%
 - 3 10YR2/1 黒土
混赤褐焼土ブロックと暗赤褐焼土3%
(骨と焼土入り)
 - 4 10YR4/3 にぶい黄褐土
混褐とにぶい黄褐ブロック3%
 - 5 10YR5/8 黄褐土
混にぶい黄褐と黄褐5%
 - 6 10YR5/8 黄褐土
混黒褐下層酸化鉄合
- Pit 3 L - L'
- 1 10YR3/2 黒褐土 混褐と黒中粒3%
 - 2 10YR4/4 褐土 混黒褐5%褐3%
- Pit 4 M - M'
- 1 10YR3/3 暗褐土 混褐3%にぶい黄褐焼土1%
 - 2 10YR3/3 暗褐土 混褐3%
- Pit 5 N - N'
- 1 10YR3/2 黒褐土 混黄褐5%褐3%
- Pit 6 O - O'
- 1 10YR4/2 灰黄褐土 混黄褐10%
黄橙ブロック7%
 - 2 10YR3/2 黑褐土
混灰黄褐と黑褐と黄褐5%
 - 3 10YR3/2 黑褐土
混灰黄褐と黑褐と黄橙と明褐5%
- Pit 8, Pit 9, Pit 10 P - P' Q - Q' R - R' 共通
1. 10YR2/3 黑褐土
混褐ブロック5%
- Pit 11 S - S'
1. 10YR3/2 黑褐土 混黒5%にぶい赤褐焼土3%散見

第26図 RA048 堅穴住居跡(4)



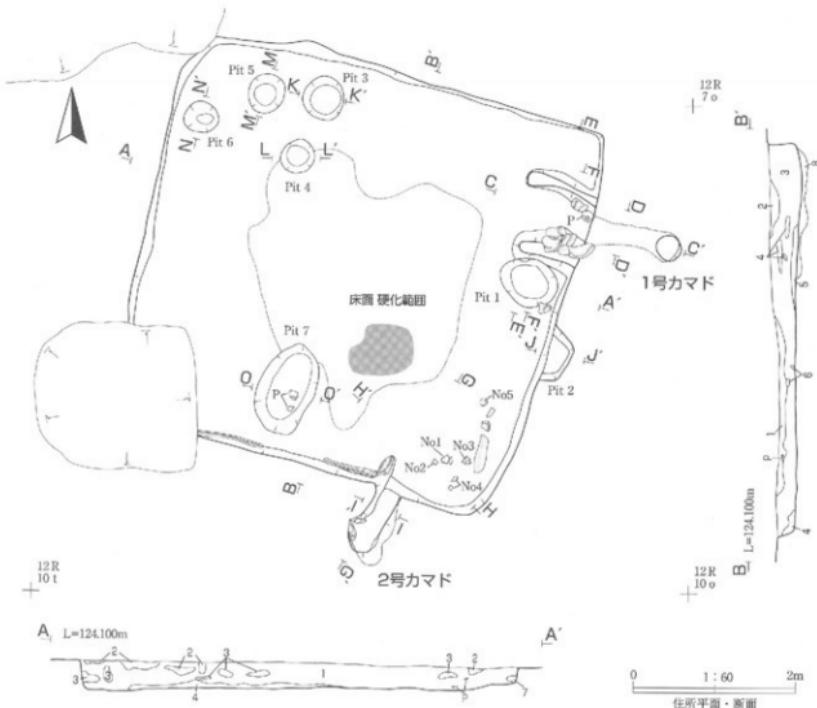
- カマド断面 C-C' D-D' 共通**
- | | |
|---|---|
| 1 10YR2/2 黒褐色・粘・繊維有 混暗赤褐色土 3 % | 6 10YR3/3 暗褐色上 粘・繊無 混暗赤褐色土上褐色 3 % (煙道埋土) |
| 2 5YR3/6 暗赤褐色焼土・粘・繊や有 混黒褐色 3 % (一部熱による袖焼成部分?) | 7 10YR2/2 黒褐色・粘やや有繊無 (煙道埋土) |
| 3 10YR3/2 黒褐色・粘やや有繊弱 混灰黃褐色 5 % にぶい黃褐色 3 % | 8 10YR5/4 にぶい黃褐色上 粘やや有繊無 混暗褐色 10 % (煙道埋土) |
| 4 10YR5/4 にぶい黃褐色・粘・繊やや有 混黒褐色 7 % 暗赤褐色土上粒 3 % | 9 10YR4/3 にぶい黃褐色・粘やや有繊無 混黄褐色小ブロックと黒小ブロック 3 % (煙道埋土) |
| 5 10YR3/3 暗褐色・粘・繊無 混褐と黒褐色 3 % (煙道埋土) | 10 10YR3/2 黒褐色・粘やや有繊無 混黑 5 % (煙道埋土) |
| | 11 25YR4/6 赤褐色燒土 粘弱繊有 (現地性焼土) |

第27図 RAO49 墓穴住居跡



第28図 RA050 積穴住居跡 (1)

| | | | | | | | | |
|----|---------|-----|------------|---------------------------|----|----------|-----|-----------------------------------|
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘・縛弱 | 混にぶい赤褐色3% (わずか) | 12 | 10YR4/4 | 褐土 | 粘やや有縛無 |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 粘弱縛やや有 | 混にぶい赤褐色3% | 13 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘・縛無 混褐色3% |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 粘弱縛やや有 | 混にぶい赤褐色と赤褐色3% (5%) | 14 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘・縛やや有 混黄褐色と褐3%黑1% (Pit1埋土) |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 粘弱縛やや有 | 泥褐色3%散見 | 15 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘無縛やや有 (砂質) (袖構成土) |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘弱縛無 | 混黑5% (袖構成土) | 16 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘・縛やや有 混黑5% (袖構成土) |
| | | | | 泥黒と褐とにぶい赤褐色3% (煙道埋土・堤山付近) | 17 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘・縛やや有 16層に同じ 袋然により赤変 |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘・縛無 (全く疎) | 泥黒と褐とにぶい赤褐色3% (煙道埋土) | 18 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘やや有縛弱 混にぶい黄褐色7%黑褐色3% (Pit2埋土) |
| 10 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 粘・縛無 | 泥黒1% (煙道埋土) | 19 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | 砂質傾向 (支脚を支える土) |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘やや有縛無 | 混赤褐色3% (煙道埋土) | 20 | 2.5YR4/6 | 赤褐色 | 粘無縛やや有 (砂質) 混黑と明赤褐色3% (現地性焼土) |

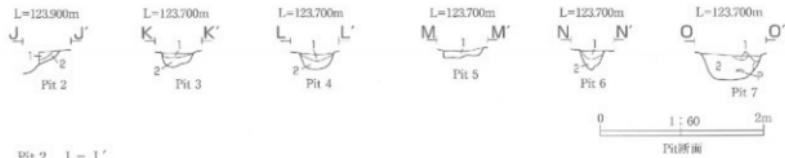


第29図 RA050 竪穴住居跡(2)・RA051 竪穴住居跡(1)

<RA051>

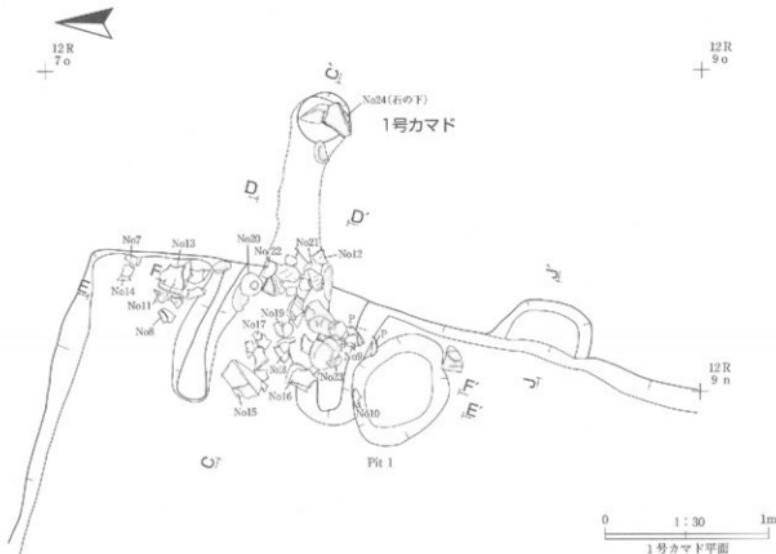
- 住居断面 A-A' B-B' 共通
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘・弱弱
混東西に黄褐色20%
南北に明黄褐色1%
 - 2 10YR2/1 黒土 粘・弱弱
混黄褐色3%
 - 3 10YR3/1 黒褐色 粘無縫やや有
混明黄褐色ブロック5%

- 4 10YR2/1 黒土 粘・弱弱
- 5 10YR3/2 黒褐色 粘やや有縫弱
- 6 10YR6/8 明黄褐色 粘やや有縫弱
- 7 5YR5/8 明黄褐色 粘弱弱やや有
- 8 10YR3/2 黒褐色 粘弱弱やや有
縫弱5% (貼床構築土)

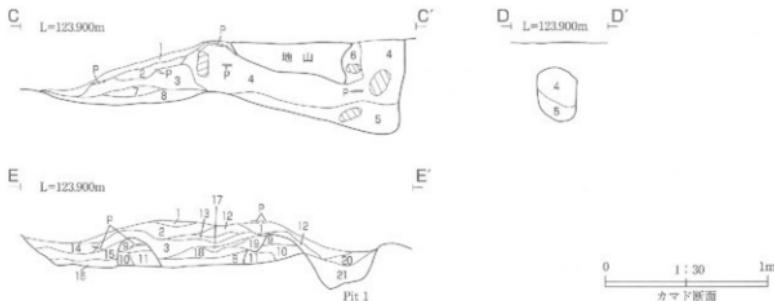


- Pit 2 J - J'
- 1 10YR2/2 黒褐色 混褐色 5%
 - 2 10YR4/4 褐土 混暗褐色 3%
- Pit 3 K - K'
- 1 10YR3/4 暗褐色 混褐色 7% (全体)
 - 2 10YR2/2 黑褐色 混褐色 3%
- Pit 4 L - L'
- 1 10YR3/3 暗褐色 混褐色 3%
 - 2 10YR4/4 褐土 混暗褐色 5% (全体)

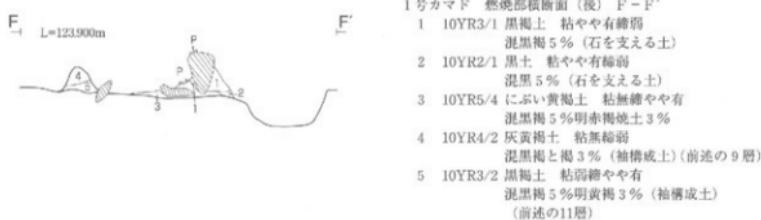
- Pit 5 M - M'
- 1 10YR3/3 暗褐色 混褐色 3%
- Pit 6 N - N'
- 1 10YR3/4 暗褐色 混褐色 7% (全体)
 - 2 10YR3/4 暗褐色 混褐色 3%
- Pit 7 O - O'
- 1 10YR3/4 暗褐色 混褐色 7% (全体)
 - 2 10YR2/2 黑褐色 混褐色 3%



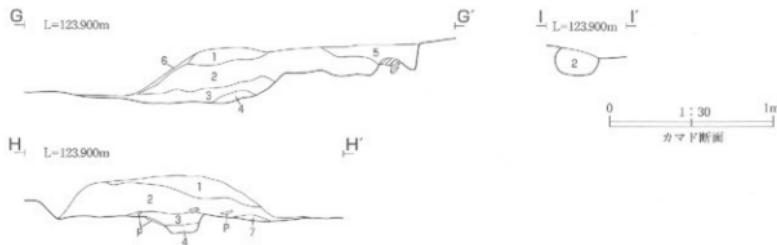
第30図 RA051 積穴住居跡 (2)



- 1号カマド断面 C-C' D-D' E-E' 共通
- | | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 1 10YR3/1 黒褐色 粘・繊維 | 9 10YR4/2 灰黄褐色上 粘無繊弱 |
| 泥黒褐と褐3% | 泥黒褐と褐3% (抽構成土) |
| 2 10YR2/1 黑土 粘・繊維 | 10 10YR3/2 黑褐色 粘・繊やや有 |
| 泥褐とぶい赤褐焼土3% | 泥黒褐と褐3% (抽構成土) |
| 3 2.5YR4/6 赤褐焼土 粘・繊弱 | 11 10YR3/2 黑褐色 粘弱繊やや有 |
| 泥明赤褐焼土と褐3% | 泥黒褐5%明黄褐3% (抽構成土) |
| (天井崩落土) | 12 10YR2/2 黑褐色 粘無繊やや有 |
| 4 10YR2/2 黒褐色 粘やや有繊無 | 13 5YR3/6 暗赤褐色上 粘無繊弱 泥赤褐焼土3% |
| 泥にぶい黄褐ブロック5% | 14 5YR4/4 にぶい赤褐色上 粘弱繊やや有 |
| (煙道埋土) | 泥黒褐5% |
| 5 10YR4/2 灰黄褐色 粘弱繊無 | 15 10YR3/2 黑褐色 粘弱繊やや有 |
| 泥にぶい黄褐とぶい赤褐焼土3% | 泥黒褐とぶい赤褐焼土3% |
| (煙道埋土) | 16 10YR4/4 褐土 粘弱繊やや有 泥黒褐7% |
| 6 10YR4/2 灰黄褐色 粘弱繊無 (煙道埋土) | 17 5YR5/8 明黄褐焼土上 粘無繊やや有 |
| 7 2.5YR5/8 明赤褐焼土 粘無繊やや有 | 18 7.5YR3/4 暗褐色 粘無繊弱 |
| 泥黒褐3% | 泥にぶい赤褐焼土と明赤褐焼土3% |
| 8 10YR3/4 暗褐色 粘やや有繊弱 | 19 10YR4/3 にぶい黄褐焼土 粘無繊やや有 |
| 泥褐と黒褐3% | 泥黒褐5%にぶい黄褐粒3% |
| | 20 5YR4/4 にぶい赤褐焼土 粘弱繊やや有 (Pit1埋土) |
| | 21 10YR3/2 黑褐色 粘弱繊やや有 (Pit1埋土) |

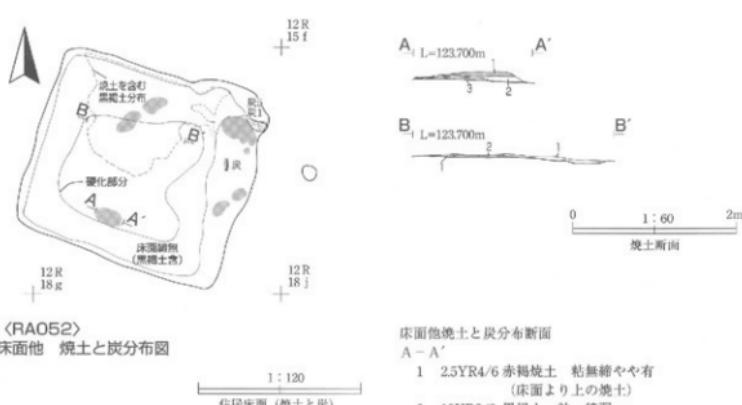


第31図 RA051 竪穴住居跡 (3)



2号カマド断面 G-G' H-H' I-I' 共通

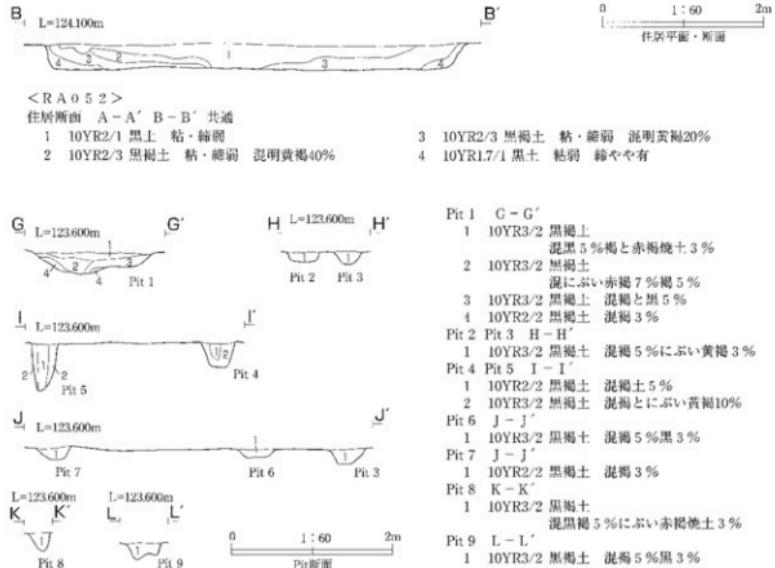
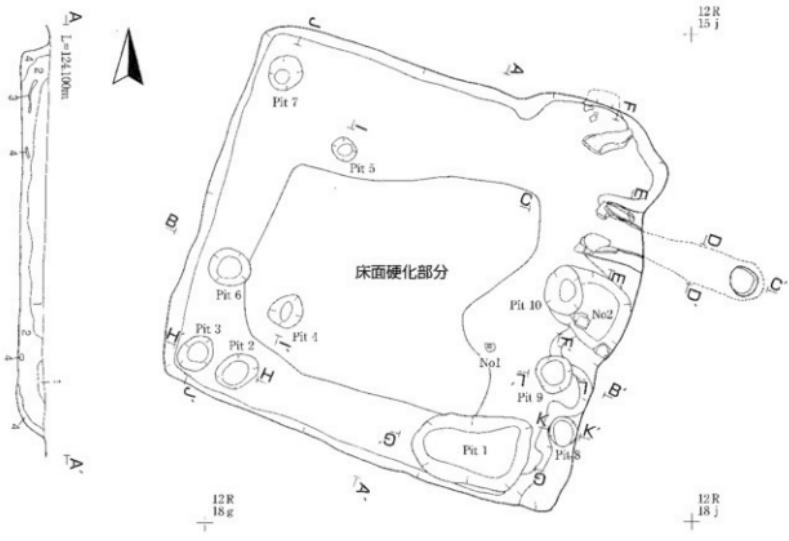
- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘やや有繊弱 混褐5%黒褐3%（縫道埋土） | 4 10YR2/1 黒土 粘・繊弱 混褐3% |
| 2 10YR3/3 黒褐土 粘やや有繊弱 混褐と黒褐明赤褐焼土5%（縫道埋土） | 5 10YR2/2 黑褐色 粘・繊弱 混褐と赤褐焼土3% |
| 3 10YR3/2 黒褐土 粘やや有繊弱 混明赤褐焼土5%褐3%（縫道埋土） | 6 10YR2/2 黑褐色 粘・繊弱 混褐7%黒5% |
| | 7 5YR4/4 にぶい赤褐焼土 粘やや有繊弱 混黑と褐3% |



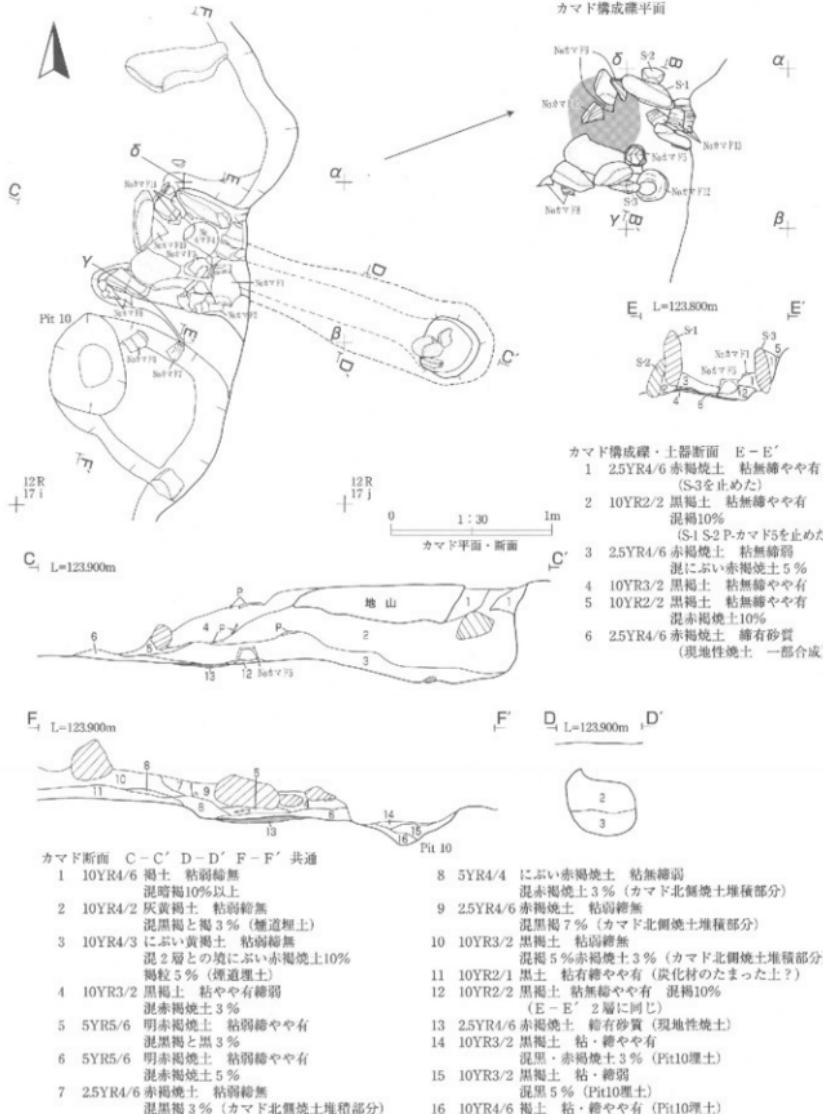
床面他焼土と炭分布断面

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| A-A' | 1 2.5YR4/6 赤褐焼土 粘無繊やや有 (床面より上の焼土) |
| 2 10YR2/2 黑褐色 粘・繊弱 | |
| 3 10YR3/2 黑褐色 粘・繊弱 混褐5% | |
| B-B' | 1 10YR3/2 黑褐色 粘・繊弱 混黑と褐5% |
| 2 5YR4/4 にぶい赤褐焼土 粘・繊弱 混黑と褐5%（散見） | |

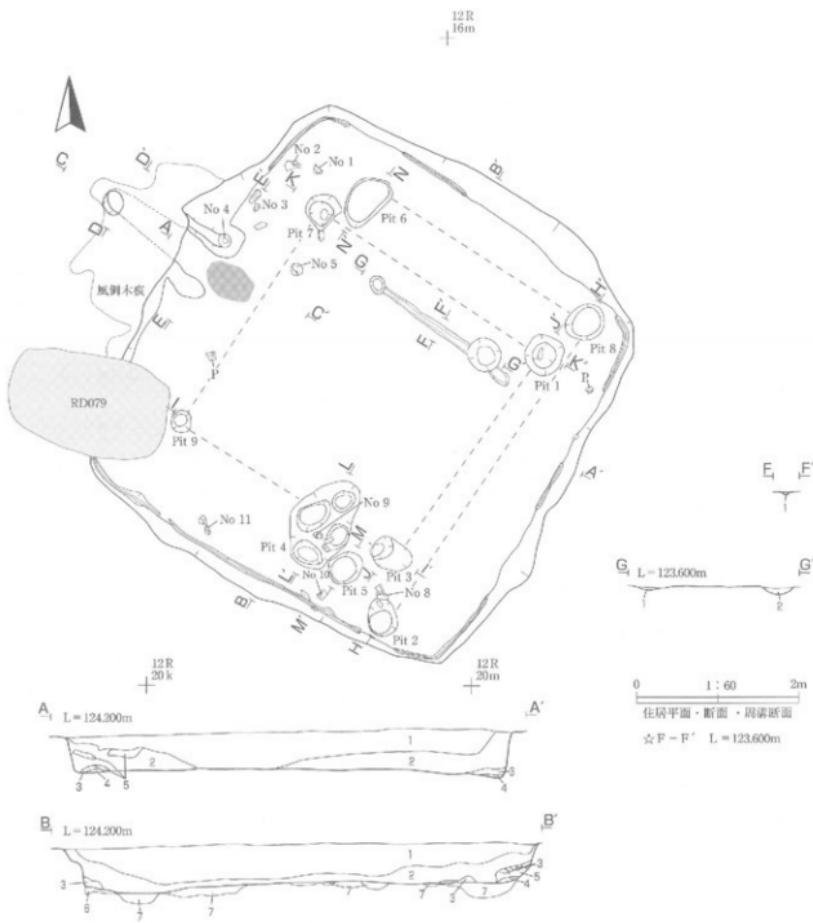
第32図 RA051 積穴住居跡(4)・RA052 積穴住居跡(1)



第33図 RAO52 竪穴性居跡(2)



第34図 RA052 壁穴住居跡(3)



< R A 0 5 3 >

住居断面 A - A' B - B' 共通

1 10YR1.7/1 黒土 粘弱繊有

2 10YR2/2 黒褐色 粘・繊弱

混弱黄褐 5%

3 10YR1.7/1 黒土 粘・繊弱

4 10YR3/4 暗褐色 粘弱繊やや有

5 10YR6/8 明黄褐色 粘弱繊やや有

6 10YR2/2 黒褐色 粘・繊弱 (河床埋土)

7 10YR3/3 暗褐色 粘弱繊やや有

混弱と黑褐 5% (貼床構築土)

住居内溝? G - G'

1 10YR3/2 黒褐色 混弱と黒 3%

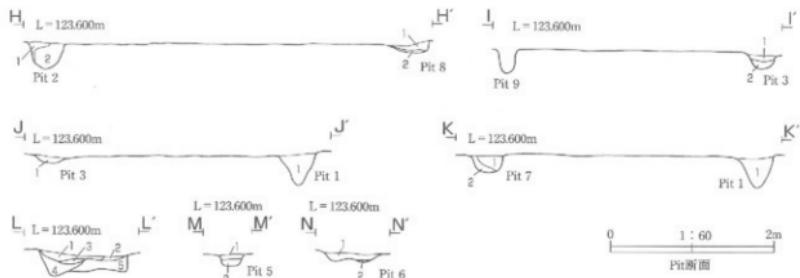
2 10YR3/2 黒褐色 混にぶい黄褐 3%

F - F'

1 10YR3/2 黒褐色 粘・繊や有

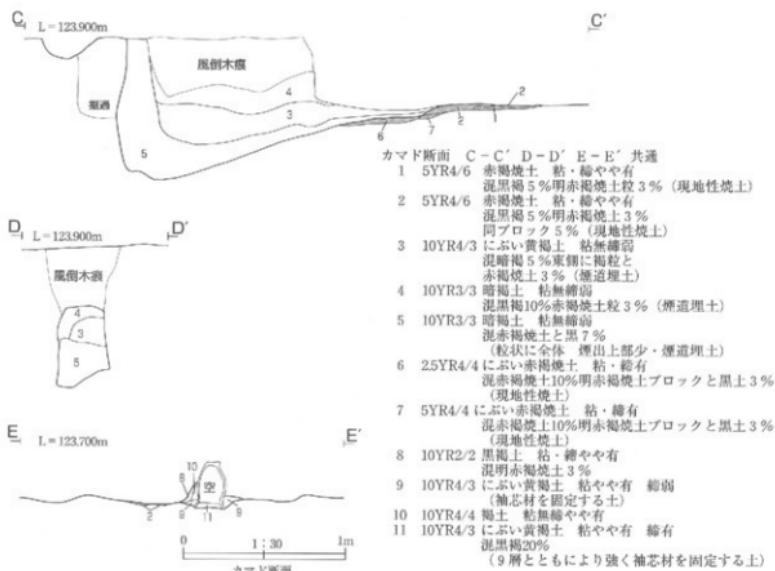
混弱上 3%

第35図 RAO53 竪穴住居跡 (1)

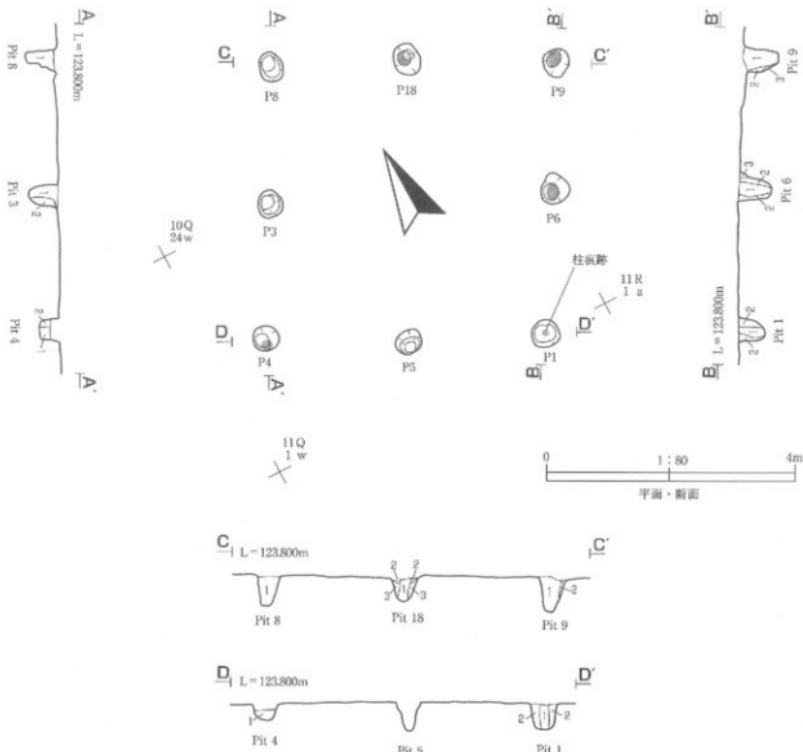


- Pit 1 J - J'
1 10YR3/2 黒褐土 混褐色10% (全体)
黒(炭粒)と明赤褐焼土3%
Pit 2 H - H'
1 10YR2/2 黒褐土 混褐色10%以上
2 10YR3/3 喰褐土 混黑褐3% (炭片)
Pit 3 J - J'
1 10YR3/2 黒褐土 混明赤褐焼土3%
Pit 4 L - L'
1 10YR3/3 喰褐土 混褐色3%
2 10YR3/2 黒褐土 混褐色5%
3 10YR4/4 褐土 混黑褐5%
4 10YR4/4 褐土 混黑褐7%
5 10YR4/3 にぶい黄褐土 混黑褐10%以上 (全体散在)

- Pit 5 M - M'
1 10YR3/2 黒褐土 混褐色とにぶい赤褐焼土3%
2 10YR3/2 黒褐土 混褐色5%
Pit 6 N - N'
1 10YR3/2 黒褐土 混黑5%にぶい赤褐焼土3%
2 5YR4/8 赤褐焼土
Pit 7 K - K'
1 Pit 1の1層に同じ
2 10YR3/2 黒褐土 混褐色10%以上
Pit 8 H - H'
1 10YR3/2 黒褐土
2 5YR4/8 赤褐焼土
Pit 9 記無



第36図 RAO53 窓穴住居跡 (2)



<RB 0 0 3>

断面 A-A' B-B' C-C' D-D' 共通

Pit 1

- 1 10YR2/1 黒土 粘・繊弱 混土師器片（柱痕跡）
2 10YR2/2 黒褐土 粘弱繊有
混褐土粒～礫大ブロック5% To-H粒～プロック1%

Pit 3

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘・繊弱 混褐5%To-H3%（柱痕跡）

- 2 10YR2/3 黒褐土 粘弱繊有 混褐細粒～礫大ブロック20%

Pit 4

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘・繊弱 （柱痕跡）

- 2 10YR2/3 黒褐土 粘弱繊有 混To-H3%細粒1%

Pit 5 記無

Pit 6

- 1 10YR2/1 黒土 粘・繊弱 混褐土3%（柱痕跡）

- 2 10YR2/2 黒褐土 粘弱繊やや有
混褐土粒～礫大ブロック5%To-H1%

- 3 10YR2/3 黒褐土 粘弱繊やや有

Pit 8

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘・繊弱
混褐土粒小ブロック 5%To-H細粒 3%

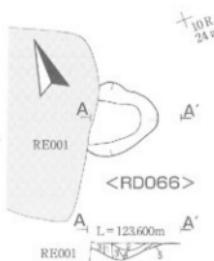
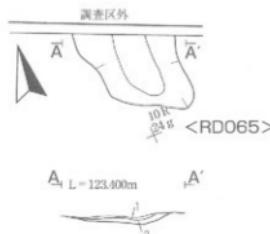
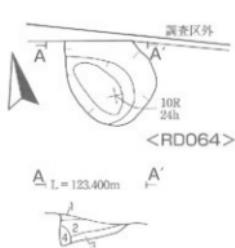
Pit 9

- 1 10YR2/1 黒土 粘・繊弱 混褐5%To-H細粒3%（柱痕跡）
2 10YR2/3 黒褐土 粘弱繊やや有 混To-H細粒3%繊1%
3 10YR3/2 黒褐土 粘弱繊やや有 混褐 1%

Pit 18

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘弱繊やや有 混褐細粒～礫大
ブロック 1%10cm大的石（柱痕跡）
2 10YR2/3 黑褐土 粘弱繊やや有 混褐 3%
3 10YR2/3 黑褐土 粘弱繊有 混褐土礫大ブロック
10%To-H3%

第37図 RB003 挖立柱建物跡



< R D 0 6 4 >

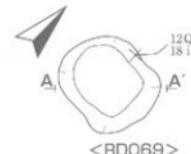
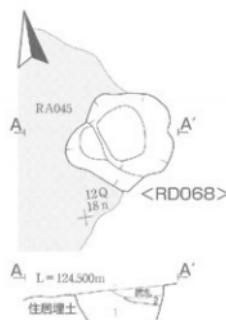
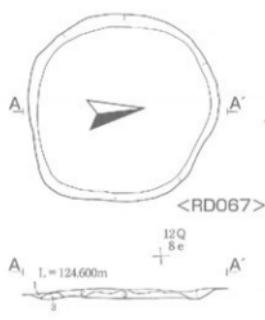
- 断面 A - A'
- 1 10YR4/1 灰灰土
混にぶい黄褐3%
 - 2 10YR4/1 灰灰土
混にぶい黄褐1%
 - 3 10YR4/3 にぶい黄褐土
混暗褐50%
 - 4 10YR3/1 黑褐土

< R D 0 6 5 >

- 断面 A - A'
- 1 10YR4/2 灰黄褐土
混にぶい黄褐10%
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐土
混黑と褐3%

< R D 0 6 6 >

- 断面 A - A'
- 1 10YR2/1 黑土 混褐7%
 - 2 10YR2/1 黑土
 - 3 10YR3/2 黑褐土 混褐1%
 - 4 10YR2/2 黑褐土 混褐3%
 - 5 10YR2/3 黑褐土



< R D 0 6 7 >

- 断面 A - A'
- 1 10YR2/1 黑土
混表面灰白色火山灰
とにぶい黄褐5%
褐3%
 - 2 10YR3/3 暗褐土
混にぶい黄褐5%
黄褐3%
 - 3 10YR3/3 暗褐土 混黑褐3%

< R D 0 6 8 >

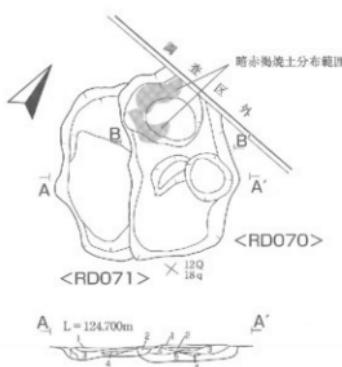
- 断面 A - A'
- 1 10YR3/2 黑褐土
混褐粒3%
 - 2 10YR3/2 黑褐土
混褐ブロック5%

< R D 0 6 9 >

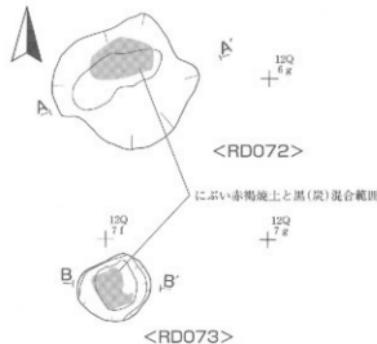
- 断面 A - A'
- 1 10YR3/2 黑褐土
混黄褐小粒3%
 - 2 10YR3/2 黑褐土
混黄褐ブロック10%

0 1:60 2m

第38図 RD064・065・066・067・068・069 土坑



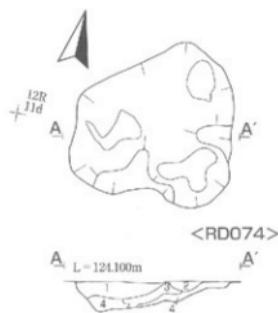
< RD070 · 071 >
 断面 A - A' B - B' 共通
 1 10YR2/3 黒褐土 混黄褐 5% にぶい黄褐 3%
 2 10YR4/3 にぶい黄褐土 混黒褐 3%
 3 10YR3/2 黒褐土 混にぶい黄褐 5%
 4 10YR2/2 黒褐土 混にぶい黄褐 3%
 5 10YR4/3 にぶい黄褐土 混黒褐 10%
 6 5YR3/2 暗赤褐焼土 混赤褐 5%
 黒(炭)と褐 3%
 7 10YR3/2 黑褐土 混明赤褐焼土 5% 暗赤褐焼土 3%



A₁ L = 124.100m **A'**
B₁ L = 124.100m **B'**

< RD072 >
 断面 A - A'
 1 10YR1.7/1 黒土
 2 10YR1.7/1 黒土 混黒(炭) にぶい赤褐焼土 5%
 3 10YR6/8 明黄褐土
 4 10YR2/2 黒褐土 混明黄褐ブロック 5%
 5 10YR1.7/1 黒土

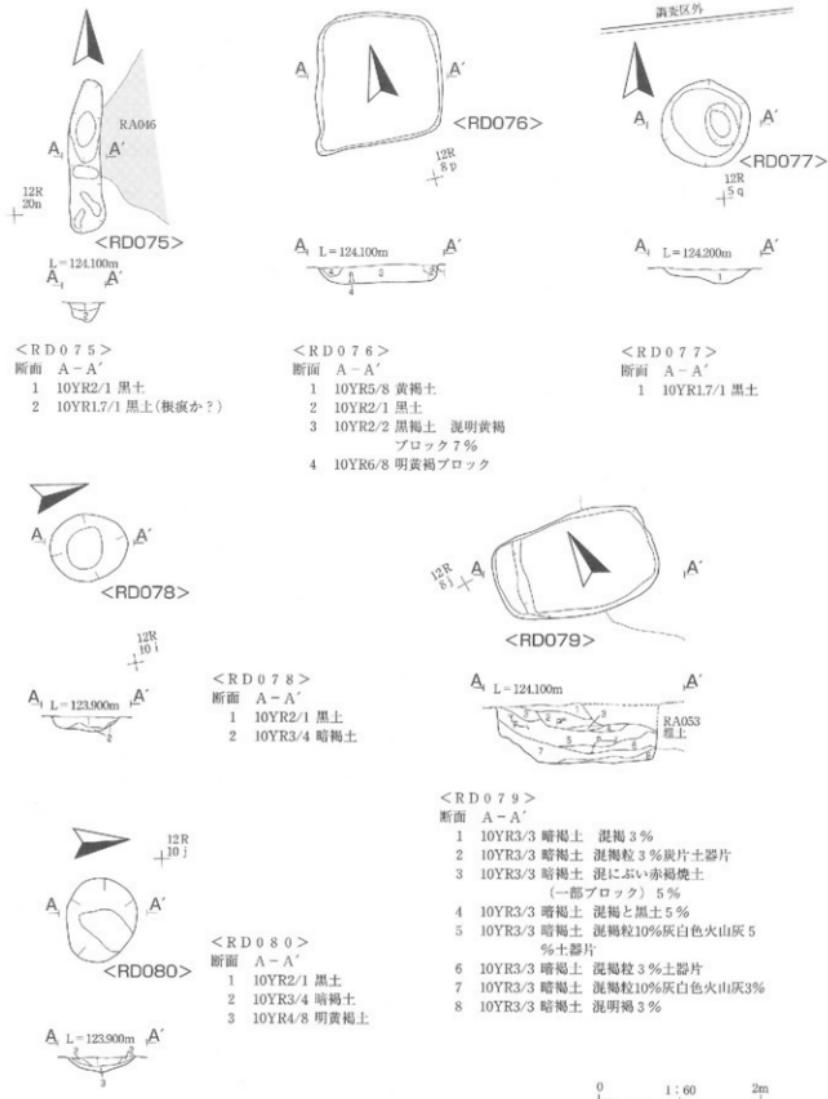
< RD073 >
 断面 B - B'
 1 10YR6/1 黄灰土 混黒 1%
 2 10YR1.7/1 黒土 混黒(炭) にぶい赤褐焼土 3%
 3 10YR5/8 黄褐土



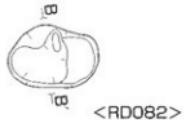
< RD074 >
 断面 A - A'
 1 10YR1.7/1 黒土 混明黄褐 5%
 2 10YR2/1 黑土 混明黄褐 5%
 3 10YR6/8 明黄褐土
 4 10YR1.7/1 黑土

0 1:60 2m

第39図 RD070 · 071 · 072 · 073 · 074 土坑

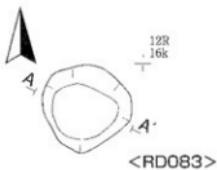


第40図 RD075・076・077・078・079・080 土坑



A \rightarrow L=123.800m A' < R D 0 8 1 >
断面 A - A'
1 10YR2/1 黒土
2 10YR3/4 暗褐色

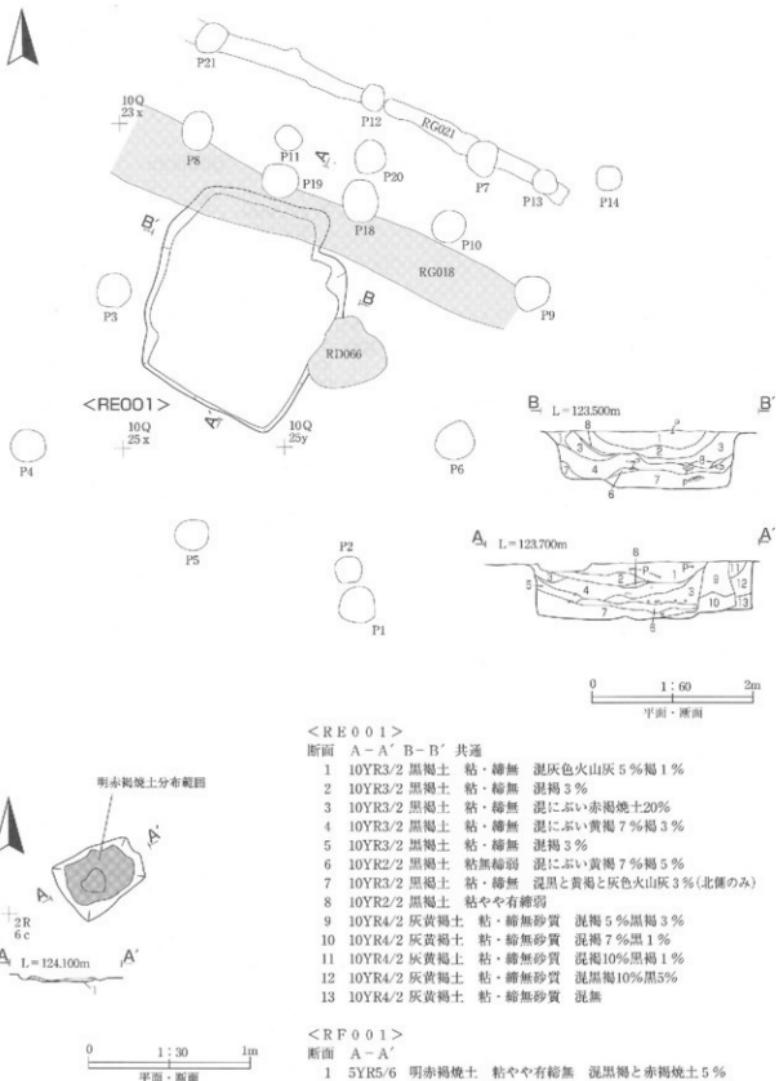
B \rightarrow L=123.800m B' < R D 0 8 2 >
断面 B - B'
1 10YR2/1 黒土
2 10YR3/4 暗褐色



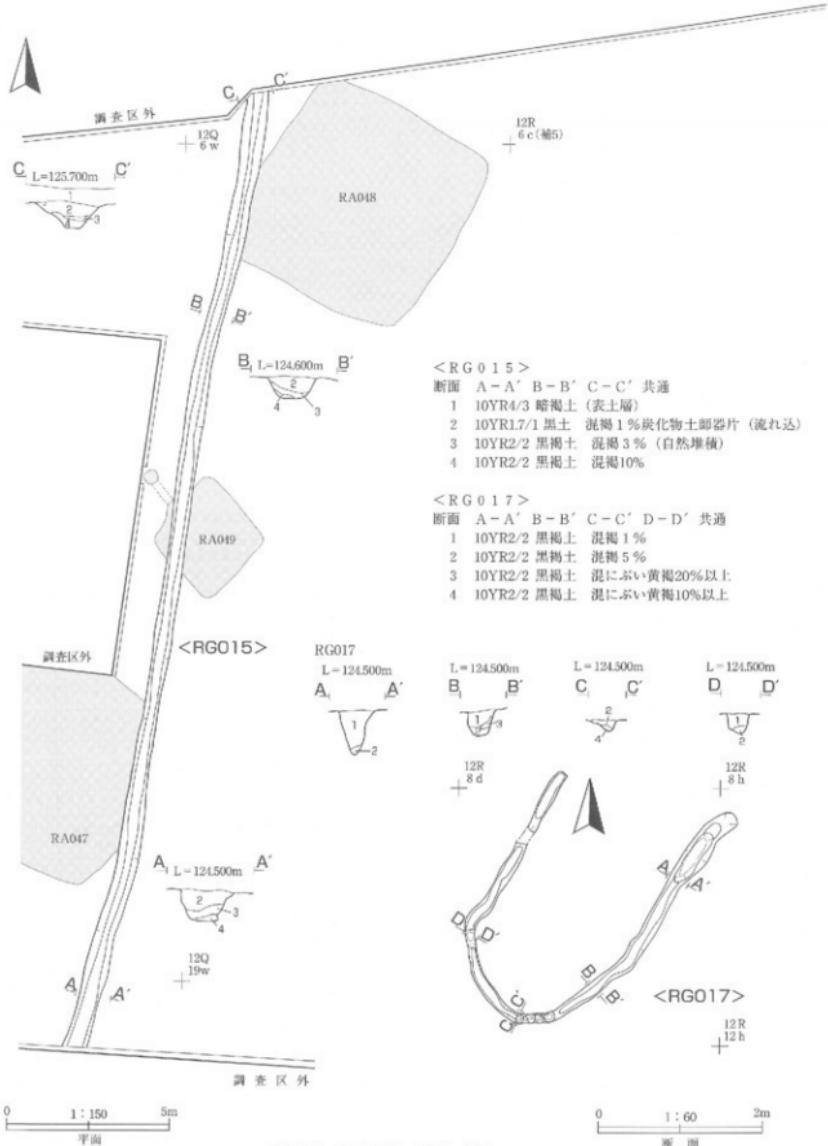
< R D 0 8 3 >
断面 A - A'
1 10YR4/3 にぶい黄褐色 混褐色 5% 黑と明黄褐色 3%
2 10YR3/1 黑褐色 混黑褐色 5% にぶい赤褐色燒土 3%
3 10YR3/1 黑褐色 混黑褐色 5%
4 10YR3/2 黑褐色 混褐色 5% 明黄褐色 5%
5 10YR3/1 黑褐色 混褐色 5% 明黄褐色 5%

0 1:60 2m

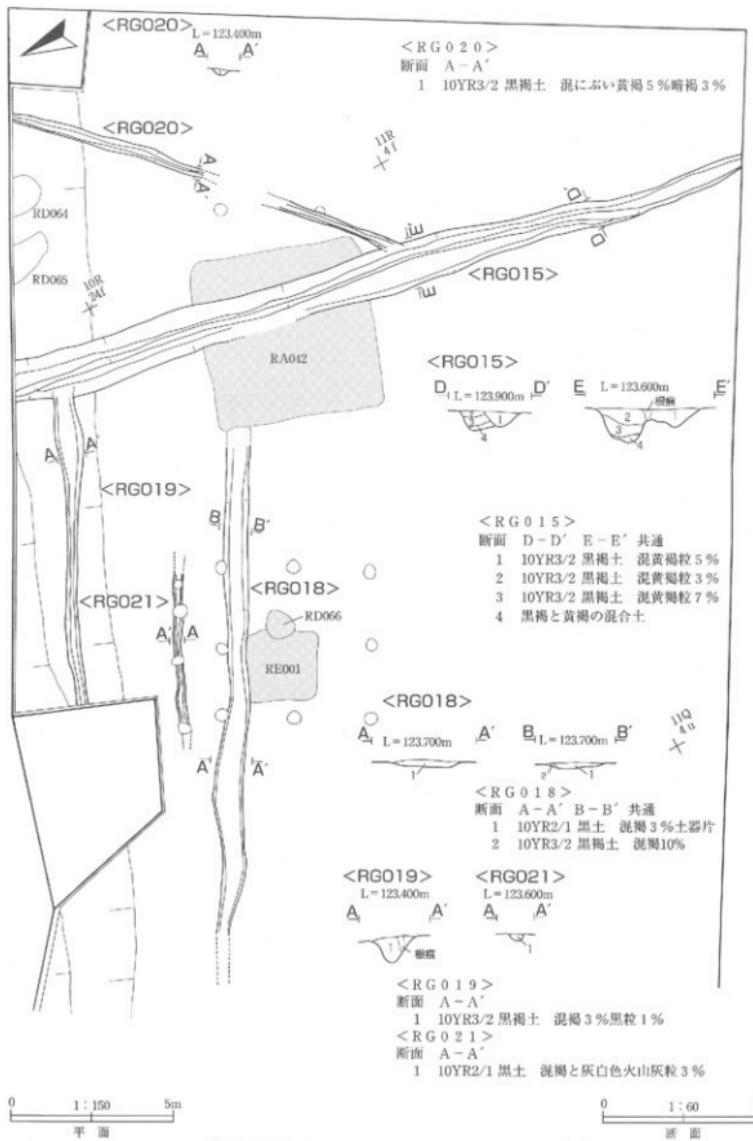
第41図 RD081・082・083 土坑



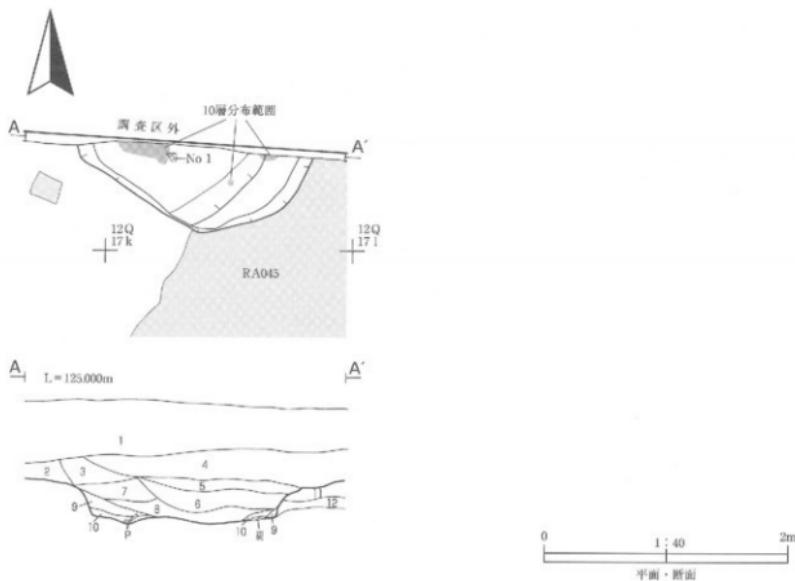
第42図 RE001 穴状遺構・RF001 焼土遺構



第43図 RG015・017 溝跡



第44図 RG015・018・019・020・021 溝跡

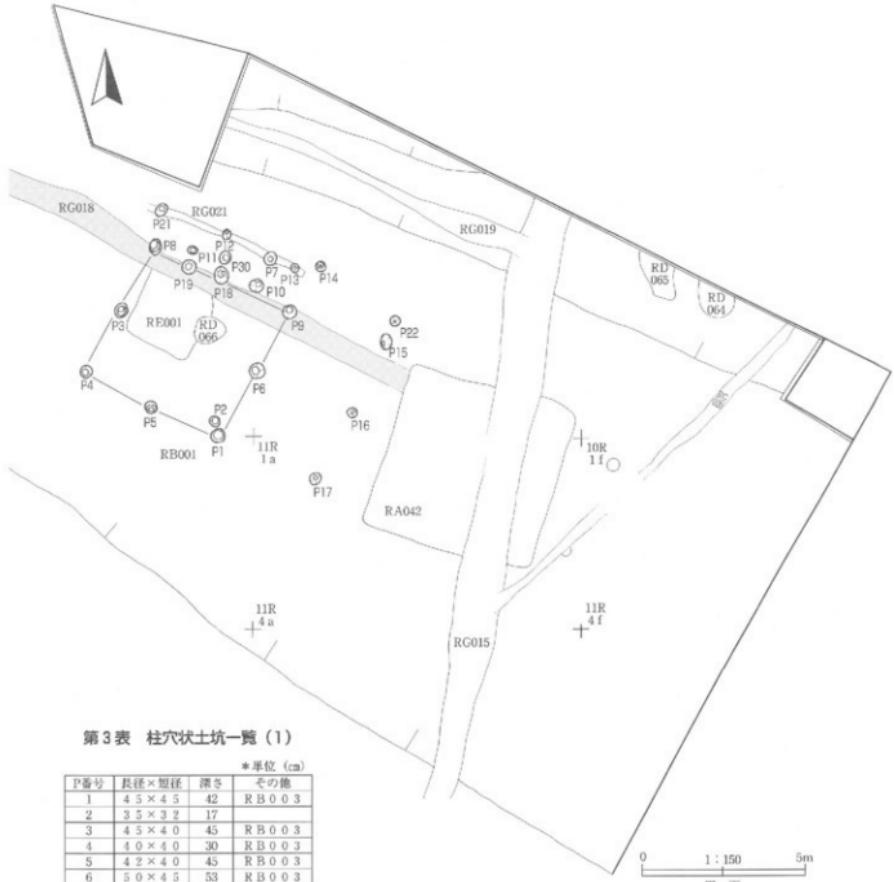


< R Z 0 0 3 >

断面 A - A'

- 1 10YRA/2 灰黄褐土 粘弱繊やや有 (表土層 木の根下部入)
- 2 10YR5/6 黄褐土 粘弱繊やや有
混灰黄褐10% (IV層上面?)
- 3 10YR3/2 黒褐土 粘弱繊やや有
混褐大粒7%にぶい黄褐燒土3%
- 4 10YR3/2 黑褐土 粘弱繊やや有 (木の根下部入)
- 5 10YR3/2 黑褐土 粘弱繊やや有
混にぶい黄褐3% (RZ003埋土)
- 6 10YR3/2 黑褐土 粘弱繊やや有
混にぶい黄褐と黄褐3% (東側) (RZ003埋土)
- 7 10YRA/3 にぶい黄褐土 粘無繊弱
混褐7%にぶい赤褐軟5% (RZ003埋土上)
- 8 10YR3/2 黑褐土 粘・繩やや有
混褐5%にぶい赤褐3%黒1% (RZ003埋土)
- 9 10YR3/2 黑褐土 粘やや有繊弱
混褐7% (粒状全体に散見) 黑3% (RZ003埋土)
- 10 5YR3/6 暗赤褐土 粘無繊やや有
混黑褐(炭片)と暗赤褐燒土3%黒1% (RZ003埋土 床面の焼土)
- 11 10YR2/2 黑褐土 粘無繊やや有
混黄褐5% (RA045 1層埋土)
- 12 10YR2/2 黑褐土 粘無繊やや有
混黄褐粒7%同ブロック3% (RA045 1層埋土)

第45図 RZ003 土坑状遺構

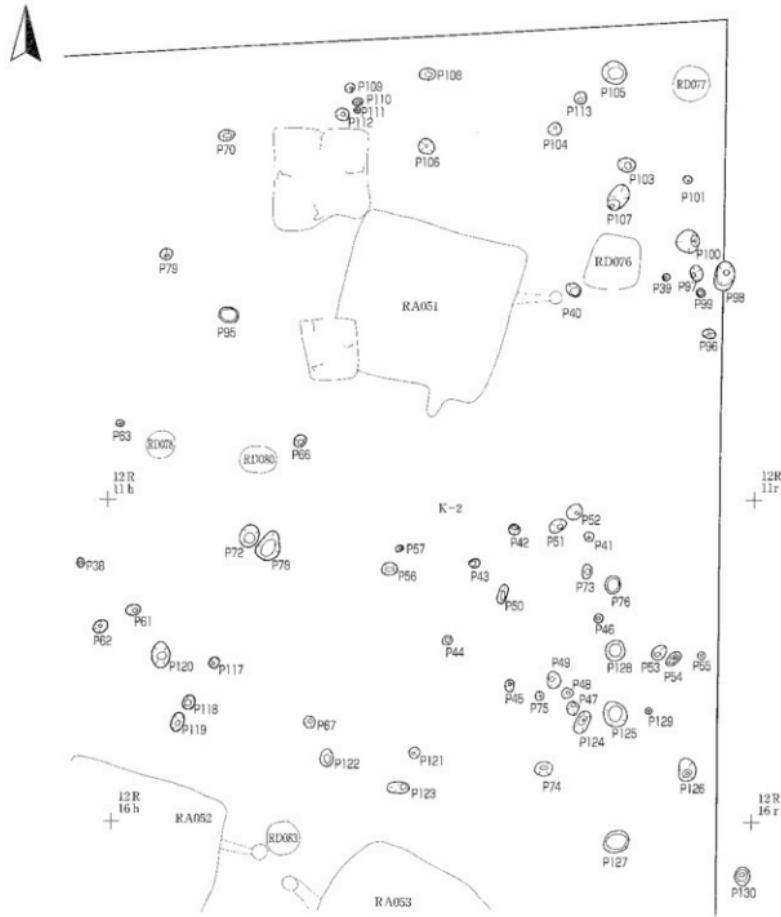


第3表 柱穴状土坑一覧 (1)

* 単位 (cm)

| P番号 | 直径×想定 深さ | その他の 記号 |
|-----|-------------|--------------|
| 1 | 4.5 × 4.5 | 42 R B 0 0 3 |
| 2 | 3.5 × 3.2 | 17 |
| 3 | 4.5 × 4.0 | 45 R B 0 0 3 |
| 4 | 4.0 × 4.0 | 30 R B 0 0 3 |
| 5 | 4.2 × 4.0 | 45 R B 0 0 3 |
| 6 | 5.0 × 4.5 | 53 R B 0 0 3 |
| 7 | 4.3 × 3.5 | 34 |
| 8 | 5.0 × 3.8 | 51 R B 0 0 3 |
| 9 | 4.5 × 4.0 | 56 R B 0 0 3 |
| 10 | 4.5 × 4.0 | 15 |
| 11 | 3.5 × 3.0 | 24 |
| 12 | 3.0 × 3.0 | 19 |
| 13 | 3.2 × 2.8 | 15 |
| 14 | 3.2 × 3.0 | 24 |
| 15 | 3.2 × 3.8 | 16 |
| 16 | 3.2 × 3.2 | 31 |
| 17 | 3.8 × 3.4 | 26 |
| 18 | 5.4 × 4.5 | 59 R B 0 0 3 |
| 19 | 4.5 × 4.3 | 26 |
| 21 | 4.4 × 4.0 | 38 |
| 22 | 3.2 × 3.0 | 37 |
| 30 | 4.3 × 4.0 | 21 |

第46図 RZ004 北側調査区 柱穴状土坑



柱穴計測表は次ページにあり

0 1 : 150 5m
平西

第47図 RZ004 東側調査区 柱穴状土坑 (1)

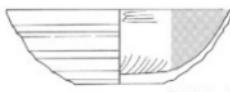
第4表 柱穴状土坑一覧(2)

| 記番号 | 底径×高さ(cm) | 部位 |
|-----|---------------|----|
| 31 | 6.0 × 5.0 38 | |
| 32 | 5.0 × 3.2 17 | |
| 33 | 5.0 × 3.0 3 | |
| 34 | 4.5 × 4.0 19 | |
| 35 | 3.0 × 2.5 10 | |
| 36 | 4.0 × 2.2 12 | |
| 37 | 3.2 × 3.2 32 | |
| 38 | 3.2 × 2.4 16 | |
| 39 | 3.0 × 2.5 9 | |
| 40 | 6.0 × 5.0 38 | |
| 41 | 5.0 × 2.8 16 | |
| 42 | 4.0 × 3.2 21 | |
| 43 | 4.0 × 3.0 22 | |
| 44 | 3.2 × 2.8 26 | |
| 45 | 3.4 × 2.8 20 | |
| 46 | 3.0 × 2.5 17 | |
| 47 | 4.2 × 4.0 52 | |
| 48 | 4.0 × 3.2 14 | |
| 49 | 5.0 × 5.0 38 | |
| 50 | 6.0 × 2.6 14 | |
| 51 | 6.0 × 2.5 20 | |
| 52 | 6.0 × 2.5 32 | |
| 53 | 5.2 × 4.0 20 | |
| 54 | 6.0 × 3.2 14 | |
| 55 | 3.0 × 3.0 33 | |
| 56 | 6.0 × 2.8 16 | |
| 57 | 5.0 × 2.5 15 | |
| 58 | 6.0 × 4.5 18 | |
| 59 | 5.0 × 5.0 30 | |
| 60 | 8.0 × 6.0 10 | |
| 61 | 5.0 × 3.4 22 | |
| 62 | 5.0 × 6.6 22 | |
| 63 | 3.2 × 3.0 20 | |
| 64 | 2.6 × 2.0 15 | |
| 65 | 4.0 × 3.4 13 | |
| 66 | 4.0 × 4.0 18 | |
| 67 | 3.0 × 3.0 11 | |
| 68 | 4.8 × 4.0 14 | |
| 69 | 3.0 × 3.0 8 | |
| 70 | 7.0 × 6.0 30 | |
| 71 | 5.0 × 2.6 17 | |
| 72 | 4.0 × 3.0 24 | |
| 73 | 3.0 × 3.0 22 | |
| 74 | 3.0 × 5.6 24 | |
| 75 | 3.0 × 5.6 24 | |
| 76 | 6.0 × 5.0 4 | |
| 78 | 1.00 × 7.0 20 | |
| 79 | 4.2 × 4.0 30 | |
| 80 | 4.5 × 4.0 30 | |
| 81 | 3.0 × 6.0 21 | |
| 82 | 3.2 × 2.2 10 | |
| 83 | 2.6 × 2.0 11 | |
| 84 | 3.0 × 3.0 15 | |
| 85 | 4.0 × 2.0 14 | |
| 86 | 3.0 × 3.0 20 | |
| 87 | 5.4 × 2.6 9 | |
| 88 | 3.0 × 2.0 14 | |
| 89 | 3.0 × 5.0 17 | |
| 90 | 5.0 × 4.6 36 | |
| 91 | 3.0 × 3.0 8 | |
| 92 | 5.0 × 4.3 26 | |
| 93 | 3.4 × 3.0 16 | |
| 95 | 1.62 × 5.0 20 | |
| 96 | 4.8 × 3.0 19 | |
| 97 | 3.0 × 3.0 15 | |
| 98 | 9.0 × 7.0 23 | |
| 99 | 3.0 × 3.0 6 | |
| 100 | 1.62 × 6.0 36 | |
| 101 | 3.0 × 3.0 8 | |
| 102 | 3.2 × 3.0 16 | |
| 103 | 3.0 × 3.0 16 | |
| 104 | 4.0 × 4.0 20 | |
| 105 | 7.2 × 7.0 6 | |
| 106 | 3.0 × 5.0 15 | |
| 107 | 8.2 × 5.0 22 | |
| 108 | 5.0 × 2.6 12 | |
| 109 | 5.0 × 2.6 12 | |
| 110 | 3.0 × 2.8 6 | |
| 111 | 2.2 × 2.2 12 | |
| 112 | 5.0 × 2.6 10 | |
| 113 | 3.0 × 4.0 15 | |
| 114 | 2.0 × 2.0 8 | |
| 115 | 6.0 × 4.0 31 | |
| 116 | 3.0 × 2.0 24 | |
| 117 | 4.0 × 3.2 22 | |
| 118 | 4.8 × 4.0 12 | |
| 119 | 3.0 × 2.6 12 | |
| 120 | 8.2 × 6.0 21 | |
| 121 | 3.8 × 3.1 23 | |
| 122 | 5.8 × 4.0 21 | |
| 123 | 7.6 × 3.8 28 | |
| 124 | 4.0 × 3.0 22 | |
| 125 | 8.0 × 7.0 22 | |
| 126 | 7.0 × 5.2 24 | |
| 127 | 8.6 × 6.8 11 | |
| 128 | 6.8 × 6.2 10 | |
| 129 | 2.2 × 2.2 20 | |
| 130 | 6.2 × 4.8 24 | |

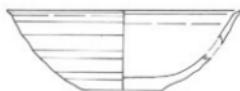
第48図 RZ004 東側調査区 柱穴状土坑(2)



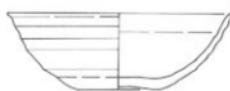
RA041-1 (5)
掲載番号
(登録番号)



RA041-2 (7)



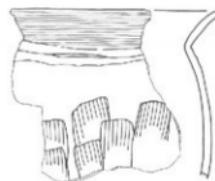
RA041-3 (4)



RA041-4 (6)



RA041-5 (3)



RA041-6 (2)

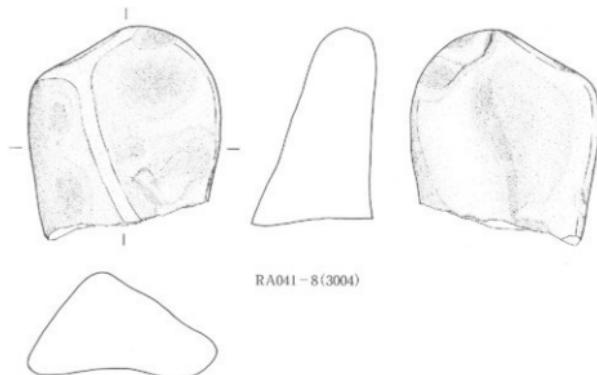


RA041-7 (1)

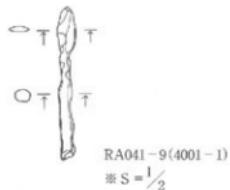
0 1:3 10cm

| 陶器番号 | 可與 器種 同属 器種名 | 出土 位置 層位 | 理 別 | 分類 | 外表面觀 | | 内面調査 | | 計測値 (cm) | 残存率 (%) | 地 土 (含 物、 色 調等) | 備 考 | | | | | |
|---------|-----------------------|----------------|--------|-----------------|---------------|----------|-------|---------------|-------------|-----------------|--------------------------------|--------|----------|------|------|------|---------------------------|
| | | | | | 口縁 ・ 邊沿 | 体部 | 底部 | 口縁 ・ 底部 | 体部 | 底部 | | | | | | | |
| RA041-1 | 32 | 5 | RA041 | 埴輪上 | 上 | 环 | I A 2 | R N | R N | 粗板 麻瀬 | 磨滅 | H M | ○ (12.8) | 6.0 | 5.0 | 40 | 25YR6/6 内面追跡なし |
| RA041-2 | 32 | 7 | RA041 | 埴輪中 | 土 | 环 | I A 2 | R N | R N | 粗板 麻瀬 | 磨滅 | H M | ○ (13.8) | 5.4 | 4.6 | 30 | 25YR6/6 内面追跡なし |
| RA041-3 | 32 | 4 | RA041 | Q3埋土下層 | 土 | 环 | I B 1 | R N | R N | 粗板 麻瀬 | 磨滅 | H M | ○ (13.8) | 14.4 | 5.0 | 50 | 25YR7/4 あかやき土器 |
| RA041-4 | 32 | 6 | RA041 | Q3埋土下層 Q3・Q4 | 上 | 环 | I B 2 | R N | R N | 粗板 麻瀬 | 磨滅 | H M | ○ (13.8) | 5.0 | 4.7 | 40 | 25YR7/6 あかやき土器 |
| RA041-5 | 32 | 3 | RA041 | Q4埋土下層 | 土 | 高台 付杯 | - | 黑色地 理目M | H N | 黑色地 理目M (曾?) | 黑色地 理目M | H M | ○ | - | 7.7 | 3.7 | 20 10YR6/1 10YR6/6 有機物 |
| RA041-6 | 32 | 2 | RA041 | No6 | 土 | 要 | I B | Y N | H N | - | Y N (半減量) | - | × | - | - | - | 15 10YR6/4 6-6 |
| RA041-7 | 32 | 1 | RA041 | 埴輪中 | 上 | 要 | I B | - | H N | 本鉢底 | - | H N | × | - | 11.4 | 7.50 | 10 SYR5/6 明季期 |

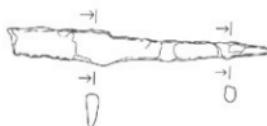
第49図 RA041 (1) 出土遺物



RA041-8 (3004)



RA041-9 (4001-1)
※ S = $\frac{1}{2}$



RA041-10 (4001-2)
※ S = $\frac{1}{2}$

0 1 : 3 10cm

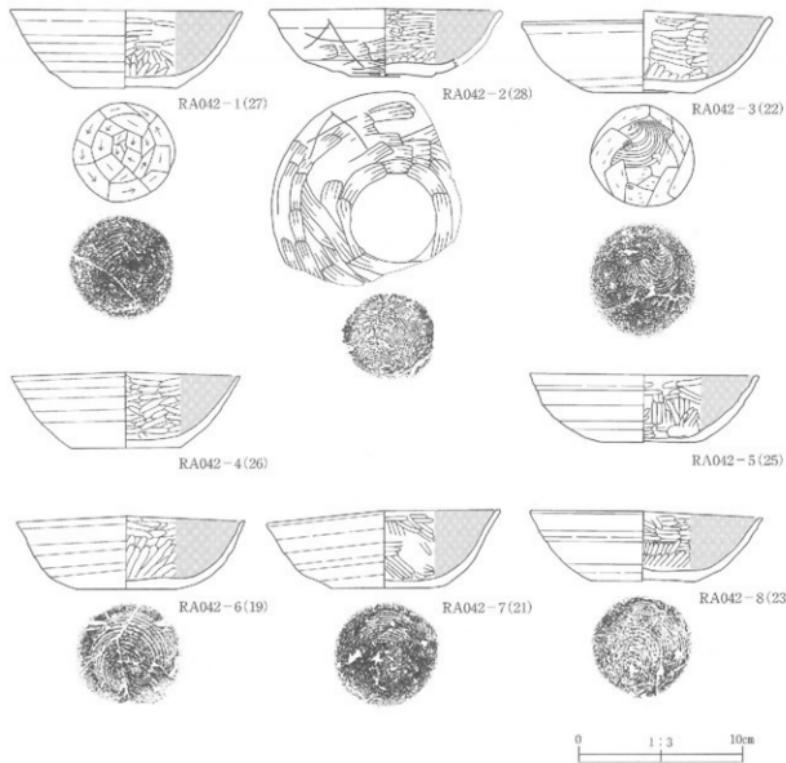
| 編番号 図版 番号 | 写真 番号 | 登録 番号 | 出土 地名 | 層 位 | 種 別 | 重 量 (g) | 石 材 | 出 出地 | 備 考 |
|-----------------|------------|----------|-----------|--------|------------|------------|----------------------------|---------|--------|
| RA041-8 32 | 3004 | RA041 | カマド南斜北斜東面 | 支洞? | カマドで使用された? | 1 1 0 0 | アイサイト | 夷羽主張 | 石No 1 |
| RA041-9 32 | 4001 -1 | RA041 | Q 3 中層 | 鉄鍔? | | 3. 0 0 | 計測値(cm): 長さ6.4 幅6.5 厚さ0.6 | | |
| RA041-10 32 | 4001 -2 | RA041 | Q 3 中層 | 刀子 | | 9. 5 0 | 計測値(cm): 長さ10.9 幅1.2 厚さ0.4 | | |

※黒色処理: ○は内外面、○は内面、×は処理なし

※残存率: -10%は残りわずかを意味する

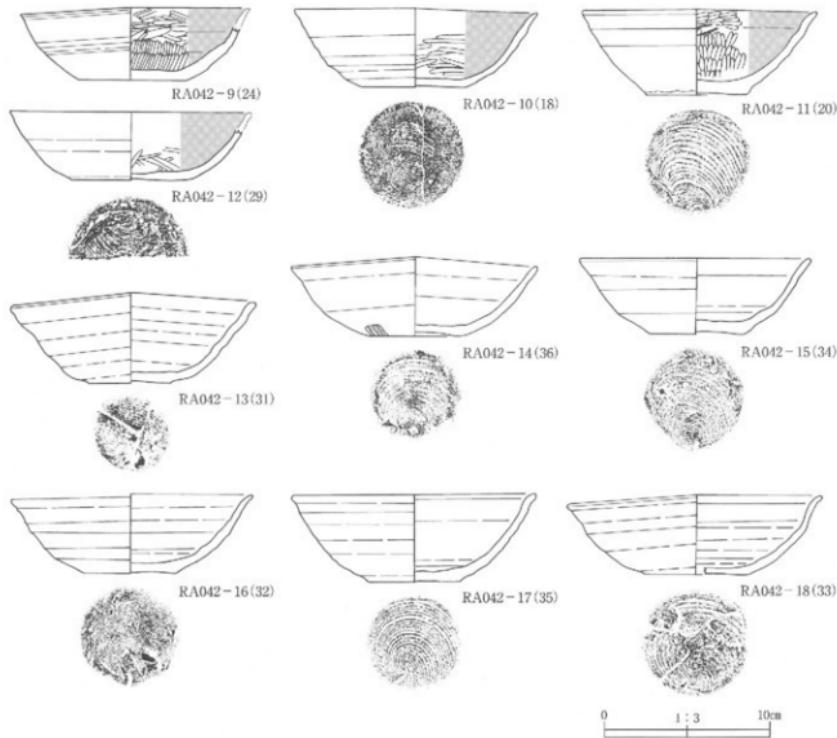
※調整: RNはロクロナデ、YNはヨコナデ、Hはハケメ、HKはヘラケズリ、HMはヘラミガキ、HNはヘラナデ

第50図 RA041 (2) 出土遺物



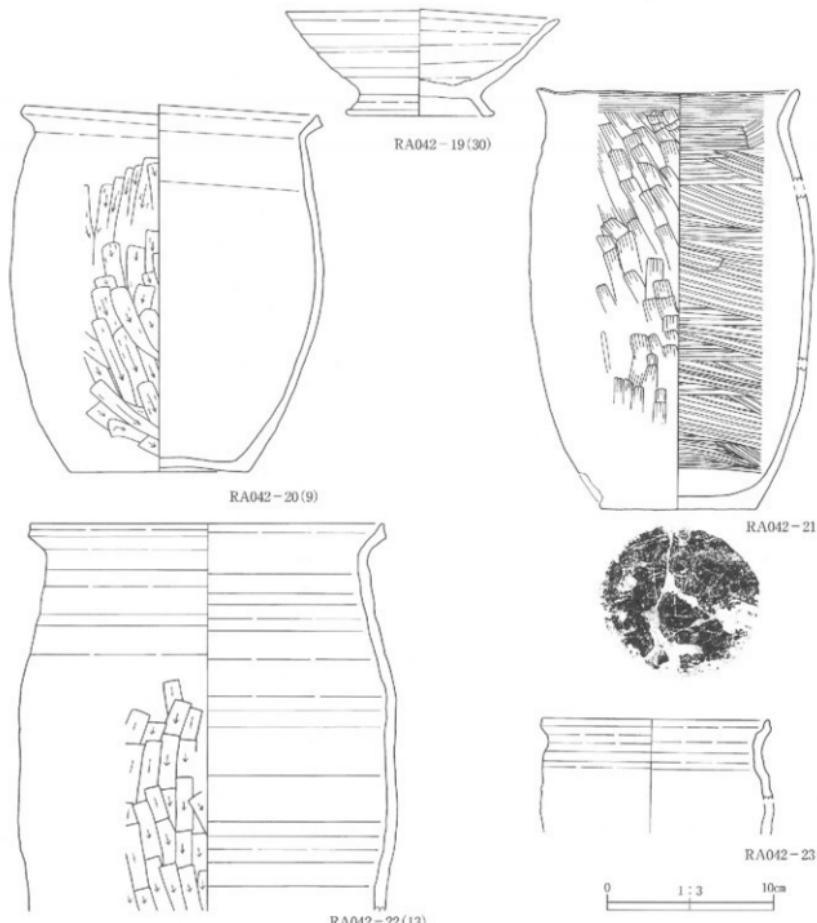
| 揭露番号 図版 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 場所名 | 基 準 位 置 | 種 別 | 源種 | 分類 | 外面調査 | | | 内面調査 | | | 計測値 (cm) | | | 残存率 (%) | 胎 土 (含 有物、 色調等) | 備 考 | |
|---------------------|----------------|---------------------------------------|------------------|--------|-------|------------|------------------|------------------|------------------|------------|------------|------------|----------|------------------|-------|------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------|
| | | | | | | | 口縁 鋸歯 | 体部 鋸歬 | 底部 鋸歬 | 口縁 鋸歯 | 体部 鋸歬 | 底部 鋸歬 | 口縫 直徑 | 底縫 直徑 | 器高 | | | | |
| RA042-1 33 27 | RA042 | 櫛函1-13, 1-15 | 土 壙 | 手 環 | T A | R N | R N 手切 H K | R N 圓弧 H N | R N 直切 H M | H M | H M | H M | ○ | 14.2 | 6.2 | 4.8 | 50 | 7.5YR5/6 明施 7.5YR5/6 | 内面鋸歬波状 外部鋸歬有 |
| RA042-2 33 28 | RA042 | N.17 | 土 壙 | 手 環 | I A 2 | R N H N | R N 圓弧 H N | R N 直切 H M | R N 圓弧 H M | H M | H M | H M | ○ | (14.2) | 5.4 | 4.4 | 50 | 7.5YR5/6 明施 | 外部鋸歬有 |
| RA042-3 33 22 | RA042 | 櫛函2-8, 2-13 | 土 壙 | 手 環 | I A 1 | R N | R N H K | H M | H M | H M | H M | H M | ○ | 13.3 | 6.4 | 5.1 | 90 | 7.5YR6/6 明施 | |
| RA042-4 33 36 | RA042 | 1号カマド焼 灰渣 | 土 壙 | 手 環 | I A 2 | R N | R N 圓弧 H M | H M | H M | 磨滅 | H M | H M | ○ | (13.95) | 6.6 | 4.7 | 70 | 10YR6/4 に点状施色 | |
| RA042-5 33 25 | RA042 | 櫛函2-9, 2-10 ～11-12, 2-13 ～14-15 | 土 壙 | 手 環 | I A | R N | R N 圓弧 H M | H M | H M | H M | H M | H M | ○ | 14.0 | 3.5 | 4.2 | 70 | 7.5YR6/4 ミガキの下に に点状施色 | |
| RA042-6 33 19 | RA042 | 櫛土上層 | 土 壙 | 手 環 | I A 2 | R N | R N 圓弧 H M | H M | H M | H M | H M | H M | ○ | (13.95) (6.0) | (4.5) | 80 | 7.5YR6/6 明施 | 内面鋸歬波状 | |
| RA042-7 33 21 | RA042 | 櫛2-25, 2号カマド焼灰渣 | 土 壙 | 手 環 | I A 2 | R N | R N 圓弧 H M | R N | R N | R N | R N | R N | ○ | 14.2 | 6.5 | 4.8 | 80 | 7.5YR6/6 明施 | 胎形不整 |
| RA042-8 33 23 | RA042 | 櫛山2-22, 2-31 | 土 壙 | 手 環 | I A 2 | R N | R N 圓弧 H M | R N H N | R N H N | R N H N | R N H N | R N H N | ○ | 14.2 | 6.3 | 4.3 | 85 | 7.5YR5/6 明施 | 胎土に砂混 内面一部崩壊 |

第51図 RA042 (1) 出土遺物



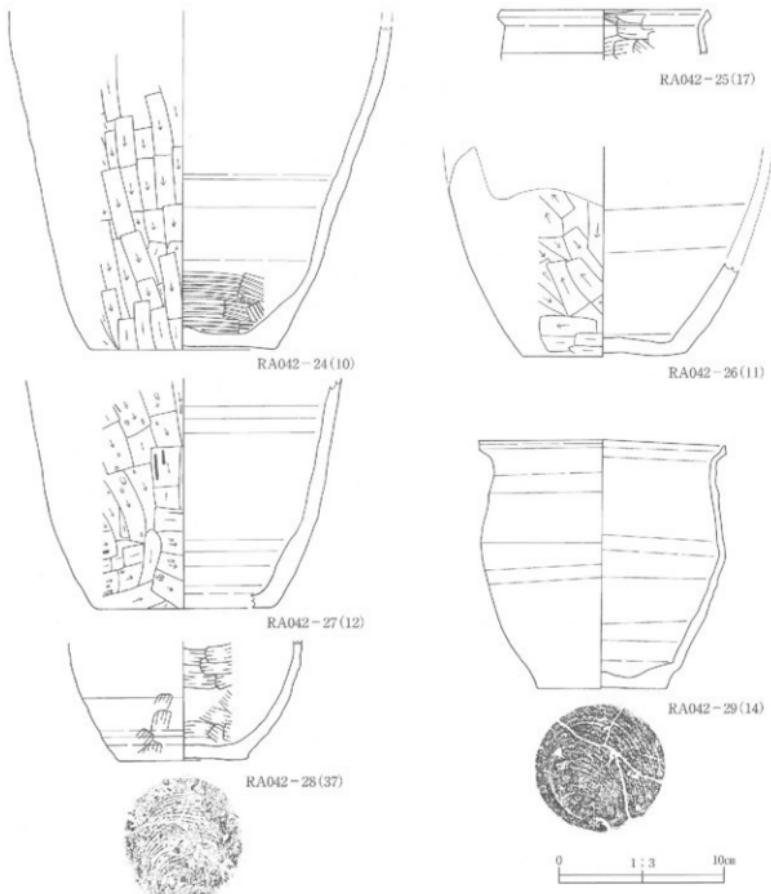
| 揭露番号 | 写真 図版番号 | 出土 遺物名 | 施 位 | 種 別 | 認 定 | 分類 | 外面調整 | | | 内部測量 | | | 計測値(cm) | | | 胎 上 (含 物、 色 調等) | 備 考 | |
|----------|------------|-----------|-----------------------------|--------|--------|-------|---------------|----|---------------|---------------|----|----|---------|--------|-----|--------------------------------|----------------|---------------------|
| | | | | | | | 口縁 ・ 脚部 | 体部 | 底部 | 口縁 ・ 脚部 | 体部 | 底部 | 口縁 | 底縁 | 器高 | | | |
| RA042-9 | 33 | 24 | RA042-No15 | 土 | 环 | I A 2 | R N | RN | HM | HM | HM | ○ | 14.1 | 6.5 | 4.5 | 90 | 7.5YR5/6 明透 | |
| RA042-10 | 34 | 18 | RA042-Pt7-括 | 土 | 环 | I A 2 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | 磨滅 | HM | HM | ○ | 14.8 | 6.2 | 4.9 | 95 | 7.5YR6/6板 |
| RA042-11 | 34 | 20 | RA042-Q3壁上F段 | 土 | 环 | I A 1 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | HM | HM | HM | ○ | 14.6 | 6.2 | 5.3 | 80 | 7.5YR6/6板 |
| RA042-12 | 34 | 29 | RA042-No14 | 土 | 环 | I A 2 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | 磨滅 | HM | HM | ○ | (14.6) | 7.0 | 4.2 | 56 | 7.5YR5/6 明透 |
| RA042-13 | 34 | 31 | RA042- 壁上中層Q2, 壁上下層Q2 | 土 | 环 | I B 2 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | RN | RN | RN | × | 14.9 | 4.8 | 5.6 | 98 | 7.5YR6/8透 あかやき土器 |
| RA042-14 | 34 | 36 | RA042-Q3底直 | 土 | 环 | I B 2 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | RN | RN | RN | × | 15.6 | 5.6 | 4.9 | 70 | 7.5YR6/6 明透 |
| RA042-15 | 34 | 34 | RA042- 壁土上層 | 土 | 环 | I B 2 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | RN | RN | RN | × | 14.2 | 5.8 | 4.7 | 50 | 7.5YR5/8透 あかやき土器 |
| RA042-16 | 34 | 32 | RA042- 壁上中層 | 土 | 环 | I B 2 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | RN | RN | RN | × | 14.8 | 5.6 | 4.9 | 90 | 7.5YR7/8 黄透 |
| RA042-17 | 34 | 35 | RA042- 壁上下層 | 土 | 环 | I B 2 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | RN | RN | RN | × | (14.8) | 5.6 | 5.4 | 60 | 7.5YR6/8 明透 |
| RA042-18 | 34 | 33 | RA042-Pt7-括 | 土 | 环 | I B 2 | R N | RN | 回転 ・ 单切 | RN | RN | RN | × | 15.5 | 6.2 | 4.9 | 70 | 5YR6/8透 あかやき土器 |

第52図 RA042 (2) 出土遺物



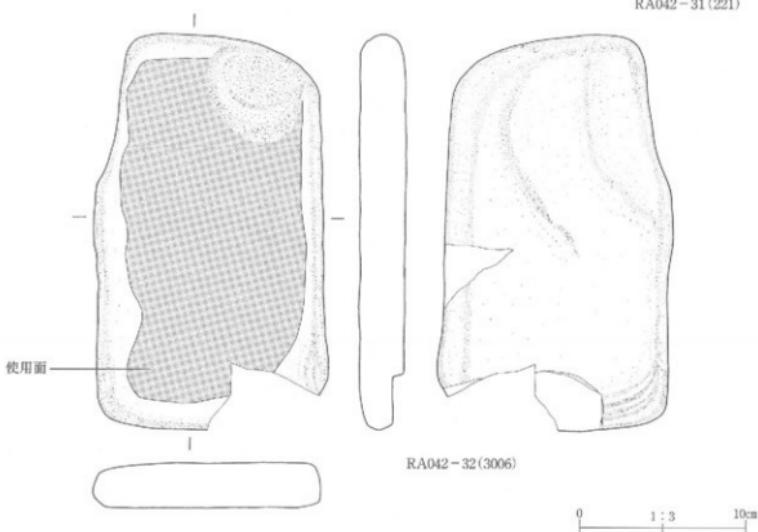
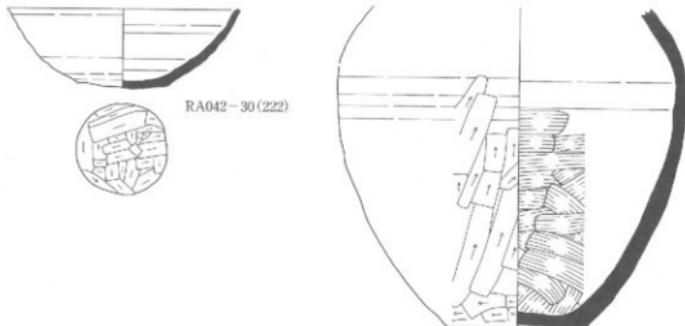
| 器物番号 図版番号 | 写真 登録番号 | 出土 遺物名 | 場 位 | 種 別 | 形 状 | 分類 | 外面調査 | | 内面調査 | | | 計測値 (cm) | | 残存率 (%) | 地 土 (有機、 色調等) | 備 考 |
|----------------|------------|-----------------------------------|---------|---------|--------------|-----|-----------|-----|------|------|------|----------|--------|-------------|------------------------|------------------|
| | | | | | | | 口縁・ 頭部 | 体部 | 底盤 | 体部 | 底盤 | 直徑 | 底径 | 器高 | | |
| RA042-19 35 | 30 | RA042 No7 | 土 台坏 | I 筒 | I-A-R-N | H-K | - | R-N | R-N | R-N | x | 16.6 | 9.0 | 6.6 | 96 | 3YR6/6 あかやき土器 |
| RA042-20 35 | 9 | RA042 Pit7-1粘 | I 筒 | I-A-R-N | H-K | 砂泥? | R-N | R-N | R-N | x | 18.4 | 10.8 | 22.8 | 96 | 7.5YR6/6 粘 | |
| RA042-21 35 | 8 | RA042 No2 | 土 頭 | I-A-Y-N | RX(?) 水素面 | YN | H | H | x | 15.9 | 9.5 | 26.0 | 85 | 5YR6/6 酸 | | |
| RA042-22 35 | 12 | RA042 Pit7-3 1/2 カマド | 土 頭 | I-A-R-N | H-K | - | R-N | R-N | - | x | 21.3 | - | (24.0) | 10 | 7.5YR5/6 明窓 | |
| RA042-23 36 | 16 | RA042 No4. 柴炉2-10. ルルト 粘 | 土 頭 | I-A-R-N | R-N | - | R-N | R-N | - | x | 14.0 | - | (7.0) | 20 | 7.5YR6/8D | |

第53図 RA042 (3) 出土遺物



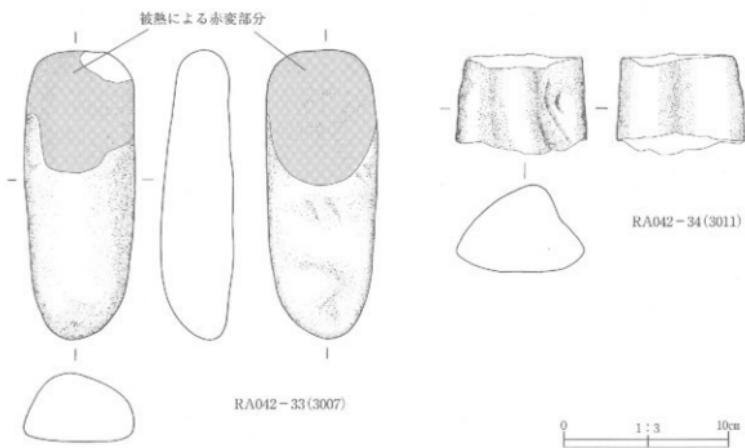
| 荷載番号 | 写真 図版 番号 | 登録 番号 | 出土 遺物名 | 層位 | 種 別 | 蓄積 分類 | 外面調査 | | | 内部調査 | | | 計測値 (cm) | | | 残存率 (%) | 地 土 (含有物、 色調等) | 備 考 | |
|----------|----------------|----------|---------------------------|---------------------------|--------|----------|-----------|-----|----------|---------------|-----|-----|----------|--------|------------------|---------------|----------------------------|-----------------|---------|
| | | | | | | | 上縁・ 頭部 | 体部 | 底部 | 上縁・ 頭部 | 体部 | 底部 | 口径 | 底径 | 高さ | | | | |
| RA042-25 | 36 | 10 | RA042-43, 44, P19 | 層出2-4, 40, 43, 44, P19 | 土 | 甕 | I-A | - | H K | H K? | - | R N | H | x | - | 112 (10.9) | 30 | 7.5YR3/2 暗褐色 | |
| RA042-25 | 36 | 17 | RA042-Pn7-18 | 土 | 甕 | 小型甕 | R N | R N | - | 7.5Y1-7 H明 | H N | - | x | (12.6) | - | (3.1) | 10 | 5YR5/6 明赤褐色 | |
| RA042-26 | 36 | 11 | RA042-重出112号+7号 重出3-28 | 土 | 甕 | I-A | - | H K | 侈底 | - | R N | - | x | - | 100 (12.9) | 20 | 7.5YR5/6B 灰白色 | 和丸口素-テラコ 灰白色 | |
| RA042-27 | 36 | 12 | RA042-Q3埋土下位 | 土 | 甕 | I-A | - | H K | - | - | R N | - | x | - | (11.0) (14.2) | 25 | 7.5YR5/6 当面付ナカイ田、 白土 | 和丸口ナカイ田、 白土 | |
| RA042-28 | 36 | 37 | RA042-ベルト一筋、 埋土中筋 | 土 | 甕 | I-A? | - | R N | 圆底 系切 | - | R N | R N | x | - | 7.8 (7.3) | 10 | 7.5YR6/4 灰白色 | 和面全付ナカイ田 灰白色 | |
| RA042-29 | 37 | 14 | RA042-No12-埋土中 筋, Q2 | 土 | 甕 | 小型甕 | R N | R N | 圆底 系切 | R N | R N | R N | x | 15.0 | 7.8 | 15.4 | 80 | 7.5YR5/6 明褐 | 内腹にスス付有 |

第54図 RA042 (4) 出土遺物



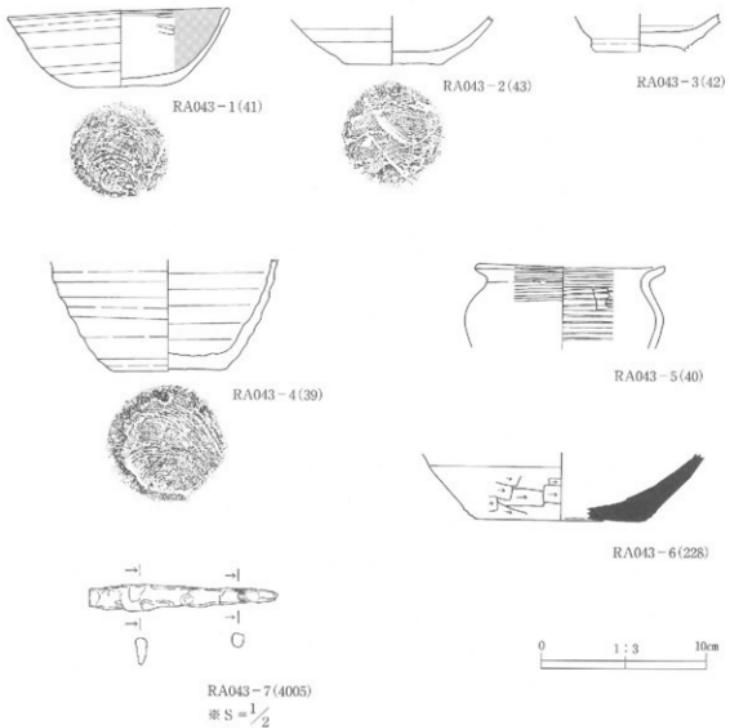
| 掲載番号 図版 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 遺物名 | 器 位 | 種 別 | 器種 | 分類 | 外観調査 | | | 内部調査 | | | 計測値(cm) | | | 残存率 (%) | 粘土 (含有机、 色調等) | 備考 | |
|------------------|----------------|----------------------|--------|--------|-------|-----|--------------|-----|-----|-----------|-----|-----|---------|------|--------|------------|---------------------|-------|--|
| | | | | | | | 口縁・ 面部 | 体部 | 底部 | 口縁・ 底部 | 体部 | 底部 | 口径 | 底径 | 着高 | | | | |
| RA042-30 37 | 222 | RA042 漢出2-12A.14 | 鉢 | 环 | E B 1 | R N | R N | R N | R N | R N | R N | R N | × | 14.2 | 5.6 | 4.9 | 90 | N4/0灰 | |
| RA042-31 37 | 221 | RA042 №6.漢出3-1-4. 頂部 | 鉢 | 束 | E A | R N | 口縁切 なし | R N | H N | - | × | - | - | 8.4 | (19.0) | 70 | N3/0暗灰 | | |
| RA042-32 37 | 3006 | RA042 置位:カマド付近 | 種別:砾石 | | | | 重量(g): 157.6 | | | | | | | | | | 深出丸:共出山脈石No.3 | | |

第55図 RA042 (5) 出土遺物



| 同款番号 | 写真 図版 | 登録 番号 | 出土 遺物名 | 層位 | 種別 | 重量(g) | 石 材 | 産出地 | 備 考 |
|----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-------|-----|------|-----------|
| RA042-33 | 37 | 3007 | RA042 | 1号カマド南袖埋土 | 不明 | 760 | 安山岩 | 奥津山東 | 被熱により一部赤変 |
| RA042-34 | 37 | 3011 | RA042 | 1号カマド付近 | 支脚? (-部) | 360 | 安山岩 | 奥津山東 | 石No.2 |

第56図 RA042 (6) 出土遺物

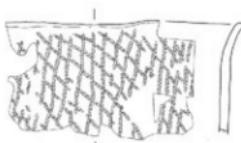


| 器物番号 灰版 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 遺物名 | 層位 | 種 別 | 器種 | 分類 | 外観調査 | | 内面調査 | | 黒色 鉛膏 | 計測値(cm) | 残存率 (%) | 粒 土 (有物、 色調等) | 備 考 | | |
|------------------|----------------|-----------|-------|----------------|---------------|--------|--------------------|-------------|--------------------|-----------------|---------------------------------------|---------|------------|------------------------|---------------------|---------------------|--------------------------|
| | | | | | | | 口縁 底部 形態 | 体部 底部 | 口縁・ 底部 形態 | 体部 底部 | | | | | | | |
| RA043-1 | 38 | 41 | RA043 | Pt3 | 泥塗埋土 中、No4 | 土 环 | I A 2 | R N | R N | 圓板 切 | H.M. | - | ○ | 13.4 | 5.8 | 4.8 | 95 75YR6/4 12.5%+優 |
| RA043-2 | 38 | 43 | RA043 | Q2埋土上段 座面直上 | 土 环 | I B 2 | - | R N | 圓板 切 | 内側 底 | - | x | - | 6.0 | (2.8) | 10 75YR5/8 閉塞 | あかやき土器 |
| RA043-3 | 38 | 42 | RA043 | 粗土下層 | 土 面付環 | - | R N | - | R N | - | x | - | - | (2.3) | 10 75YR7/6 | | |
| RA043-4 | 38 | 39 | RA043 | Q2埋面直上 | 土 小型便器 | - | R N(火 灰付) 底切 | - | R N(火 灰付) 底切 | R N | x | - | 6.2 | (6.8) | 10 10YR6/6 黄釉 | | |
| RA043-5 | 38 | 40 | RA043 | No3 | 土 小便器 | Y N | - | - | Y N | H | - | x | 11.6 | - | (5.0) | 10 75YR3/3 閉塞 | 新土器、珍多い |
| RA043-6 | 38 | 228 | RA043 | Pt3 | 灰 甌 | II A | - | R N H.K. | - | - | - | x | - | (9.4) | 14.3 | -10 N4/0灰 | |
| RA043-7 | 38 | 4005 | RA043 | 層位：床面 (西壁際) | 種別：刀子 | | | | | 重量(g) : 5. 9. 0 | 計測値(cm) : 長さ(7.8) 幅(1.1) 厚(0.4) | | | | | | |

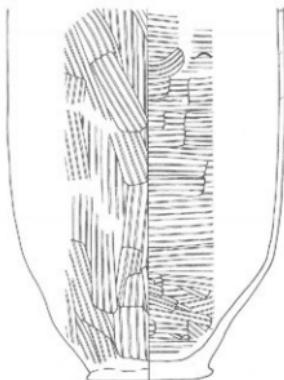
第57図 RA043 出土遺物



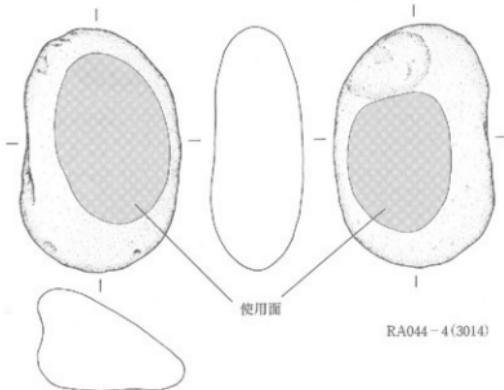
RA044-1(46)



RA044-3(44)



RA044-2(45)

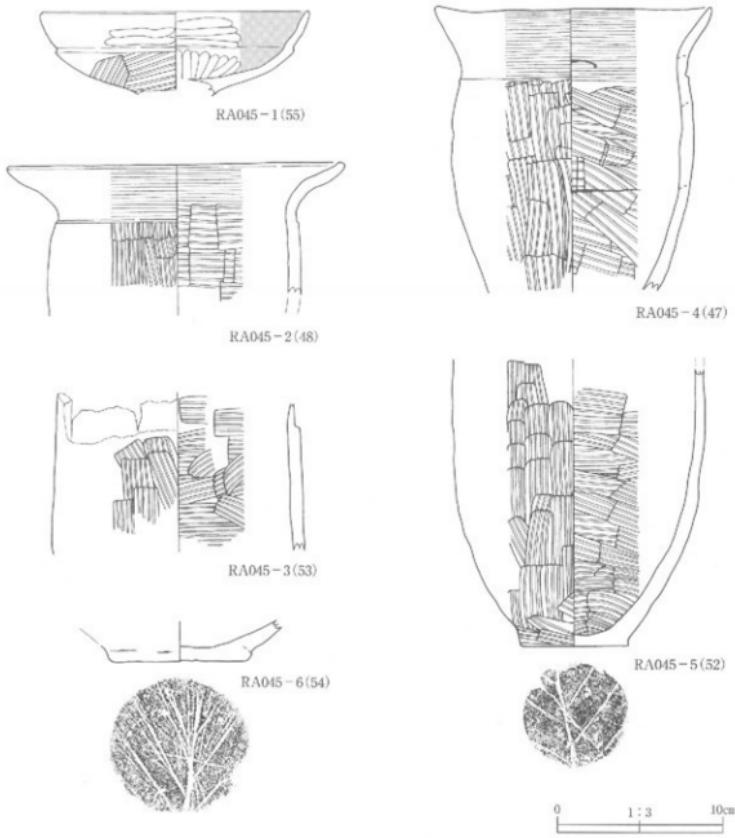


RA044-4(3014)

0 1 : 3 10cm

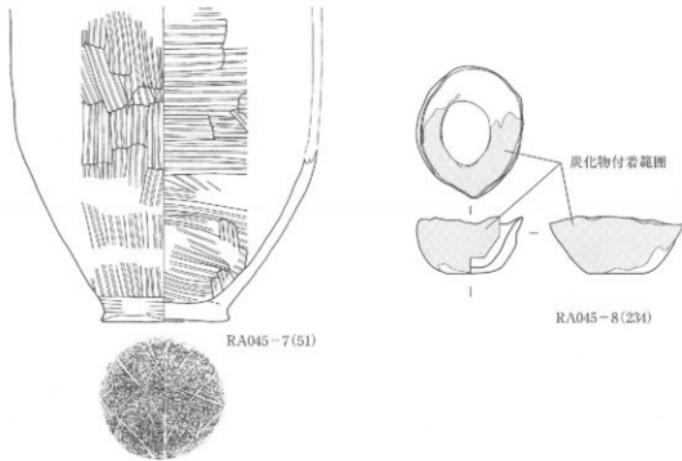
| 器物番号 固有番号 | 厚さ 壁厚 | 出土 遺物名 | 場所 遺物名 | 種別 | 器種 | 分類 | 外側調査 | | | 内側調査 | | | 総面積 (cm ²) | 残存率 (%) | 粒 土 (含泥沙、 角礫等) | 備考 | | |
|--------------|----------|-----------|-----------|----------------------|-------|----|-----------------|----|-----------|------|----|----|---------------------------|------------|-------------------------|--------|----|------------------|
| | | | | | | | 口縁・ 底部 休部 | 底部 | 口縁・ 底部 | 休部 | 底部 | 口縁 | 底径 | 器高 | | | | |
| RA044-1 | 38 | 46 | RA044 | Q2段上下層 | 土 | 耳 | A1M2HM | HM | - | - | HM | - | ○ | (12.5) | - | 4.6 | 50 | 7SYRS-6号 内面有隙 |
| RA044-2 | 38 | 45 | RA044 | 南側丸Q1-Q4 セミドリヤ板張部 | 土 | 夷 | AIT | - | H | H K | - | H. | x | - | 7.7 | (23.0) | 60 | 7SYRS-6 開場 |
| RA044-3 | 38 | 44 | RA044 | 南一棟丸 | 上 | 圓文 | - | - | - | - | - | - | - | 16.0 | - | (7.0) | 10 | 7SYRS-6 開場 |
| RA044-4 | 38 | 3014 | RA044 | 場所：埋下層 | 種別：陶石 | | | | | | | | | | | | | 罐口狀圓形文 開場 |

第58図 RA044 出土遺物

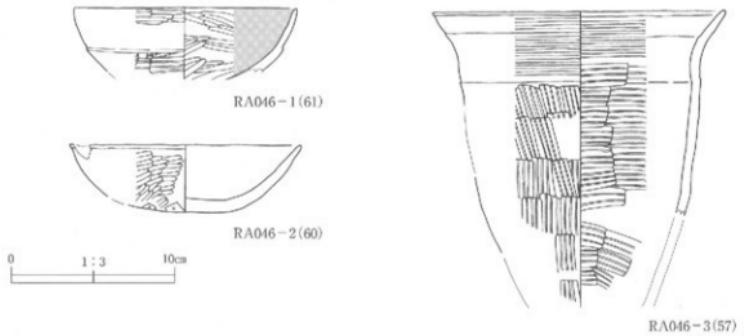


| 揭露番号 | 写真 登録 番号 | 出土 場所 | 層位 | | 種別 | 器種 | 分類 | 外表面調査 | | 内面調査 | | 計測値 (cm) | | 残存率 (%) | 胎 (含有物、 色調等) | 目 考 | | | |
|---------|----------------|----------|-------|-----------------------|----|----|-----|-----------|----|------|-----------|----------|----|------------|--------------------|--------|------------------|-----|----------------------------------|
| | | | 上 | 下 | | | | 口縁・ 底部 | 体部 | 底部 | 口縁・ 底部 | 体部 | 底部 | 口径 | 底径 | | | | |
| RA045-1 | 39 | 55 | RA045 | Q2堆土下段 検出面 | 上 | 轍环 | HM | H | - | HM | HM | - | ○ | 16.0 | (5.2) | 30 | 75YR5-9段 内外有段 | | |
| RA045-2 | 39 | 48 | RA045 | 理士下層、ベ シト中実部 | 上 | 轍 | AIT | YN | H | - | YN | H | - | × | 20.6 | - | (9.3) | 20 | 75YR2-6段 |
| RA045-3 | 39 | 53 | RA045 | 理士堆土中、 堆土下段、検出面 | 上 | 轍 | AIT | - | H | - | H | - | - | × | - | - | (9.0) | 10 | 75YR6-9段 堆土中の理士と 堆土下段にAITS |
| RA045-4 | 39 | 47 | RA045 | Q2堆土下段、検出面 中空セミ泡丸部 | 上 | 轍 | AIT | YN | H | - | H | H | - | × | 17.0 | - | (17.9) | 60 | 75YR6-4段 小底の25cmに ないものか? |
| RA045-5 | 39 | 52 | RA045 | 北側逆地部 | 土 | 轍 | AIT | - | H | 木質痕 | - | H | H | × | - | 6.6 | (17.7) | 50 | 75YR6-6段 |
| RA045-6 | 39 | 54 | RA045 | 堆土下段 | 土 | 轍 | - | - | - | 木質痕 | - | - | - | × | - | 8.5 | (2.1) | -10 | 75YR6-4段 胎上粗だが底 にない、質も軟感良好 |

第59図 RA045 (1) 出土遺物

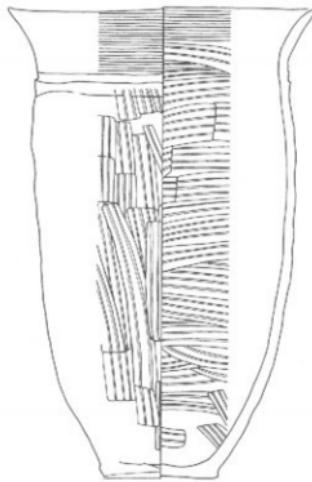


| 海数番号 | 写真 登録 国版 番号 | 出土 遺構名 | 層 位 | 種 別 | 器種 | 分類 | 外側調整 | | | 内側調整 | | | 器 色 調 | 計測値 (cm) | 残存率 (%) | 施 工 (含石物、 色調等) | 備 考 | |
|---------|----------------------|-----------|------------------------------|--------|-------------|-----|----------|---|-----|----------|-----|-----|----------------|----------|------------|-------------------------|--------|-----------------------|
| RA045-7 | 39 | 51 | RA045 (木下中央部面) Q1(土上部) | 土 | 甕 | AIT | - | H | 木柾痕 | - | H | H | 口縁 底部 腹部 | × | - | 7.8 | (19.3) | 50 7SYR6-4 にぶい陶 |
| RA045-8 | 39 | 234 | RA045 No.1 | 土 | 多壁子母 なじき | H N | 木柾 木柾 | - | H N | 木柾 木柾 | H N | H N | 口縁 底部 腹部 | × | 8.2 | 2.9 | 3.6 | 95 7SYR6-4 片口瓶 |

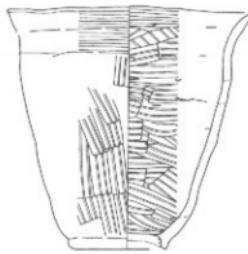


| 海数番号 | 写真 登録 国版 番号 | 出土 遺構名 | 層 位 | 種 別 | 器種 | 分類 | 外側調整 | | | 内側調整 | | | 器 色 調 | 計測値 (cm) | 残存率 (%) | 施 工 (含石物、 色調等) | 備 考 | |
|---------|----------------------|-----------|---------------|--------|-----|-----|------|-----|-----|------|----|----|-------------|----------|------------|-------------------------|------------------------------|------|
| RA046-1 | 49 | 61 | RA046 底土下層 | 土 | 甕 | ADM | H M | H | - | H M | - | ○ | 13.6 | - | (4.4) | 30 7SYR6-6 底 | 外側有隙 | |
| RA046-2 | 40 | 60 | RA046 底土下層 | 土 | 甕 | ADM | H M | H M | H K | 磨滅 | 磨滅 | 磨滅 | × | 14.0 | - | 4.1 | 70 7SYR6-4 にぶい陶 片口瓶 | 外側欠損 |
| RA046-3 | 40 | 57 | RA046 底土下層 | 土 | 小型甕 | Y N | H | - | Y N | H I | - | × | 18.0 | - | 18.3 | 60 7SYR6-6 底 | 底部欠損 | |

第60図 RA045 (2)・RA046 (1)　出土遺物



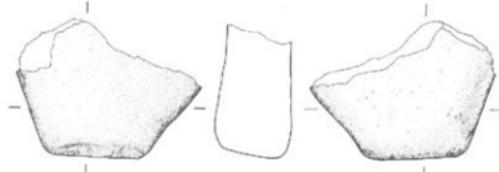
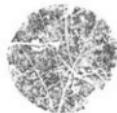
RA046-4 (56)



RA046-5 (58)



RA046-6 (59)



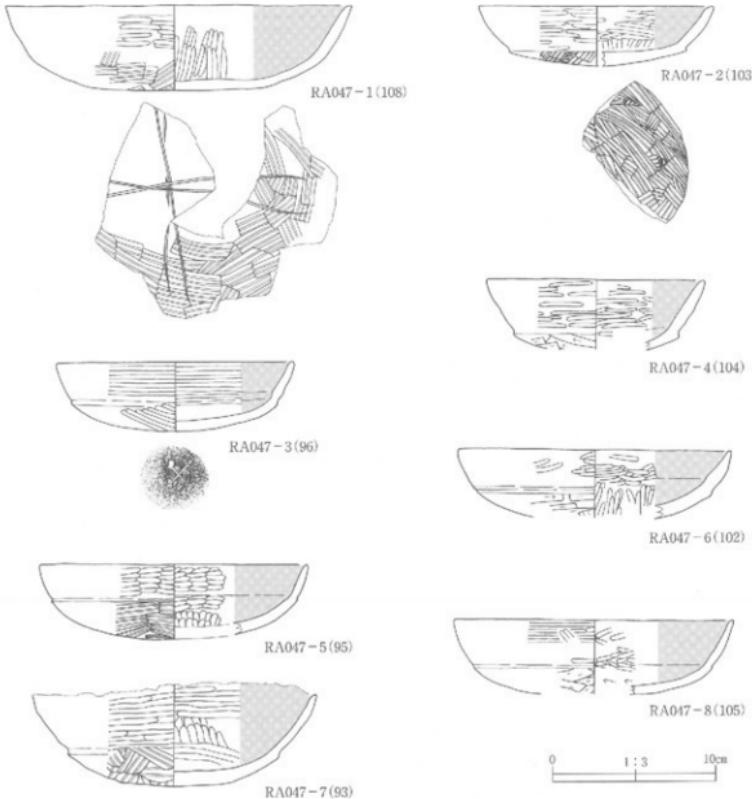
RA046-7 (3016)



0 1 : 3 10cm

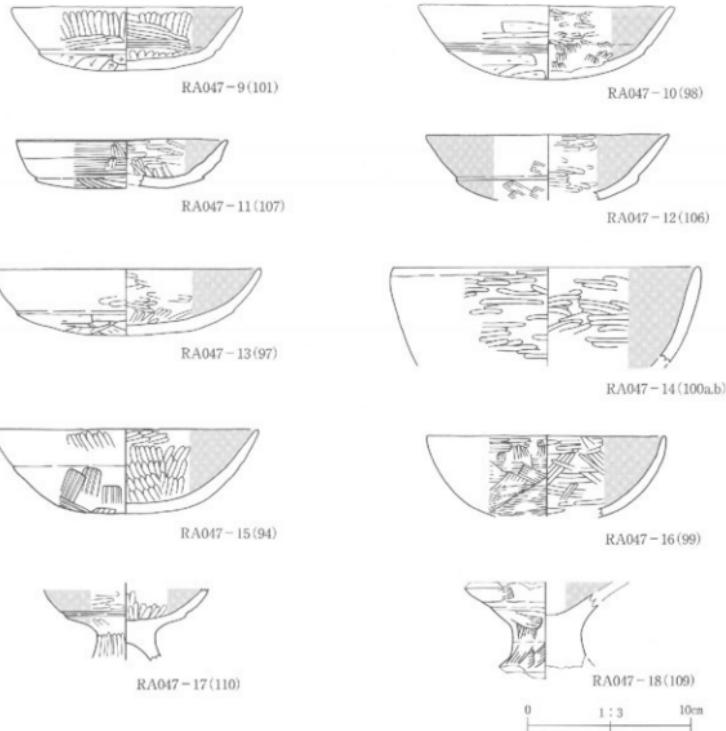
| 器底番号 回数 目録 番号 | 厚真 盤鏡 出土 遺物名 | 層位 遺物名 | 種 別 | 器種 | 分類 | 外面調査 | | 内面調査 | | 黒 色 処理 | 計 測 値 (cm) | 残 存 率 (%) | 粒 土 (有 無 い 四 等) | 備 考 | | |
|------------------------|-----------------------|-----------|--------|---------------|----------|----------|----------|----------|---------------|--------------|---------------------|--------------------|-----------------------------------|--------|------|---|
| | | | | | | 口縁 面積 | 体部 面積 | 底部 面積 | 口縫 ・ 縁起 | 体部 面積 | 底部 面積 | | | | | |
| RA046-4 | 40 | 56 | RA046 | Na1, Na3, Na5 | 土 甕 | AIT1 | Y.N | H | 本革面 | Y.N | H | H | * 18.5 | 6.8 | 29.1 | 80 73YR6/4d |
| RA046-5 | 40 | 58 | RA046 | Na2 | 上 小型甕 | | V.N | H | - | Y.N | H | H | * 14.8 | (3.4) | 14.9 | 95 73YR6/4d |
| RA046-6 | 40 | 59 | RA046 | 東南邊上部分 土 | 小甕甌 | | - | H | - | - | H | H | * | 62 | 9.5 | 60 75YR5/6 周辺 底部欠損 体部下半に スヌ村壁 |
| RA046-7 | 40 | 3016 | RA046 | 層位：カマド焼成部 | 種別：不明 | | | | 重量(g) : 56.0 | | | | | | | 豪山地：無田山脈 石No.1 |

第61図 RA046 (2) 出土遺物



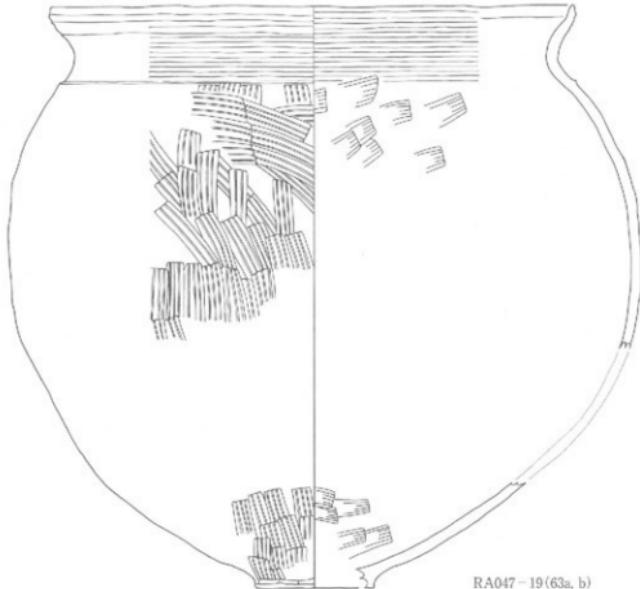
| 器物番号 図版 番号 | 厚高 壁厚 出土 遺物名 | 層位 標 記 | 種 類 | 留 根 | 分類 | 外面調査 | | 内部調査 | | 測定値 (cm) | 残存率 (%) | 胎 土 (含 有物、 色等) | 備 考 | | |
|------------------|-----------------------|--------------|-------------------------|--------|----|-----------|----------|-----------|----|----------|------------|----------------------------|-----------|---|------------------------------|
| | | | | | | 口縁・ 底部 | 体部 | 口縁・ 底部 | 体部 | | | | | | |
| | | | | | | 輪縫 | 輪縫 | 輪縫 | 輪縫 | | | | | | |
| RA047-1 | 41 108 | RA047 | Q4壁土下端 | 土 | H? | AIM3P | HM | H | H | - | HM (浅狀) | ○ (21.6) | - | - | |
| RA047-2 | 41 103 | RA047 | 粘土壁土 | L | 环 | AIM2 | HM | HM | HM | HM | HM | ○ (12.0) | - | (3.7) 30 | |
| RA047-3 | 41 96 | RA047 | Q4壁土 | 土 | 环 | ATM1 | HM | HM | HM | HM | - | ○ 14.6 | - | 4.3 50 | |
| RA047-4 | 41 101 | RA047 | Q3、淮土上端 | 土 | 环 | A 1 | HM | HM | HM | HM | - | ○ (13.6) | - | (4.3) 30 75YR6-6b 内外輪底、胎に比 <灰>含、外輪 内輪底、胎に比 <灰>含、子 | |
| RA047-5 | 41 95 | RA047 | 枕沿面、Q3壁 土上端、 淮土上端 | L | 环 | AIM2 | HM | H | H | HM | HM | ○ 16.4 | 4.6 | 50 75YR6-6b 内外輪底、内 輪底細小、 | |
| RA047-6 | 41 102 | RA047 | Q3壁土上端、 Q3T 磨 | 土 | 环 | ATM1 | HM | HK | - | HM | HM | - | ○ (15.0) | - | (4.2) 20 75YR6-6b 内外輪底 |
| RA047-7 | 41 93 | RA047 | P19 | 土 | 环 | AIM2 | HM | HM | H | HM | HM | ○ 17.8 | - | 6.3 60 75YR6-6b 内外輪底、内 輪底弱 | |
| RA047-8 | 41 105 | RA047 | Q3、淮土上端 | L | 环 | A 1 | YN HM | HM | HK | HM | HM | - | ○ (17.20) | - | (4.6) 20 75YR6-6b (中空底底付) |

第62図 RA047 (1) 出土遺物

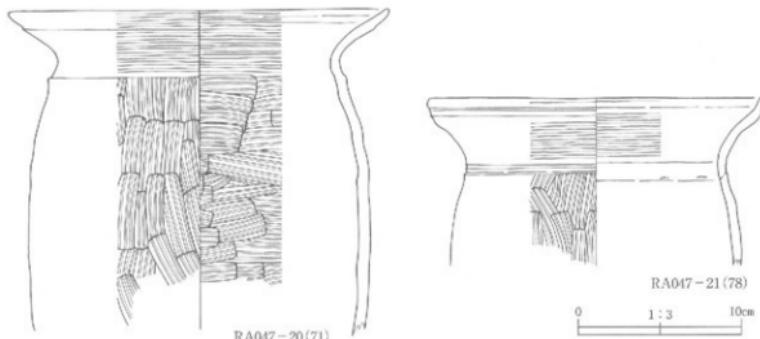


| 器種番号 回復 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 遺物名 | 部位 | 種 別 | 器板 | 分類 | 外側調査 | | | 内面調査 | | | 規 格 | 底径 | 唇 高 | 残 率 (%) | 土 色 (有無、 色調等) | 備 考 |
|------------------|----------------|-----------|----------------------|--------|----|------|----------------|---------------|---------|----------------------|---------|---------|--------|--------|--------|---------------|------------------------|---------------------------------|
| | | | | | | | 口縁・ 底部 部 | 体部 底部 部 | 底部 部 | 口縁・ 体部 底部 部 | 底部 部 | 底部 部 | | | | | | |
| RA047-9 | 41 | 101 | RA047-Q4壇土上層 | 土 | 环 | AIM1 | H.M | H.M | H.K | H.M | H.M | H.M | ○ | 14.9 | - | 3.9 | 30 | 7.57B5.7 明褐色 |
| RA047-10 | 41 | 98 | RA047-Q3壇土上層、 焼出面 | 土 | 环 | AIM1 | - | H.K | H.K | H.M | H.M | H.M | ○ | 15.7 | - | 4.6 | 30 | 7.57B5.6 土色の付着少 ない焼出面 |
| RA047-11 | 41 | 107 | RA047-Q3壇土上層 | 土 | 环 | AIH2 | Y.N | H.M | H.II | H.M | H.M | H.M | ○ | 12.8 | - | 3.0 | 20 | 7.57B5.5 焼出面 |
| RA047-12 | 41 | 106 | RA047-Pt2壇土 | 土 | 环 | A I | - | H.N | H.N | H.M | H.M | H.M | ○ | (4.8) | - | (4.0) | 20 | 8.07B7.1 縦向く。 |
| RA047-13 | 41 | 97 | RA047-後出面、環上 | 土 | 环 | AIM2 | H.M | H.M | H.K | H.M | H.M | H.M | ○ | 16.4 | - | 4.1 | 50 | 7.57B6.8 焼出面 |
| RA047-14 | 41 | 100 | Q1壇土上層、 壇土下層 | 土 | 环? | | H.M | H.M | - | H.M | H.M | - | ○ | 18.4 | - | (5.9) | 10 | 7.57B5.8 明褐色 |
| RA047-15 | 41 | 94 | RA047-Q1壇土下層、 焼出面 | 土 | 环 | AIH2 | H.M | H.II | H.H | H.M | H.M | H.M | ○ | (15.4) | - | 5.2 | 50 | 7.57B5.4 焼出面は形化、 縦向く。 |
| RA047-16 | 41 | 99 | ベント環、G3 壇土上層、Q2壇土 | 土 | 环 | A I | H.N | H.M | - | H.M | H.M | - | ○ | 14.6 | - | (5.0) | 30 | 3Y25.6帶 外面有斑 |
| RA047-17 | 42 | 110 | RA047-Q4壇土下層 | 土 | 高环 | | - | H.M | H.M | - | H.M | - | ○ | - | (4.4) | 20 | 7.57B6.6 外面有斑 | |
| RA047-18 | 42 | 109 | RA047-Pt2壇土 | 土 | 高环 | | - | H.N | H.N | - | 深灰 | - | ○ | (10.0) | - | (6.9) | 20 | 7.57B6.9 内部有斑、アラは 無い、外側有斑 |

第63図 RA047 (2) 出土遺物



RA047-19(63a, b)

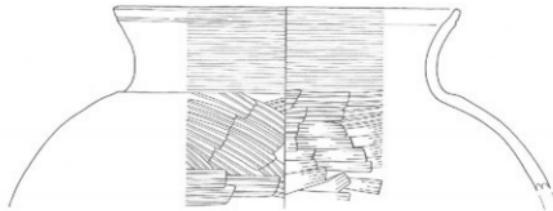


RA047-20(71)

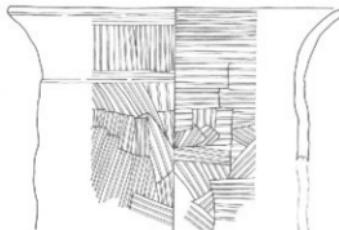
RA047-21(78)

| 測量番号 回数 | 写真 登録 番号 | 出土 遺物名 | 延 位 | 検 査種 別 | 分類 | 外面部型 | | | 内面部型 | | | 黒色 斑塊 | 計面積 (cm) 口径 底径 深高 | 残存率 (%) | 胎 土 (含む物、 色調等) | 備 考 | | |
|------------|----------------|-----------|-------|--------------|-----|----------------|----|----|----------------|----|-----|----------|----------------------------|-----------------------|----------------------|-------------------|---------------------------|--|
| | | | | | | I形 ・ II形 | 体部 | 底部 | I形 ・ II形 | 体部 | 底部 | | | | | | | |
| RA047-19 | 42 | 63ab | RA047 | Q4無土上層 | 土 壤 | A1S | YN | H | - | YN | HN | - | × | 32.0 7.2 (21.2) | 70 | 7.5YR6/8d に多い種 | | |
| RA047-20 | 42 | 71 | RA047 | No2 | 上 壤 | A1T | YN | H | - | YN | II | - | × | (23.2) | - | (19.5) | 20 7.5YR6/4 に多い種 | |
| RA047-21 | 42 | 78 | RA047 | Q4無土 | 土 壤 | A1T | YN | H | - | YN | Hの残 | - | × | (20.6) | - | (10.2) | 10 7.5YR6/6d 口縁無く直上 | |

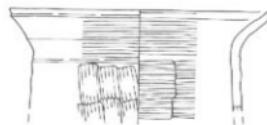
第64図 RA047 (3) 出土遺物



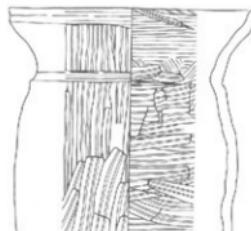
RA047-22(66)



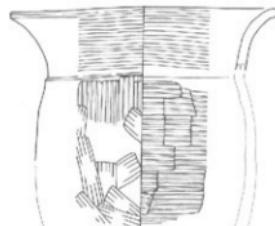
RA047-23(67)



RA047-24(74)



RA047-25(65)

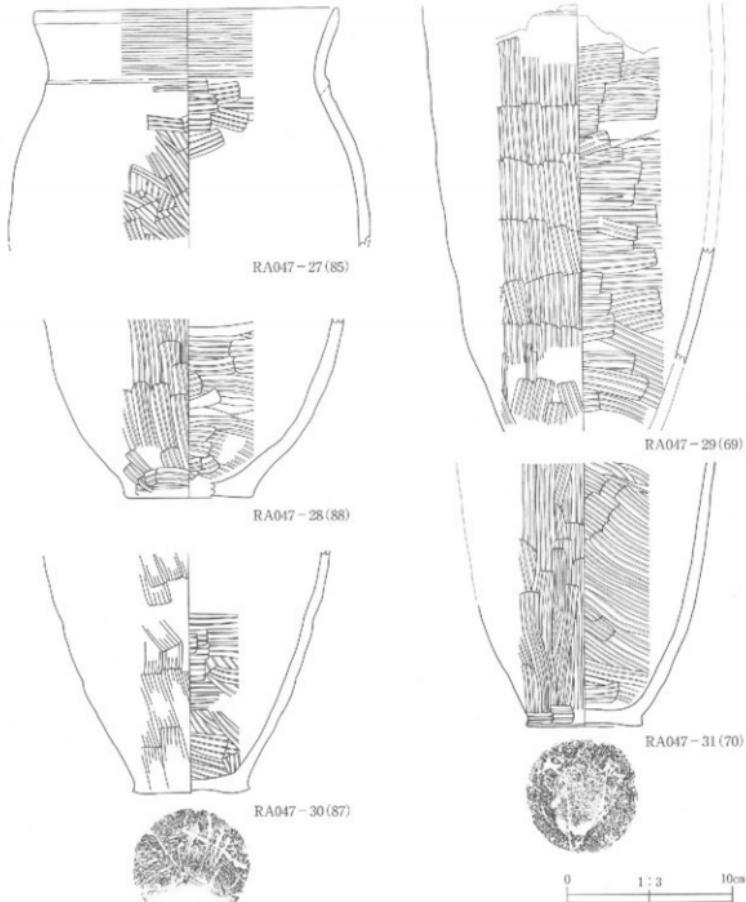


RA047-26(64)

0 1:3 10cm

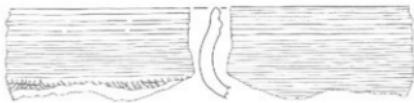
| 編號番号 固號 件號 出土 遺物名 | 写真 要録 | 出土 場所 | 層 位 | 性 質 | 分類 | 外面調整 | | 内部調整 | | 黑色 點狀 斑點 | 計 算 量 (ca.) | 残存率 (%) | 黏土 (含沙物、 色泥等) | 備 考 |
|-------------------------------|----------|---------------------------|--------|--------|------------|-----------|-----|-----------|----|----------------|----------------------|------------|---------------------|---------------|
| | | | | | | 口縁・ 頭部 | 体部 | 底部・ 足部 | 底部 | | | | | |
| RA047-22 42 66 | RA047 | Q4埋土上層、 下地 | 土 | 土 | A 1S Y N H | - | Y N | H - | - | × | (20.4) | - | 12.4 | 30 75Y76-68 |
| RA047-23 42 67 | RA047 | 八幡ト- H.5a5 | 土 | 土 | AIT1 Y N | - | H | Y N | - | × | 20.3 | - | (13.6) 50 | 75Y77-8 直轄 |
| RA047-24 42 74 | RA047 | ペルト-頭土、 P1(2-Q4) Y 磚 | 土 | 土 | A I Y N H | - | Y N | H | - | × | 15.9 | - | 7.0 20 | 75Y78-6 直轄 |
| RA047-25 43 65 | RA047 | G48.1.3.3.3G、 Q1埋土?基盤部 | 土 | 土 | AIT1? Y N | - | Y N | H | - | × | 15.0 | - | 14.0 30 | 75Y78-6 直轄 |
| RA047-26 43 64 | RA047 | Q3埋土上層 | 土 | 土 | AIT2 Y N H | - | Y N | H | - | × | 16.0 | - | (13.6) 50 | 75Y78-4 直轄 |

第65図 RA047 (4) 出土遺物



| 両数番号 | 写真 | 登録番号 | 出土遺物名 | 種 位 | 埋 墓 | 器 物 | 分類 | 外 面 装 置 | | 内 面 装 置 | | 黒色處理 | 計測値(cm) | 共存率 | 检 土 (含 有 物、他 遺 物) | 備 考 | |
|----------|----|------|-------|-------------|-----|-----|------|-----------|---------------|---------|----|------|---------|-----|-------------------|------------|----------------------------------|
| | | | | | | | | 口縁・ 面部 | 体部 | 底面 | 体部 | 底面 | | | | | |
| RA047-27 | 43 | 86 | RA047 | Pt69 | 土 | 甕 | AIT | YN | H | - | YN | H | - | × | (18.4) | - | (17.7) 39 7.5YR6/6Ⅱ |
| RA047-28 | 43 | 88 | RA047 | Q4壇土上層、下層 | 上 | 甕 | A I | - | H | H | - | H | H | × | - | 7.8 (11.1) | 39 7.5YR6/6Ⅱ |
| RA047-29 | 43 | 69 | RA047 | Q3壇土下層、Pt12 | 土 | 甕 | AIT | - | H | - | - | H | - | × | - | (26.3) 40 | 7.5YR6/6Ⅱ |
| RA047-30 | 43 | 87 | RA047 | Q3、Q4下層 | 土 | 甕 | AIT' | - | BN(3) の存在? | 木炭灰 | - | H | H | × | - | 6.3 (14.8) | 39 7.5YR6/4 3.2付第、熱 に由る現により赤茶 |
| RA047-31 | 44 | 70 | RA047 | Ne9 | 土 | 甕 | AIT | - | H | 木炭灰 | - | H | H | × | - | 7.2 (16.3) | 39 7.5YR5.6 内面の一層灰 明瞭 3.2付第 |

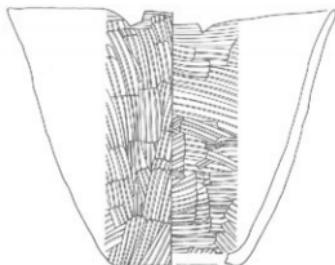
第66図 RA047 (5) 出土遺物



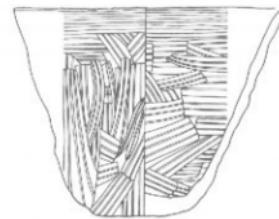
RA047-32 (81)



RA047-33 (68)



RA047-34 (90)

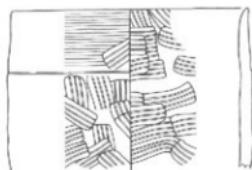


RA047-35 (89)

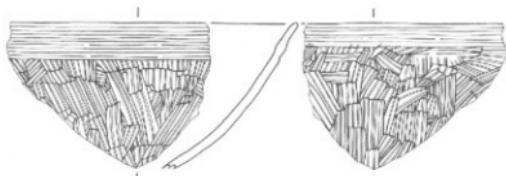
0 1:3 10cm

| 測量番号 | 写真 図版 | 登録 番号 | 出土 場所 | 層 位 | 種 別 | 形種 | 分類 | 外面調整 | | 内面調整 | | | 裏 側 処理 | 計測値 (cm) | | 残存率 (%) | 粘土 (含み、 色調等) | 備 考 | | |
|----------|----------|----------|----------|--------------------------------------|--------|----|------|-----------|----|-------------|-----------|----|--------------|----------|--------|------------|--------------------|-------------------|--------------------|--|
| | | | | | | | | 口縁・ 底盤 | 体部 | 底部 | 口縁・ 底盤 | 体部 | 底部 | 口径 | 底径 | | | | | |
| RA047-32 | 44 | 81 | RA047 | Q4埋土下層 | 土 | 甕 | A I | YN | H | - | YN | - | - | X | - | (5.7) | 10 | 7.5YR6-4/ にぶい櫻 | | |
| RA047-33 | 44 | 68 | RA047 | No5 | 土 | 甕 | AIT | YN | H | - | YN | H | - | X | (16.8) | - | (12.6) | 30 | 7.5YR6-5# | |
| RA047-34 | 44 | 90 | RA047 | Ph2埋土上 | 土 | 甕 | | H YN | H | (孔の有 無有) | YN | H | - | X | (20.0) | - | 15.0 | 90 | 7.5YR6-5# | |
| RA047-35 | 44 | 89 | RA047 | No3-No10 | 土 | 鉢 | | YN | H | - | YN | H | - | X | 16.3 | 4.2 | 12.8 | 50 | 7.5YR4-6# 少しこぼれ | |
| RA047-36 | 44 | 92 | RA047 | Ph9埋土 | 土 | ? | | YN | H | - | H | H | - | X | (14.6) | - | (9.0) | ? | 5YR5-6 明瞭 | |
| RA047-37 | 44 | 91 | RA047 | 埋土上器 | 土 | ? | | VN | H | - | YN | H | - | X | - | - | (9.0) | ? | 7.5YR6-6# | |
| RA047-38 | 45 | 62 | RA047 | 1段目(1段目下層 No.6-1段目上層 No.29.8#) | 土 | 甕 | A IS | YN HK | - | YN | HK | - | X | 13.2 | - | (27.9) | 50 | 7.5YR6-6# | | |

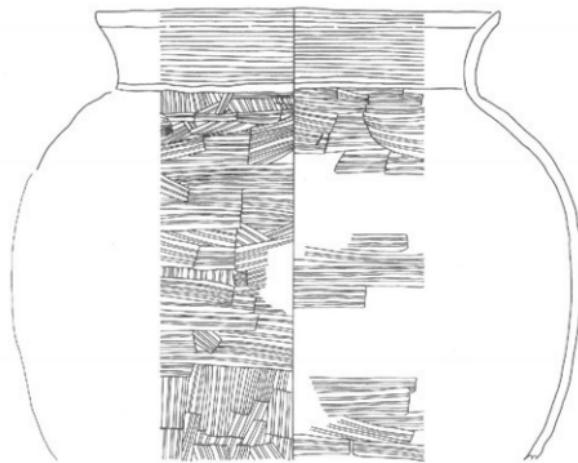
第67図 RA047 (6) 出土遺物



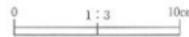
RA047-36(92)



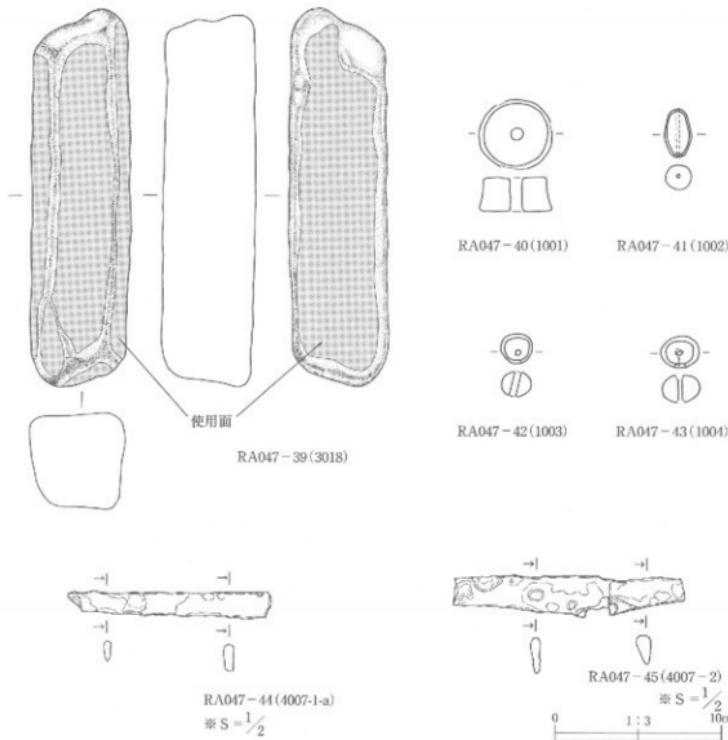
RA047-37(91)



RA047-38(62)

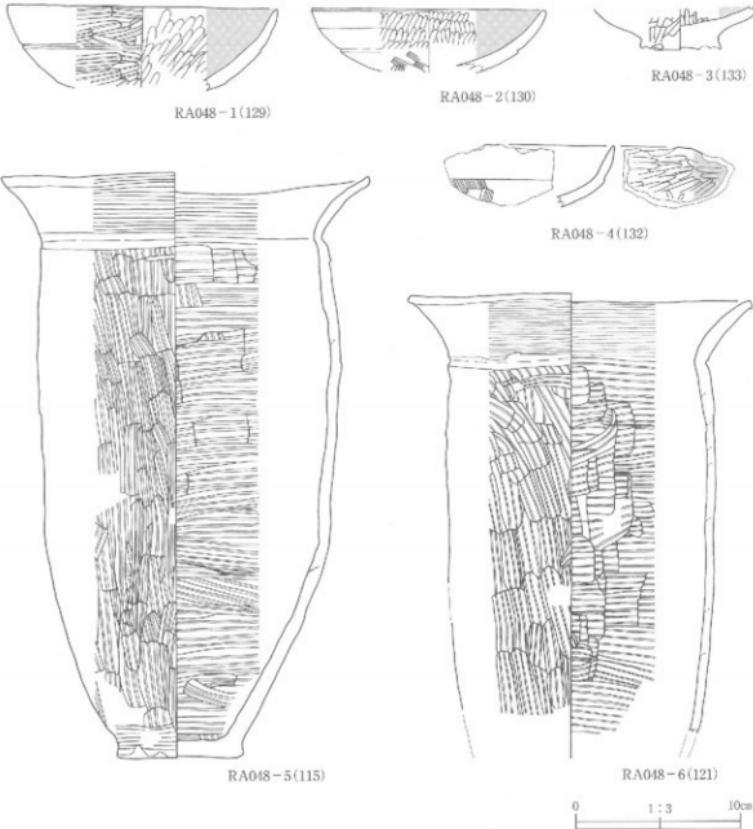


第68図 RA047 (7) 出土遺物



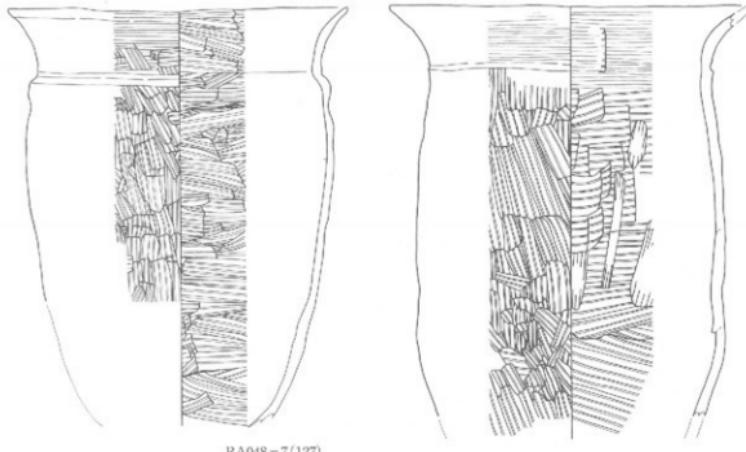
| 西村番号 | 写真 図版 番号 | 出土地点 遺構名 | 出土地点・層位 | 種別 | 重量(g) | 石 砖 | 産出地 | 備 考 |
|----------|-------------------|-------------|----------|-------|--------|--------------------------|------------|----------------|
| RA047-39 | 45 3018 | RA047 | 南ベルト埋土下層 | 眺石 | 147.0 | ダイサイト | 奥羽山脈 | |
| 西村番号 | 写真 図版 番号 | 出土地点 遺構名 | 層 位 | 器 物 | 重 量(g) | 計測値(cm) | 残存率 (%) | 色調 |
| RA047-40 | 45 1001 | RA047 | No.4 | 鉢鉢草 | 44.9 | 径4.5 厚さ2.1 | 完形 | 5YR6/6櫻 |
| RA047-41 | 45 1002 | RA047 | Pit.2 壁上 | 土鉢 | 6.1 | 長さ3.幅1.6 厚さ1.5 | 完形 | 7.5Y2/1櫻 ミガキ有り |
| RA047-42 | 45 1003 | RA047 | Q3埋土下層 | 土玉 | 5.0 | 長径1.9 × 短径1.86 厚さ1.6 | 完形 | 5YR6/6櫻 |
| RA047-43 | 45 1004 | RA047 | 表面直上 | 土玉 | 5.6 | 長径2.25 × 短径1.85 厚さ1.6 | 完形 | 5YR6/6櫻 |
| RA047-44 | 45 4007 1-1 | RA047 | Q3壁上上層 | 種別：刀子 | 6.2 | 長さ(3.5) 幅1.0 厚さ0.4 | | |
| RA047-45 | 45 4007 2 | RA047 | Q3埋土上層 | 種別：刀子 | 13.0 | 長さ(9.5) 幅1.8 厚さ0.4 | | |

第69図 RA047 (8) 出土遺物



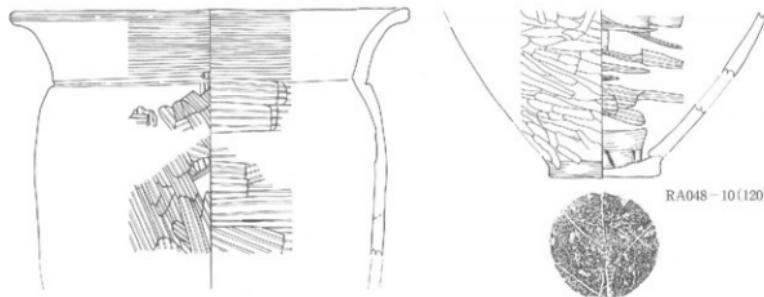
| 箇成番号 | 写真 図版 | 登録 番号 | 出土 遺物名 | 施 位 | 種 別 | 部 位 | 分類 | 外面測定 | | 内部測定 | | 測定箇 所 | 計測値 (cm) | 残存率 (%) | 施 土 (含有物、 色等) | 備 考 | |
|---------|----------|----------|--------------------------|--------|-----------|--------|-----|-----------|----------|----------|----------|----------|-------------|------------|------------------------|------------------------|-------------------------------|
| | | | | | | | | 口径・ 底部 | 体径 底部 | 底部 断面 | 体部 断面 | | | | | | |
| RA048-1 | 46 | 129 | RA048-2 2号セマド遺道 | 土 | 环 | A | I | II | II | - | HM | HM | - | ○ (16.5) | - | (5.1) | 30 7.5YR5/6 明治 セミラク質 |
| RA048-2 | 46 | 130 | RA048-3 堆土上層、 堆土下層 | 土 | 环 | A1M2 | HM | HM | HM | - | HM | HM | - | ○ 14.4 | - | (3.9) | 20 7.5YR6/6 灰 |
| RA048-3 | 46 | 133 | RA048-4 カツラ植生 底盤 | 土 | 萬古台 付付 | - | HK* | - | - | HM | 削減 | ○ | - | (3.6) | (2.5) | 30 7.5YR6/3 にごい質 | |
| RA048-4 | 46 | 132 | RA048-5 Q3埋土下層 | 土 | 环 | A | I | - | II | - | HM | HM | - | ○ - | - | (3.8) | 10 7.5YR6/6 表面 |
| RA048-5 | 46 | 115 | RA048-6 No10底土下層 | 土 | 要 | A1T1 | YN | H | H | YN | H | H | x | 22.5 | 7.8 | 362 定形 明治 | 7.5YR5/6 体部スリット層 |
| RA048-6 | 46 | 121 | RA048-7 No5, No11 | 土 | 要 | A1T1 | YN | H | - | YN | H | H | x | 21.0 | - | (28.8) | 70 7.5YR5/6 灰 |

第70図 RA048 (1) 出土遺物



RA048-7 (127)

RA048-8 (122)



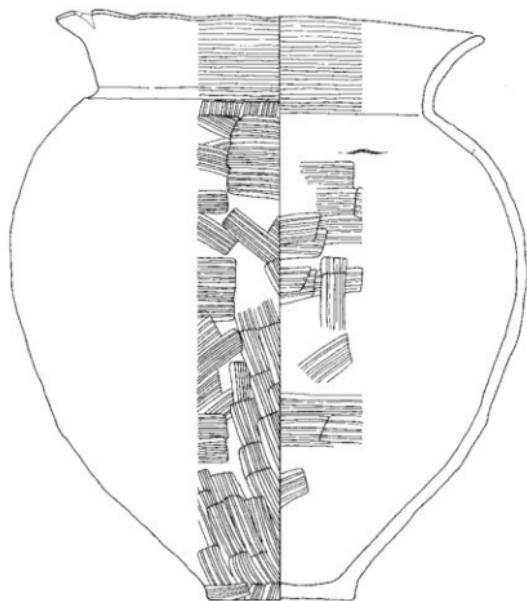
RA048-9 (116)

RA048-10 (120)

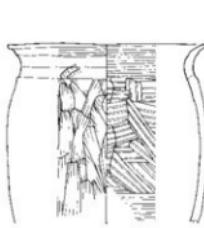
0 1 : 3 10cm

| 採集番号 採取 寸法 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 場所 遺物名 | 層 位 | 種 別 | 形 様 | 分類 | 外面調査 | | 内面調査 | | 計 算 寸 法 基 準 | 計 算 寸 法 | | 残存率 (%) | 土 (含 有 物) 色 調 査 | 備 考 | |
|------------------------|----------------|------------------------|--------|--------|--------|----|----------------|------------|-----------|----------|----------------------------|------------------|-----|------------|-----------------------------------|------------------|--|
| | | | | | | | 上縁 直縁 圓底 | 下縁 Y.N. | 体部 | 底部 | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| RA048-7 47 | 127 | RA048 No.12 | 土 壺 | AIT2 | | H | - | H | H | H | × | (20.0) | - | (26.4) | 50 | 7.5YR6/6棕 | |
| RA048-8 47 | 122 | RA048 No.4 | 土 壺 | AIT YN | | H | - | H Y.N. | H 輪轉壺 | H 輪轉壺 | × | (22.2) | - | (26.7) | 40 | 7.5YR6/6棕 輪轉壺 | |
| RA048-9 47 | 116 | RA048 No.1, No.2 | 土 壺 | AIT YN | H.N. | - | Y.N | 輪轉壺 | - | Y.N | × | (24.8) | - | (37.2) | 30 | 7.5YR6/6棕 灰黑 | |
| RA048-10 47 | 120 | RA048 P1. 丸マフ 縫右 | 土 壺 | AIS? | - | HM | 水葉網 | - | H.N. H | H.N. | × | - | 6.9 | (10.3) | 20 | 7.5YR6/6棕 輪轉壺 | |

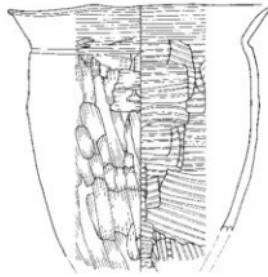
第71図 RA048 (2) 出土遺物



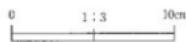
RA048-11(114)



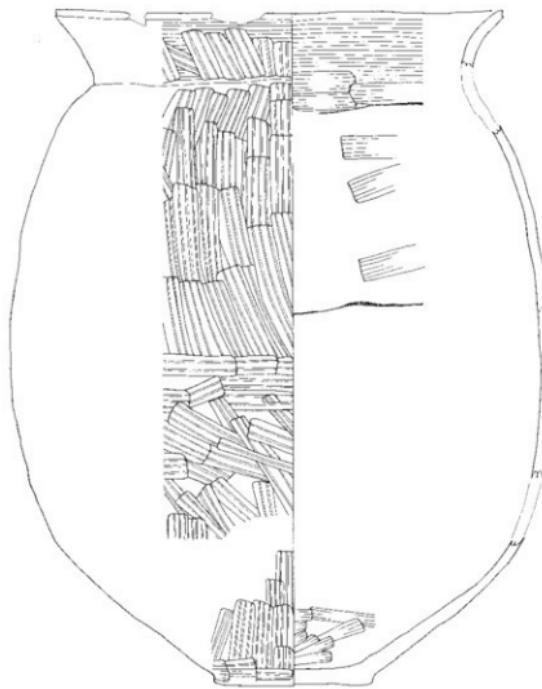
RA048-12(123)



RA048-13(126)



第72図 RA048 (3) 出土遺物

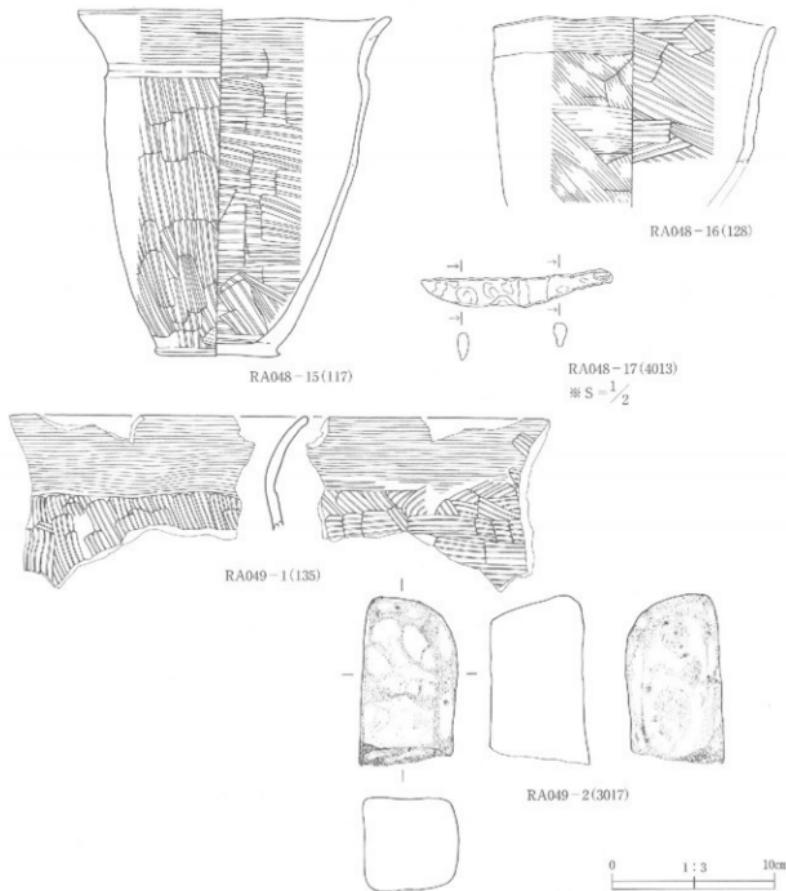


RA048-14 (113a,b)

0 1:3 10cm

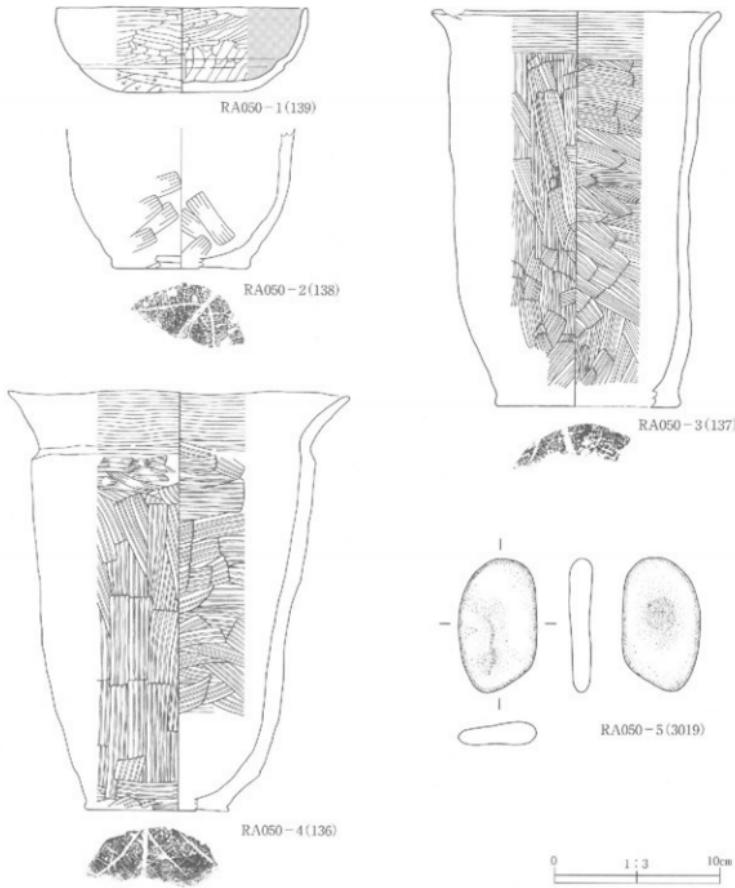
| 実物番号 図版 番号 | 写真 番号 | 出土 番号 | 著 位 | 種 別 | 器種 | 分類 | 外面調整 | | | 内面調整 | | | 計削跡 (cm) | | 残存率 (%) | 地 土 (含着物、 色調等) | 備 考 |
|------------------|----------|------------|----------------------|--------|---------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|----------|--------|------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| | | | | | | | II層 頭部 | III層 頭部 | II層 体部 | III層 頭部 | II層 体部 | III層 体部 | II層 | III層 | 器具 | | |
| RA048-11 | 48 | 114 | RA048 No.2 | 土 壠 | A 1 S | Y N | H | 木葬頭 | Y N | H | - | x | 26.3 | 8.9 | 36.5 | 95 | 75YRS/6層 |
| RA048-12 | 48 | 123 | RA048 No.6, 7, 13 | 土 壠 | 小形 壠 | | H N | H N | - | Y N | H. | - | x | (12.0) | - | (11.0) | 50 LOYES/4 上二三層 全体うすい様子 |
| RA048-13 | 48 | 126 | RA048 No.8 | 土 壠 | 小形 壠 | Y N 2の差 | H N | Y N | H | - | x | 16.2 | - | (16.0) | 80 | 75YRS/6 上2層とH-N-L 明通 E.OB-年金 | |
| RA048-14 | 49 | 113 a,b | RA048 壙上・下層 | 土 壠 | A 1 S | H Y N | H | - | Y N | H N | x | 27.4 | 9.7 | (41.5) | 80 | 75YRS/6層 | |

第73図 RA048 (4) 出土遺物



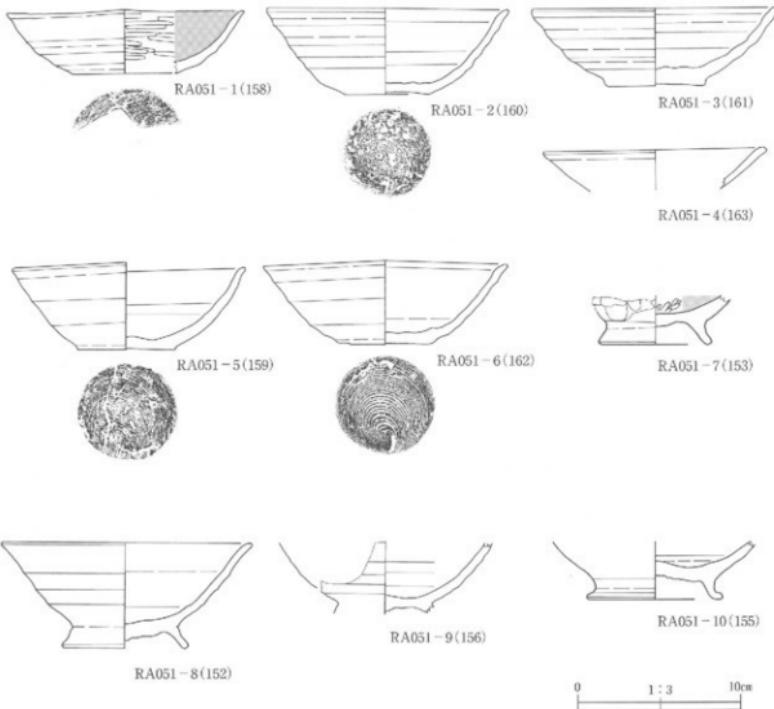
| 同款番号 固版番号 | 写真 要録 | 出土 場所名 | 層 位 | 種 別 | 形種 | 外面測定 | | 内部測定 | | 測定箇(cm) | 残存率 (%) | 胎 土 (含有物, 色調等) | 備 考 | |
|----------------|----------|---|--------|--------|-------|--------------|------------------|--------|----------------|----------|------------|---|------------------------|-----------|
| | | | | | | 分類 | C108 裏面 裏部 | 体部 | 底部 裏部 圓部 | 体部 | 底部 裏部 | 測定箇(cm) | | |
| RA048-15 50 | 117 | RA047 Q105.5mE±17m (-2.1) 通算1.2m 柱下盤 | I. | 壺 | A 1 S | Y N H K | H | - | Y N H | H | - | × 13.2 | - 27.9 30 | 7.5YR6/6暗 |
| RA048-16 50 | 128 | RA048 N.9 | 土? | ? | 輪積壺 | Y N. 輪積壺 | H N | - | Y N. H | H | - | × 19.4 7.7 (21.0) | - 7.5YR3/4 1.5YR4/4 | 完形 柱下盤 |
| RA048-17 50 | 4013 | RA047 Q105.5mE±17m 下盤 | I. | 壺 | A 1 I | Y N. H | - | - | Y N. H | - | - | 計測箇(cm): 長さ8.0 幅1.2 厚さ0.5 (10.7) | 10 | 7.5YR5/6暗 |
| RA049-1 50 | 135 | RA049 下盤 | I. | 壺 | A 1 I | Y N. H | - | - | Y N. H | - | - | 計測箇(cm): 長さ8.0 幅1.2 厚さ0.5 (10.7) | 10 | 7.5YR5/6暗 |
| RA049-2 50 | 3017 | RA049 層位: 柱下盤 | ? | 不明・礫石? | 不明 | 重量(g): 6.0 6 | 石材: 砂岩 | 石材: 砂岩 | 石材: 砂岩 | 石材: 砂岩 | 石材: 砂岩 | 0 | 1:3 | 10cm |

第74図 RA048 (5) · RA049 出土遺物



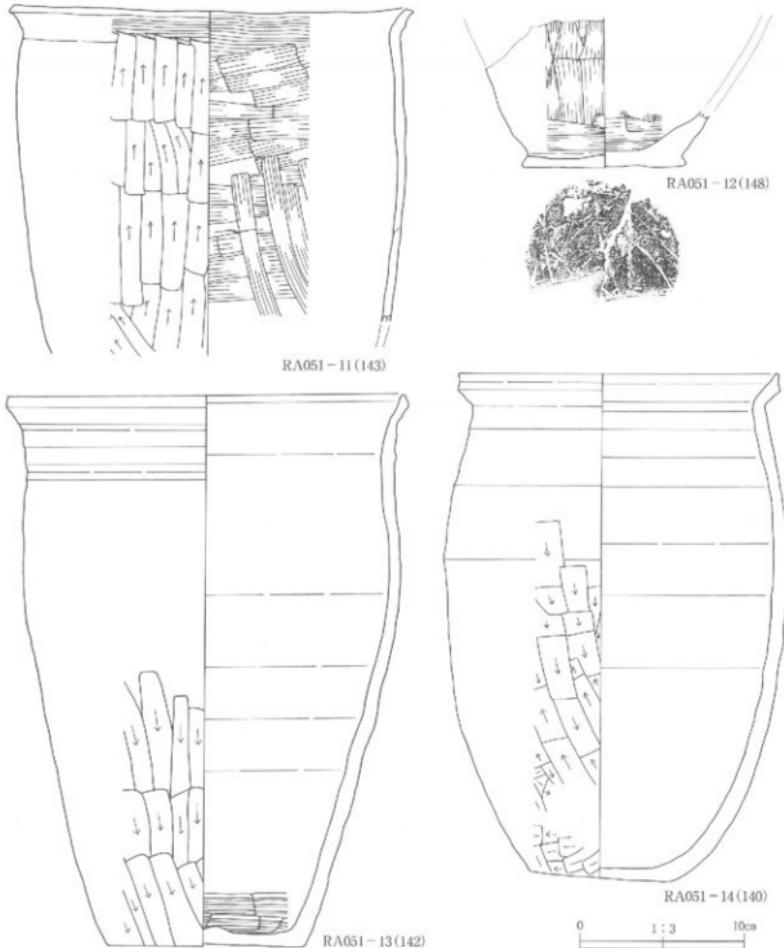
| 器種番号 写真 回数 番号 | 写真 回数 番号 | 出土 遺物名 | 層 位 | 種 別 | 器種 別 | 分類 | 外面調査 | | 内部調査 | | 測定値 (cm) | 直径 横径 | 底径 豊高 | 残存率 (%) | 土 質有無、 色調等 | 備 考 | | |
|------------------------|----------------|-----------|---------------|----------|---------|------|-----------|-----|------|-----|----------|----------|---------------|---------------|------------------|--------------------------|------|------------------|
| | | | | | | | 口縁・ 腹部 | 体部 | 底部 | 体部 | | | | | | | | |
| RA050-1 | 51 | 139 | RA050 No.6 | 土 | 环 | ATM1 | H.M | H.M | H.K | H.M | H.M | ○ | 15.4 | - | 5.3 | 80 7.5YR5/4 E.2v-4 | 内外有段 | |
| RA050-2 | 51 | 138 | RA050 No.5 | 土 | 小懸 垂 | - | H.N | 木葉面 | - | H.N | H.N | x | - | 18.2 (8.7) | 20 | 7.5YR5/6 | | |
| RA050-3 | 51 | 137 | RA050 No.3 | 土 | 塊 | AIT1 | YN | H | 木葉面 | YN | H | H | x | 17.6 | - | 24.6 (8.3) | 70 | 7.5YR5/6 器形不整 |
| RA050-4 | 51 | 136 | RA050 No.2 | 土、塵 | AIT1 | YN | H | 木葉面 | YN | H | H | x | 20.8 (8.3) | 25.9 | 90 | 7.5YR5/6 明肥 | | |
| RA050-5 | 51 | 3019 | RA050 | 器種：カマド煙土 | 種別：灰脚 | | | | | | | | 重量 (g) : 9.0 | 石材：安山岩 | 産出地：長崎市 | 石No.1 | | |

第75図 RAO50 出土遺物



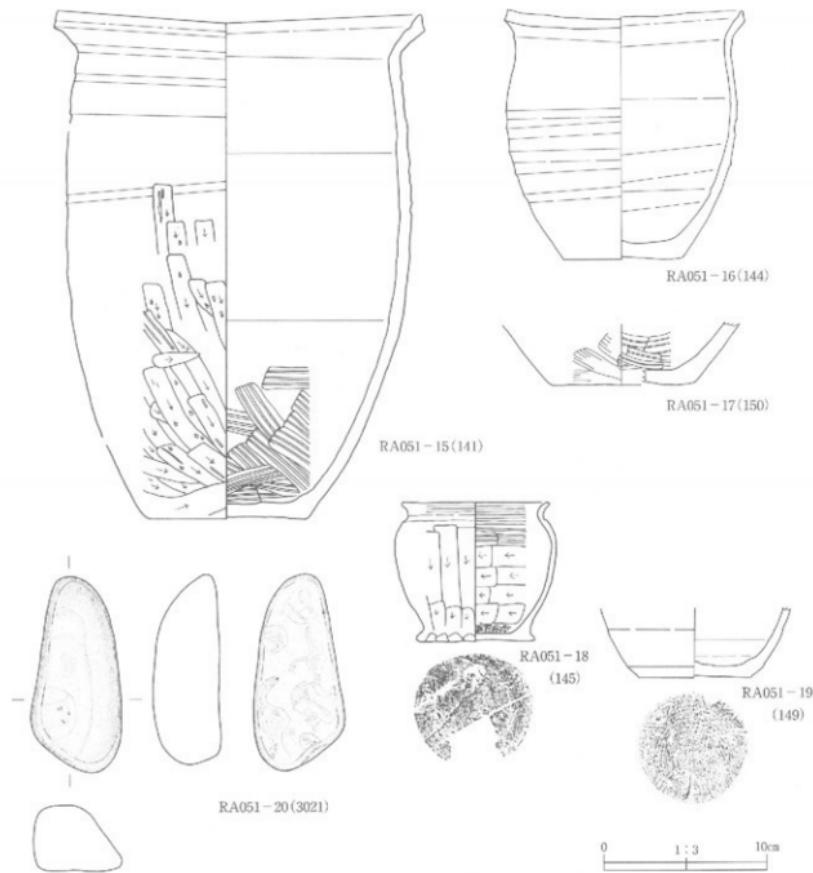
| 馬数番号 | 写真 図版 番号 | 出土 遺物名 | 層位 基調 | 種類 器種 | 分類 | 外面調整 | | | 内部調整 | | | 計測値 (cm) | | | 残存率 (%) | 地土 (有物、 色調等) | 備考 | |
|----------|----------------|-----------|----------|-------------|---------------|-----------|------------|-----|-----------|------------|-----|----------|--------|--------|------------|--------------------|-------------------------------|------------------------------|
| | | | | | | II種 底部 | III種 体部 | 底部 | II種 底部 | III種 体部 | 底部 | 口径 | 底径 | 脚高 | | | | |
| RA051-1 | 52 | 158 | RA064 | 埋土上層・ 下層 | 土 壁 | I A 2 | R N | R N | 圓輪 系切 | H M | H M | - | ○ | (13.6) | (6.2) | 4.0 | 30 | 10YR5/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 |
| RA051-2 | 52 | 160 | RA051 | Ne22 | 土 壁 | I B 2 | R N | R N | R NT | R N | R N | x | 14.8 | 5.2 | 3.3 | 完形 | 7.5YR6/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 | |
| RA051-3 | 52 | 161 | RA051 | Ne20 | 土 壁 | I B 2 | R N | R N | 圓輪 系切 | R N | R N | x | 15.0 | 6.0 | 4.8 | 50 | 7.5YR6/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 | |
| RA051-4 | 52 | 163 | RA064 | 埋土下層 | 土 壁 | I B | R N | R N | - | R N | R N | - | x | (13.8) | - | (2.5) | -10 | 5YR6/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 |
| RA051-5 | 52 | 159 | RA051 | 埋土中層 | 土 壁 | I B 2 | R N | R N | 圓輪 系切 | R N | R N | x | 14.2 | 6.0 | 5.4 | 90 | 7.5YR6/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 | |
| RA051-6 | 52 | 162 | RA051 | Patl | 土 壁 | I B 2 | R N | R N | 圓輪 系切 | R N | R N | x | (14.8) | 6.0 | 5.2 | 30 | 5YR6/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 | |
| RA051-7 | 52 | 153 | RA064 | Patl | 土 高台 付环 | - | R N | R N | - | H M | H M | ○ | - | 7.0 | (3.0) | 30 | 7.5YR6/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 | |
| RA051-8 | 52 | 152 | RA061 | 2号カマド埋 上 | 土 高台 付环 | - | R N | R N | R N | R N | R N | x | (15.0) | 7.7 | 6.5 | 60 | 5YR6/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 | |
| RA051-9 | 52 | 156 | RA051 | 埋土上層 | 土 高台 付环 | - | R N | R N | - | R N | R N | - | x | - | (6.0) | (4.4) | 20 | 5YR6/6 赤茶色を呈する 底の部分が少 |
| RA051-10 | 52 | 155 | RA051 | 埋土上層 | 土 付环 | - | R N | R N | - | R N | R N | x | - | (8.0) | (3.4) | 10 | 5YR5/6 明赤褐色 | |

第76図 RA051 (1) 出土遺物



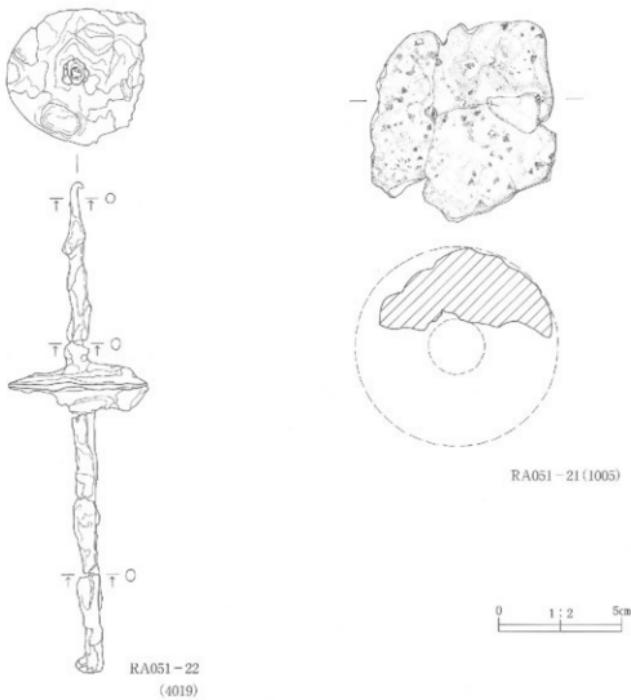
| 開闢番号 | 写真 | 登録 | 出土 | 層位 | 種別 | 器種 | 分類 | 外側調査 | | 内面調査 | | 埋 入 場 所 | 計 幅 (cm) | 残存率 | 胎 土 (含 有 物、 色 調 等) | 様 考 | |
|----------|----|-----|-------|---------------------------|----|----|-----------|--------------------|-----|-----------|-----|------------------|----------------|----------|---|--------------------------|-------------------------------|
| | | | | | | | | 口縁・ 底部 | 体部 | 口縁・ 底部 | 体部 | | | | | | |
| RA051-11 | 53 | 143 | RA051 | Na21、油粗土 埋土下層 | 土 | 甕 | T A YN HK | — | YN | H N | — | × | 34.8 | — | (20.6) 50 | 2.5YR5/6 明窓 | 「アホ二」型に 属する甕。口縁に 横溝がある。 |
| RA051-12 | 53 | 148 | RA051 | PtG7, Pt1 | 土 | 甕 | A 1? | — | HN | 木製底 | — | H N | H N | — | 9.5 (9.2) 20 | 2.5YR5/3 体部下部スヌ 付着 | 2.5YR5/3 体部下部スヌ 付着 |
| RA051-13 | 53 | 142 | RA051 | 甕下下層、ペルナ 埋土Na13.6.17.2 | 土 | 甕 | I A RN | E&F 縫の痕 手EN有 | R N | R N | H | × | 25.0 | 12.0 | 33.3 80 | 2.5YR5/6 砂成土器? | 「アホ二」型に 属する甕。底に 横溝がある。 |
| RA051-14 | 53 | 140 | RA051 | Na17.15.13.21 | 土 | 甕 | I A RN | HK | 砂底 | R N | R N | R N | — | 19.5 8.6 | 31.2 90 | 2.5YR5/6 砂成土器? | 「アホ二」型に 属する甕。底に 横溝がある。 |

第77図 RA051 (2) 出土遺物



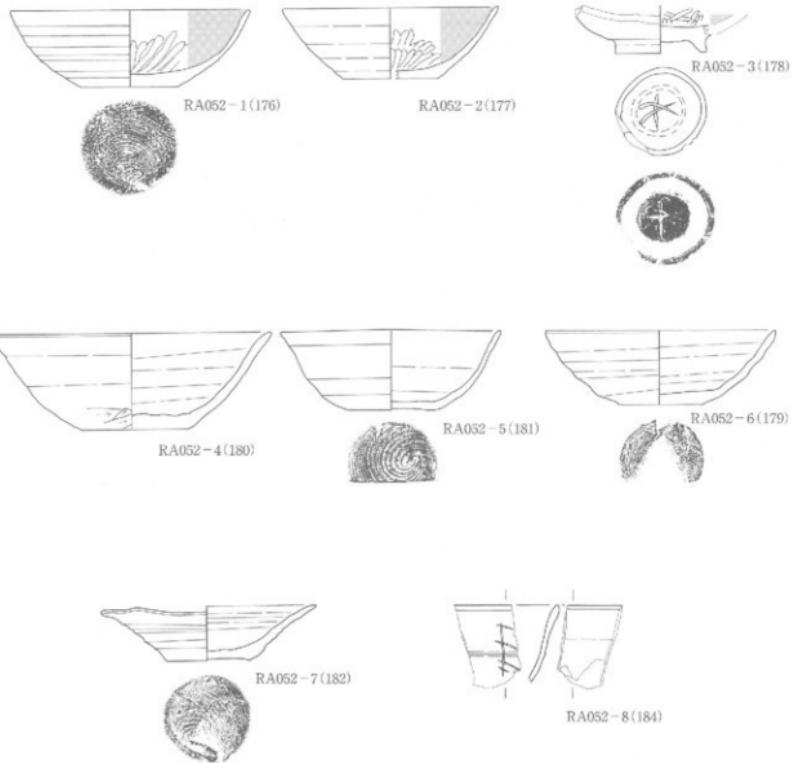
| 測定番号 | 写真 図版番号 | 登録番号 | 出土遺物名 | 施位 | 種別 | 着目 | 分類 | 外面調査 | | | 内面調査 | | | 測定値 (cm) | 残存率 (%) | 新土 (含有物、 色調等) | 備考 | | |
|----------------|------------|-------|------------------------------------|--------------|----|----|-------|-----------------------|----------------|----|-----------|----|----|---------------|---------|---------------------|---------------|-------------------------|----------|
| | | | | | | | | 口縁・ 頭部 | 体部 | 底部 | 口縁・ 頭部 | 体部 | 底部 | | | | | | |
| RA051-15 54 | 141 | RA051 | No16.17. 泥土下層 カマド埋土、 泥土下層 | 土 要 | I | A | RN | 口縁・ 頭部 付近 付近 | II 付近 付近 | RN | H | H | x | 21.8 | 9.8 | 31.5 | 50 | 7SYR6-69 付近 付近 | |
| RA051-16 54 | 144 | RA051 | カマド埋土、 泥土下層 | 土 小屋 要 | | | | RN | RN | RN | RN | RN | RN | x | 14.5 | 7.2 | 15.4 | 60 | 7YRG-852 |
| RA051-17 54 | 150 | RA051 | 瓦床埋土 | 土 要 | I | B | - | HK | 砂底 | - | H | H | x | - | 8.6 | (3.7) | 10 | 7SYR5-6 砂底土器 明周 | |
| RA051-18 54 | 145 | RA051 | 埋土上層 | 土 小屋 要 | | | | YN 付近 付近 | 木漆痕 | YN | H HK | H | x | (5.8) | 7.2 | 8.7 | 70 | 7SYR4-6 小里、うすい 刷毛 | |
| RA051-19 54 | 149 | RA051 | No24. 磁道石 の下 | 土 要 | I | A | RN | RN | 凹板 系切 | RN | RN | RN | x | - | 7.0 | (4.2) | 20 | 7SYR5-6 底盤 | 底盤を明周 |
| RA051-20 54 | 3021 | RA051 | 輪位：床面 | | | | 種別：不明 | | | | | | | 重量 (g) : 39.0 | | 石材：安山岩 | 表面均一 GNo.1 | | |

第78図 RA051 (3) 出土遺物



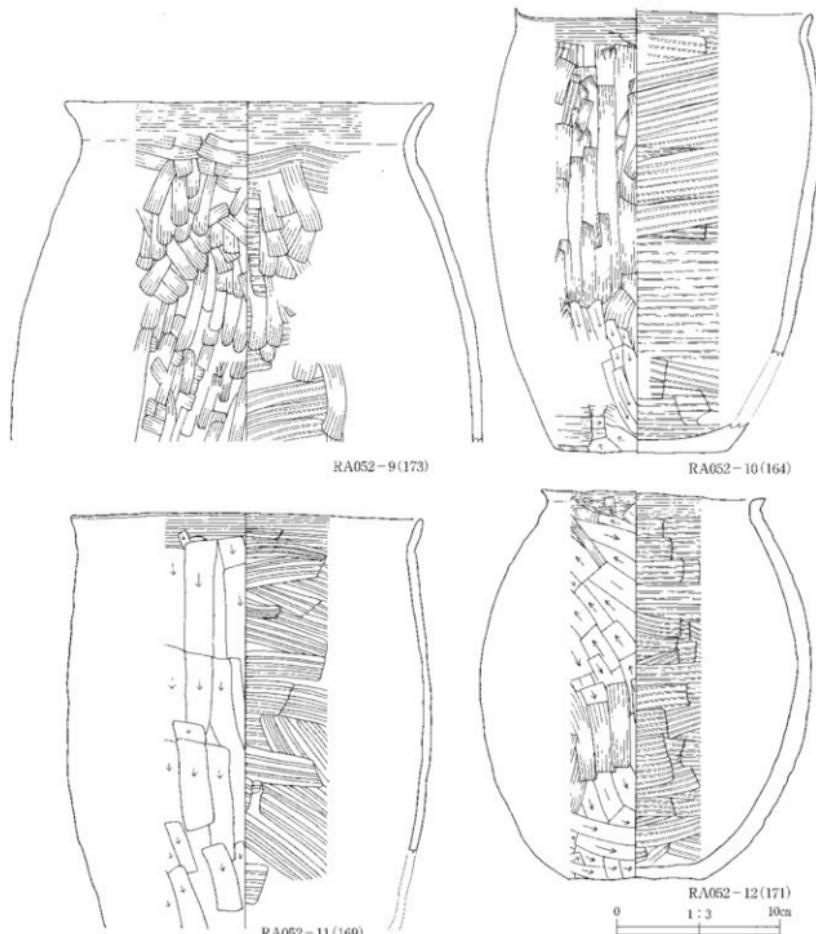
| 高級番号 次第 | 写真 番号 | 壁掛 番号 | 出土 遺物名 | 層位 | 種別 | 重量(g) | 外径(cm) | 内径(cm) | 備考 |
|----------------|----------|----------|-----------|----------|----|-------|-------------------|-----------------|----------------|
| RA051-21 54 | 1005 | RA051 | 漆土上層 | 剥口(土製品) | | 90.20 | 残存長8.4 | 外径(8.2) 内径(2.4) | |
| RA051-22 54 | 4019 | RA051 | 住居ベルト地上 | 筋鉢車(鉄製品) | | 61.18 | 長さ26.7 幅5.4 厚さ0.3 | | 輪と厚さは 半形を計算 |

第79図 RA051 (4) 出土遺物



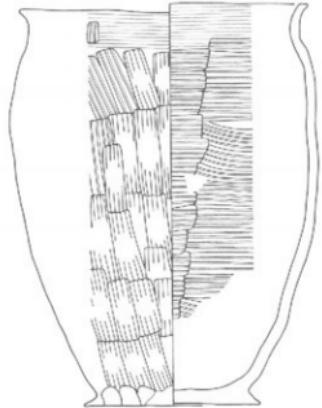
| 査証番号 図版番号 | 厚異 登録 出土 年号 | 出 土 地 名 | 層 位 | 種 類 | 器種 | 分類 | 外面調査 | | | 内面調査 | | | 黒色斑斑 度 | 計測値(cm) | 残存率 (%) | 粘 土 (含 有 物、 色 調等) | 備 考 | |
|---------------|----------------------|------------------|----------------|--------|-----------|-------|----------|-----|-----|----------|-----|-----|-----------|---------|------------|-------------------------------------|-----------------|-----------------|
| | | | | | | | 口縁 型態 | 体部 | 底部 | 口縁 頸部 | 体部 | 底部 | | | | | | |
| RA052-1 53 | 176 | RA052 | Pit1堆土中 | 土 | 坏 | I A 2 | R N | R N | H M | H M | - | O | (14.6) | 5.8 | 4.75 | 70 | 7.5YR6/5 赤土色 | |
| RA052-2 53 | 177 | RA052 | Q3 | 土 | 坏 | I A 2 | R N | R N | H M | H M | H M | O | (12.2) | (5.8) | 4.4 | 70 | 7.5YR6/4 赤土色 | |
| RA052-3 53 | 178 | RA052 | 燃焼部堆土 | 土 | 高台 付近? | I A | - | R N | R N | - | H M | H M | O | - | 5.6 | 3.0 | 30 | 7.5YR6/2 灰褐色 |
| RA052-4 53 | 180 | RA052 | カマド北側、 堆土部分 | 土 | 坏 | I B 1 | R N | R N | H K | R N | R N | R N | x | 17.2 | 6.0 | 5.9 | 50 | 7.5YR6/4 灰褐色 |
| RA052-5 53 | 181 | RA052 | カマド南? | 土 | 坏 | I B 2 | R N | R N | H K | R N | R N | R N | x | (12.5) | (5.4) | 5.0 | 50 | 7.5YR6/4 灰褐色 |
| RA052-6 56 | 179 | RA052 | Pit1堆土中 | 土 | 坏 | I B 2 | R N | R N | H K | R N | R N | R N | x | 14.2 | 5.1 | 4.6 | 60 | 7.5YR6/4 灰褐色 |
| RA052-7 55 | 182 | RA052 | Nal | 土 | 坏 | I B 2 | R N | R N | H K | R N | R N | R N | x | 13.2 | 5.2 | 3.3 | 70 | 7.5YR6/4 灰褐色 |
| RA052-8 55 | 184 | RA052 | 燃焼部堆土 | 土 | 坏 | I B | R N | R N | - | R N | R N | - | x | - | - | (4.8) | 10 | 7.5YR6/6 灰褐色 |

第80図 RA052 (1) 出土遺物

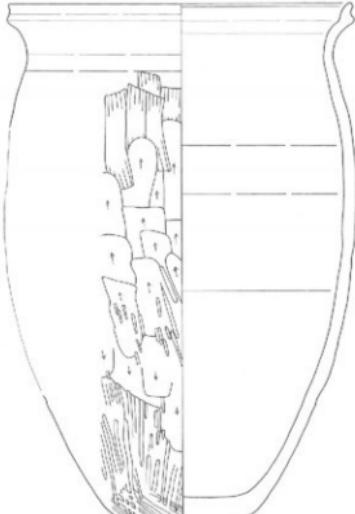


第81図 RA052 (2) 出土遺物

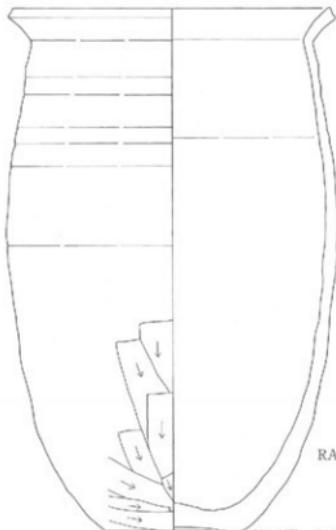
| 件数番号 | 厚 | 地點 | 出土 回収 番号 | 層 位 | 種 別 | 器種 | 分類 | 外観調整 | | 内観調整 | | 周 長 mm | 計測値 (cm) | 残存率 (%) | 地 土 (含 有 物 と 色 調 等) | 備 考 | | | |
|----------|----|-----|----------------|---------------------|--------|--------|----------------------|----------|----------|------------|----------|--------------|-------------|------------|---|--------------------------------|----|---------------|------|
| | | | | | | | | 口縁 隔壁 | 体部 隔壁 | 口縁 隔壁 | 体部 隔壁 | | | | | | | | |
| RA052-9 | 35 | 173 | RA052 | カマドN2.10. 燃焼部分 | 土 壠 | 土 壠 | I B Y N H N | - | Y N | H N - H | - | × (22.8) | - (20.9) | 30 | SYES-6 引出物 | | | | |
| RA052-10 | 56 | 164 | RA052 | カマド北裏コ- ナ-、セマド付近 | 土 壠 | 土 壠 | I B Y N H N - H H | Y N | H | H | × | 18.2 | 10.5 | 27.5 | 80 | 75TR/6個 一端口縁のゆ がひ大き い | | | |
| RA052-11 | 56 | 169 | RA052 | カマドN2.35.上 | 土 壠 | 土 壠 | I B Y N H K | - | Y N | H | × | (21.6) | - | (25.8) | 60 | 75TR/6個 内側へラケス り組 | | | |
| RA052-12 | 56 | 171 | RA052 | カマドN2.35.ベルト | 土 壠 | 土 壠 | I B Y H N | H K | 沙底 | Y N | H | II | × | 13.8 | 8.4 | 23.9 | 90 | SYES-6 引出物 | 砂底下器 |



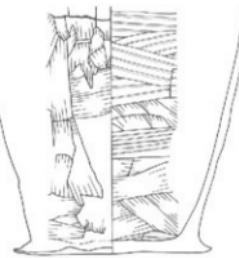
RA052-13(167)



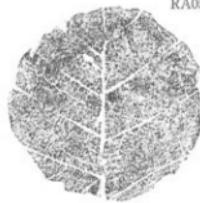
RA052-14(165)



RA052-15(166)

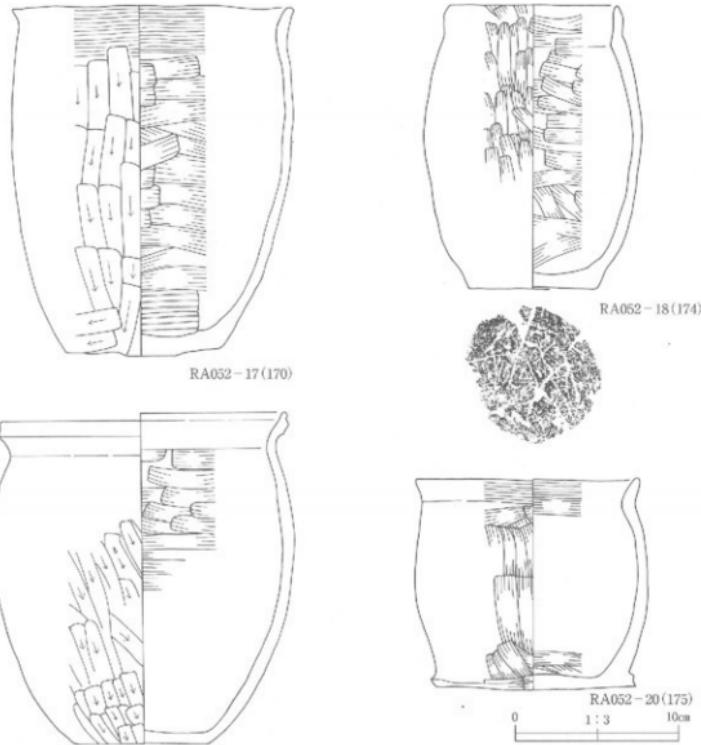


RA052-16(172)



0 1 : 3 10cm

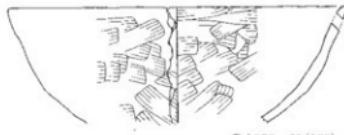
第82図 RA052 (3) 出土遺物



RA052-19 (168)

第83図 RA052 (4) 出土遺物

| 海歎番号 国版 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 地點 名 | 層 位 | 種 別 | 器種 | 分類 | 外側調整 | | 内側調整 | | 黒色 處理 | 計測値 (cm) | 残存率 (%) | 備 考 | | | | | |
|------------------|----------------|---------------|-----------------------|--------|------|----|-----------|----|-----------|----------|----------|----------|------------|--------|--------|--------|--------------|--------------|--------------|
| | | | | | | | 口縁 断面 | 体部 | 底部 | 口縁 断面 | 体部 | 底部 | | | | | | | |
| RA052-13 57 | 167 | RA052 | カマド窯場、表土 部分、セマウル付近 | 土 裏 | AIT3 | YN | H | H | HN | 木葉面 | YN | H | 17.6 | 10.7 | 24.8 | 95 | 75%6/6周 等 | | |
| RA052-14 57 | 165 | RA052 | カマド窯場、表土 部分、セマウル付近 | 土 裏 | I | AR | RN | HN | 沙漠 | RN | HN | - | × | (21.0) | (8.4) | 31.8 | 70 | 5%6/6周 等 | |
| RA052-15 58 | 166 | RA052 | カマド窯場、 カマドペルト | 土 裏 | I | AR | RN | HK | 太く 太く | - | RN | RN | - | × | (19.4) | 8.4 | 32.5 | 70 | 75%6/6周 等 |
| RA052-16 58 | 172 | RA052 | 窯土部分、 カマド付近135 | 土 裏 | A | I | - | HN | 木葉面 | - | HN | H | × | - | 12.2 | (15.5) | 10 | 75%6/6周 等 | |
| RA052-17 58 | 170 | RA052 | N-12 | 土 裏 | 小判 | YN | HK | HK | 一 或の底面 | YN | HN | H | × | 17.2 | 9.5 | 21.7 | 90 | 10%6/6周 等 | |
| RA052-18 58 | 174 | RA052 | カマド埋土、 ペルト | 土 裏 | 小判 | HN | HK | HN | HN | HN | H | H | × | 10.4 | 8.0 | 17.6 | 50 | 10%6/6周 等 | |
| RA052-19 59 | 168 | RA052 | N-2.9 | 土 裏 | 小判 | RN | HK (下) | - | RN | HN | 木葉面 | HN | × | (17.6) | 8.6 | 20.7 | 80 | 75%6/6周 等 | |
| RA052-20 59 | 175 | RA052 | 堆土上層、下層 土 裏 | 小判 | YN | HN | HK | YN | HN | HN | HN | HN | × | (13.5) | 12.3 | 12.9 | 60 | 10%6/6周 等 | |



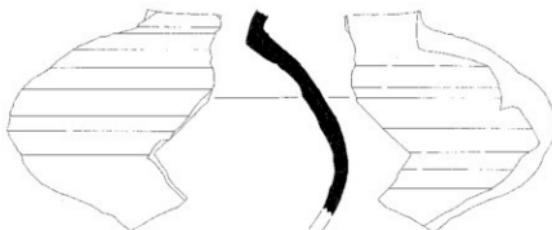
RA052-21 (183)



RA052-23 (224)



RA052-22 (223)

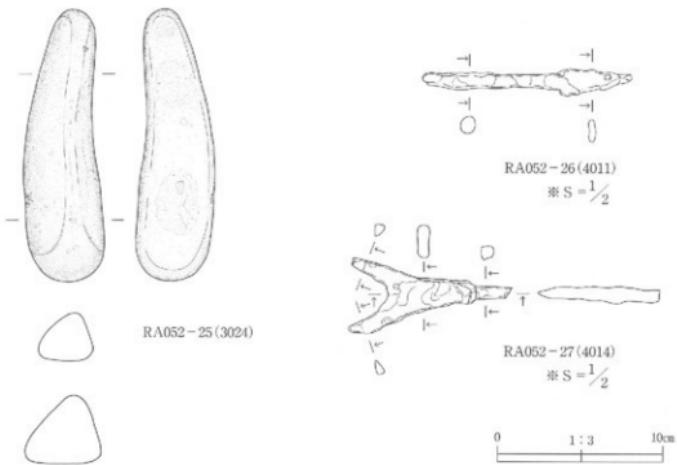


RA052-24 (225)

0 1:3 10cm

| 掲載番号 回数 | 写真 番号 | 量産 番号 | 出土 場所名 | 層位 | 種 別 | 器形 | 分類 | 外周調査 | | 内部調査 | | a) 断面 径 直 径 (mm) | 残存率 (%) | 動 物 (含 有 物 , 色 調 等) | 備 考 | | |
|----------------|----------|----------|-----------|-----------|--------|-------|-----|---------------|-----------------|------|---------------|------------------------------|------------|---|--------|----|--------------------------|
| | | | | | | | | 口縁 ・ 底縁 | 体部 | 底厚 | 口縁 ・ 底縁 | 体部 | 底厚 | 口径 | 裏接 | 跡高 | |
| RA052-21 59 | 183 | RA052 | 理工小屋 | - | 瓶? | A T | IIN | IIN | - | IIN | - | x | (20.9) | - | (7.2) | 20 | SYRS-6 縫合孔 全体的に細い。 |
| RA052-22 59 | 223 | RA052 | Q2上層 | 須 | 甕 | E A | RN | RN | 須 RIN WLN | RN | RN | x | - | 11.4 | (9.8) | 20 | N4/0R |
| RA052-23 59 | 224 | RA052 | Q2上層 | 須 (須頭) | 甕 | E A R | RN | RN | - | RN | RN | x | - | - | (15.2) | 20 | N4/0R |
| RA052-24 59 | 225 | RA052 | Q2上層 | 須 須頭 | 甕 | E A R | RN | RN | - | RN | RN | x | - | - | (13.6) | 10 | N4/0R |

第84図 RA052 (5) 出土遺物

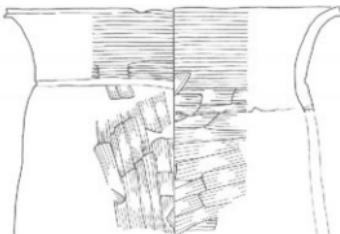


| 高載番号 区段 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 遺物名 | 層位 | 種別 | 重量(g) | 石材 | 発出地 | 備考 |
|------------------|----------------|-----------|-------|---------|-------|-------|---|------|
| RA052-25 | 59 | 3024 | RA052 | 櫻邊部埋土中層 | 不明 | 41.0 | 砂岩 | 奥羽山脈 |
| RA052-25 | 59 | 4011 | RA052 | Q4埋土中層 | 鉄器 | 5.20 | 計測値(cm): 長さ(8.5) 幅1.0 厚さ3.2 | |
| RA052-27 | 59 | 4014 | RA052 | 堆上 | 管状式鉄器 | 11.80 | 計測値(cm): 長さ(6.8) 幅(3.0) 厚さ1.6 幅は刃先の部分で計測 | |

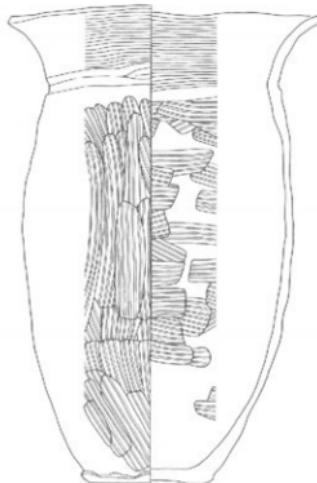
第85図 RA052 (6) 出土遺物



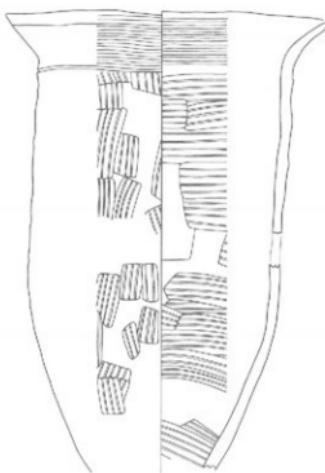
RA053-1(185)



RA053-2(189)



RA053-3(188)

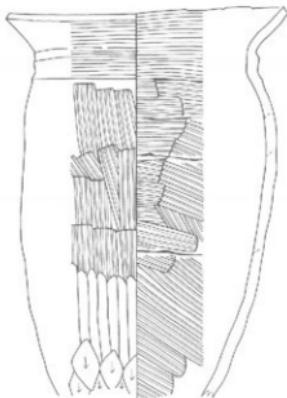


RA053-4(187)

0 1 : 3 10cm

| 調査番号 | 厚真 | 登録 | 出土 | 層位 | 種別 | 器種 | 分類 | 外面調査 | | 内部調査 | | 測定値(cm) | 残存率 | 胎土 (含有物、 色調等) | 備考 |
|---------|----|-----|-------|---------------|----|----|------|-----------|----|-----------|----|---------|-----|---------------------|--|
| | | | | | | | | 口縁・ 底部 | 体部 | 口縁・ 底部 | 体部 | | | | |
| RA053-1 | 60 | 185 | RA053 | No.1 | | 土 | 杯 | AIT1 | HM | HM+ | H | 11.5 | - | 4.3 | 50 内外面段、内 側面 圓滑 |
| RA053-2 | 60 | 189 | RA053 | 床面、No.8 | 上 | 甕 | AIT1 | YN | HN | - | YN | HN | - | × (20.0) | 20 10YR6/6 明窓 |
| RA053-3 | 60 | 188 | RA053 | No.4 | 土 | 甕 | AIT1 | YN | H | - | YN | H | - | × 18.4 | 6.8 75YR6/6 口の窓大。 No.871に似る。 |
| RA053-4 | 60 | 187 | RA053 | 堆土上層、 No.1 | 土 | 甕 | AIT1 | YN | H | - | YN | H | - | × 19.5 | - 28.5 75YR6/6 口の窓大。 No.1881に似る。 |

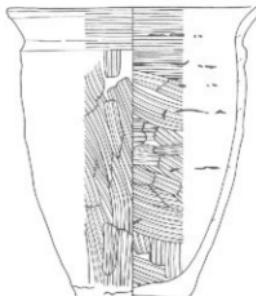
第86図 RA053 (1) 出土遺物



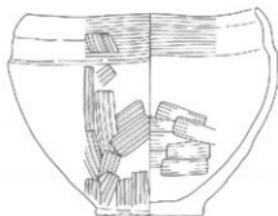
RA053-5 (186)



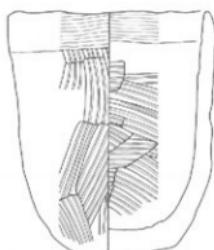
RA053-6 (193)



RA053-7 (190)



RA053-8 (194)



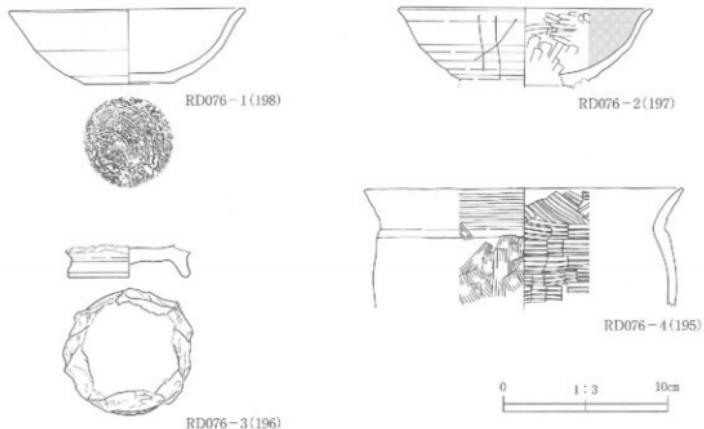
RA053-9 (15)



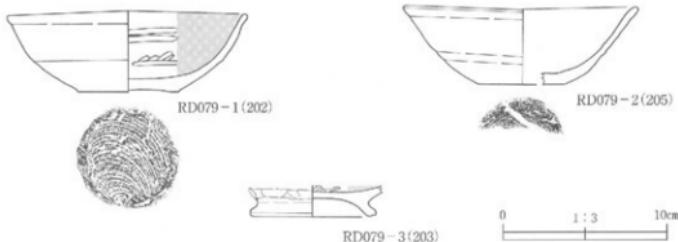
0 1 : 3 10cm

| 陶器番号 図版 写真 登録 番号 | 出土 場所 遺構名 | 層 位 | 種 別 | 分類 形態 | 外腹調整 | | | 内腹調整 | | | 計復量 (cm) 焼 成 | 残存率 (%) | 地 土 (含 物, 色 調等) | 備 考 |
|------------------------------|-------------------|----------|--------|-----------|------------------------------|----------|----------|----------------|----------|----------------|-----------------------|------------|--------------------------------|-------------------------------|
| | | | | | 口縁 部 | 体部 直部 | 底部 溝部 | 体部 直部 | 底部 溝部 | 口径 底径 器高 | | | | |
| RA053-5 61 186 | RA053 No7 | 上 床 | AIT2 | YN H-K | H-HM | YN | H | - | x | 16.8 | - | (23.9) | 90 | 7.5YR6/8P |
| RA053-6 61 193 | RA053 床面, Ph.B | 土 床 | AIT? | - | H-N (?) 木製の 今までの 底板 | - | H | 11.5cm 重り付人 | x | - | 7.9 | (9.1) | 20 | 7.5YR3/4 2.5-4.5cm |
| RA053-7 61 190 | RA053 Ph4 | 土 小型窓 | △ | YN H | H-K? | YN | H | H | x | 15.2 | 6.7 | 18.0 | 50 | 7.5YR3/6 明期 |
| RA053-8 61 194 | RA053 No5 | E ? | △ | YN H | 木製窓 (窓内) | YN | H | - | x | 14.0 | 6.6 | 12.5 | 完形 | 7.5YR6/6P 黒った形 |
| RA053-9 61 15 | RA053 埋土中 | 土 ? | △ | YN H | H-K | YN | H | H | x | 12.4 | 7.0 | 14.8 | 完形 | 7.5YR6/6P 体部全体に長 めのハケメ入 |

第87図 RA053 (2) 出土遺物



| 発見番号 団版 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 場所 名 | 層 位 | 種 別 | 形 態 | 分類 | 外面調整 | | 内面調整 | | 基 準 | 計 測 値 (cm) | 残 存 率 (%) | 地 土 (含 有 物, 色 調 等) | 備 考 | | | | |
|------------------|----------------|---------------|--------|-------------|--------|----------|-----------|-----|------|-----------|--------|---------------------|--------------------|---|--------|-------|----|----------|---------------------------------|
| | | | | | | | 口縁・ 底盤 | 体部 | 底盤 | 口縁・ 底盤 | 体部 | 底盤 | | | | | | | |
| RD076-1 | 62 | 198 | RD076 | 突出面 | 土 | 環 | I B 2 | R N | R N | 圓軸 系切 | R N | R N | x | (14.4) | 5.4 | 4.6 | 50 | 7.5VR5-6 | 木の子立と漆塗 タガメの子立と漆塗 木の子立と漆塗 |
| RD076-2 | 62 | 197 | RD076 | 埋土上層 突出面 | 土 | 高台 台跡 | | R N | R N | - | H M | H M | - | (14.6) | - | (4.9) | 20 | 7.5VR6-6 | 木の子立と漆塗 タガメの子立と漆塗 木の子立と漆塗 |
| RD076-3 | 62 | 196 | RD076 | 埋土下層 台跡 | 土 | 高台 台跡 | - | - | R N | - | - | R N | x | - | 7.4 | (2.0) | 20 | 7.5VR6-8 | 人馬像に次ぐ大き い木の子立と漆塗 |
| RD076-4 | 62 | 195 | RD076 | 埋土上層 | 土 | 先 | I B V N | H N | - | H | H | - | x | (19.4) | - | (7.2) | 10 | 5VR5-6 | 明治期 |



| 発見番号 団版 番号 | 写真 登録 番号 | 出土 場所 名 | 層 位 | 種 別 | 形 態 | 分類 | 外面調整 | | 内面調整 | | 基 準 | 計 測 値 (cm) | 残 存 率 (%) | 地 土 (含 有 物, 色 調 等) | 備 考 | | | | |
|------------------|----------------|---------------|--------|--------|--------|----------|-----------|-----|------|-----------|--------|---------------------|--------------------|---|--------|-----|----------|----------|--------|
| | | | | | | | 口縁・ 底盤 | 体部 | 底盤 | 口縁・ 底盤 | 体部 | 底盤 | | | | | | | |
| RD079-1 | 62 | 202 | RD079 | 埋土 | 土 | 環 | I A 2 | R N | R N | 圓軸 系切 | H M | H M | - | (14.4) | 6.2 | 6.0 | 40 | 7.5VR5-6 | 出土金須耳入 |
| RD079-2 | 62 | 205 | RD079 | 埋土 | 土 | 高台 台跡 | I B 2 | R N | R N | 圓軸 系切 | R N | R N | x | (14.5) | (5.3) | 4.8 | 50 | 7.5VR5-6 | あかやき上器 |
| RD079-3 | 62 | 203 | RD079 | 埋土 | 土 | 高台 台跡 | - | - | - | 放射状 溝點 | - | H M | - | (17.7) | (1.9) | 10 | 7.5VR5-6 | 明治期 | |

第88図 RD076・RD079 (1) 出土遺物



RD079-4 (206)



RD079-5 (204)



RD079-6 (201)



RD079-7 (199)



RD079-8 (229)

0 1 : 3 10cm

| 捲数番号 図版 備考 | 写真 番号 | 器種 名 | 出 土 場 所 名 | 層 位 別 名 | 性 質 | 器種 別 | 分類 | 外面溝壑 | | | 内部溝壑 | | | 計測値(cm) | | | 粘 土 (含有物、 色調等) | 備 考 | |
|------------------|----------|---------|-----------------------|------------------|--------|---------|--------|---------|-----|-----------|-----------------|-----|------------|---------|--------|--------------|-------------------------|--------|--|
| | | | | | | | | 上縁 部 | 体部 | 底部 | 口縁、 底部 裏部 | 体部 | 底部 | 口縁 | 底部 | 高さ | | | |
| RD079-4 | 62 | 206 | RD079 | 陶土 | 土 | 环 | T B 2 | — | R N | 高切 →H区 | R N | R N | R N | x | — | 6.0 | 4.8 | 50 | 7.5YR6/6 赤茶色、黒褐色 の斑状構造 と、白い土苔。 表面のめがみ大 |
| RD079-5 | 62 | 204 | RD079 | 陶土 | 土 | 环 | T B 2 | R N | R N | 同前 余切 | R N | R N | R N | x | 15.0 | 5.4 | 4.9 | 完形 | 9YR6/6 青い水滴。 表面のめがみ大 |
| RD079-6 | 62 | 201 | RD079 | 陶土 | 土 | 罐 | I - B | — | H K | — | H | H | H | x | — | 9.4 (3.1) | — | 10 | 7.5YR6/7 黄褐色 |
| RD079-7 | 62 | 199 | RD079 | 陶土 | 土 | 罐 | I - A | R N | H K | — | R N | R N | — | x | (17.7) | — | (12.0) | 20 | 7.5YR6/6 板 |
| RD079-8 | 62 | 229 | RD079 | 陶土 | 粘 | 罐 | II - A | — | — | H K | — | — | ロクヨ 直全し | x | — | 8.0 (2.1) | — | —10 | N4/6灰 |

第89図 RD079 (2) 出土遺物



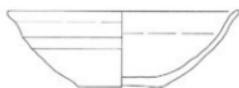
RE001-1 (214)



RE001-2 (215)



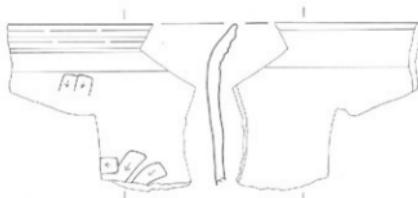
RE001-3 (210)



RE001-4 (216)



RE001-5 (211)

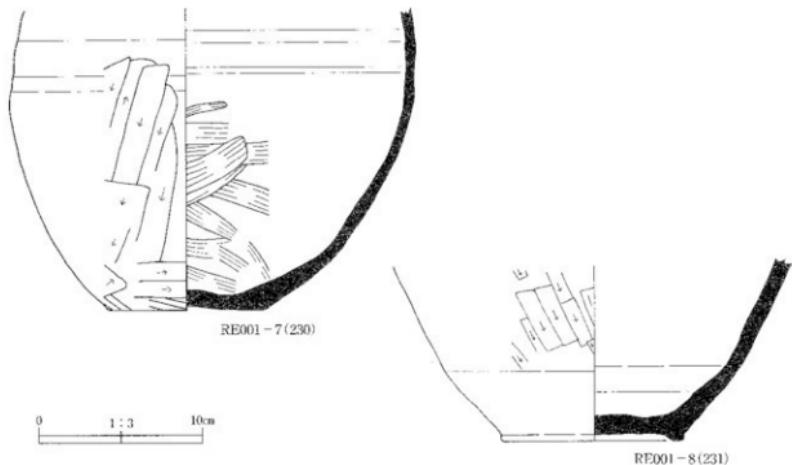


RE001-6 (212)

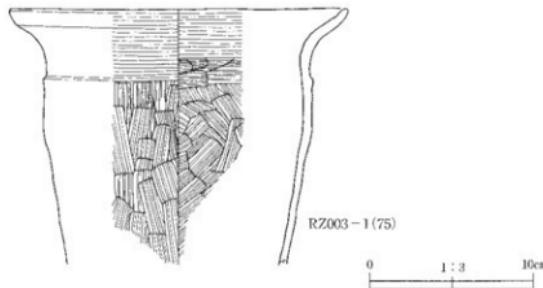
0 1 : 3 10cm

| 同様番号 | 写真 登録 番号 | 出土 場所 名 | 層 位 | 植 列 | 器種 | 分類 | 外面調査 | | 内面調査 | | | 財産箇 数 | 底径 （cm） | 残存率 （%） | 胎 土 （含物、 色調等） | 備 考 | | | |
|---------|----------------|---------------|--------|---------|----|-----|-----------|-----|------------|-----|-----|----------|------------|------------|------------------------|--------|-------------------|-------------------|-----|
| | | | | | | | 口縁・ 底部 | 体部 | 底部 | 底部 | 底部 | | | | | | | | |
| RE001-1 | 63 | 214 | RE001 | 堆土上層、Q3 | 土 | 环 | I A 2 | R N | R N | H M | H M | - | ○ | (139) | (72) | 38 | 36 | 7SYR5/4 △-Kv-地 | |
| RE001-2 | 63 | 215 | RE001 | B-B'5層 | 土 | 环 | I B 2 | R N | R N | R N | R N | x | 142 | 58 | 47 | 90 | 7SYR6/6 明示標 | あかやき上層 | |
| RE001-3 | 63 | 216 | RE001 | 堆土下層、Q4 | 土 | 小懸垂 | - | R N | R N | R N | R N | x | (152) | 6.0 | 14.2 | 50 | 7SYR6/4 △-Kv-地 | 内面にスヌ付 着（休憩下層） | |
| RE001-4 | 63 | 216 | RE001 | 堆土上層、Q3 | 土 | 环 | I B 2 | R N | R N | R N | R N | x | 142 | (5.4) | 4.7 | 50 | 7SYR6/6△ | あかやき土器 | |
| RE001-5 | 63 | 211 | RE001 | 稜出面 | 土 | 燒 | I A | - | さけ目 付垂れ | - | H N | - | x | - | (8.0) | (8.5) | 20 | 7SYR6/6△ | 熱成員 |
| RE001-6 | 63 | 212 | RE001 | 堆土上層、Q3 | 土 | 燒 | I A | R N | H K | - | R N | R N | - | x | - | (10.3) | -10 | 7SYR6/6△ | |

第90図 RE001 (1) 出土遺物



| 編號 四點 番号 | 年高 高度 | 出土 遺物名 | 層位 層位 | 種 類 | 器種 分類 | 外面調整 | | 內部調整 | | 測量値 (cm) 測量 部位 | 残存率 (%) | 胎 土 (含有物、 色調等) | 備 考 | |
|----------------|----------|-----------|----------|--------|----------|------------|------|------|-----------------------|----------------------|------------------|-------------------------|--------|-------------------------|
| | | | | | | 口縫 - 底部 | 体部 | 底部 | 体部 | | | | | |
| RE001-7 | 61 | 230 | RE001 | 埋土上層 | Q1 須 | 壺 | II A | - | R N · H K H K (側矢) | - | R N · H N H N | x | - | 9.6 (18.6) 40 N4/0灰 |
| RE001-8 | 64 | 231 | RE001 | 埋土上層 | 須 | 壺 | II A | - | H K · R K R K (側矢) | - | R N | - | x | 10.8 (10.8) 10 N4/0灰 |



| 編號 四點 番号 | 年高 高度 | 出土 遺物名 | 層位 層位 | 種 類 | 器種 分類 | 外面調整 | | 內部調整 | | 測量値 (cm) 測量 部位 | 残存率 (%) | 胎 土 (含有物、 色調等) | 備 考 | |
|----------------|----------|-----------|----------|------------------|----------|------------|-----|------|----|----------------------|------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|
| | | | | | | 口縫 - 底部 | 体部 | 底部 | 体部 | | | | | |
| RZ003-1 | 64 | 75 | RZ003 | 調整後燒土 部分、埋土下層 | 土 | 壺 | A I | Y N | H | - | Y N | H | x (20.75) (13.8) | 29 7.5/47.3 N4/0灰 |

第91図 RE001 (2)・RZ003 出土遺物

V まとめ

第15次調査で検出した主な遺構は、古代の堅穴住居跡（奈良時代8棟、平安時代5棟）、掘立柱建物跡1棟、堅穴状造構1棟、焼土造構1基、溝跡6条、土坑20基、土坑状造構1基、柱穴状土坑約120基である。基本層序はI層灰黄褐色土（表土・耕作土）、II層黒色土（自然堆積土）、III層黒褐色土（漸移層）、IV層黄褐色土（地山層）と把握、そのⅢ層下面～IV層上面で遺構を検出した。出土遺物は大コンテナで約10箱である。出土場所は主に堅穴住居跡を中心とした遺構内、種類は土器（土師器・須恵器）、石器（砥石）、土製品（土錐・土玉・劔鍾車）、鉄製品（劔鍾車・刀子）である。

以下、第15次調査で検出した奈良時代から平安時代の遺構と遺物を中心に整理し補足を加えてまとめとする。

1 遺構について

（1）堅穴住居跡 本次調査で検出した堅穴住居跡13棟について、下記の項目により要約する。

＜分布状況＞

堅穴住居跡は、北側、西側、東側調査区全体に散在する。奈良時代の住居跡は東側調査区と西側調査区に比較的距離を保って位置する。平安時代の住居跡も同様の分布状況であり、北側調査区では1棟が旧河道に下る段丘縁辺部に位置する。

＜堅穴住居跡間の重複関係＞

奈良時代、平安時代とも堅穴住居跡間の重複については認められず、単独で存在する。一部拡張やカマドの作り替え、他遺構との重複が認められる。

＜平面形・規模＞

奈良時代、平安時代とも、平面形は隅丸方形や隅丸長方形を基調とする。規模については、第12次調査に準じ、①一辺が6m以上－大形 ②一辺が4～6m－中形 ③一辺が4m以下－小形 に分類した。その結果、奈良時代の堅穴住居跡に関しては、一部推定も含め、①大形：2棟 ②中形：3棟 ③小形：3棟であったのに対し、平安時代の堅穴住居跡は、①大形：無 ②中形：4棟 ③小形：1棟であった。本次調査では奈良時代は大小どの大きさの住居跡も調査できた。一方、平安時代はやはり中形と小形に偏る傾向が見られる。第12次・15次調査を合わせた結果については、後に言及したい。

＜埋土＞

黒褐色土～黒色土が主体、黄褐色土や褐色土と灰白色火山灰が混じる。大部分の住居跡埋土は自然堆積の様相を呈するが、RA042は床面やPit埋土にも灰白色火山灰が認められ、また堆積も層状であることから、人為的に堆積したものと考えられる。北側調査区RA042堅穴住居跡の灰白色火山灰は分析の結果、To-Hであることが判明した。このTo-Hは噴出時の流下堆積後削剥を受け移動したものであろう。

＜床＞

貼床が認められた住居跡は、奈良時代7棟と平安時代4棟である。厚さの違いはあるが、住居跡が比較的平坦な場所に位置していたためか、ほとんどの住居跡について認められる。構築上主体は、粘性は無いか弱く、やや縮まりの有る黄褐色土を含む黒褐色土である。

また、RA046では床面中央に硬化部分があり、その周辺には貼床が認められる。一方RA047は住居内にPitが多く床面は硬く縮まりがある。RA052では焼土と焼土を含んだ黒褐色土下にある床面は硬化し、貼床は認められない等のそれぞれの住居跡には特徴がある。

<主柱穴>

明確に確認できたのは、奈良時代1棟のみであった。可能性を有するもの、一部しか検出できなかった住居跡は、奈良時代2棟平安時代3棟であった。R A046については、貼床の無い床面硬化部分に属するⅠ期柱穴と貼床のある部分に属するⅡ期柱穴についてその区別が明確であった。

<貯蔵穴>

カマドの設置されている位置との関係（カマド脇や同じ壁側）、及び埋土の傾向（焼土や炭化物粒混）を条件にした場合、奈良時代2棟、平安時代3棟（可能性を有するもの各1棟）で認められる。

<周溝>

奈良時代5棟、平安時代1棟（可能性を有する）で認められる。奈良時代の住居跡はその半数以上において周溝を有す住居跡であることになる。大部分は崖際を通り、幅上端6~10cm下端5cm前後である。R A048においては、小土坑（埋土黒褐色土主体）が周溝内側に並んでいる壁面がある。また、R A047・048のように周溝から直角に、先端に小土坑を有した附仕切り状の溝が延びている住居跡、R A042のように間仕切りのみを有する住居跡もある。住居跡や周溝の残り状態が良く、調査も可能であったと言えよう。

<カマド>

奈良時代の豊穴住居跡8棟中7棟、平安時代の豊穴住居跡5棟中4棟について、カマドを検出し精査した。カマドに於いても本体部分の残り状態は非常に良く、沢山のことを学ぶことができた。作り替えは、11棟中2棟であった。設置位置は奈良時代に於いては北西壁、北から48~62°の範囲で西に傾く。後に示す第92回のように、奈良時代の豊穴住居跡に於いてはカマド設置位置方向が同一の傾向にある。一方平安時代に於いては設置位置は南東壁であり、南から33°西へ、南から67~75°の範囲で東に傾く。袖は、①黒色~黒褐色土を主体に構成されるもの ②芯材に土師器片と礫を用い黒褐色土・黒色土で固めたもの ③ほぼ完形の土師器・甕を黄褐色土と黒褐色土・黒色土との混合土で固めているものなど、作り方は多様である。本次調査では、主に②の袖芯材に土師器片と礫を転用していた例は主に平安時代の住居跡で、①③のように主体が構成土又は芯材に土師器・甕を使用していた例は奈良時代の住居跡でみられた。煙道は、調査区外に延び全容が不明の1棟（R A044）を除き、作り方は両時代とも剖式が主である。煙出には上端が円形または方形の深い土坑が掘り込まれている。この部分に甕や土師器片が投げ込まれているものもあり、R A042では1号カマド・2号カマドとも土師器と須恵器が重ねて投げ込まれていた。

(2) 挖立柱建物跡

北側調査区で1棟検出した。規模は2間×2間、豊穴状遺構を用むるように位置する。埋土等から古代の倉庫とみられる。その北側には柱穴状土坑群に属する柱穴があるが、一部埋土の状態がこの挖立柱建物跡と似ているものがあり、この挖立柱建物跡北側に設置された横列を構成する可能性もある。

(3) 土坑

北側調査区で3基、西側調査区で4基、東側調査区で13基、計20基検出した。平面は不整形、円形、方形、橢円形、隅丸方形と様々である。規模は長径0.9~2.5m、短径0.4~1m、深さ12~70cmを測る比較的小規模なものである。大部分は出土遺物も無く時期や性格もはっきりしないが、東側調査区では埋土中にロクロ使用の土師器を含むものや施業焼土が認められる土坑もある。

(4) 豊穴状遺構

北側調査区で1基検出した。灰白色火山灰ブロックを含むことから、付近の豊穴住居跡や外側に位置する挖立柱建物跡と同じ古代に属するとみられる。小規模であるが、野古A遺跡の他の住居跡に比べると狭く深

い。西側を中心に焼土が発見され、また埋土中層～下層からは、ロクロ・坏（破片）が多く出土している。

（5）焼土遺構

東側調査区で1基検出した。平面は隅丸方形、焼成は弱い。

（6）溝跡

調査区全体より6条検出した。東側調査区から第12次調査区を縦断し北側調査区に至るR G015は竪穴住居跡4棟と重複し、そのいずれよりも新しい。西側調査区のR G017は一部欠けるが、格円形に巡るみぞである。出土遺物も無く、その用途や性格については不明である。他4条は北側調査区に位置し、旧河道に至る段丘線と並行する位置にある。

（7）土坑状遺構・柱穴状土坑

土坑状遺構は、西側と東側の中間点に位置する。R A045と重複し、竪穴住居跡より新しい。埋土中に焼土が認められ、土師器・甕も出土。長方形を呈する土坑の可能性がある。住居跡との重複と遺構の大部分が調査区外に延びていることから、全容は不明である。

柱穴状土坑は、北側調査区で22基、東側調査区で100基検出した。北側の22基中8基はR B003を構成する。残り14基についても埋土は黒色土～黒褐色土が主体、一部にR B003同様に灰白色火山灰が含まれる。東側の柱穴状土坑に関しては、付近の他の遺構同様にⅢ層黒褐色土下面で検出、埋土は黄褐色土粒の混じる黒褐色土～黒色土が主体である。南東部分の一部埋土に灰白色火山灰が混じる柱穴もあり、配列について考察したが、掘立柱建物跡を構成するには至らなかった。

第5表 奈良時代竪穴住居跡一覧

| No | 遺構名 | 平面形 | 規模 (m) | カマド主軸方向 | 煙道 | 主柱穴 | 貯蔵穴 | 周溝 | 貼床 |
|----|-------|------|-----------|---------|--------------------------|------------|------|----|-------|
| 1 | RA044 | 方形 | 4.0×3.8 | 小形 | N-60°-W | 朝貫式 | 無 | 無 | 有 |
| 2 | RA045 | 方形 | 6.2×(5.5) | 中形 | N-62°-W | 朝貫式 | 無 | 無 | 有 |
| 3 | RA046 | 隅丸方形 | 5.5×4.2 | 中形 | N-60°-W | 朝貫式 | 有 | 無 | 有 |
| 4 | RA047 | 隅丸方形 | 6.2×(5.2) | 大形 | 不明 | 不明 | 可能性有 | 有 | 有 (薄) |
| 5 | RA048 | 方形 | 6.4×6.4 | 大形 | 1号：N-57°-W 2号：N-62°-W | 朝貫式 朝貫式 | 無 | 有 | 有 |
| 6 | RA049 | 方形 | 2.8×2.8 | 小形 | N-48°-W | 朝貫式 | 無 | 無 | 有 |
| 7 | RA050 | 隅丸方形 | 2.65×2.5 | 小形 | N-60°-W | 朝貫式 | 無 | 有? | 無 |
| 8 | RA053 | 隅丸方形 | 5.9×5.7 | 中形 | N-58°-W | 朝貫式 | 可能性有 | 無 | 有 |

第6表 平安時代竪穴住居跡一覧

| No | 遺構名 | 平面形 | 規模 (m) | カマド主軸方向 | 煙道 | 主柱穴 | 貯蔵穴 | 周溝 | 貼床 |
|----|-------|------|-----------|---------|--------------------------|-------------|------|----|----|
| 1 | RA041 | 方形 | 3.9×3.6 | 小形 | S-67°-E | 朝貫式 | 無 | 有? | 無 |
| 2 | RA042 | 方形 | 5.5×5.2 | 中形 | 1号：S-68°-E 2号：S-75°-E | 朝貫式 朝貫式 | 可能性有 | 有 | 無 |
| 3 | RA043 | (方形) | 4.8×(4.7) | 中形 | 不明 | 不明 | 可能性有 | ? | ? |
| 4 | RA051 | 方形 | 5.2×5.1 | 中形 | 1号：S-72°-E 2号：S-33°-W | 朝貫式 掘込式? | 無 | 有 | 一部 |
| 5 | RA052 | 隅丸方形 | 5.3×4.85 | 中形 | S-70°-E | 朝貫式 | 可能性有 | 有 | 無 |

第7表 土坑一覧

| No | 遺構名 | 位置 | 平面形 | 開口部長径 | 開口部短径 | 深さ(cm) | 時期 | 備考 |
|----|-------|--------|------|--------|--------|--------|--------|---------------------------------|
| 1 | RD064 | 10R24h | 不整形 | (1.2)m | (1.0)m | 40 | 不明 | 鉢製品(兼?)出土・黒色土の落ち込みか |
| 2 | RD065 | 10R24g | 不整形 | 1 | — | 12 | 不明 | 黒色土の落ち込みか |
| 3 | RD066 | 10R24a | 不整形 | (1.0) | (0.9) | 20 | 不明 | |
| 4 | RD067 | 12Q8e | 円形 | 2.5 | — | 12 | 不明 | |
| 5 | RD068 | 12Q18n | 不整形 | 1.4 | 1.1 | 50 | 不明 | 陶磁器出土・RA045(奈良)より新 |
| 6 | RD069 | 12Q18i | 円形 | (1.2) | (1.0) | 20 | 不明 | |
| 7 | RD070 | 12Q18q | 隅丸方形 | 2.4 | 1.1 | 20 | 不明 | 埋土下層に暗褐色焼土混 |
| 8 | RD071 | 12Q18p | 円形? | 2.1 | (0.75) | 14 | 不明 | RD071と重複する |
| 9 | RD072 | 12Q6g | 不整形 | 1.75 | 1.5 | 30 | 不明 | 埋土中に炭とにぶい赤褐色焼土混 |
| 10 | RD073 | 12R7f | 不整形 | 0.9 | 0.8 | 12 | 不明 | RD072に形が似る |
| 11 | RD074 | 12R11d | 不整形 | 1.9 | 1.5 | 35 | 不明 | 根裏か |
| 12 | RD075 | 12R20n | 長楕円形 | 1.9 | 0.4 | 20 | 不明 | RA046(奈良)より新 |
| 13 | RD076 | 12R8p | 方形 | 1.6 | 1.55 | 20 | 古代(平安) | 非クロ・窓・ロクロ・坏出土 |
| 14 | RD077 | 12R5q | 円形 | 1.1 | — | 15 | 不明 | |
| 15 | RD078 | 12R10i | 円形 | 0.9 | — | 12 | 不明 | RD077に形が似る |
| 16 | RD079 | 12R18j | 方形 | 2 | 1.2 | 70 | 古代(平安) | RA053(奈良)より新 非クロ・窓・ロクロ・窓と坏出土 |
| 17 | RD080 | 12R10j | 円形 | 1 | — | 16 | 不明 | |
| 18 | RD081 | 12R19d | 円形 | 0.8 | — | 12 | 不明 | |
| 19 | RD082 | 12R20e | 楕円形 | 1.1 | 0.7 | 14 | 不明 | |
| 20 | RD083 | 12R16k | 円形 | 1.1 | — | 30 | 不明 | RD072、073に堆積類似 |

第8表 溝跡一覧

| No | 遺構名 | 位置 | 上端(cm) | 下端(cm) | 深さ(cm) | 長さ(m) | 時期 | 備考 |
|----|---------|---------------|--------|--------|--------|----------|----------------------|---------|
| 1 | RG015の1 | 12Q6w~12Q19w | 50~80 | 20~40 | 30~40 | 30(検出部分) | 古代(重複する) RA042より新 | 東側調査区分 |
| | RG015の2 | 12R23f~11R10e | 50~150 | 20~70 | 25~40 | 23.2 | | 北側調査区分 |
| 2 | RG017 | 12Q8d~12Q8h | 30~70 | 20~30 | 15~60 | 19 | 不明 | 楕円形に溝の溝 |
| 3 | RG018 | 10Q21u~10R25c | 50~100 | 40~80 | — | 10 | 16.5 | 古代? |
| 4 | RG019 | 10Q21a~10R23e | 40~100 | 10~55 | 10~55 | — | 10 | 古代? |
| 5 | RG020 | 10R24i~11R4e | 20~40 | 10~20 | — | 10 | 12 | 不明 |
| 6 | RG021 | 10Q22x~10R24b | 30 | 10 | 10 | — | 4.6 | 古代? |

2 遺物について

主な遺物は、奈良時代~平安時代の堅穴住居跡、土坑、堅穴状造構、溝跡から、土器等が出土している。

以下、各時代の土器を「器種」「焼成方法(鐵化炎焼成・還元炎焼成)」により大別し、これに形成技法と調整技法を加え細分した。焼成方法について、奈良時代の分類ではA、Bのアルファベットの大文字で、平安時代の分類ではI、II等のローマ数字を分類の最初に用いて時代の区別が付くようにした。

掲載した遺物についての法量と調整等については、国版の下録に一括して掲載している。

(1) 奈良時代

奈良時代の土器の分類は周辺の盛岡開発関連遺跡との比較のため、台太郎遺跡第18次調査報告書の分類を基に、同23・26次、野古A遺跡(12次)と熊谷B遺跡(10次)の分類を加えた。

第15次調査で出土した奈良時代の土器は、土器類が主である。器種は、壺・甌(長胴・球胴・小型)高壺・鉢・瓶・瓶・小型手捏ね土器である。須恵器は認められなかった。

<坏の分類>

| 焼成方法（群） | 形成技法（類） | 底部の形状 | 口縁部～底部にかけての段の有無 | 分類 |
|-----------------|--------------------|--------------|-----------------|---------|
| A：酸化炎焼成 (土器) | I：ロクロ不使用 (非ロクロ) | M：丸底 | 1：内外面有段 | A I M 1 |
| | | | 2：外面有段 | A I M 2 |
| | | | 3：内外面無段 | A I M 3 |
| | | H：平底 | 1：内外面有段 | A I H 1 |
| | | | 2：外面有段 | A I H 2 |
| | | | 3：内外面無段 | A I H 3 |
| | II：ロクロ使用 (ロクロ) | 該当なし | | |
| | | B：還元炎焼成(須恵器) | | |
| 該当なし | | | | |

<甕の分類>

| 焼成方法（群） | 形成技法（類） | 器形（高さ） | （径） | 分類 |
|-----------------|--------------------|--------------|-------------|---------|
| A：酸化炎焼成 (土器) | I：ロクロ不使用 (非ロクロ) | T：長胴 | 1：最大径 口縁部 | A I T 1 |
| | | | 2：口縁径 = 体部径 | A I T 2 |
| | | | 3：最大径 体部 | A I T 3 |
| | | S：球胴 | 最大径 体部中央 | A I S |
| | | | 器高 2.5cm以下 | A I K |
| | II：ロクロ使用 (ロクロ) | 該当なし | | |
| | | B：還元炎焼成(須恵器) | | |
| 該当なし | | | | |

<高台付坏> A：酸化炎焼成 I：ロクロ不使用 II：ロクロ使用 B：還元炎焼成 II：ロクロ使用

<高坏・壺・片口・瓶・鉢・手捏ね> 器種を示した。個々の分類は行わなかった。

<奈良時代の土器について>

第93・94図と作成した図版をもとに奈良時代の土器についてその傾向をまとめた。

坏：底部は丸底が主体である。ただ、丸底→平底へ移行する過渡期のものもみられる（RA047-15・RA046-2）。体部に於いては内外面有段→外面のみ有段（段の位置は底→中位へ・内面の段は形式的）→内外面無段へと変遷の状況が把握できる（RA047-9→13→15等）。口縁部は丸味を帯びるものとやや上向きに尖っているものの2種類が認められる。体部に於いては段より上部が直立気味に立ち上がるタイプ（①型）、①に比べ外側に開き緩やかに立ち上がるタイプ（②型）、段が無く丸味を帯びて立ち上がるタイプ（③型）に分けることができる。③は底部においても丸底→平底へ移行する過渡期のものがみられる（RA047-9→10→15）。調整は、体部外面はヘラミガキ、下半より底部にかけてはヘラケズリ又はハケメ、内面は長く細かいヘラミガキが主である。ほぼ全ての坏内面に黒色処理が施されている。

甕：長胴甕（AIT）・球胴甕（AIS）・小型甕（AIK）の3種の出土がみられる。大多数の堅穴住居跡からは長胴甕が出土しているが、RA046のように小型甕の出土割合が多い住居跡もみられる。長胴甕の器形について大別すると、①口縁部径>体部径であり、口縁部が急角度で外傾するタイプ（RA048-5・6 RA047-20）と②口縁部径≈体部径又は口縁部径>体部径、口縁部が緩やかに外傾するタイプ（RA046-4 RA048-5 RA050-4）に分けることができる。体部下半は總体に丸味を帯びているが、底部に向けて狭くなる型もみられる（RA048-5・8）。この口縁部が開き底が狭いという形は、不安定な感じである。一方で口縁部≈底部、体部中位～下半にかけて丸味を帯び緩やかに底部に至る安定した器形のものもある（RA053-3）。球胴甕は2棟の堅穴住居跡から出土している（RA048-11・14 RA047-19・22・38）。調整の主体はヨコナデとハケメ、最大径は体部上半であるが、底は厚く全体として安定している。小型甕に関しては、RA046のように出土した甕の点数4点中3点までが小型甕という住居跡もみられるが、RA048-12・13の2点とRA053-7の1点のように、他の堅穴住居跡では集中することは無い。調整も外

面ヨコナデとハケメかヘラナデ、内面ハケメかヘラナデである。 **高台付坏**：R A048-3の1点のみである。体部下半から台部にかけて外面に弱いヘラケズリ、内面にヘラミガキが認められる。欠損部分が多いため全容は不明である。 **高坏**：R A045-1 R A047-17・18の3点が認められる。R A045の高坏は坏部分が、R A047は台部の一部が残っている。 **小型手握ね土器**：R A045-8の1点である。片口風で口縁部の一部が外につまみ出されたようになっている。外面及び内面に黒色の炭化物（植物等）が付着している。 **甌**：R A047-34で八の字に開く。内外面ともハケメ調整が明瞭、底部は欠損し、僅かに孔の名残がある。 **鉢**：体部調整はヨコナデと縱横に巡らされたハケメが中心、体部に比して底は厚く安定している。 **不明**：R A047-36は体部と口縁部の境は線のみ、口縁部が直立した小型甌か？ R A047-37は大きく開く鉢か？ 調整は明瞭なヨコナデとハケメが有る。R A053-8は口縁部が僅かに内済する整った鉢か？ R A053-9は小型甌か？ 底は厚く安定している。

住居跡毎にまとめる。R A046の坏2点は体部外面のみ有段と底部丸底→平底に移る形態のもの、甌は口縁部径>体部径で口縁部が緩やかに大きく開き、口唇部は丸い。8世紀後半の住居跡か。R A047に於いては、坏の数が多く、前述の全ての型について確認ができる。遺物の総数も多いことから住居廃絶時において大量に廃棄されたものとみられるが、住居自体は遺物の形態より8世紀中葉まで使用されていたとみられる。逆にR A048に於いては甌の数が多く、カマド芯材にまで使用されている。口縁部がゆるやかに又は急角度で開き、口縁部径>体部径であることから8世紀前半に使用されていた甌であり、その後転用したとしても8世紀中葉～後半の住居跡とみられる。坏2点は外面のみ有段である。R A050は遺物数は少ない。坏1点は内外有段であるが体部は丸味を帯びている。甌は底は多少厚く口縁部が急に外反するものと同時に口縁部が短く外反する形もみられることから、8世紀前半～中葉の住居跡と考えられる。R A053に於いても坏1点は内外に明確な段を有し、甌も口縁部径>体部径であり口縁部も大きい。R A050同様8世紀前半～中葉の住居跡か。

<その他の出土遺物> R A047から出土したのは鍛錠車（土製品）、土鍊（黒色でヘラミガキが明瞭）、土玉2個、刀子2点と主に砥石として使用された砾である。

（2）平安時代

平安時代の上器の分類も、周辺の森南開発関連遺跡との比較検討のため、小幡遺跡第4次調査報の結果をもとに台太郎遺跡第18次・23次・26次調査と野古A遺跡第12次調査の結果を加味した。

<坏の分類>

| 焼成方法（群） | 形成技法（類） | 口縁部～底部にかけての段の有無 | 分類 |
|-------------------|---------------------------------------|-----------------|--------|
| I：酸化炎焼成 (土器) | A：ロクロ使用 内面にヘラミガキ調整と 黒色処理が施される | 1 底部系切痕 再調整有り | I A 1 |
| | | 2 底部系切痕 再調整無し | I A 2 |
| | | 3 底部切り離し技法不明 | I A 3 |
| | | 4 底部切り離し静止系切 | I A 4 |
| | | 5 底部切り離し回転ヘラ | I A 5 |
| | | 6 底部切り離し手持ヘラ | I A 6 |
| | B：ロクロ使用 内外ともロクロ以外の調整 無し（あかやき土器） | 1 底部系切痕 再調整有り | I B 1 |
| | | 2 底部系切痕 再調整無し | I B 2 |
| | | 3 底部切り離し技法不明 | I B 3 |
| | | 4 底部切り離し静止系切 | I B 4 |
| | | 5 底部切り離し回転ヘラ | I B 5 |
| | | 6 底部切り離し手持ヘラ | I B 6 |
| II：還元炎焼成 (須恵器) | A：ロクロ使用 底部回転ヘラ切 | 1 再調整有り | II A 1 |
| | | 2 再調整無し | II A 2 |
| | B：ロクロ使用 底部回転系切 | 1 再調整有り | II B 1 |
| | | 2 再調整無し | II B 2 |

<甕・壺>

I 酸化炎焼成（土師器） A：ロクロ使用 B：ロクロ未使用 II 遷元炎焼成（須恵器） A：ロクロ使用
<高台付坏>

I 酸化炎焼成 A：内面ヘラミガキ黒色処理 B：内外ともロクロ痕のみ C：A・B以外

II 遷元炎焼成

<皿・鉢・その他器種不明> 器種を示した。具体的な分類は行わなかった。

<平安時代の土器>

第94・95図と作成した図版をもとに、平安時代の土器についてその傾向をまとめる。遺構により坏の出土割合が多い造構、甕の出土割合が多い造構等様々であることを示しておきたい。

坏：IA・IBに属するロクロ使用の坏が中心になる。その一方で僅かだが、II Bに属する須恵器・坏の出土もみられる。IAはいわゆる内黒の坏、RA041・042・052出土遺物にみられる傾向である。底部に関しては回転糸切の痕が明確である。底部よりなめらかに体部下半へ移行する型と一度僅かに立ち上がってそれから体部下半へ移行する型がみられる。体部下半は全体的に丸味を帯びている。外面にはロクロ調整が施され、内面は上半は横に下半は放射状に細かいヘラミガキが施された後に黒色処理されている。口縁部に関しては①上向く型②や丸味を帯び多少外反する傾向のある型③外反する型がみられる。IBはロクロ以外の調整が認められないいわゆるあかやき土器である。底部はIAの場合と同様に2つの型にわかれる。体部についてはRA042-13・14・17下に丸味を帯びるものが多い。その一方でRA042-15やRA051-3のように底部からスムーズにII経部に至るもの、RA052-7のように体部が直線又は反り返るようになるものが認められる。RA042の6点、RA051の4点について比較すると、器高は4.7~5.6cmの範囲に分布する。また、II径×底径はRA051で1点を除き2.36~2.5の範囲内であるのに対して、RA042では1点を除き2.5~2.67の範囲に集中する。多少ではあるがRA042で底部がより狭くなっていると言えようが、その傾向については大なるものではない。

甕：IA・IBとII A (RA042-31 RA043-6 RA052-22・23・24 RE001-7・8) に属する甕が中心である。底部はロクロ調整、後述の砂底などである。IBについては木葉痕がみられ、また小形甕と長胴甕についてはRA051-12・18 RA052-16・20については体部下半が張り出している形である。体部はRA042-9・13・14とRA051-13・15のようにII経部径×体部径まで張り出した後①底部に向て狭くなる型と②丸味を帯びて底部に至る型がある。後者は非ロクロ・甕に於いてもみられる形式である。調整は主に内面はロクロ痕と底部にハケメ調整、外面はヘラケズリ中心、RA051-142のように体部下半に向けまっすぐにヘラケズリが施されているほかに、RA042-20とRA051-14・15のように螺旋状に体部下半をめぐるヘラケズリが施される。口縁部は、ロクロ・非ロクロの両方にについていえるが、体部から口縁部にかけて鋭く外反する型、外反後僅かではあるがII唇部が上向く型、体部から口縁部にかけてゆるやかに外反しその後僅かではあるがII唇部が上向く型がある。その他、非ロクロRA042-8とRA052-12・13において口縁部は短くかつ外反する。 高台付坏：4点が出土している。RA041-5とRA052-3は台部の高さは低いが、内側にロクロ調整と焼成前の線刻が認められる。RA042-19とRA051-8・9・10は器形が整い、II唇部が外傾する。

住居跡毎にまとめる。RA041の坏はあかやき土器と内黒の割合はほぼ同じである。体部下半に丸味を帯びる。RA042も坏の出土が多い住居跡である。全体傾向として前述のように破片ではあかやき土器、立体になるものは内黒坏が多い。あかやき土器に関しては、器高4.7~5.4cm、II径×底径2.5~2.66の範囲に分布

する。総体的に体部下半に丸味がありまた口唇部は丸く僅かに外反する傾向がみられる。甕に於いては体部から口縁部にかけて鋭く外反するものとその後僅かに口唇部が上に向かうものがある。いずれの住居跡に於いても内黒坏の割合と甕の器形は9世紀後半の住居跡に伴うものであろう。R A052に於いても、1点体部下半に丸味を有しない坏がみられる以外は口唇部外反の程度も弱く、内黒の割合も半々～多少多くなっている。甕はロクロ使用の場合は他の住居跡と同じであるが、非ロクロの場合は短く外反する。一方でR A051の場合は、第95図の4点について器高4.8～5.4cm、口径×底径2.4～2.84と大きな違いはないが、あかやき土器の割合がより増えている。口唇部は僅かに外反する傾向にある。甕体部から口縁部にかけては鋭く外反するものと緩やかに外反するものがみられる。9世紀後半から10世紀前半の住居跡と考えられるが、他と大きな差異はないとも言えよう。

<その他の出土遺物>刀子1点（R A043-7）、鉄製紡錘車（R A051-22）、残存状態は良くないが羽口（R A051-21）、鉄鍔2種が出土した。

<豊六住居跡以外からの出土遺物>R D076・079土坑からの出土遺物：第95図に内黒の高坏と坏各1点、あかやき土器3点を示した。器高4.6～4.9cm、口唇部が僅かに外反し体部下半が丸味を帯びるという共通点を有する。また、R D076-3、R D079-3のように高台付坏の体部下半を何らかの目的で意図的に欠いた形跡がみられる。R D076からは線刻が認められる高台付坏も出土している。同じ時期の土坑で、同じ目的で使用した遺物を廃棄した土坑であろう。R E001豊穴状造構からの出土遺物：第95図にあかやき上器2点とI Aに属する甕を示した。底部切離が回転糸切によること、器高が4.7cm、口径×底径2.1と2.6であること、口唇部が僅かに外反すること等、R A042と遺物の様子が似ている。埋土中の灰白色火山灰の堆積状況を含めてもR E001とR A042はほぼ同時期の造構と推測される。

（3）野古A遺跡の砂底土器

野古A遺跡第12次・15次調査において、砂底土器の出土が確認された。

砂底土器は櫻田 勝「『砂底』土器考」（1993年）によると、「北緯40度から41度の米代川・安比川・馬瀬川・岩木川流域に集中して分布する」とある。また、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター報告書第387集「大向II遺跡発掘調査報告書」（2002年 菊地貴広）には、「櫻田氏の砂底土器一覧表によると、岩手県内で砂底土器が出土している遺跡は、九戸村（江刺家）・二戸村（府金橋）・浄法寺（飛鳥台地T・桂平・五庵I・II・田余内I・広沖）・安代町（上山畠）・田江釣子村（下谷地A）の10ヶ所をあげている。当センターの近年の発掘調査では、花巻市（石持T）・二戸市（大向上平）等で散見される」と記される。また、平成14年度の当センターの発掘調査では、貝の瀬II遺跡（石鳥谷町）からの出土もあった。

本遺跡は、零石川右岸の微高地にあり、県北にある上述の遺跡よりも南に位置する。ただし、近隣の盛南開発関連遺跡（平成6年度小幅遺跡第2次調査・平成12年度細谷地遺跡第4次調査）からも、発掘調査において砂底土器の出土が確認されている状況下にある。

第96・97図と上記の計測値等より、野古A遺跡出土の砂底土器の特徴についてまとめる。

- ① 出土場所は、古代の豊穴住居跡、I3例中2例が奈良時代に属する豊穴住居跡、残り11例が平安時代に属する豊穴住居跡である。器種は土瓶器・甕である。第15次調査分についてはRA042-26とRA051-17を除き、I Aに属するロクロ使用の甕である。
- ② 器高は22.8～34cmと30cm前後、底径は7.6～10cmと8.5cm前後にあたる。出土場所は第12次調査に於いては豊穴住居跡埋土、カマド煙道と煙出、第15次調査に於いては豊穴住居跡埋土中、ベルト部分と床面である。
- ③ 調整は、外面体部中～下半にかけて、幅が同じヘラケズリが認められる。第96図RA051-13及び参考資料

第9表 砂底土器一覧

| N0 | 掲載番号 | 器種 | 出土場所 | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 型 | 砂の状態 |
|----|-----------------|-------|---------------------------------------|------------|------------|------|----------------------------------|
| 1 | 12次 245 | 土師器・甕 | RA029 カマド煙道(平安) | 34 | 9.5 | A | |
| 2 | 12次 311 | 土師器・甕 | RA040煙舟(平安) | (13.5) | 7.6 | A | ・胎上砂質傾向 |
| 3 | 12次 191 | 土師器・甕 | RA024 1号工坑・貼床(平安) | (12) | (7) | A | |
| 4 | 12次 47 | 土師器・甕 | RA026 球土(奈良) | (1.5) | (8.9) | G | |
| 5 | 12次 46 | 土師器・甕 | RA026 球土(奈良) | (3.9) | (9.5) | A | |
| 6 | 15次 RA051-13 | 土師器・甕 | RA051 ベルト埋土 埋土下層 No15.16.17.21(平安) | 33.9 | 12.0 | CorG | ・胎上砂質傾向 ・砂粒痕 2~2.5mm |
| 7 | 15次 RA052-14 | 土師器・甕 | RA052 カマド北側焼上No11(平安) | 31.8 | (8.4) | A | ・全面細粒0.5mm以下 |
| 8 | 15次 RA051-15 | 土師器・甕 | RA051 埋土下層 No10.17(平安) | 31.5 | 9.8 | G | ・砂粒痕 1~1.5mm |
| 9 | 15次 RA051-14 | 土師器・甕 | RA051 No13.15.17.21(平安) | (12.9) | 8.6 | CorG | ・砂粒痕 1~1.5mm ・木葉痕有? |
| 10 | 15次 RA042-26 | 土師器・甕 | RA042 2-19 2-11(平安) | (12.9) | 10.0 | G | ・胎上良・細砂粒0.5~1mm |
| 11 | 15次 RA051-17 | 土師器・甕 | RA051 贼床埋土(平安) | (3.7) | 8.6 | A | ・細砂粒1mm |
| 12 | 15次 RA052-12 | 土師器・甕 | RA051 カマド埋土 ベルト(平安) | 23.9 | 8.4 | A | ・中砂粒1.5~2mm ・木葉痕有? |
| 13 | 15次 RA042-20 | 土師器・甕 | RA042 Pit 7(平安) | 22.8 | 10.8 | F | ・砂粒痕0.5~2.5mm ・2.5mmの砂粒痕10ヶ所有 |

* 横一櫻田氏のA~Jの砂粒付着パターンによる。模式図は第97図の通りである。

料として第97図に掲載した大向II遺跡の砂底土器のように下半のヘラケズリがまっすぐに底部との境に至るもの、体部下半にかけてRA024-191・RA052-14のようにカキメがみられるもの及びRA029-245・RA051-14・15・RA052-12のように渦巻状にヘラケズリ調整がなされるものがある。野古A遺跡の砂底土器体部下半はこの渦を巻くようなヘラケズリが特徴である。

④ 砂付着の型については、A型(全面砂)の場合が多いことを予想したが、A型の他にF型(少し凹の部分に砂が入る)とC型又はG型(ドーナツ型)に属する土器もみられる。A型の場合、RA051-17・RA052-14では比較的大きめで美しい砂がそろって付着しているのに対して、RA052-12は底面自体に凹凸が有り付着している砂も不揃いである。C型又はG型の場合は、RA051-15・RA042-26のように底部縁辺に固まって砂が残る場合もあり、又RA051-13では砂が押しつけられた痕が強く残る。

⑤ 野古A出土の土器自体の胎土は比較的安定しているため、底部に砂が付着している場合、すぐ砂底土器と認めることができる。

野古A遺跡に於いては、何のために土師器・甕(底部)に砂を付着させたのであろうか。1つは見采えがよい土器を作るためであろう。これにはRA051-17・RA052-14のように付着部分をみると細かくそろった砂が使用されている場合等があてはまると考えられる。2つ目は、より安定した器形のあり方を追求する結果とも考えられる。体部下半に粗く渦を巻くようなヘラケズリがなされないこと、また器高と口径に比して底径が狭いことから、より安定した器形を意識した結果の調整方法であろう。より多くの例をひいて、器高と口径の関連について調べていきたい。

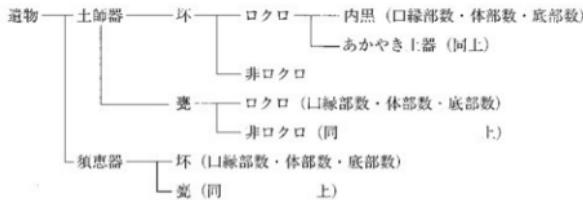
櫻田氏は「古代律令政府は、中央集権確立のため東北地方の「船夷」を「帰属」させ、国郡制を敷くこと

を目的に拠点となる城柵を各地に築いているが、「砂底」土器を出土する遺跡が集中する北緯40度以北には城柵が築かれていないと注目する必要がある。」とし、「自己を主張し、領域をもって生活した人々が存在した」地域と砂底土器が出土する地域が重なるのではないかとする。一方、古墳時代から近世まで長きにわたり集落が営まれていた台太郎遺跡の出土遺物の中にも検討を要する土師器があるが、胎土自体が粗であり小石等を含むため砂底土器とは断定できず、台太郎遺跡に於いては砂底土器の存在を確認できていないという事実を付加しておく。

(4) 不掲載遺物の整理より

第15次調査に於いて、遺構数と比して不掲載遺物の量が多い。これには2つの理由がある。一つは破片が多かったこと、もう一つは整理期間が短かったことである。このため、登録と掲載する遺物はその遺構の特徴を表すものに限ってしまったため、図化・掲載された遺物と同じ特徴を示すものは結果として不掲載遺物になっている。今回の不掲載遺物の整理に於いて、小調査区毎に不掲載遺物の整理を行い、遺構や野古△遺跡の時期を考える資料とした。結果は第10表～第20表「不掲載土器一覧」に示した通りである。分類は以下の方法による。

- a 遺構名で仕分けする。 b 上師器と須恵器で分ける。
- c 出土地点毎に整理する。



分析の結果を第98・99・100図に表し口縁部破片数と体部数破片数の関係について別角度より考察を加えた。当報告書編者は以上のように不掲載遺物を活用したが他の角度より分析・活用していただけると嬉しい。

第98図に、遺構（主に不掲載遺物の多い堅穴住居跡・土坑・堅穴状遺構・溝跡）に関して口縁部破片数と体部破片数の分布を図化した。これをみると分布に関しては個体数に違いはあるが以下のようになる。

- ①一つの点に集中していく遺構・・・ R A042・043・051・052
- ②一つの点に集中するが他にも散らばりが認められる遺構・・・ R A047・048・R E001
- ③大きく集まる点は無く、全体に拡散する遺構・・・ R A045・046・053 R D076・079 R G015
- ④については、出土した遺物數自体が多い遺構である。また、この図からは、大部分の遺構に於いて口縁部破片数よりも体部破片数が多くなっている傾向が読みとれるが、R D076・079に於いては体部破片数よりも口縁部破片数のほうが多い（分布が継長になる）ことが読みとれる。前述のRD076の遺物の傾向とあわせると、これらの土坑はより意図的に遺物の廃棄された土坑と性格づけられよう。

第99・100図は、不掲載遺物を器種別、遺構別に上述の方法で図化した。

- ① R A041 - ロクロ壺と非ロクロ甕多 ロクロ壺の割合多（体部破片数 内黒 6 % あかやき 5 %）
- ② R A042 - ロクロ壺と非ロクロ甕多 ロクロ壺が主（体部破片数 内黒 24 % あかやき 106）
- ③ R A043 - ロクロ壺と非ロクロ甕有 全体数少
- ④ R A047 - 非ロクロ甕の割合多 全体数多 一点に集中 特に多い部分有

- ⑤ R A048 - 非クロクロ甕の割合多 分布状況は R A047 と異なる 体部破片数・口縁部破片数ともに多
- ⑥ R A051 - ロクロ甕集中 (体部破片数 内黒39<あかやき152) また非クロクロ甕は体部破片多
- ⑦ R A052 - ロクロ甕集中 (体部破片数 内黒34>あかやき13)
- ⑧ R A053 - 全体数少 墓土上層出土の非クロクロ甕口縁部破片数3に対し体部破片107
- ⑨ R D076・R E001 - ロクロ甕中心 口縁破片部数、体部破片部数とも多

3 遺跡について

2ヶ年にわたる約10,000m²の調査により、野古A遺跡古代集落の状況が次第に明確になりつつある。現時点でもまとめられることは以下のようになる。

(1) 仙北町麥盧所より南西と南東部分に古代集落が形成されていた。ここは南向きで日当たりの良い微高地縁辺部にあたり、北から吹く風の影響もあまり受けない位置にある。第12次調査でこの位置より西側に於いて検出されているのは土坑・陥し穴状土坑と柱穴状土坑だけであり、住居跡等は検出しなかった。自然条件について古代集落形成時考慮されていたということが伺われる。

(2) 遺跡の広がりについて考えた。大まかな把握の仕方であるが、野古A遺跡の住居跡は南西・南東方向から北東方向に向けて拡大していったと考えられる。このことは、比較的高い位置にある本年度調査区(西側・東側)には主に奈良時代の住居跡(8世紀中葉～後半)が位置し、段丘縁辺部の昨年度調査区には奈良時代と平安時代の住居跡(9世紀後半～10世紀中葉)が混在し、そしてそこより一段低い北側に平安時代の住居跡が位置することからいえることである。

(3) 他の盛南開発関連遺跡に比べて、堅穴住居跡の規模は大きい。畠地及び果樹園として利用され地表面下に人手が加えられなかつたことが大きな要因であろう。第92図を参照されたい。奈良時代と平安時代について、堅穴住居跡の床面積(住居跡の規模比較のため)と主軸方向について台太郎遺跡第23・26次調査結果と比較した。前にも述べたが住居跡の規模については ●一辺が6m以上・・・大形 ●一辺が6~4m・・・中形 ●一辺が4m以下・・・小形とした。

また、野古A第12・15次調査例は数的にみて台太郎遺跡より少ないということもつけ加えたい。

①奈良時代：野古A遺跡に於いては、一辺6m前後の住居跡(大形と中形の大の部分)と一辺4m前後と3m以下の住居跡が多い。大形か小形かのいずれかということになろう。7.90×7.30m、柱穴6基を有する大型住居跡もみられる。住居跡主軸方向はN-48°~73°-Wに入り、他はみられない。台太郎遺跡についても同様で、住居跡の規模は一辺5.5~6mと3~4.5m(中形の大と小形の大)に集まる。住居跡主軸方向はN-20°~65°-W、特にN-30°-W付近に集中する。

②平安時代：一辺5m、4m、2.5m前後(中形の中と小形)に集中する。住居跡主軸方向はN→E→S→Wに分散するが、大部分はS-67°~75°-Eに集まり、一つの方向に集中する傾向が窺える。北から東西に振れる傾向は少ない。それに対して台太郎遺跡に於いては、数は少ないが大形の住居跡と一辺2~3mの小形の住居跡に分かれてしまう傾向が窺える。主軸方向に關してもN-45°~90°-Wと奈良時代同様に西に傾くが、北から東へまた南から東へ傾く状態もみられ、野古A遺跡ほど一つの方向に集中するとは言い切れない。

(4) 堅穴住居跡間の組み合わせ

①奈良時代：カマドの向きについては、N-48°~73°-Wの中に収まり、作り方も朝貢式と統一されている。奈良時代の住居跡間に重複はない。住居跡間の距離的な制限を考慮すれば最低2~5mは必要とされる。

これより、第12次・15次調査で検出された19棟が同時に存在することは可能であろう。ちなみに、一番短い距離でR A050とR A053の1.2mである。また、奈良時代の集落は大形・中形と小形の住居跡の組み合わせで成り立つことを考えて、住居跡間の距離に着目した。

中心R A026・・・半径20mに位置する住居跡R A030・035・048（026・048は主軸方向同じ）

（大形） 半径40mに位置する住居跡R A017・047

中心R A014・・・半径120mに位置する住居跡R A048 半径100mに位置する住居跡R A017・045

（大形） 半径80mに位置する住居跡R A047 R A050（014・044・045・050は主軸方向同じ）

中心R A053（中形）・・・半径40mに位置する住居跡R A015・038 半径60mに位置する住居跡R A036となった。古代の人々が距離という事項にどのような概念を有していたか不明であるし、あくまで偶然であるかもしれない。また、この考え方によると、出土遺物数（掲載・不掲載）が特に多いRA047は、RA026の組にもRA014の組にも属することになる。

②平安時代：同時代間の住居跡の重複はみられない。奈良時代同様に距離的な間隔を考慮すれば、住居跡20棟が全体的に小規模になっているため最低2mが必要であるが、全ての住居跡が同時に存在することはありうる。またカマドの向きは、S-68°~72°-Eに集中する傾向が伺われる。ただし、ほかと異なり、R A039とR A040はN-23°~88°-EにR A025とR A051(②号カマド)はS-5°~33°-Wに頗る。R A051以外は小形住居跡である。灰白色火山灰の認められる住居跡は、R A018（廐土全体）019（下層）020（全体）022（上層）024（下層）041（下層と貼床廐土）042（全体）である。このうちR A042の灰白色火山灰はTo-Hであり住居跡に流れ込んだとみられるため今回の考察から除く。ほかの灰白色火山灰をTo-aとした場合、埋土と貼床にあった場合は上層にあった場合より新しい住居跡と考え、新しい順に（新）R A025・028・029・031・033・034・037→R A018・019・020・024・041→（旧）R A022となろう。当初新しいと考えたR A042は遺物の分析より9世紀中～後半となり、段丘縁辺部のグループと同じかやや古い住居跡であろう。

（5）最後に今後の調査に対する課題をまとめたい。

① 第12次と第15次調査に於いて、本遺跡は古墳時代末～奈良時代（7世紀後半～8世紀後半）と平安時代（9世紀中葉～10世紀中葉）に集落が営まれていたことが明確となった。

一方で遺構、遺物が確認されていない9世紀前半の集落のあり方はどうであったのか、特に本遺跡の北西約2kmに位置する古代城柵志波城との関連についてはどうであったのかも明確にされたい。また、庵妻塙農業用水路を挟んで隣接する飯岡沢田遺跡、段丘下北東側と位置する熊堂B遺跡との関連についても調査を進めるなかで、究明してほしい。

② 第12次と第15次調査に於いて、古代の野古A遺跡のあり方については、ある程度明確になってきている。一方で、過去の調査の中では、中世～近世にかけての遺跡の様子については遺構も確認されておらず不明である。この時期の野古A集落の様子は、どのようなものであったのか。北東側に位置する熊堂B遺跡では、中世～近世初頭の掘立柱建物が検出されていることから、この時期の野古A集落の様子も、知りたいところである。

<野外作業員>

柴田久美子・松本善枝・佐藤久美子・中村繁子・下平喜代美・佐藤ヒデ子・村上節子・佐藤美知子
猪股智子・吉田テルミ・吉田叶子・川村エリ子・山木光子・朝倉恵津子・山本智夫・上女鹿正二
古田年雄・伊藤進之介・加藤喜一

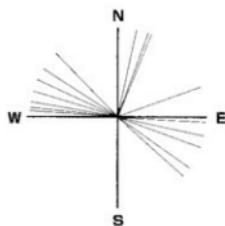
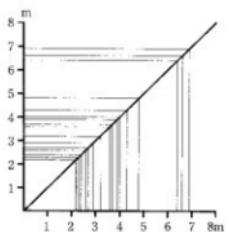
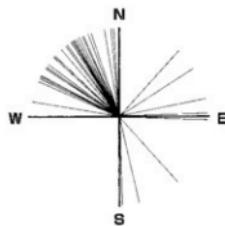
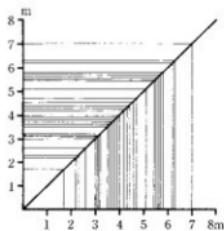
<室内作業員・盛岡開発関連遺跡・調査課・力持遺跡>

中塚眞理子・小笠原千代子・岩渕光子・伊藤周子・斎坂信吾・澤口由希子・高橋千里・越場美幸
澤瀬幸子・村上千代・湯村奈保・高橋富美子・中塚久美子・細川真裕美・鎌田条子・藤沢成子
白澤里砂・斎藤由香・藤原奈美

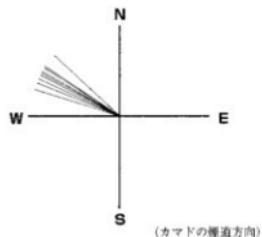
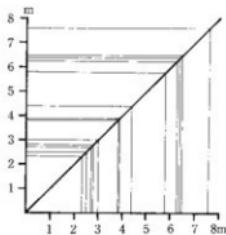
参考・引用文献

- 1 盛岡市教育委員会（1979）：『太田方八丁遺跡』昭和53年度発掘調査概要
- 2 滝沢村教育委員会（平成元年）：『高柳遺跡・室小路Ⅱ遺跡』滝沢村文化財調査報告書第9集
- 3 栗駒町教育委員会（1995）：『長者原遺跡』栗駒町文化財調査報告書第3集
- 4 盛岡市教育委員会（1998）：『盛岡市埋蔵文化財調査年報－平成5・6年度－』
- 5 八戸市教育委員会（2002）：『重地遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第95集
- 6 伊藤博幸（1987）：「7・8世紀エミシ社会の基礎構造」『岩手史学研究』70
- 7 櫻田 隆（1993）：「[砂底]土器考」『翔古論聚－久保哲三先生追悼論文集』
- 8 八木光則（1998）：『馬淵川流域』『東北地方の古代集落』 第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料
- 9 伊藤博幸（1998）：『北上盆地南部』『東北地方の古代集落』 第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料
- 10 利部 修（2000）：『平安時代の砂底土器と東北北部型長頸瓶』
月刊 考古学ジャーナル 8月号 No 462】
- 11 岩手県文化振興事業団（1998）：『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成9年度分）』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第282集
- 12 岩手県文化振興事業団（2002）：『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成13年度分）』 同397集
- 13 伊東 格（1995）：『本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書』 同226集
- 14 千葉正彦（2002）：『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書』 同337集
- 15 菊地栄壽・小笠原健一郎（1999）：『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書』 同308集
- 16 小笠原健一郎（1999）：『熊堂B遺跡第5次・台太郎遺跡16次発掘調査報告書』 同293集
- 17 斉藤邦雄（1996）：『小幅遺跡第2次発掘調査報告書』 同244集
- 18 酒井宗孝（1996）：『小幅遺跡第4次発掘調査報告書』 同265集
- 19 濱浩二郎（2000）：『向中野館第3次・小幅遺跡第10次調査発掘調査報告書』 同338集
- 20 高橋義介（1999）：『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書』 同309集
- 21 高橋義介・金子佐知子・佐藤綾子（2001）：『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書』 同369集
- 22 杉沢昭太郎（2003）：『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書』 同416集
- 23 菊地貴広（2002）：『大向II遺跡発掘調査報告書』 同387集

台太郎遺跡23・26次調査



野古A遺跡12・15次調査



竪穴住居跡
床面積
(奈良時代)

竪穴住居跡
主軸方向
(奈良時代)

竪穴住居跡
床面積
(平安時代)

竪穴住居跡
主軸方向
(平安時代)

(カマドの煙道方向)

第92図 竪穴住居跡床面積・主軸方向分析

奈良時代の遺物

〈RA046〉

$S = 1/6$



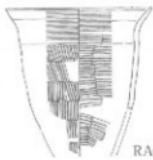
RA046-1



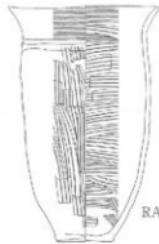
RA046-2



RA046-5



RA046-3



RA046-4

〈RA047〉



RA047-2



RA047-9



RA047-4



RA047-12



RA047-10



RA047-6



RA047-5



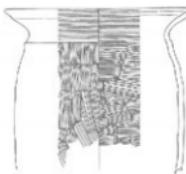
RA047-13



RA047-15



RA047-7



RA047-20



RA047-33



RA047-21



RA047-23

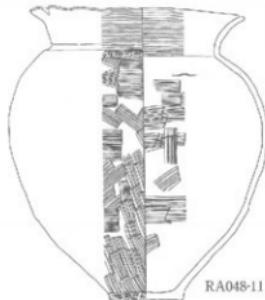
〈RA048〉



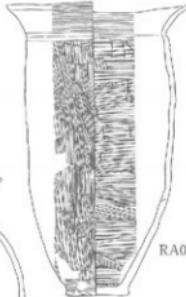
RA048-2



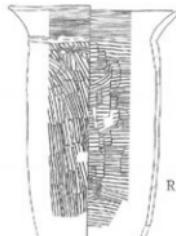
RA048-1



RA048-11



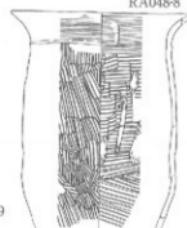
RA048-5



RA048-6



RA048-9



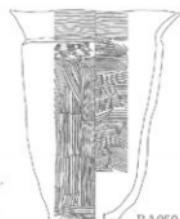
RA048-8

第93図 土器集成図（1）

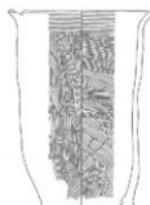
〈RA050〉



RA050-1



RA050-4

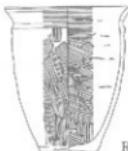


RA050-3

〈RA053〉



RA053-1



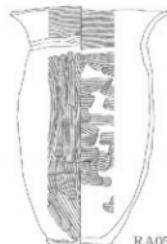
RA053-7



RA053-9



RA053-8



RA053-3

平安時代の遺物

S = $\frac{1}{6}$

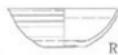
〈RA041〉



RA041-2



RA041-1



RA041-4

〈RA042〉



RA042-6



RA042-1



RA042-5



RA042-8



RA042-7



RA042-3



RA042-11



RA042-10



RA042-2



RA042-14



RA042-17



RA042-15



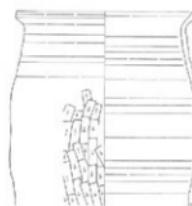
RA042-16



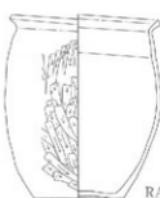
RA042-18



RA042-13



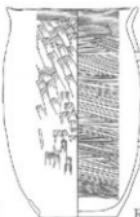
RA042-22



RA042-20



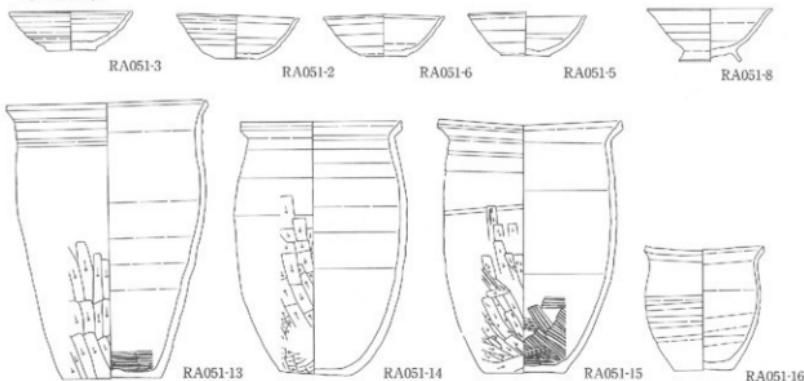
RA042-29



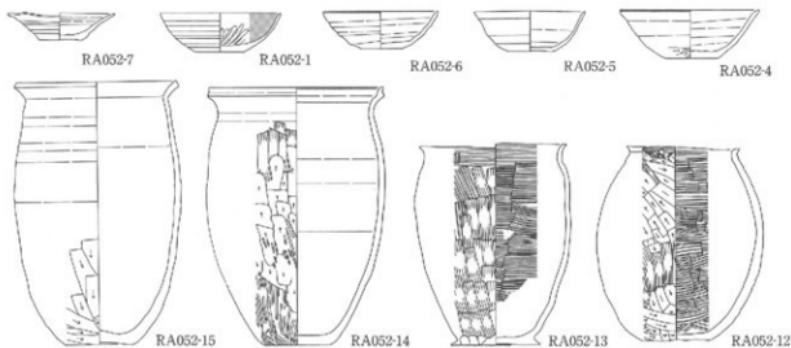
RA042-21

第94図 土器集成図(2)

〈RA051〉



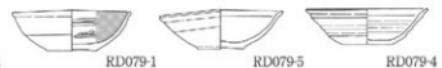
〈RA052〉



〈RD076〉



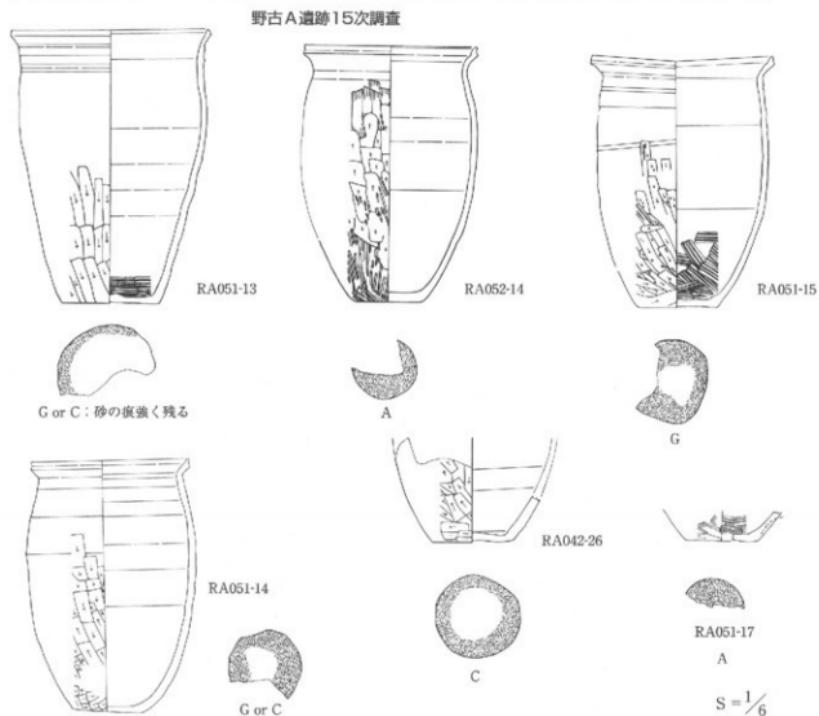
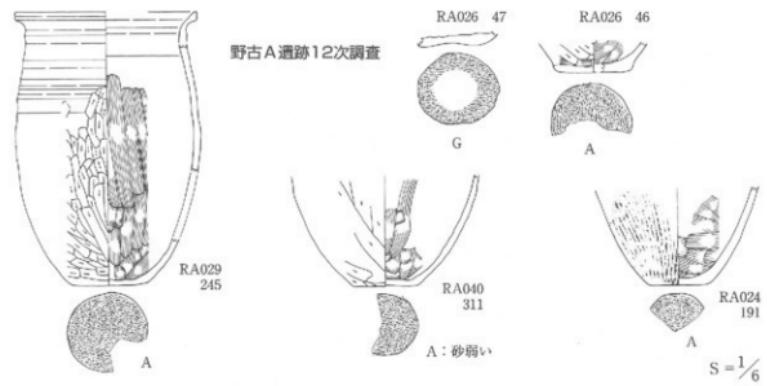
〈RD079〉



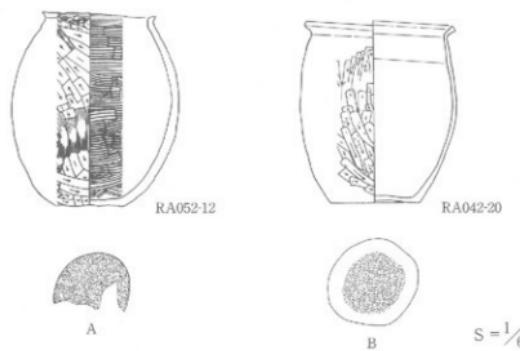
〈RE001〉



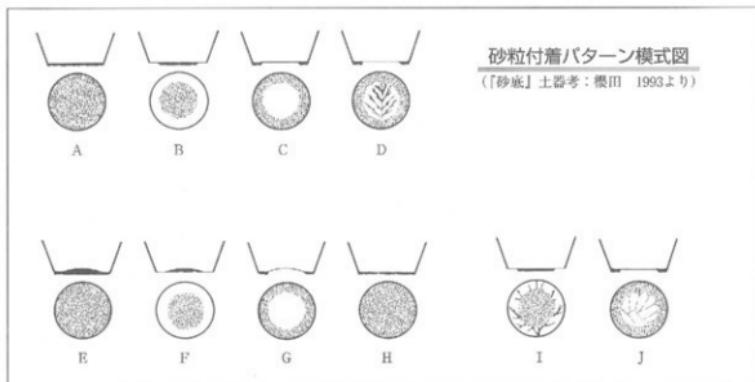
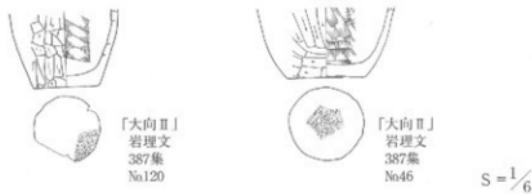
第95図 土器集成図(3)



第96図 砂底土器 (1)

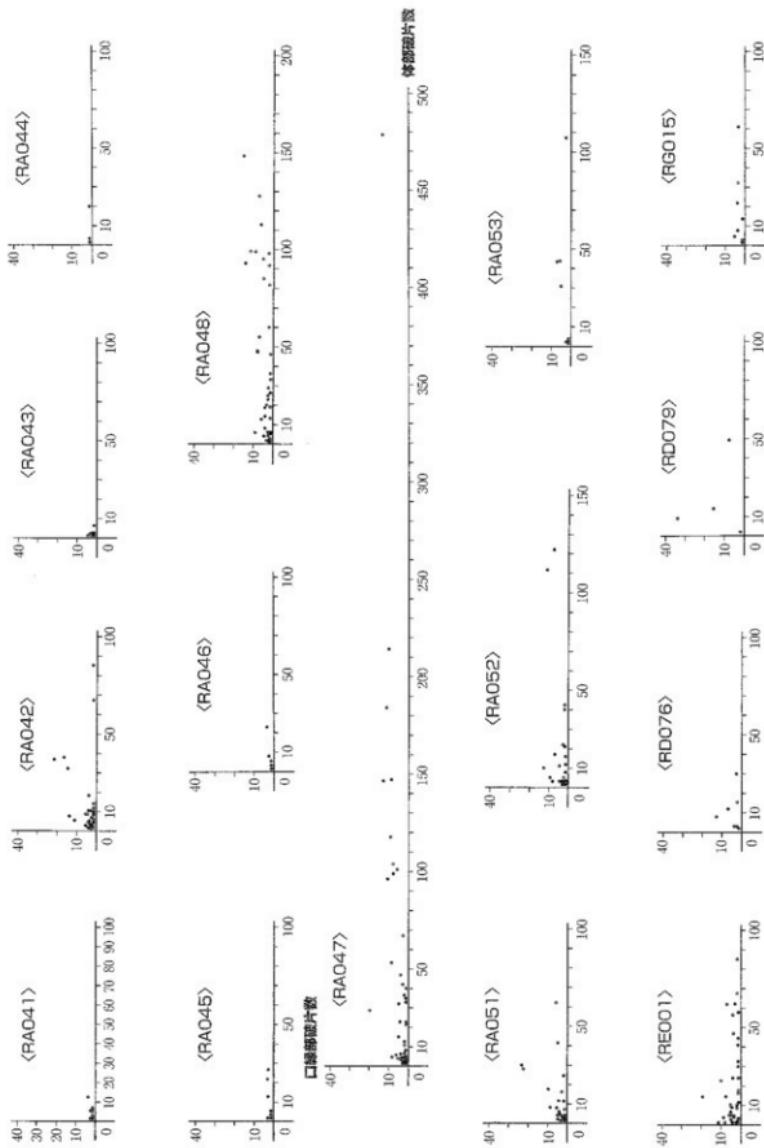


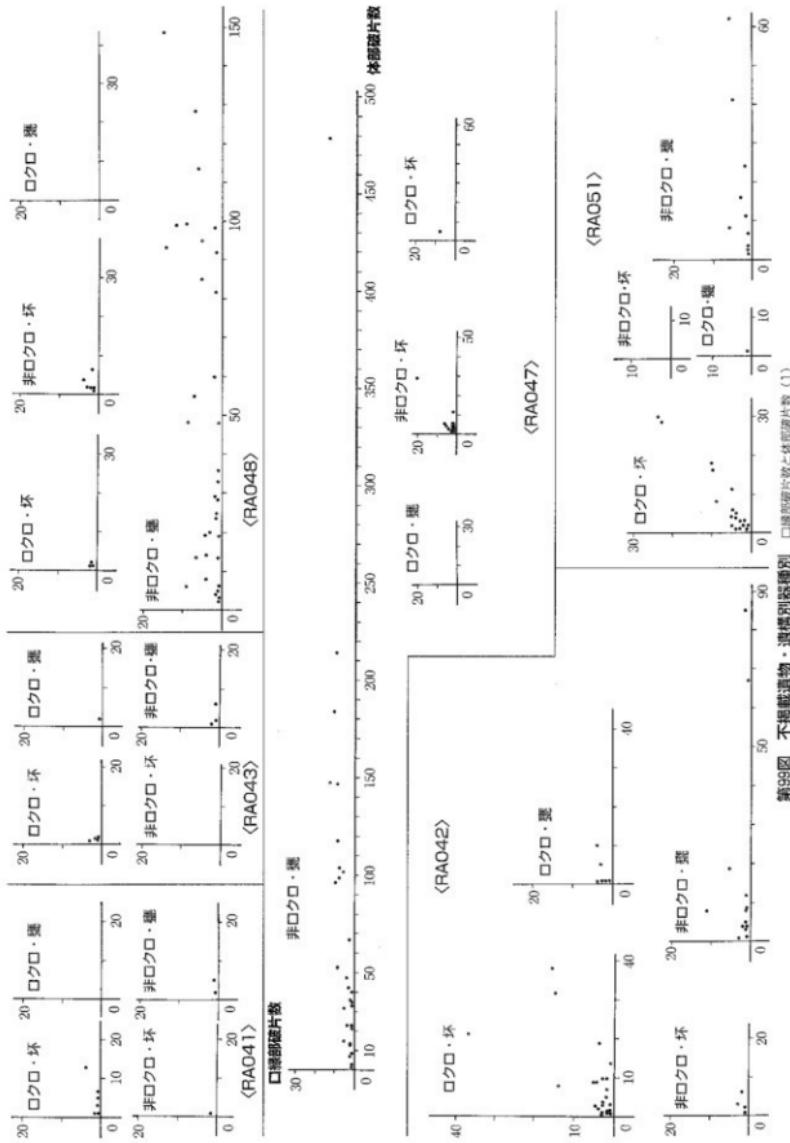
参考資料



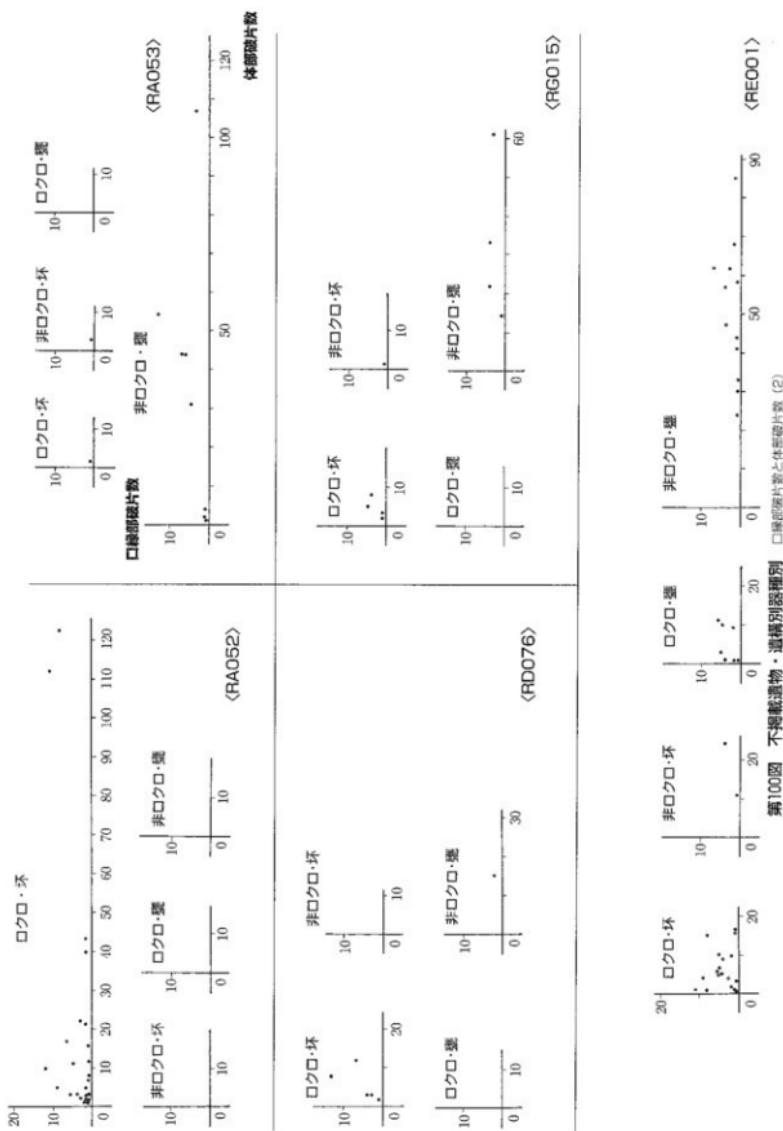
第97図 砂底土器 (2)

第98圖 不規整物・選擇列
□細胞數・數値と体積細片数



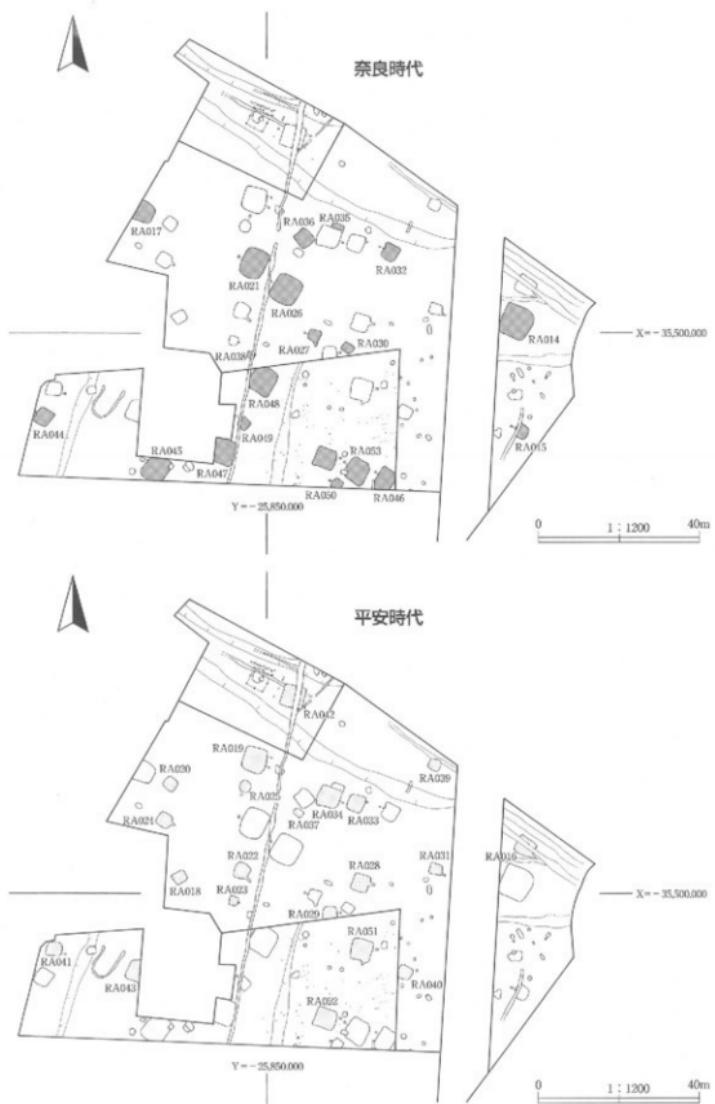


第69図 不規則複葉・複葉別個體鱗片数と体部鱗片数 (1)



第100図 不規則遺物・遮擋別器種別
口唇部破片数と体部破片数 (2)

〈RE001〉



第101図 時代別堅穴住跡分布図

野古A遺跡の自然科学分析

| | | |
|------------------|--|-------|
| <目次> | | |
| はじめに | p.158 | |
| I. テフラの分析 | p.159 | |
| 1. 試料 | p.159 | |
| 2. 分析方法 | p.159 | |
| (1) テフラ検出同定 | p.159 | |
| (2) 重鉱物・火山ガラス比分析 | p.159 | |
| 3. 結果 | p.159 | |
| (1) テフラ検出同定 | p.159 | |
| (2) 重鉱物・火山ガラス比分析 | p.160 | |
| 4. 考察 | p.160 | |
| II. 土器付着物の分析 | p.161 | |
| 1. 試料 | p.161 | |
| 2. 分析方法 | p.161 | |
| 3. 結果 | p.162 | |
| 4. 考察 | p.163 | |
| III. 骨の同定 | p.163 | |
| 1. 試料 | p.163 | |
| 2. 方法 | p.163 | |
| 3. 結果 | p.164 | |
| 4. 考察 | p.164 | |
| 引用文献 | p.164 | |
| IV. 炭化材同定 | p.164 | |
| 1. 試料 | p.164 | |
| 2. 方法 | p.164 | |
| 3. 結果 | p.164 | |
| 4. 考察 | p.164 | |
| 引用文献 | p.165 | |
| <図表・図版一覧> | | |
| 表1 | 重鉱物・火山ガラス比分析結果 | p.160 |
| 図1 | 重鉱物組成および火山ガラス比 | p.160 |
| 図2 | 火山ガラスの屈折率 | p.160 |
| 図3 | ONK-02 RA45カマド出土ミニチュア 土器付着物のIRスペクトル | p.162 |
| 図版1 | 軽石・火山ガラス・重鉱物 | p.166 |
| 図版2 | 野古A遺跡の炭化材 | p.165 |

野古A遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県盛岡市に所在する野古A遺跡は、北上川支流の零石川右岸に広がる河岸段丘上に位置する。この段丘は、吉田はか（1984）により低位段丘に分類されている。段丘の形成年代については、詳細には記載されていないが、更新世後期に位置付けられている。発掘調査では、奈良・平安時代を中心とする遺構および遺物が検出されているが、周辺にも同時期の遺構・遺物が確認されている熊堂B遺跡や白太郎遺跡などが分布する。

今回の分析調査では、以下に述べる3課題が設定されており、それに対応した分析および解析を行う。

1) 平安時代とされる大型の堅穴住居の覆土および基本土層中より検出された火山灰（テフラ）と考えられている堆積物について、その碎屑物の特徴を明らかにすることにより、それがテフラであることおよびテフラであれば、その給源と噴出年代の対比を行い、調査区内における層序および遺構の年代に関わる資料を作成する。

2) 平安時代の堅穴住居で検出されたカマドより出土したミニチュア土器には、その内面に黒色を呈する

膜状の物質が器の広い部分に付着している状況が認められた。この付着物の性質を明らかにして、その由来を考え、土器の用途・性格の手がかりとする。

3) 平安時代の堅穴住居より検出されたカマドの煙道内および土坑内から出土した骨片を同定し、当時の食性等に関する情報を得る。

I. テフラの分析

1. 試料

試料は、平安時代のものとされる堅穴住居RA042の床面直上の覆土中に認められた灰白色火山灰とされた試料(ONK-02-15 RA042床直上とする)と、調査区の北側調査区基本土層のⅡ層中に認められた火山灰とされる試料(ONK-02-15 北側調査区基本土層Ⅱ層とする)の合計2点である。

2. 分析方法

(1) テフラ検出同定

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

(2) 重鉱物・火山ガラス比分析

試料約40gに水を加え、超音波洗浄装置を用いて粒子を分散し、250メッシュの分析筒上にて水洗して粒径が1/16mmより小さい粒子を除去する。乾燥させた後、篩別して、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分を、ポリタンクスチレン酸ナトリウム(比重約2.96に調整)により重液分離し、得られた砂分をそれぞれ偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物の同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒は「その他」とする。

また、火山ガラス比は、軽鉱物中の火山ガラスとそれ以外の粒子を、偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで計数し、火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型、中間型、軽石型の3つの型に分類する。バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた纖維束状のものとする。

なお、火山ガラスについては、屈折率の測定を行い、テフラの同定をより確実なものとする。測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

(1) テフラ検出同定

2点の試料はともに、多量の軽石と中量の火山ガラスを含む。軽石および火山ガラスの特徴は、2点の試料ともに同様である。軽石は、最大径約1.5mm、白~黄白色を呈し、発泡はやや良好である。火山ガラスは、塊状および纖維束状の軽石型が多く、バブル型も少量混在する。いずれの形態も無色透明である。

(2) 重鉱物・火山ガラス比分析

表1 重鉱物・火山ガラス比分析結果

| 試 料 名 | カ ン ラ ン 石 | 斜 方 輝 石 | 單 斜 輝 石 | 不 透 明 鉱 物 | そ の 他 | 合 計 | バ ブル 型 火 山 ガ ラ ス | 中 間 型 火 山 ガ ラ ス | 軽 石 型 火 山 ガ ラ ス | そ の 他 | 合 計 |
|-----------------------|-----------------------|------------------|------------------|-----------------------|-------------|--------|---------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|-------------|---------|
| | | | | | | | | | | | |
| ONK-02-15 RA042 床直上 | | 0 | 145 | 24 | 74 | 7 | 250 | 5 | 0 | 52 | 193 250 |
| ONK-02-15 北側調査区基本土層Ⅱ層 | | 0 | 130 | 24 | 87 | 9 | 250 | 2 | 0 | 68 | 180 250 |

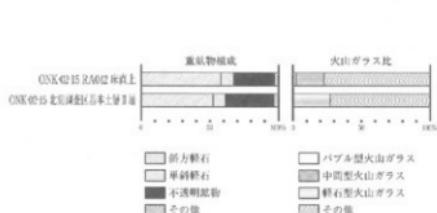


図1 重鉱物組成および火山ガラス比

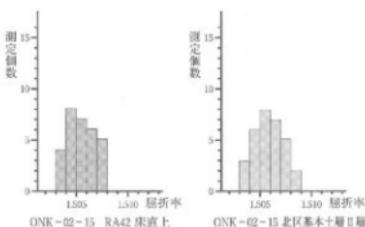


図2 火山ガラスの屈折率

結果を表1、図1に示す。2点の試料とも、ほぼ同様の重鉱物組成および火山ガラス比を示す。重鉱物組成は、斜方輝石が非常に多く、全体の50%強を占める。他に少量の單斜輝石と不透明鉱物を伴い、極めて微量のカンラン石も含まれる。火山ガラスは、軽飴物中の約20%を占める。そのほとんどは軽石型であり、微量のバブル型を伴う。

火山ガラスの屈折率は、2点の試料ともにn1.503~1.508 (mode n1.505~1.506) であった(図2)。

4. 考察

既存の研究例(例えば、町田ほか(1981; 1984)、Arai et al. (1986)、町田・新井(1992)など)に従えば、後期更新世以降に盛岡市周辺に降下堆積したテフラは、岩手火山および秋田駒ヶ岳を給源とするテフラを主体とする。須藤・石井(1987)などの記載によれば、両火山とともに噴出物の岩質は、カンラン石玄武岩～カンラン石含有角輝石安山岩であり、降下火碎堆積物にもスコリアが混在している。また、今回認められたようなバブル型火山ガラスを伴うような噴出物の記載もない。したがって、本分析で認められた軽石および火山ガラスは、岩手火山および秋田駒ヶ岳を給源とするテフラではないと考えられる。これら両火山以外を給源とするテフラであり、かつ前述したような特徴を有する軽石と火山ガラスを伴うテフラとしては、十和田カルデラを給源とするテフラをあげることができる。上述の研究例およびHayakawa(1985)における記載から、後期更新世以降、盛岡市付近まで分布する十和田カルデラ起源のテフラは、平安時代に噴出した十和田a(T o-a: 町田ほか, 1984)、縄文時代前期の約5500年前に噴出した十和田中揮(T o-C u: Hayakawa, 1985)、約1.2~1.3万年前に噴出した十和田八戸(T o-H: Hayakawa, 1985; 町田・新井,

1992) の各テフラにはほぼ限定されると考えてよい。これらのテフラのうち、T o-Hは盛岡市付近では降下堆積物ではなく火砕流堆積物として認められている(町田・新井, 1992; 日本の地質「東北地方」編集委員会, 1989)。上記3枚のテフラを構成する軽石および火山ガラスの色調や形態的特徴は、互いによく類似するが、火山ガラスの屈折率により比較的明瞭に識別できる。町田・新井(1992)に提示された値は、T o-aがn1.496~1.504、T o-Cがn1.510~1.514、T o-IIがn1.502~1.509となっている。したがって、今回の試料は、上述した火山ガラスの屈折率から、T o-IIに由来する軽石および火山ガラスであると判断される。

なお、T o-IIは、十和田カルデラのテフラの中では珍しく角閃石を含むことが特徴とされているが、本試料の重鉱物分析では、角閃石を認めることができなかった。これは、今回の試料を構成している碎屑物がT o-Hに由来するものだけではなく、むしろ周辺の地質に由来する碎屑物の方が多いことによると考えられる。すなわち、処理により得られた重鉱物のはほとんどは、段丘の後背に大量に分布する岩手火山の火砕堆積物に由来する可能性が高い。なお、隣接する熊堂B遺跡で検出されたT o-IIを含む土壤試料にはカンラン石が微量認められている。このことは、重鉱物が岩手火山の噴出物に由来することを支持しているといえる。

なお、T o-IIが土壤層内で認められた場合、それが噴出時に流下堆積したものか、その後削剥や移動を受けずに保存されたものであれば、その検出された層位は、約1.2~1.3万年前を示すよい指標となる。しかし、流下堆積後に削剥を受け移動し、再堆積をしたT o-IIの碎屑物が土壤層中から検出されることも普通に起こることと考えられる。今回の試料では、ONK-02-15RA042床直上の試料は、平安時代の住居跡覆土から採取されており、この試料に含まれるT o-IIは明らかに移動、再堆積したものであり、住居跡の年代の指標とはならない。

今後、周辺域において、今回と同様の碎屑物を検出した場合は、その場所の地形および層位と平面的な分布、さらに遺構や遺物などと関連する場合には、それらとの層位関係などを充分に考慮した上で、年代指標としての評価を判断する必要がある。

II. 土器付着物の分析

1. 試料

試料は、堅穴住居跡RA045のカマドより出土した小型手捏ね土器の内面に付着した黒色物である。発掘調査所見では、漆の可能性もあるとされている。

2. 分析方法

赤外線吸収スペクトル分析(赤外分光分析)を実施した。赤外分光分析は、物質の多重結合や官能基の構造がわかるため有機化合物の大まかな性状を簡易的に調べができる最適な方法である。また、あらかじめ試料物質が予想できるとき、標準試料など既知のスペクトルと比較して未知物質の同定および確認ができる(山田, 1986)。以下に処理方法を述べる。

1) 分析試料の調製

土器に付着した黒色物質を剥離し、105°Cで2時間乾燥させた後、メノウ乳鉢で微粉砕(200mesh以下)し、分析試料とした。

2) 赤外線吸収スペクトルの測定

調製した微粉砕試料を以下の条件で測定した(山田, 1986)。

装置：島津製作所製FTIR-8100A

測光値 (Measuring mode) : %T

分解能 (Resolution) : 4.0cm⁻¹

積算回数 (No.of Scan) : 40回

ゲイン (Gain) : 自動

ミラー速度 (Detector) : 2.8mm/sec

アボダイズ関数 (Apodization) : Happ-genzel

測定範囲: 4600~400cm⁻¹

測定方法: KBr ミクロ錠剤法

3. 結果

赤外線吸収スペクトル図を図3に示す。主な吸収帯は3430、2930、2860、1610、1400、1040cm⁻¹付近に見られる強い吸収帯のほか、1710、1250、1090、770、690、540、470cm⁻¹の吸収帯である。各吸収帯から推定される官能基は次のとおりである。

3430cm⁻¹付近の強い吸収帯は水分子 (H-OH) またはO-H伸縮振動、2930、2860cm⁻¹付近の吸収帯はメチレン基のC-H伸縮振動、1710cm⁻¹付近の吸収帯はC=O伸縮振動、1610cm⁻¹付近の強い吸収帯はC=OあるいはC=C伸縮振動、1400cm⁻¹付近の吸収帯はC-O伸縮振動またはO-H変角振動、1250cm⁻¹付近の吸収帯はC-O-C伸縮振動、1040cm⁻¹の吸収帯はSi-O基またはAl-O基の伸縮振動およびC-H面内変角振動と推定される。なお、これら以外の弱い吸収帯は、上記の強い吸収帯に帰属する官能基に由来する吸収によるものと考えられる。

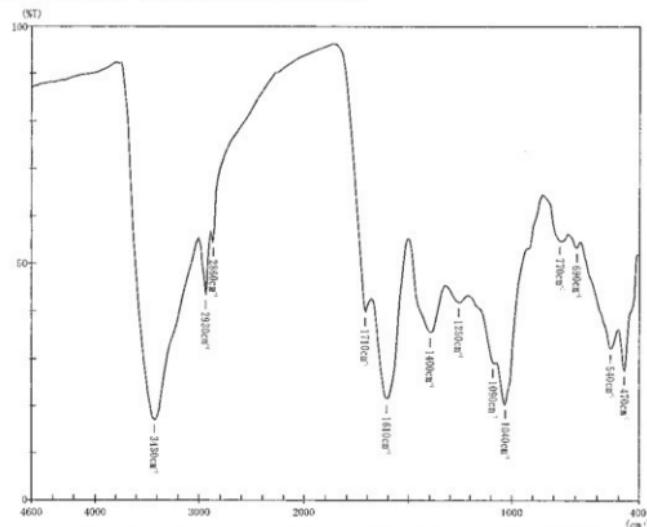


図3 ONK-02 RA45 カマド出土ミニチュア土器付着物のIRスペクトル

4. 考察

当社では試料の出所が既知の物質について、同一測定条件で赤外線吸収スペクトルを測定した例がいくつもあるが（未公表）、遺跡で検出される黒色物質の代表として漆、天然アスファルト、松脂、動植物油、炭化物などが調査例としてあげられる。これらは、いずれも固有の赤外吸収スペクトルの吸収帯があり、漆では3480、2930、1710、1610、1440cm⁻¹、天然アスファルトでは2900、1600、1460、1380cm⁻¹と脂肪族飽和炭化水素に帰属する吸収帶に特徴がある。また、松脂は1700cm⁻¹、動植物油は1740cm⁻¹、穀物等の炭化物は1140~1160cm⁻¹に特徴ある吸収帯がある。

調査対象とした付着物の吸収スペクトルにおいては、2930、2860cm⁻¹付近の吸収帯において炭化水素化合物の存在が見られることから、本付着物が有機物であることが容易に確認できる。一方、付着物のスペクトルパターンを上記の黒色物質の標準的なスペクトルと比較した場合、各吸収帯の出現位置は漆に類似しているが、全体的なパターンが異なることから、漆である可能性は低い。漆以外に考えられるものとしては、植物等の炭化物が挙げられる。ただし、炭化物とした場合には2930、2860cm⁻¹付近の吸収が認められることより、その炭化程度は低い状態にあると推定される。

III. 骨の同定

1. 試料

試料は、竪穴住居跡RA045内カマド煙道部から出土した骨（骨1）、同じく竪穴住居跡RA048の煙道部から出土した骨（骨2）、計2点である。両試料とも破片となっており、また1試料に複数の点数が認められる。また、これら出土骨は、いずれも灰白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じている。

2. 分析方法

試料に付着した泥分を水に浸した筆で静かに除去する。自然乾燥後、試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。なお、同定には、金子浩昌先生の協力を得た。

3. 結果

両試料とも、その大部分がニホンジカあるいはイノシシ程度の大きさの獸類焼骨片であると考えられるが、種類および部位を特定するに至らない標本が多い。ただし、骨2では、イノシシ (*Sus scrofa*) の胎児骨と思われる大腿骨が1点検出される。

4. 考察

両試料とも住居跡内のカマド煙道部から採取されていることから、出土骨は人為的に投棄されたことが想像される。いずれの骨も灰白色を呈し、表面に細かいひび割れがある。これは、加熱を受けたことを意味する。このために保存状態が悪く、種類や部位を特定できないものが多いが、イノシシ胎児の大転骨が検出される。イノシシは、足が短いために多雪地帯での行動が苦手とされている（阿部ほか、1991；仲谷、2001）。特に、検出された骨が胎児骨である点を考慮すると、本遺跡周辺に繁殖集団が棲息していたと想像され、これらを食料源などとして利用していたと思われる。

引用文献

- 阿部 水・石井信夫・金子之史・前田喜四郎・三浦慎吾・米田政明（1991）日本の哺乳類。195p., 東海大学出版会。
- Arai, F.・Machida, H.・Okumura, K.・Miyauchi, T.・Soda, T.・Yamagata, K. (1986) Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II - Tephra occurring in Northeast Honshu and Hokkaido -. Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21, p.223-250.
- 古澤 明 (1995) 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別。地質学雑誌, 101, p.123-133.
- HAYAKAWA,Y. (1985) Pyroclastic Geology of Towada Volcano. Bulletin of The Earthquake Research Institute University of Tokyo.vol.60 p.507-592.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。276p., 東京大学出版会。
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ。科学, 51, p.562-569.
- 町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦 (1984) テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文学・自然科学」, p.865-928.
- 仲谷 淳 (2001) 知られざるイノシシの生態と社会。高橋春成編「イノシシと人間 共に生きる」, p.200-220, 古今書院。
- 日本の地質「東北地方」編集委員会 (1989) 日本の地質2 東北地方。338p., 共立出版。
- 須藤 茂・石井武政 (1987) 半石地域の地質。地域地質研究報告 (5万分の1図幅), 142p., 地質調査所。
- 吉田 尚・大沢 あつし・片山正人・須田芳郎 (1984) 20万分の1地質図幅「盛岡」, 地質調査所。

IV. 炭化材同定

1 試料

試料は、堅穴住居跡R A052カマド北側焼土上から出土した炭化材1点(炭8)である。

2 方法

剃刀の刃を用いて木LJ(横断面)・柱目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作成し、実体顕微鏡及び走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3 結果

炭化材は、落葉広葉樹のクリに同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔眼部は1~4列、孔眼外で急激へやや緩やかに管径を減じた後、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1~15細胞高。

4 考察

炭化材は、カマド北の焼土の上から出土しており、燃料材に由来する可能性がある。樹種は、落葉広葉樹のクリであった。炭化材は、同定した以外にも同箇所から多数出土している。それらの炭化材を肉眼で観察した限りでは、ほとんどの試料の特徴がクリに一致する。このことから、燃料材にはクリを中心とした種類

構成がみられたことが推定される。

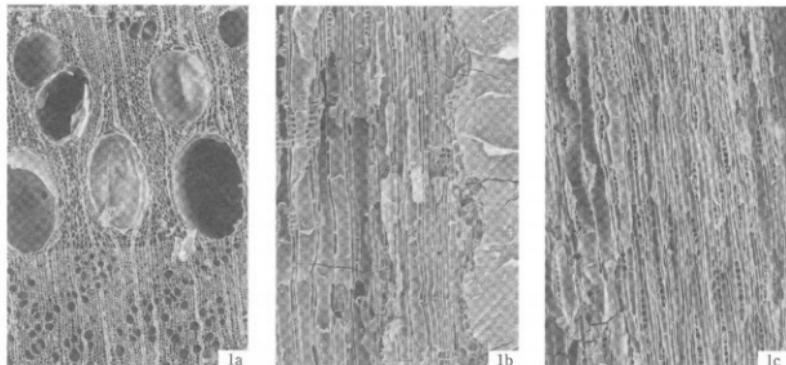
クリは、人里周辺の二次林等の落葉広葉樹林に普通にみられる種類である。また、果実が食料となることから、保護・育成されることもある。このことから、本遺跡周辺に生育または保護されていたクリの木材を燃料材として利用した可能性がある。果実を食料とする種類の木材を利用することは、一見すると矛盾する。クリについては、9年生～10年生以降から20年生前後の樹齢が果実期であり、一般に20年生以降は年ごとに収量が減少することが指摘されている。(志村、1984) このことを考慮すれば、若木を育てるとともに収量の落ちた老木を伐採して木材を利用した可能性がある。

今後、古植生や栽培に関する情報も蓄積し、総合的に植物資源利用の状況を検討したい。

引用文献

志村 黙 (1984) クリの生育特性 「農業技術体系 果樹編5 クリ基礎編」, p.11-16 社団法人 農山漁村文化協会

図版2 野古A遺跡の炭化材



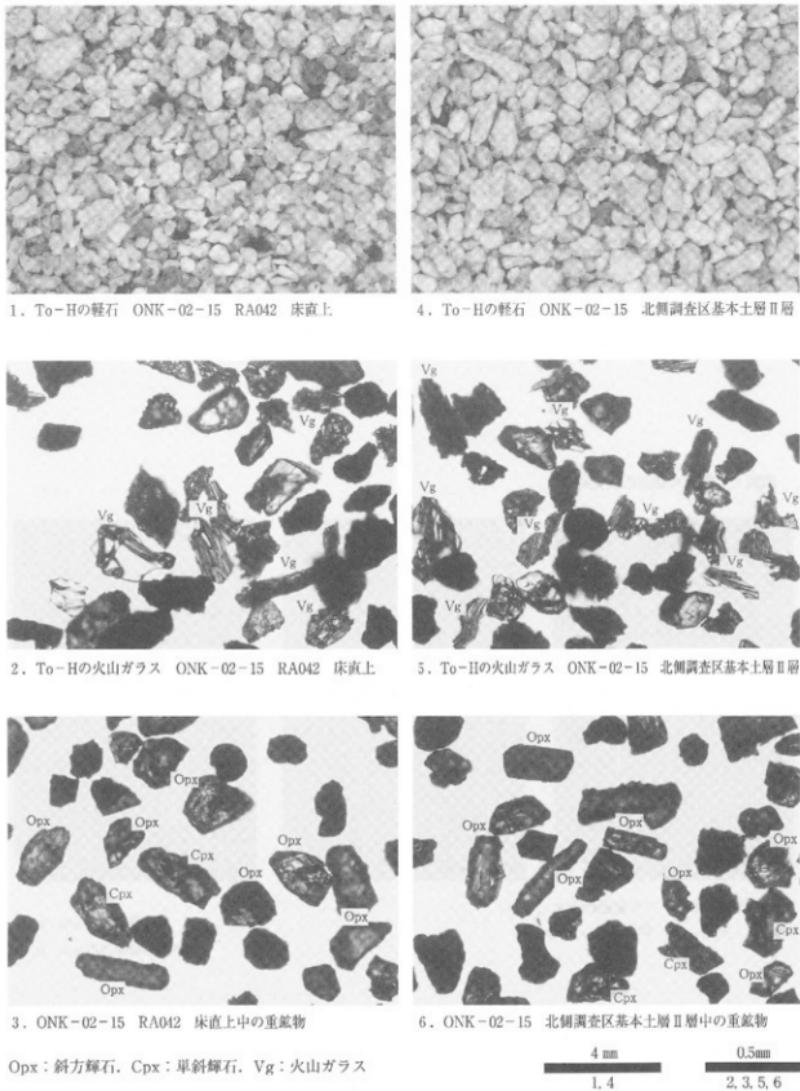
1. クリ (RA052カマド北側焼土上 炭8)

a : 木口, b : 粽目, c : 板目

200 μm : a

200 μm : b, c

図版1 軽石・火山ガラス・重鉱物





遺跡全景



出土遺物
写真図版1 遺跡と遺物



遺跡周辺Ⅰ
(昭和23年米軍撮影の空中写真)

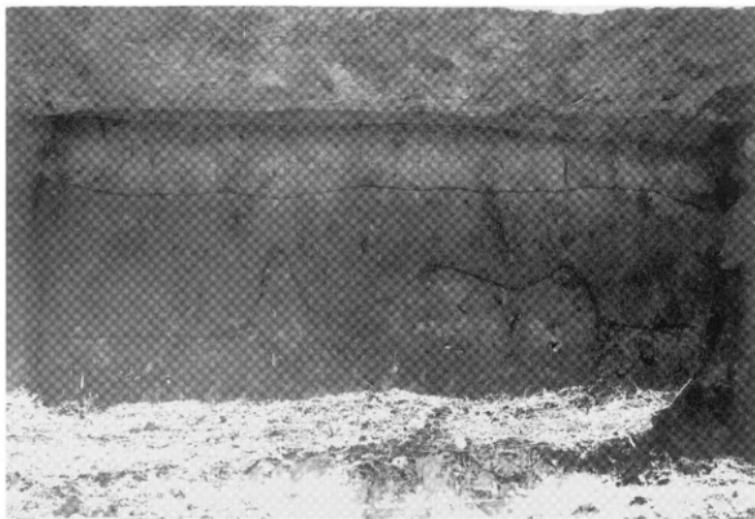


遺跡周辺Ⅱ
(昭和37年国土地理院撮影の空中写真)

写真図版2 盛南地区の変遷1



遺跡周辺Ⅲ（平成13年撮影）



基本土層（東側調査区・北から）

写真図版 3 盛南地区の変遷 2・基本土層

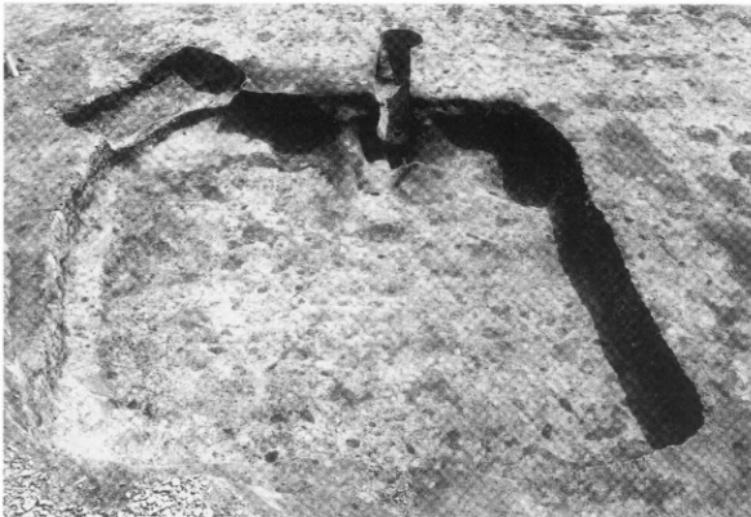


北側調査区（南から）



西側・東側調査区（南から）

写真図版4 遺跡全景



RAO41 窪穴住居跡 完掘（西から）



土層断面（南から）

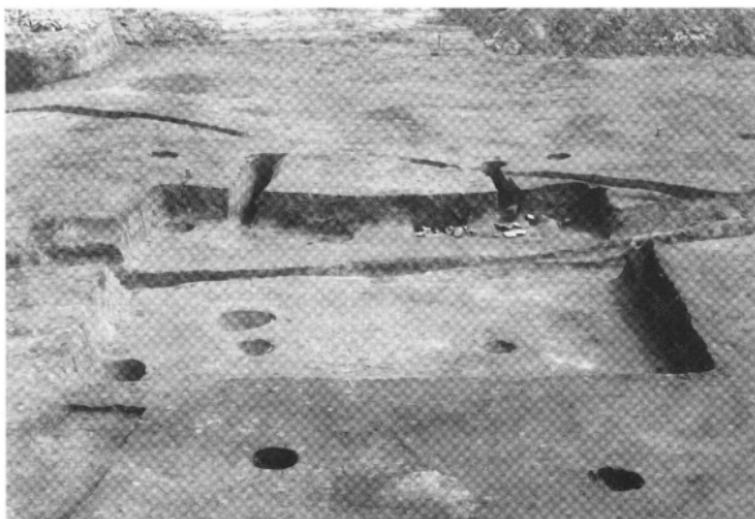


カマド袖断面（西から）

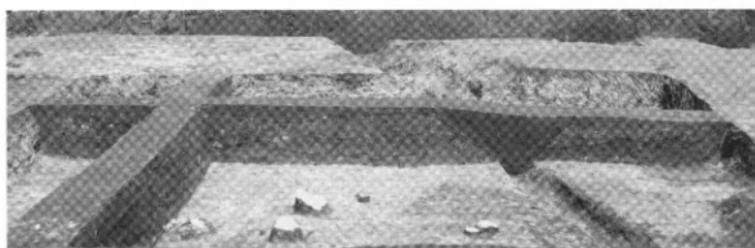


煙道横断面（西から）

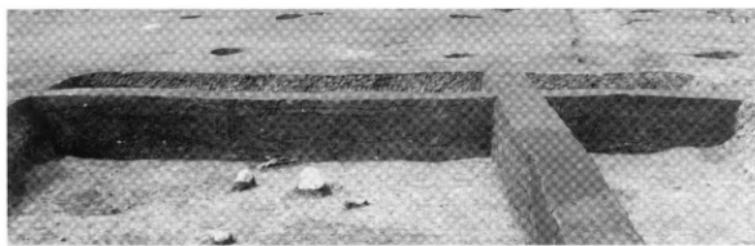
写真図版5 RAO41 窪穴住居跡



RAO42 壁穴住居跡 完掘（西から）



土層断面（南から）



土層断面（東から）

写真図版 6 RAO42 壁穴住居跡（1）



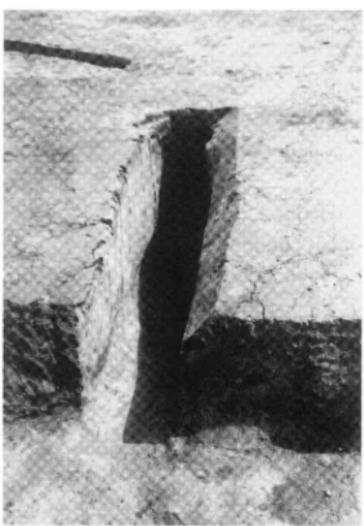
1号カマド 完掘（西から）



1号カマド 煙道横断面（西から）



Pit 7 遺物出土状況（西から）



2号カマド 完掘（西から）



2号カマド 煙出遺物出土状況（東から）

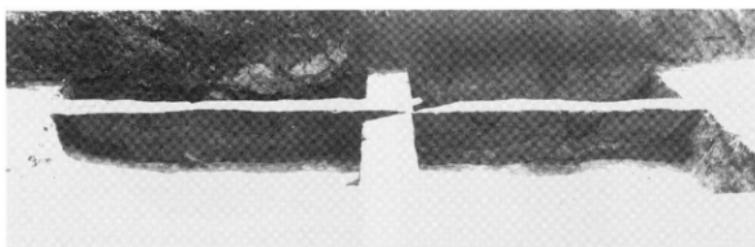


土層断面と仙北町変電所（東から）

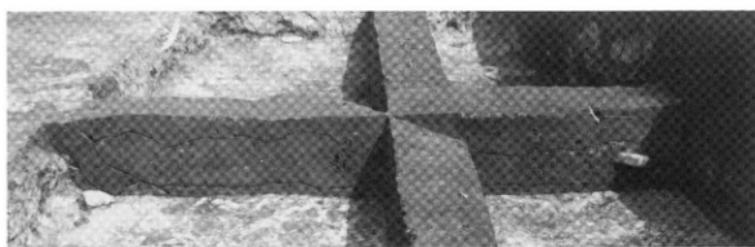
写真図版 7 RA042 壁穴住居跡（2）



RAO43 竪穴住居跡 完掘（南から）

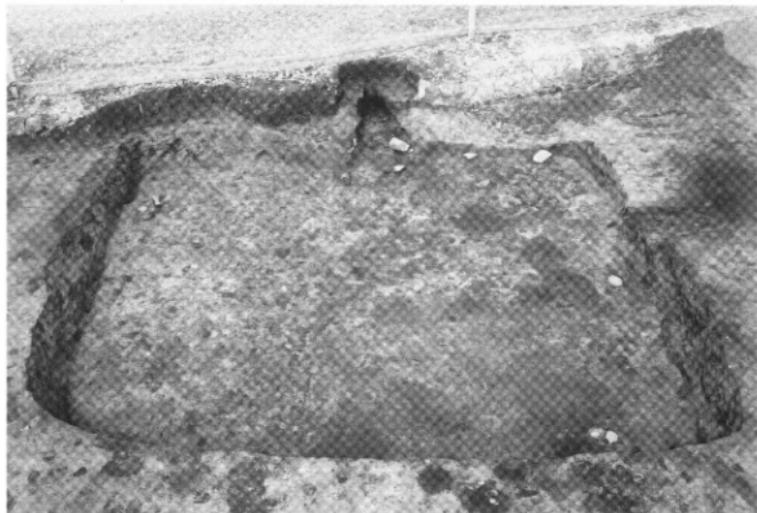


土 層 断 面 （西から）



土 層 断 面 （東から）

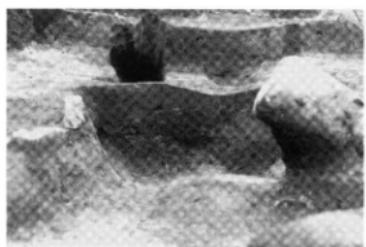
写真図版8 RAO43 竪穴住居跡



RAO44 穹穴住居跡 完掘（東から）



土層断面（東から）



カマド煙道横断面（東から）



カマド煙道縦断面（西から）

写真図版9 RAO44 穹穴住居跡



RAO45 竪穴住居跡 完掘（東から）



土層断面（西から）



カマド袖断面（東から）

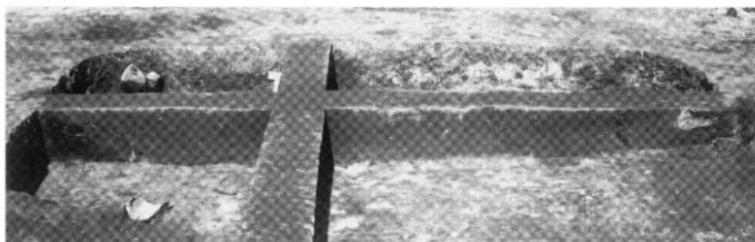


カマド煙道横断面（東から）

写真図版10 RAO45 竪穴住居跡



RAO46 穹穴住居跡 完掘（東から）



土層断面（南から）

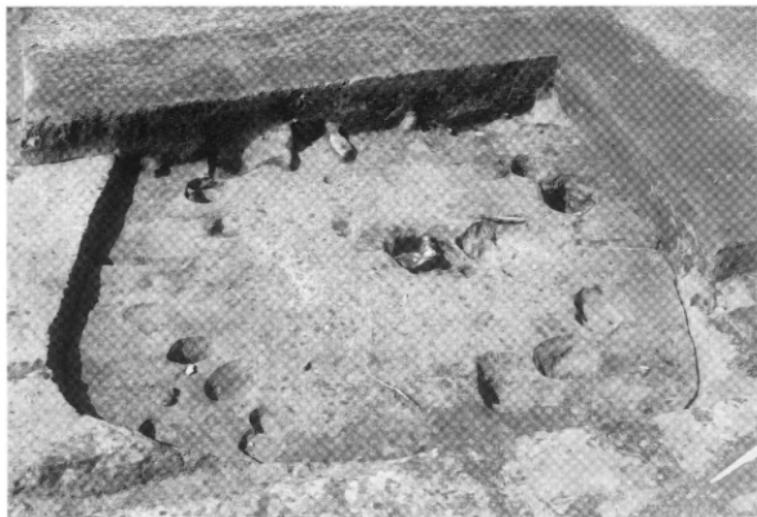


カマド煙道横断面（東から）

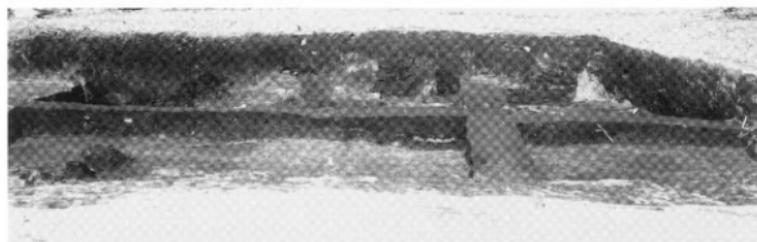


遺物出土状況（No2、西から）

写真図版11 RAO46 穹穴住居跡



RAO47 竪穴住居跡 完掘（東から）



土 屑 断 面 （東から）



遺物出土状況（Pit2、東から）

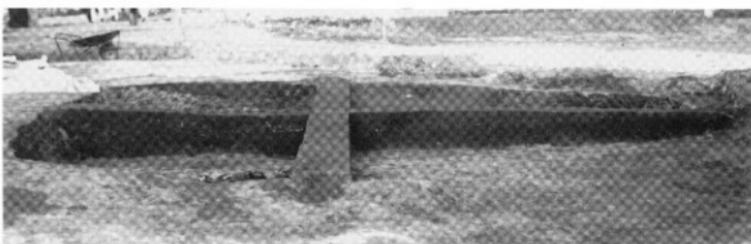


遺物出土状況（No8、北から）

写真図版12 RAO47 竪穴住居跡



RA048 穫穴住居跡 完掘（東から）



土層断面（東から）



土層断面（南から）

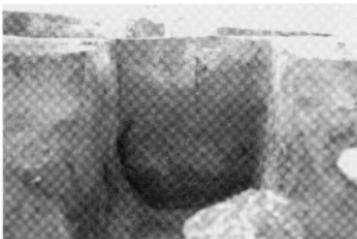
写真図版13 RA048 穫穴住居跡（1）



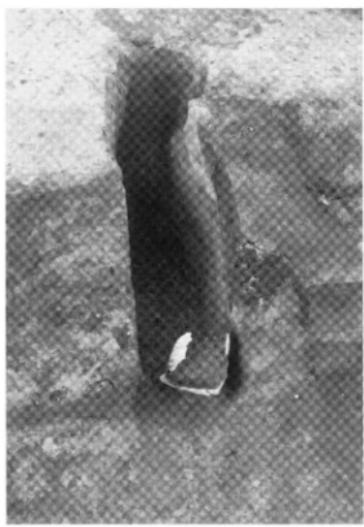
1号カマド 完掘（東から）



1号カマド 柚（東から）



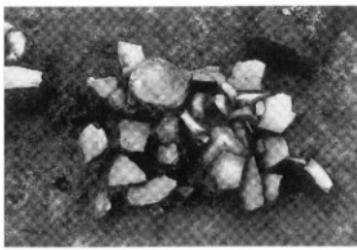
1号カマド 煙道横断面（東から）



2号カマド 完掘（東から）

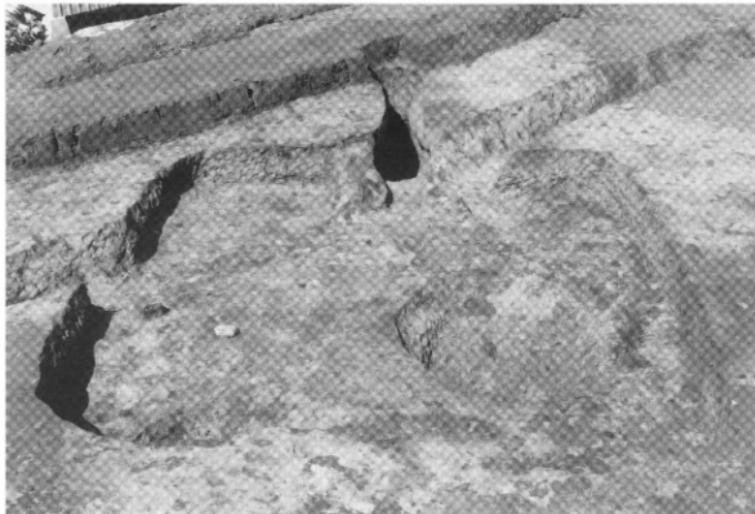


2号カマド 煙道横断面（東から）



遺物出土状況（No1. 西から）

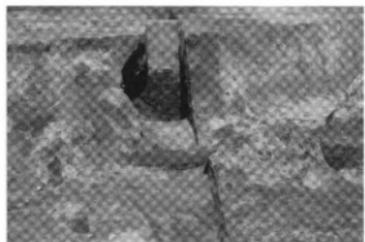
写真図版14 RA048 壁穴住居跡（2）



RAO49 竪穴住居跡 完掘（東から）



土層断面（南から）

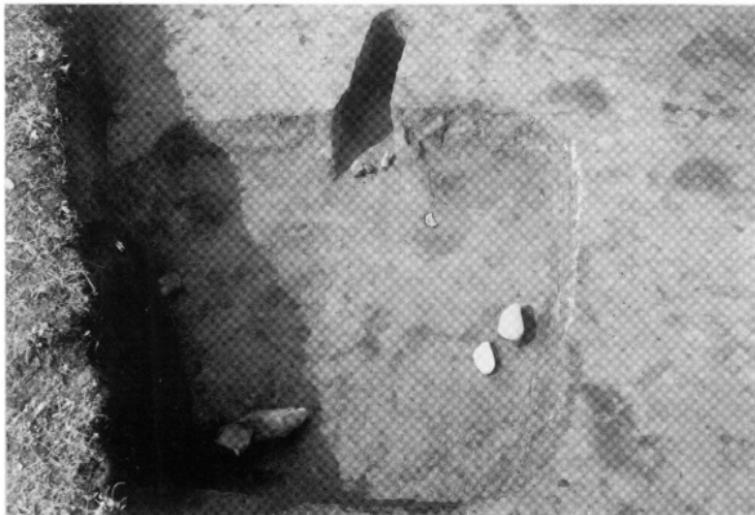


カマド煙道横断面（東から）

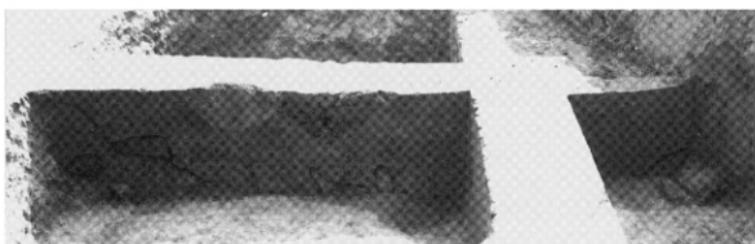


Pit1 断面（南から）

写真図版15 RAO49 竪穴住居跡



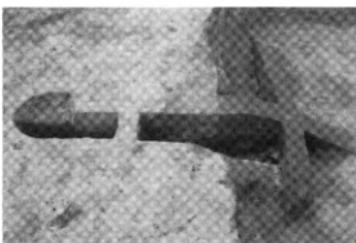
RAO50 穹穴住居跡 実掘（東から）



土層断面（西から）

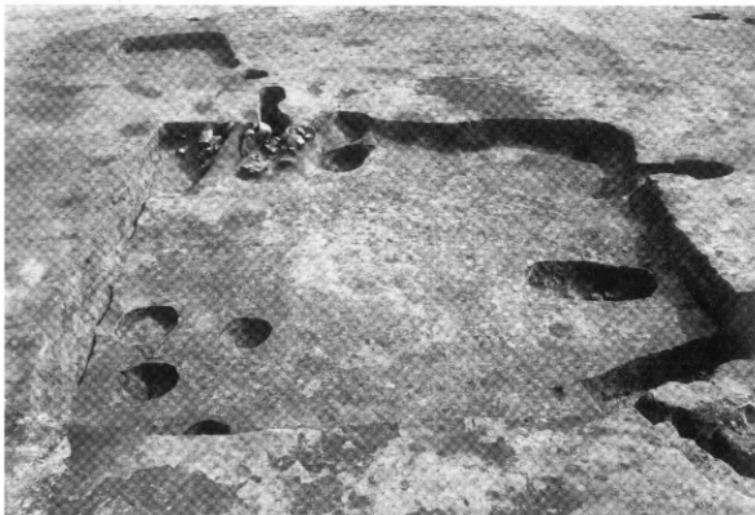


カマド煙道横断面・袖断面（東から）

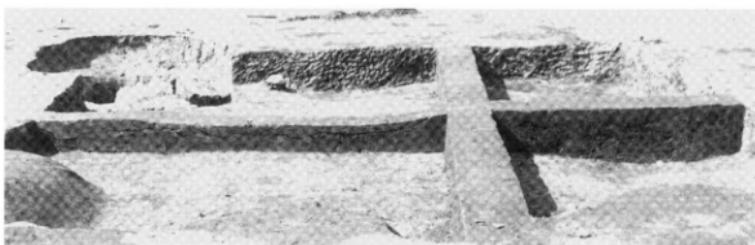


カマド煙道縦断面（南から）

写真図版16 RAO50 穹穴住居跡



RA051 穹穴住居跡 完掘（西から）



土層断面（東から）



1号カマド 遺物出土状況（西から）

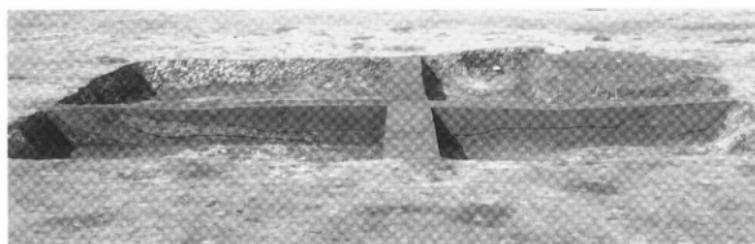


1号カマド 完掘（西から）

写真図版17 RA051 穹穴住居跡



RA052 積穴住居跡 完掘（西から）



土層断面（南から）

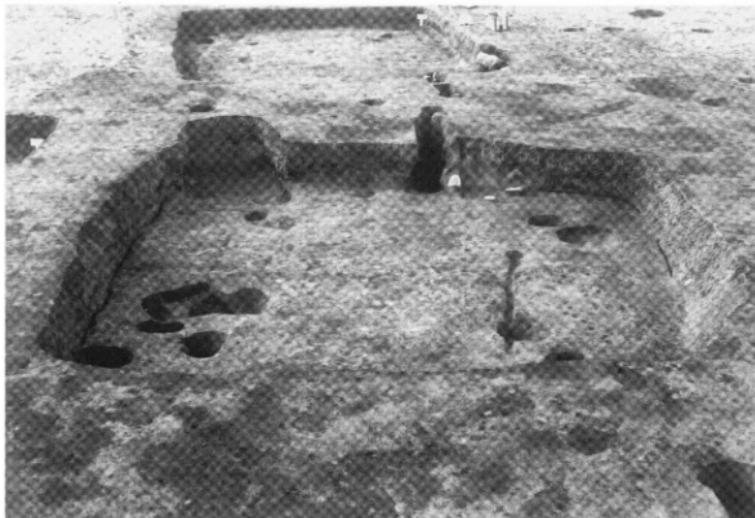


カマド 完掘（西から）

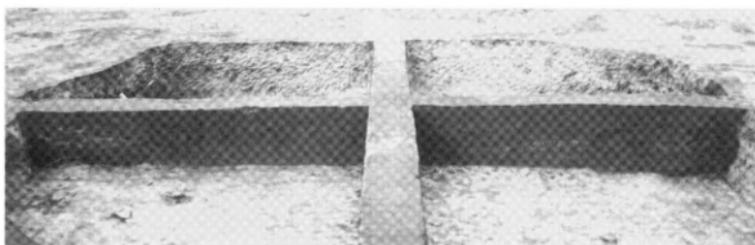


遺物出土状況（No.1、北東から）

写真図版18 RA052 積穴住居跡



RA053 穹穴住居跡 完掘（東から）



土 屑 断 面（南から）

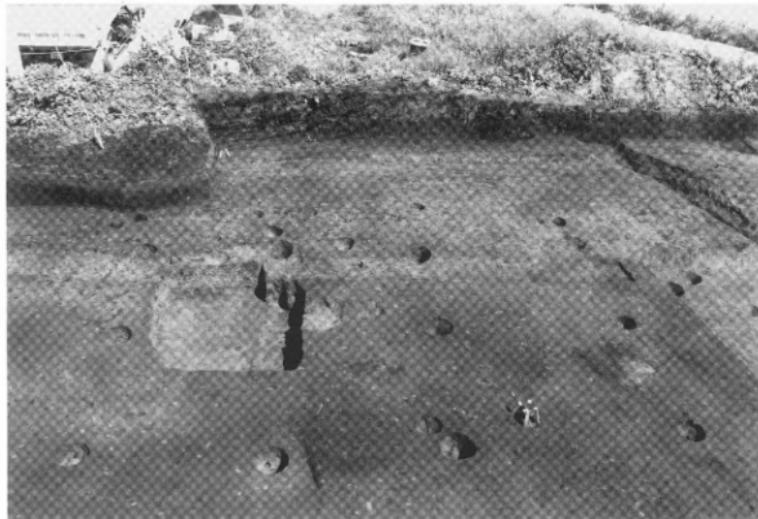


カマド袖断面（東から）

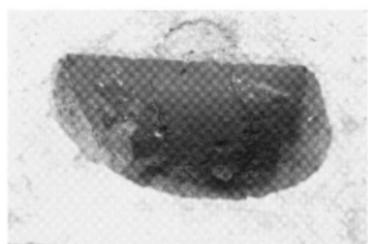


遺物出土状況（No10. 北から）

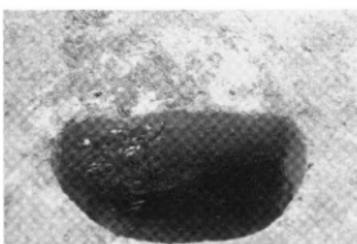
写真図版19 RA053 穹穴住居跡



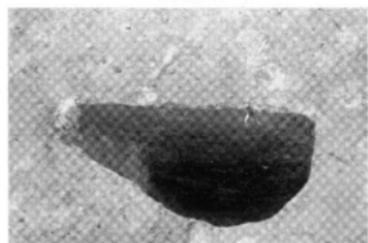
RB003 挖立柱建物跡 完掘（南から）



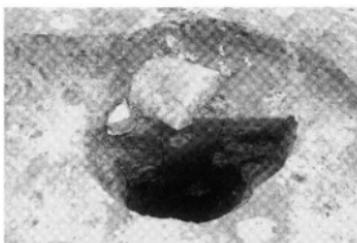
Pit1 断面（西から）



Pit5 断面（西から）



Pit6 断面（西から）



Pit18 断面（南から）

写真図版20 RB003 挖立柱建物跡



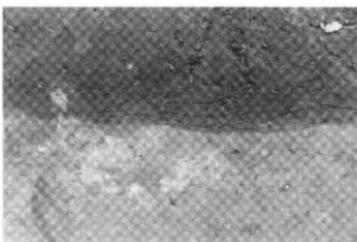
RD064 土坑 完掘（南から）



RD064 土坑 断面（南から）



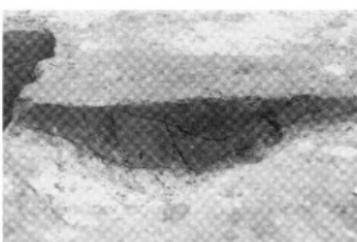
RD065 土坑 完掘（南から）



RD065 土坑 断面（南から）



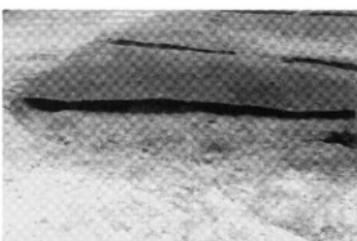
RD066 土坑 完掘（南から）



RD066 土坑 断面（南から）



RD067 土坑 完掘（西から）



RD067 土坑 断面（西から）

写真図版21 RD064～067 土坑



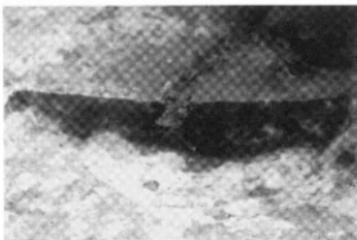
RD068 土坑 完掘（南から）



RD068 土坑 断面（南から）



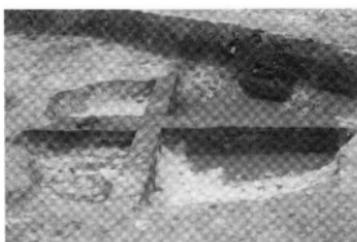
RD069 土坑 完掘（東から）



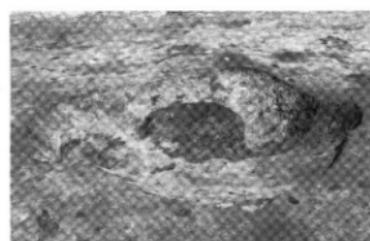
RD069 土坑 断面（北西から）



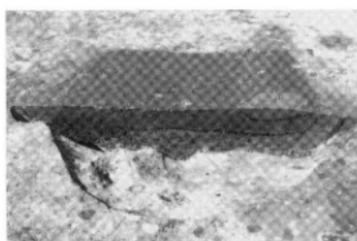
RD070・071 土坑 完掘（南から）



RD070・071 土坑 断面（南から）

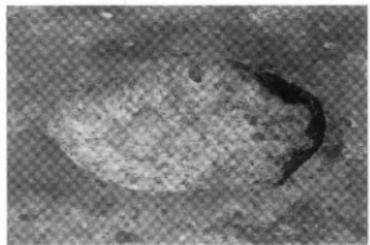


RD072 土坑 完掘（南から）



RD072 土坑 断面（南から）

写真図版22 RD068～072 土坑



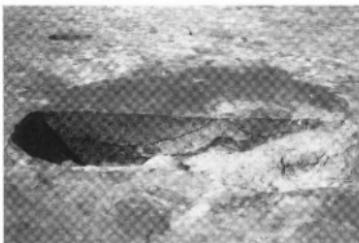
RD073 土坑 完掘（南から）



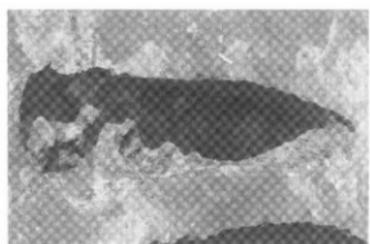
RD073 土坑 断面（南から）



RD074 土坑 完掘（南から）



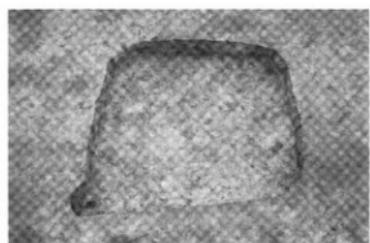
RD074 土坑 断面（南から）



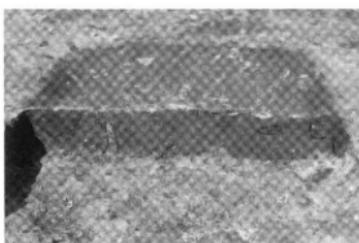
RD075 土坑 完掘（南から）



RD075 土坑 断面（南から）



RD076 土坑 完掘（南から）

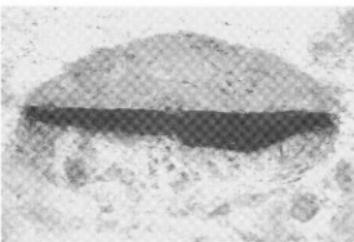


RD076 土坑 断面（南から）

写真図版23 RD073～076 土坑



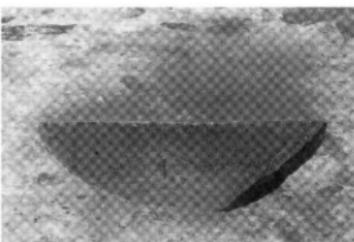
RD077 土坑 完掘（南から）



RD077 土坑 断面（南から）



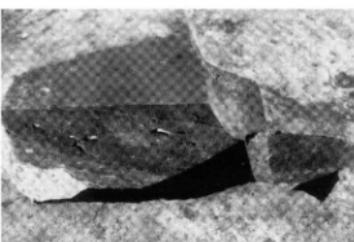
RD082 土坑 断面（西から）



RD078 土坑 断面（南から）



RD079 土坑 完掘（東から）



RD079 土坑 断面（南から）

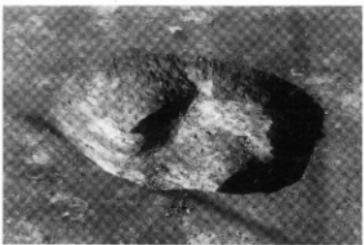


RD080 土坑 完掘（東から）

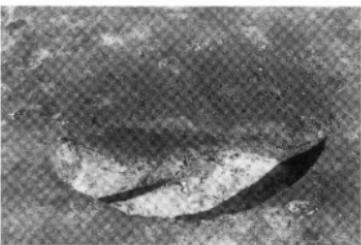


RD080 土坑 断面（東から）

写真図版24 RD077～080 土坑



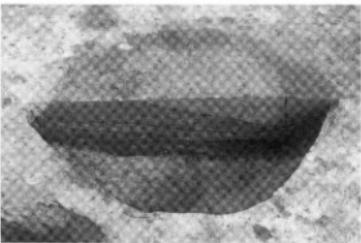
RD081 土坑 完掘（西から）



RD081 土坑 断面（南から）



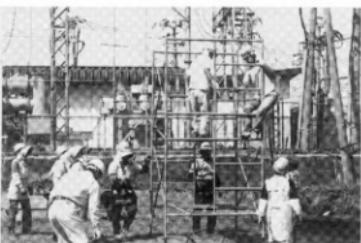
RD083 土坑 完掘（南から）



RD083 土坑 断面（西から）



北側調査区作業風景



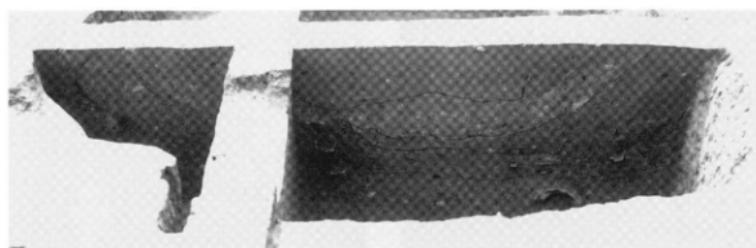
東側調査区作業風景



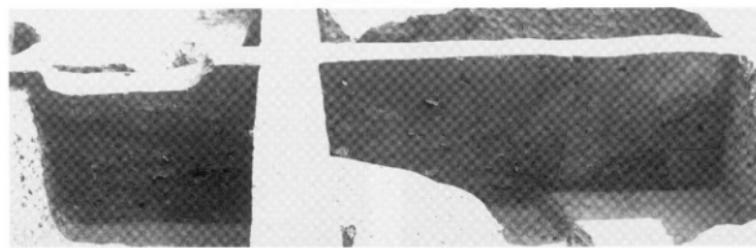
写真図版25 RD081～083 土坑



RE001 竪穴状遺構 完掘（東から）

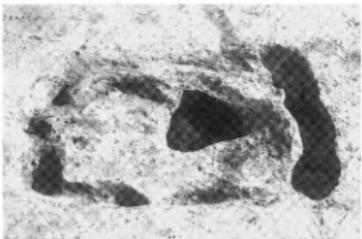


土層断面（北から）



土層断面（西から）

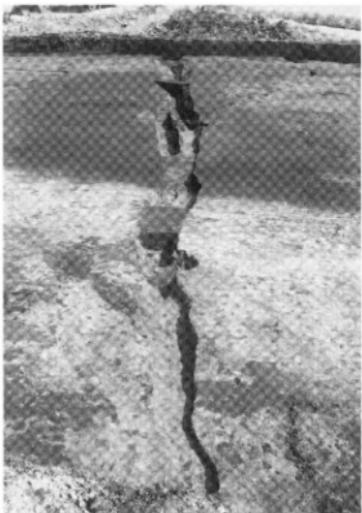
写真図版26 RE001 竪穴状遺構



RF001 燃土遺構 平面（北から）



RF001 燃土遺構 断面（南から）



RG015 溝跡 北側調査区完掘（南から）



RG015 溝跡 南側調査区完掘（北から）



RG015 溝跡 北側調査区断面（南から）

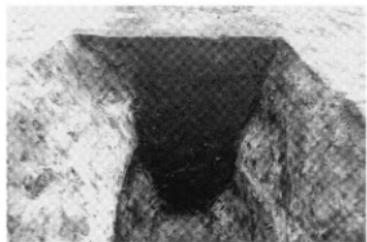


RG015 溝跡 南側調査区断面（南から）

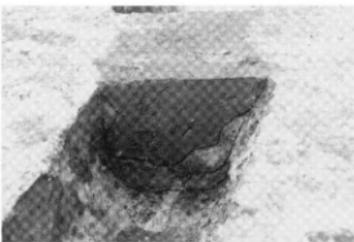
写真図版27 RF001 燃土遺構・RG015 溝跡



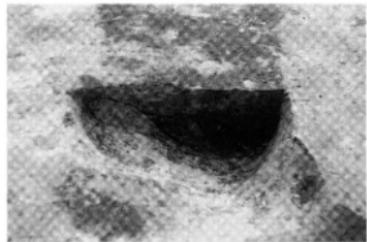
RG017 溝跡 完掘（南から）



RG017 溝跡 断面①（北から）



RG017 溝跡 断面②（南から）

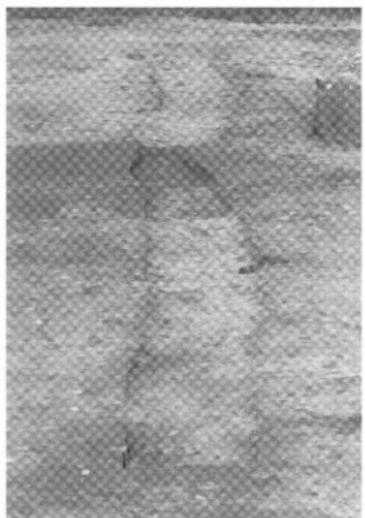


RG017 溝跡 断面③（東から）

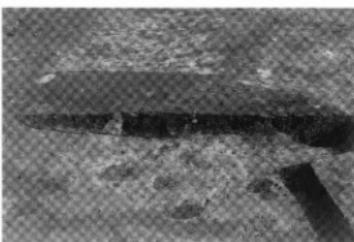


RG017 溝跡 断面④（南から）

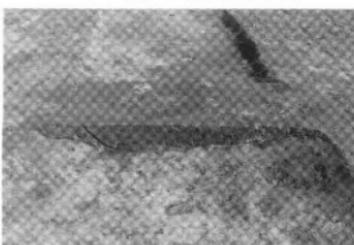
写真図版28 RG017 溝跡



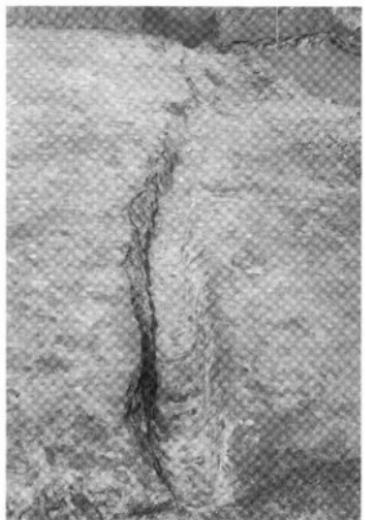
RG018 溝跡 完掘（東から）



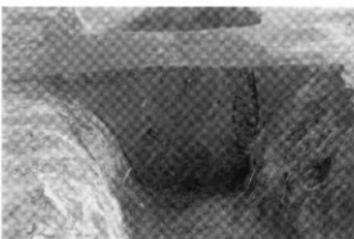
RG018 溝跡 土層断面①（西から）



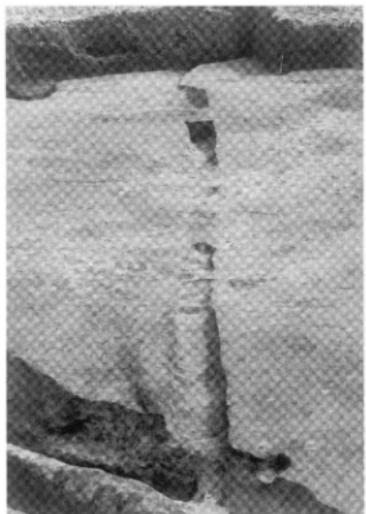
RG018 溝跡 土層断面②（西から）



RG019 溝跡 完掘（東から）



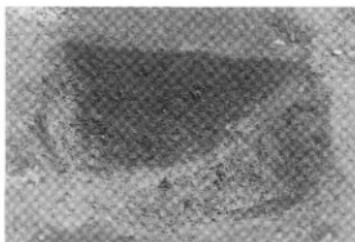
RG019 溝跡 土層断面（西から）



RG020 溝跡 完掘（南から）



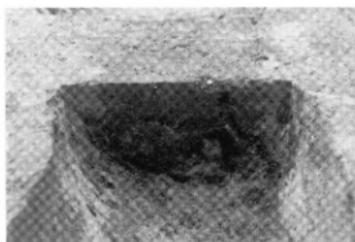
RG020 溝跡 断面（南から）



RG020 溝跡 断面（南から）



RG021 溝跡 完掘（東から）

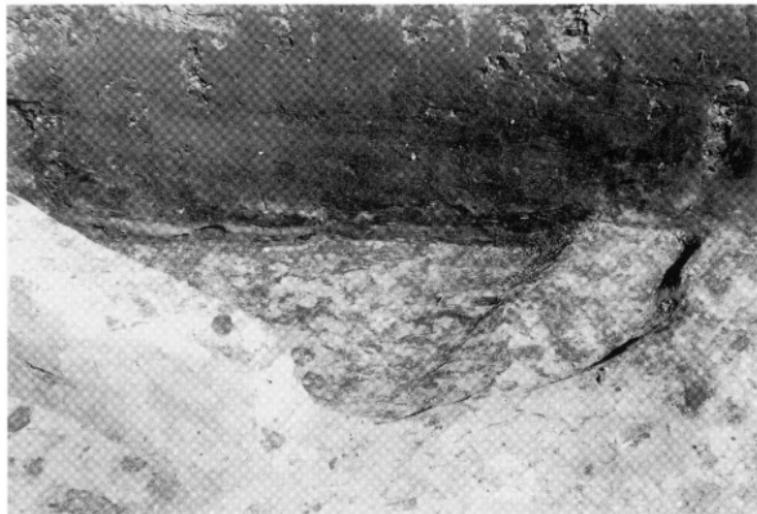


RG021 溝跡 断面（東から）



東側調査区検出状況

写真図版30 RG020・021 溝跡



RZ003 完掘（南から）



焼土分布状況（東から）

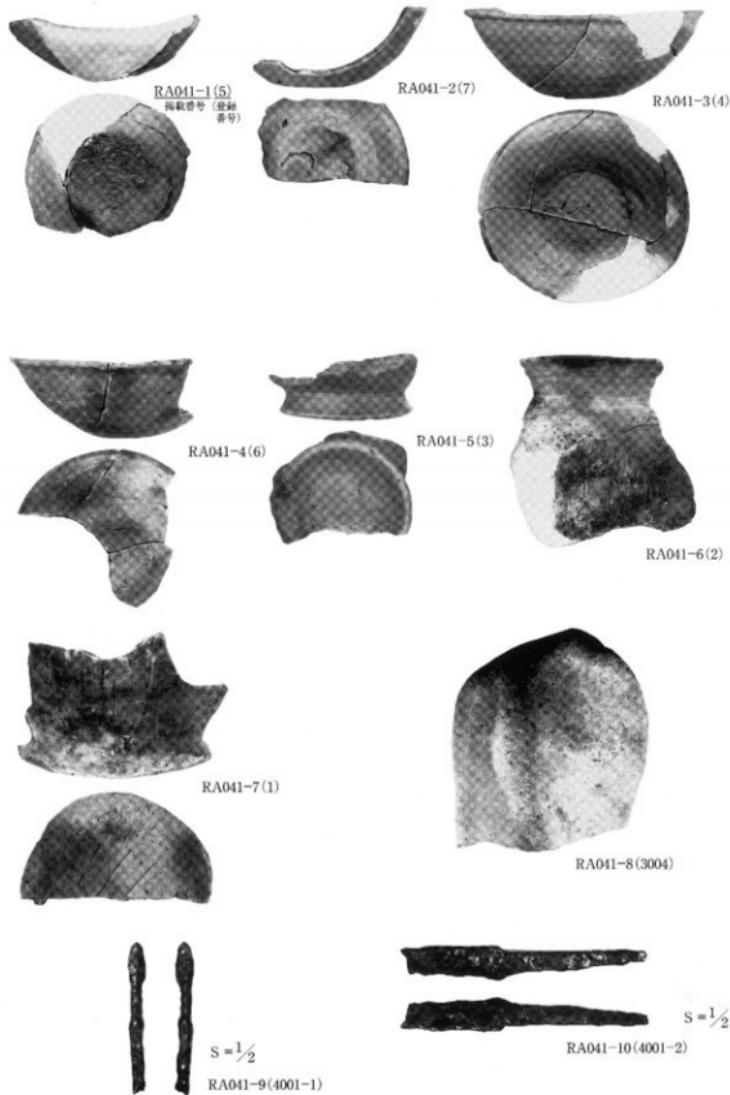


断面（南から）

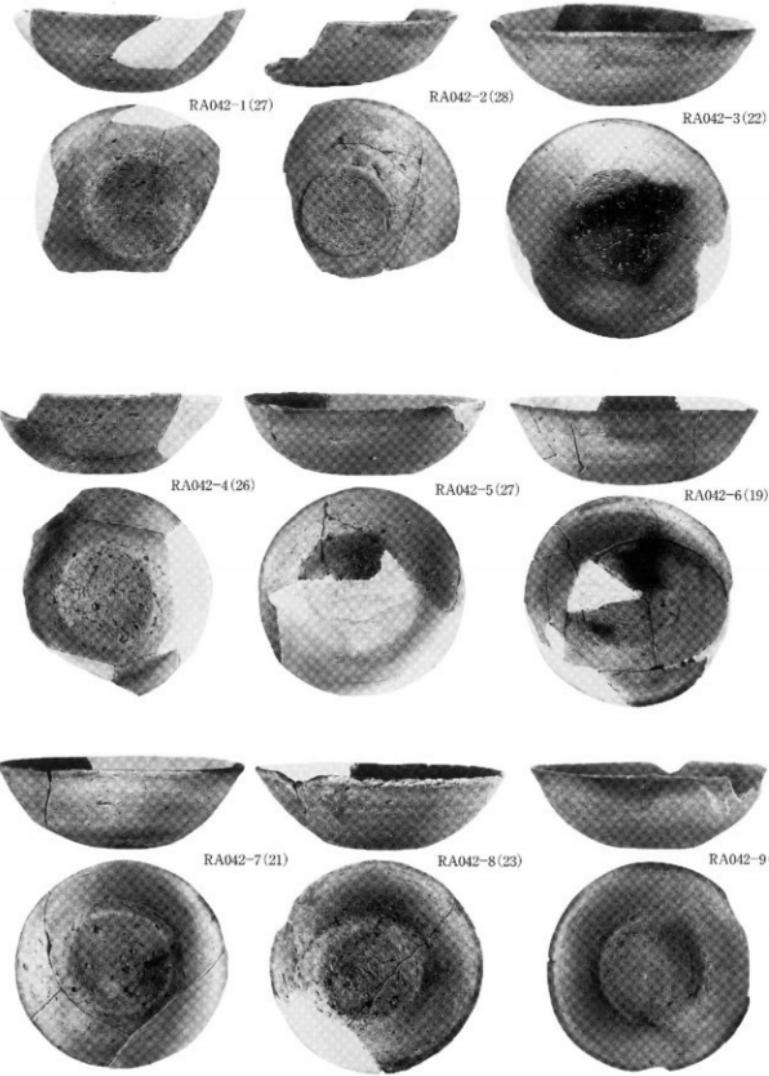


RA045との位置関係（東から）

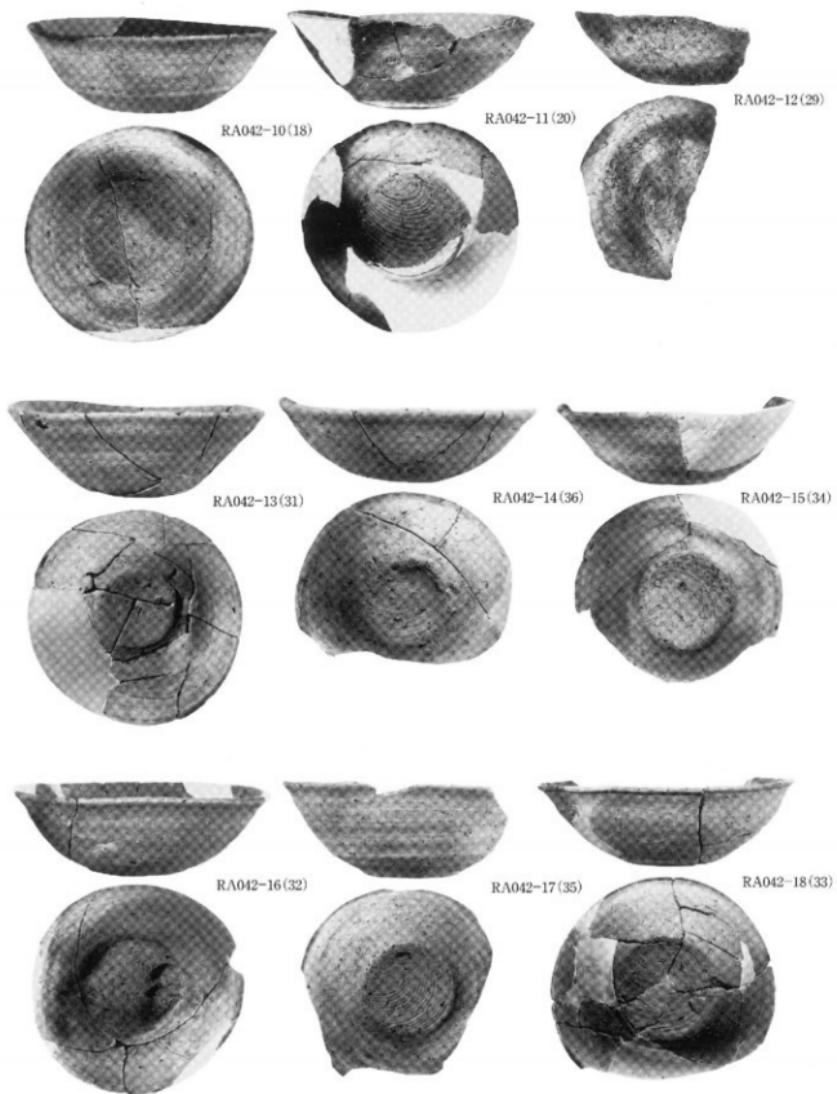
写真図版31 RZ003



写真図版32 RA041 出土遺物



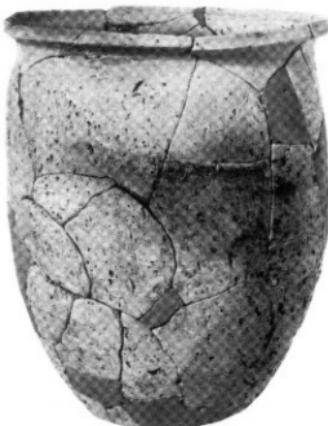
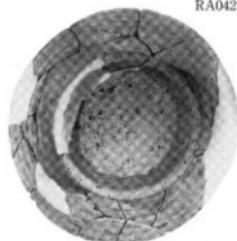
写真図版33 RA042 (1) 出土遺物



写真図版34 RA042 (2) 出土遺物



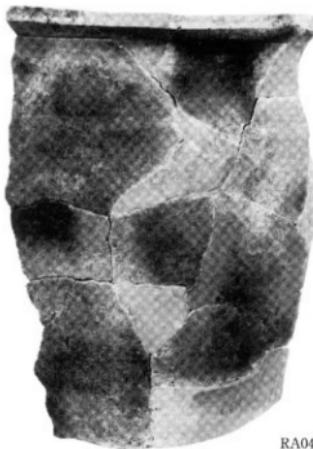
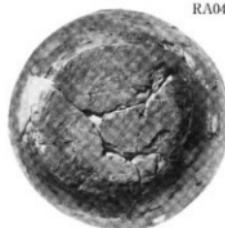
RA042-19(30)



RA042-20(9)



RA042-21(8)

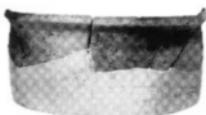


RA042-22(13)

写真図版35 RAO42 (3) 出土遺物



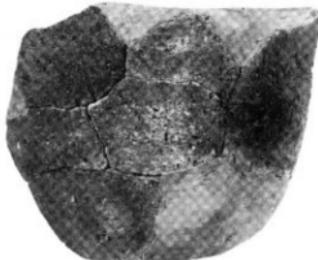
RA042-23(16)



RA042-25(17)



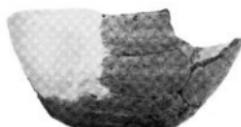
RA042-24(10)



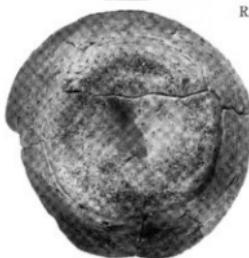
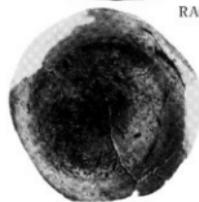
RA042-27(12)



RA042-26(11)



RA042-28(37)



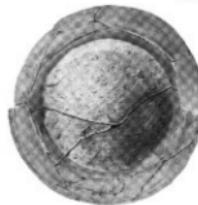
写真図版36 RA042 (4) 出土遺物



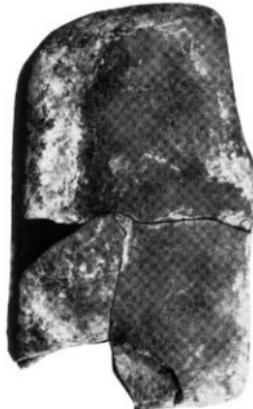
RA042-29(14)



RA042-30(222)



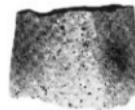
RA042-31(221)



RA042-32(3006)

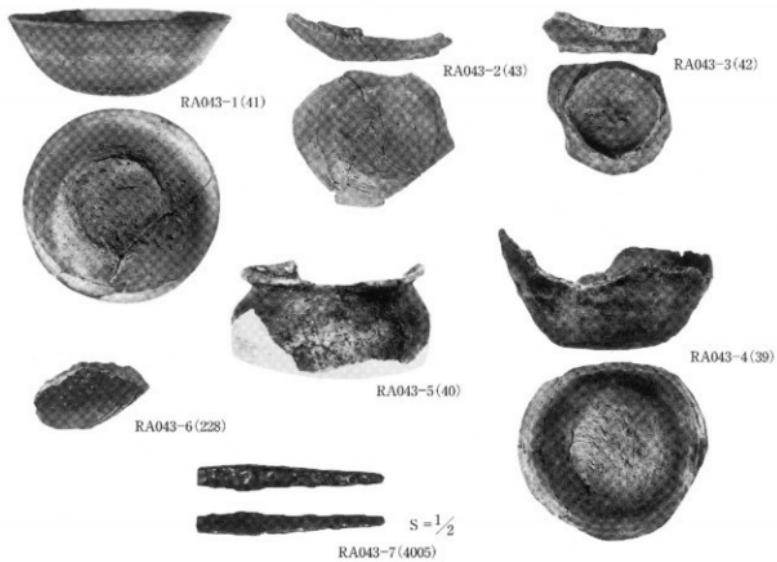


RA042-33(3007)

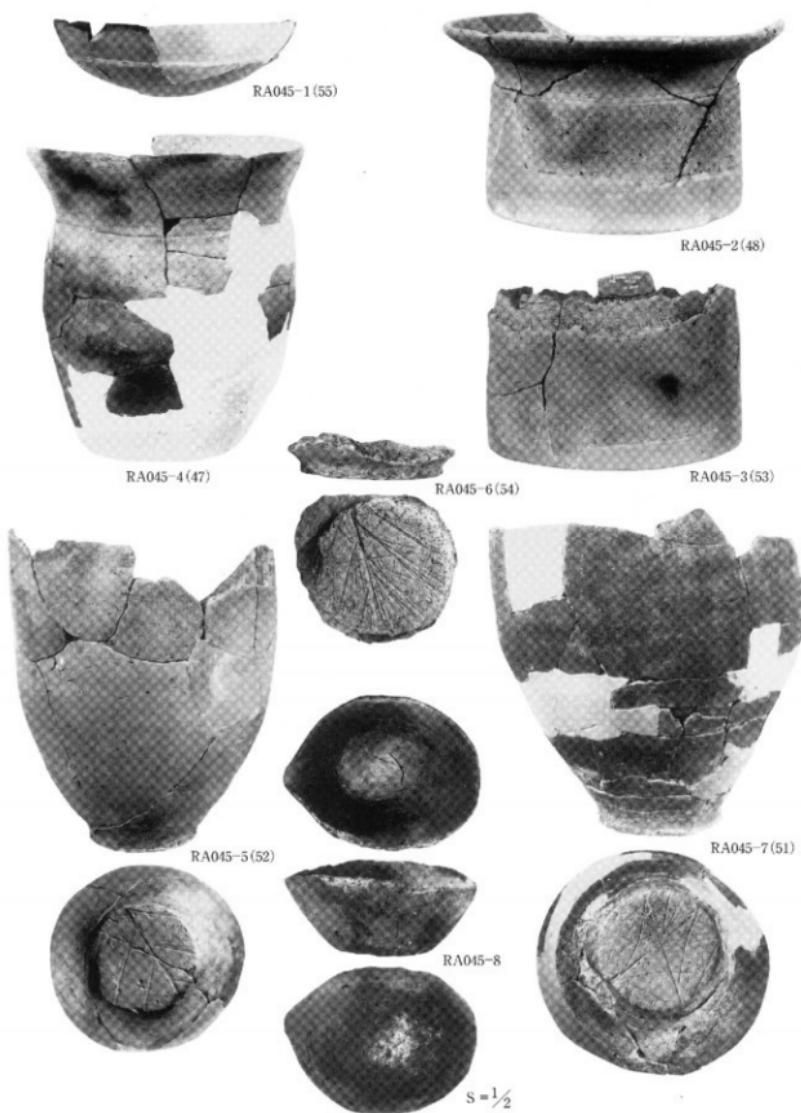


RA042-34(3011)

写真図版37 RA042 (5) 出土遺物



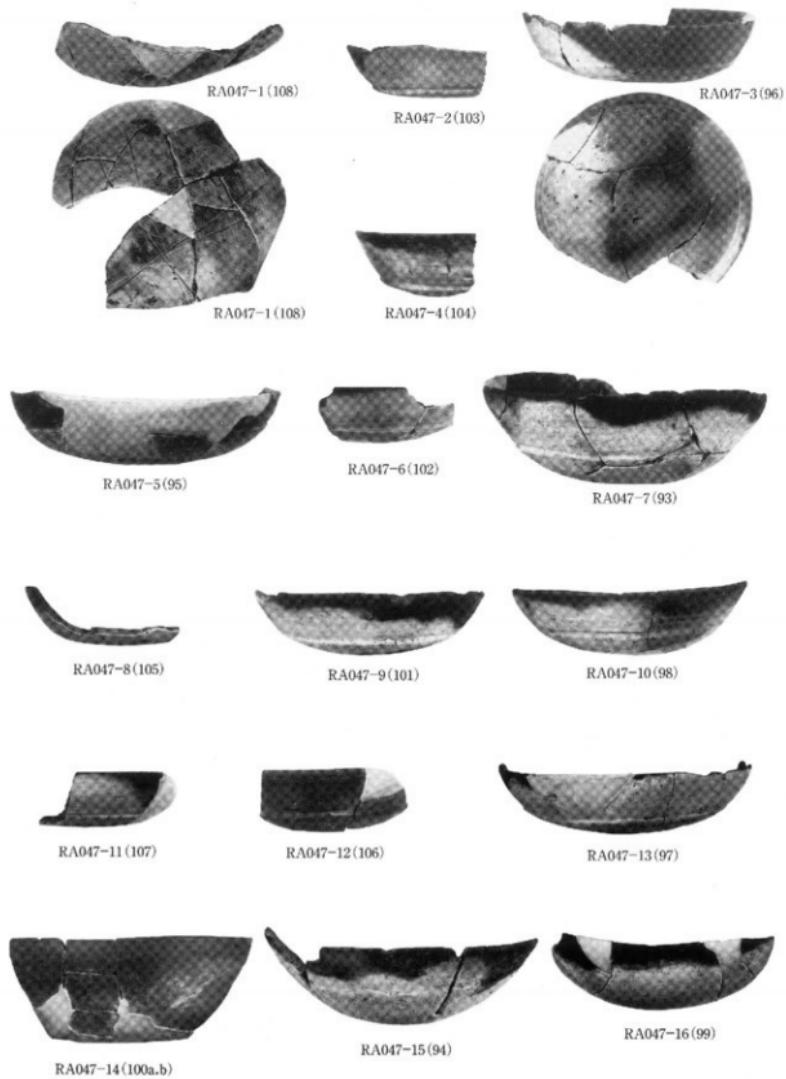
写真図版38 RA043・RA044 出土遺物



写真図版39 RA045 出土遺物



写真図版40 RA046 出土遺物



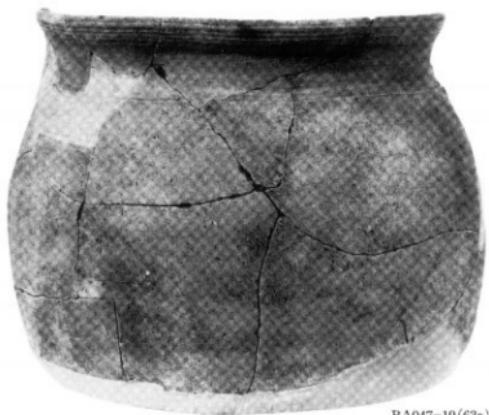
写真図版41 RA047 (1) 出土遺物



RA047-17 (110)



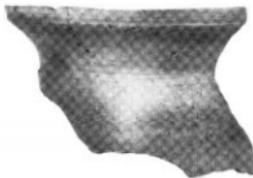
RA047-18 (109)



RA047-19 (63a)



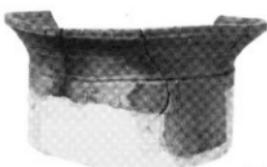
RA047-20 (71)



RA047-21 (78)



RA047-22 (66)



RA047-24 (74)



RA047-23 (67)

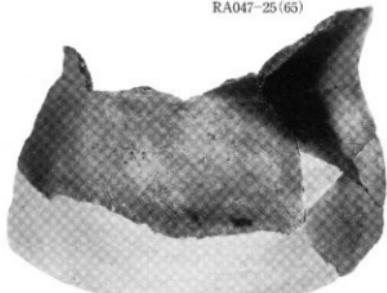
写真図版42 RAO47 (2) 出土遺物



RA047-25 (65)



RA047-26 (64)



RA047-27 (85)



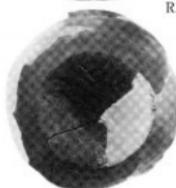
RA047-28 (88)



RA047-29 (69)



RA047-30 (87)



写真図版43 RA047 (3) 出土遺物



RA047-31(70)



RA047-33(68)



RA047-32(81)



RA047-35(89)



RA047-34(90)



RA047-36(92)

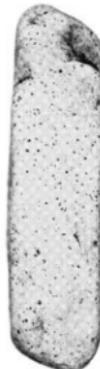


RA047-37(91)

写真図版44 RA047 (4) 出土遺物



RA047-38(62)



RA047-39(3018)



RA047-40(1001)
 $S = \frac{1}{2}$



RA047-41(1002)
 $S = \frac{1}{2}$



RA047-42(1003)
 $S = \frac{1}{2}$



RA047-43(1004)
 $S = \frac{1}{2}$



RA047-44(4007-1-a)

RA047-45(4007-2)

写真図版45 RA047 (5) 出土遺物



RA048-1(129)



RA048-2(130)



RA048-3(133)



RA048-4(132)



RA048-5(115)



RA048-6(121)

写真図版46 RA048 (1) 出土遺物



RA048-7(127)



RA048-8(122)



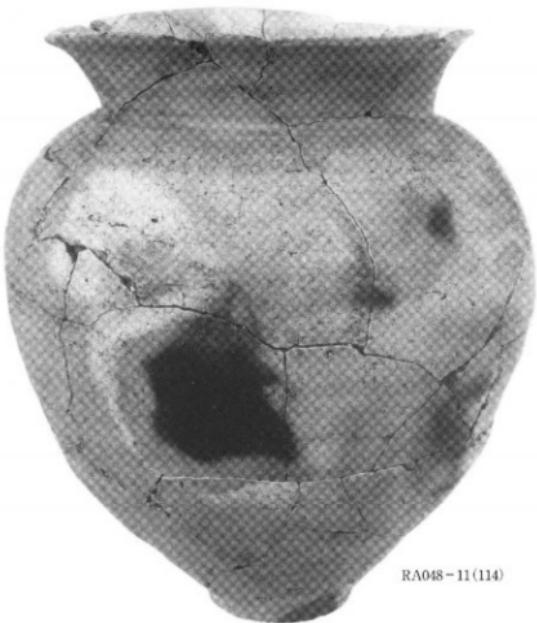
RA048-9(116)



RA048-10(120)



写真図版47 RA048 (2) 出土遺物



RA048-11(114)



RA048-12(123)



RA048-13(126)

写真図版48 RA048 (3) 出土遺物



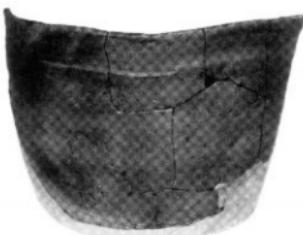
RA048-14(113a, b)



写真図版49 RAO48 (4) 出土遺物



RA048-15(117)

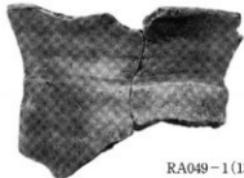


RA048-16(128)



RA048-17(4013)

S = $\frac{1}{2}$



RA049-1(135)



RA049-2(3017)



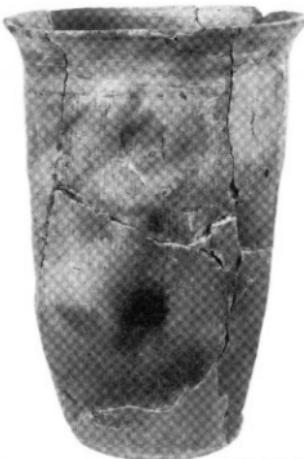
RA050-1(139)



RA050-2(138)



RA050-4(136)



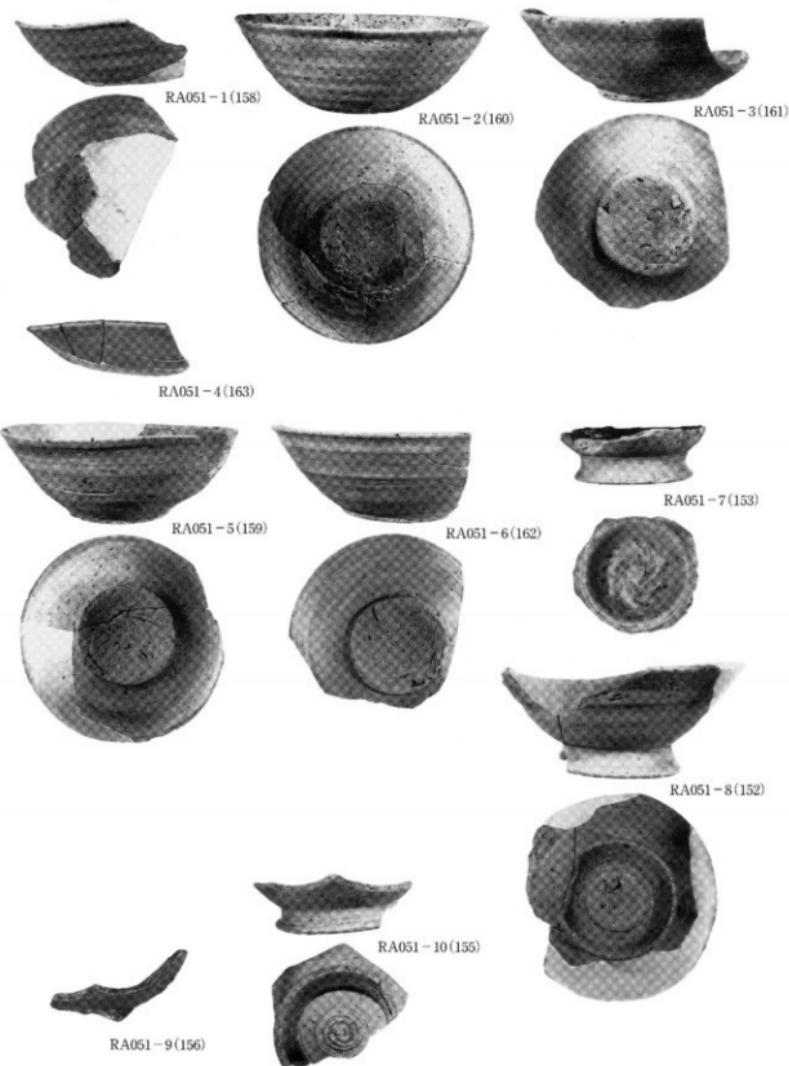
RA050-3(137)



写真図版61 RA050 出土遺物



RA050-5(3019)



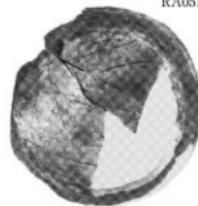
写真図版52 RA051 (1) 出土遺物



RA051-11(143)



RA051-12(148)

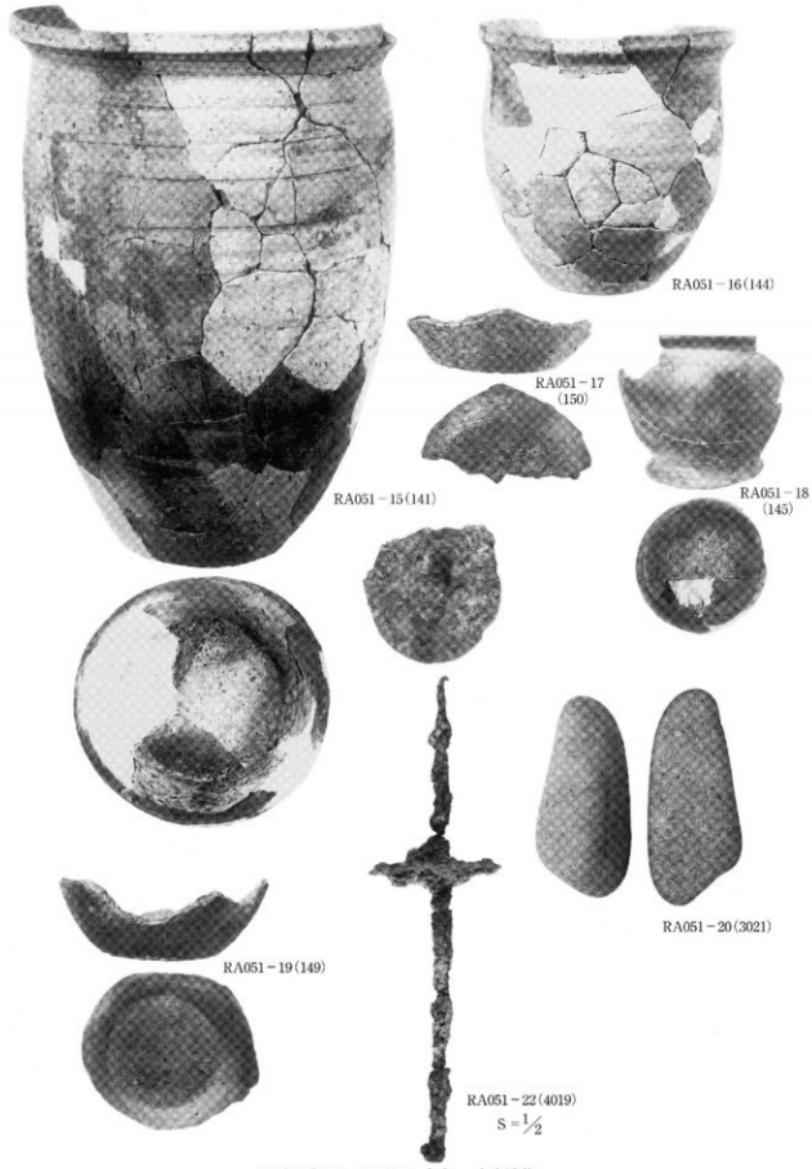


RA051-13(142)

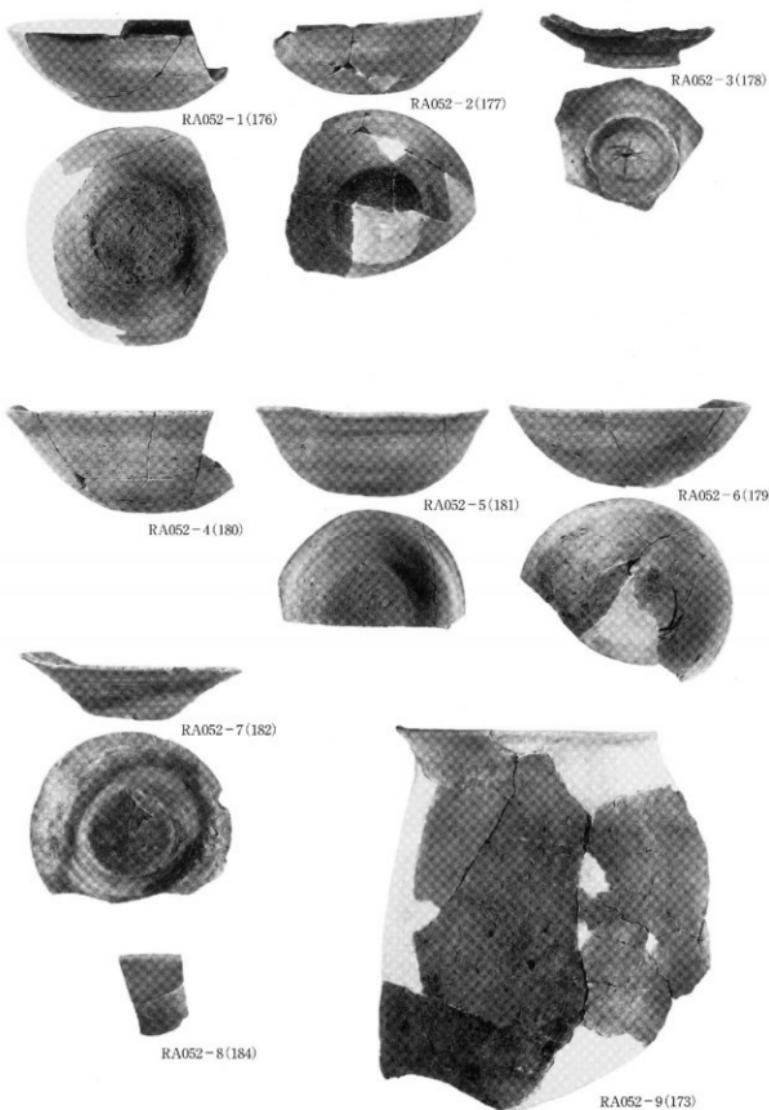


RA051-14(140)

写真図版53 RA051 (2) 出土遺物



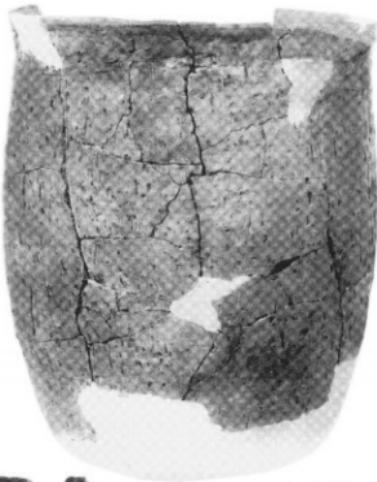
写真図版54 RA051 (3) 出土遺物



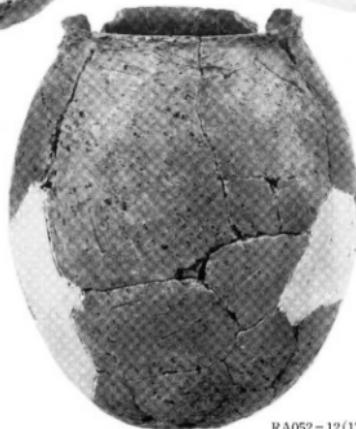
写真図版55 RA052 (1) 出土遺物



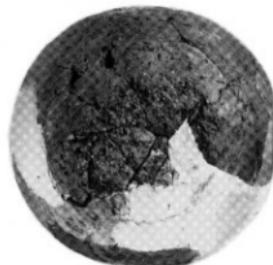
RA052-10(164)



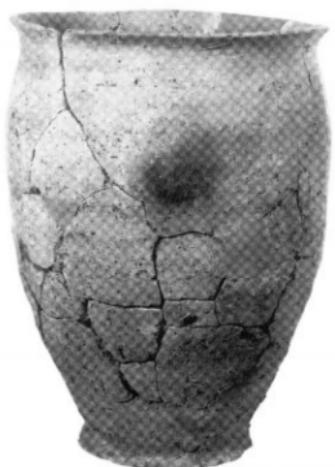
RA052-11(169)



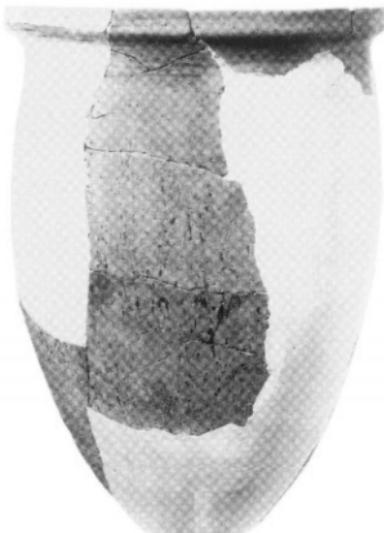
RA052-12(171)



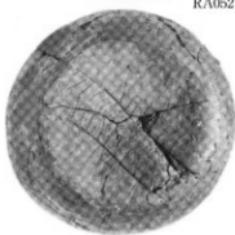
写真図版56 RA052 (2) 出土遺物



RA052-13(167)



RA052-14(165)



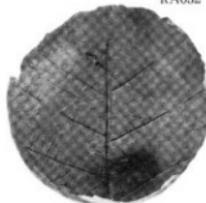
写真図版57 RA052 (3) 出土遺物



RA052-15(166)



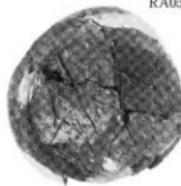
RA052-16(172)



RA052-17(170)



RA052-18(174)



写真図版58 RA052 (4) 出土遺物



RA052-19 (168)



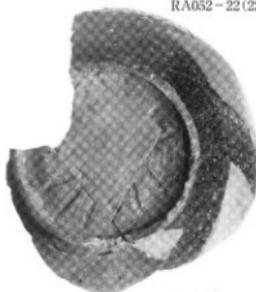
RA052-20 (175)



RA052-22 (223)



RA052-21 (183)



RA052-23 (224)



RA052-24 (225)



RA052-26 (4011)

$S = \frac{1}{2}$



RA052-25 (3024)



RA052-27 (4014)

$S = \frac{1}{2}$

写真図版59 RA052 (5) 出土遺物



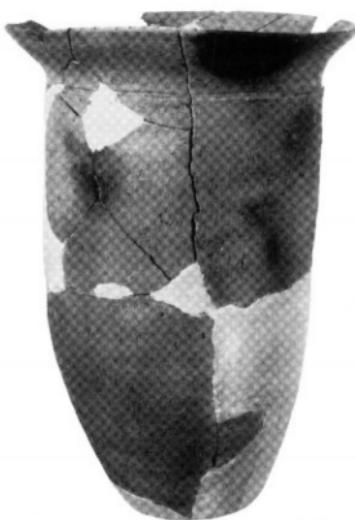
RA053-1(185)



RA053-2(189)

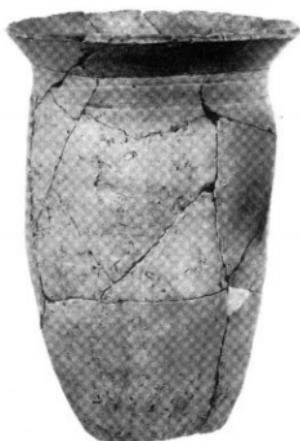


RA053-3(188)



RA053-4(187)

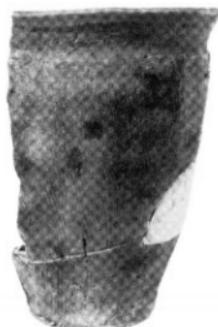
写真図版60 RA053 (1) 出土遺物



RA053-5(186)



RA053-6(193)



RA053-7(190)

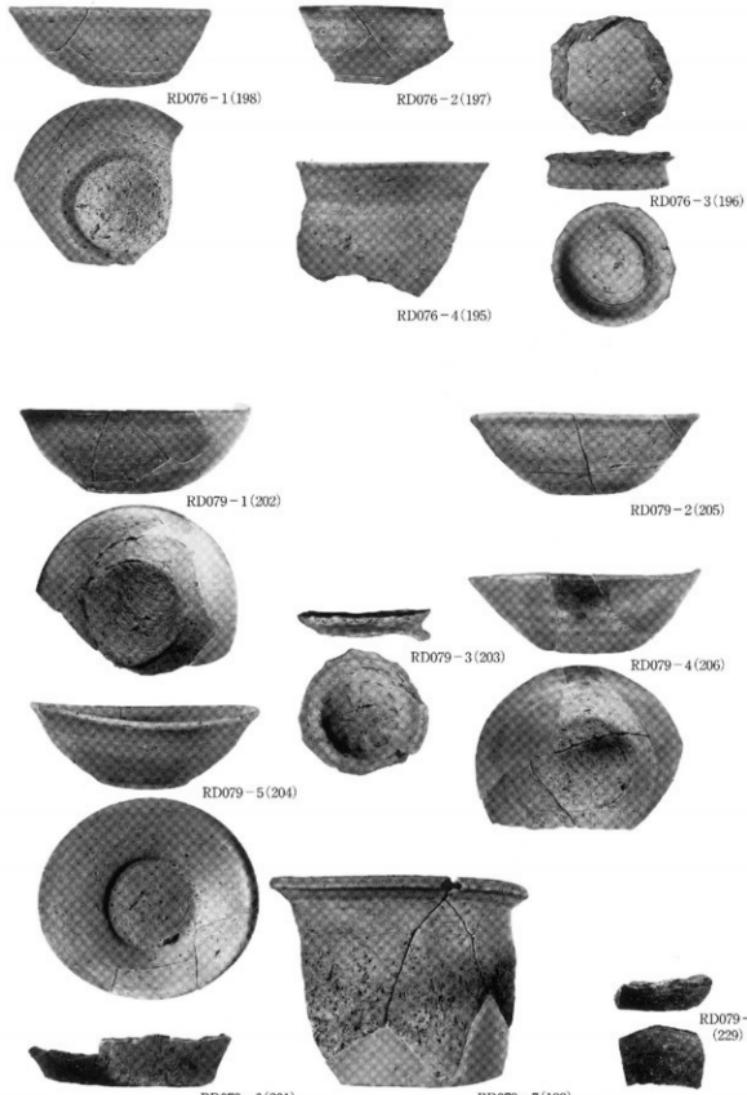


RA053-8(194)



RA053-9(15)

写真図版61 RA053 (2) 出土遺物



写真図版62 RD076・RD079 出土遺物



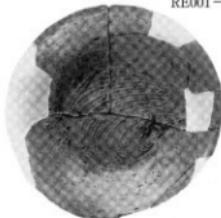
RE001-1 (214)



RE001-2 (215)



RE001-3 (210)



RE001-4 (216)



RE001-5 (211)



RE001-6 (212)

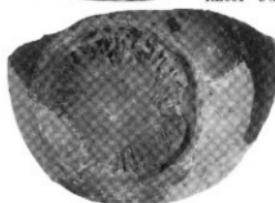
写真図版63 RE001 (1) 出土遺物



RE001-7 (230)



RE001-8 (231)



RZ003-1 (75)

写真図版64 RE001 (2)・RZ003 出土遺物

報告書抄録

| | | | | | | | |
|-----------------|---|---------------|--|--|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ふりがな | のっこえいいせきだいじゅうごじはくつちょうさほうこくしょ | | | | | | |
| 書名 | 野古A遺跡第15次発掘調査報告書 | | | | | | |
| 副書名 | 盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査 | | | | | | |
| シリーズ名 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第421集 | | | | | | |
| 編著者名 | 阿部真澄 | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | | | | | | |
| 所在地 | 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 電話019-638-9001 | | | | | | |
| 発行年月日 | 平成15年3月28日 | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 所収遺跡 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | |
| 野古A遺跡 | 岩手県盛岡市 下鹿奏字北 40-1他 | 03201 2155 | L E 16- 40分 45秒 | 39度 8分 04秒 | 141度 ~ 2002.11.06 | 2002.08.01 3,169m ² | 盛岡南新都市 開発整備事業 に伴う緊急発 掘調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 野古A遺跡 (第15次) | 集落跡 | 奈良時代 | 竪穴住居跡 8棟 | 土師器 | 集落は大形・中形 ・小形の住居跡群 から構成される。 | | |
| | | 平安時代 | 竪穴住居跡 5棟 竪穴状遺構 1棟 掘立柱建物跡 1棟 | 土師器・須恵器 | | | |
| | | その他(主に古代) | 溝跡 6条 土坑 20基 柱穴状土坑 122基 焼上造構 1基 土坑状遺構 1基 | 土製品(土玉・土 鍬・紡錘車・羽口) 鉄製品(刀子・紡 錘車・鉄鎌) 石製品(砥石) | | | |

平成14年度(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

| 所長 | 木村昇 | 副所長 | 高橋正儀 |
|--|--|--|---|
| [管 理課] 課 長 長 佐 主 査 | 吉光美一 正善直賢 津崎岸鶴 井山山中 | 嘱託 ◆◆◆ | 雄子子 照邦滋 高湯伊 |
| [調査第一課] 課 長 長 佐 補 文化財専門員 文化財調査員 | 勝文介透允郎 清義 木本橋大信 佐佐高 小山内田 木坂松野中子 本坂 早小金 野金阿 阿羽高 長尾杉 村木青 西村福 北八米九 北島中坂 巖玉吉 小長藤川 太江立 | 長 佐 長 佐 補 員 文化財調 査員 期限付調 査員 | 門紀子登澄重明彦宏 一彦香郎美子和賀裕寛子臣 與右衛門紀知登明(彦宏)一 佐佐真一裕泰由雅淳武英治直 麻里智美高 橋川子石郡坂木慈田藤澤川山 藤田池花野崎 高中金赤阿彌鈴久(濱安星佐半 皆瀬丸齊吉菊立駒原石 |
| [調査第二課] 課 長 長 佐 補 文化財専門員 文化財調査員 | 透允郎淳也進盛彦明則人晃稔文郎 拓一郎和晴敬和昭枝寛治熟征美造 剛眞昭孝勝直克幸昭太 準紀正忠勝沼弘絵志健良弘ひか 一美卓り輔晋彦敷志 由草り輔晋彦敷志 健良弘ひか 公 | 期限付調 査員 | 門紀子登澄重明彦宏 一彦香郎美子和賀裕寛子臣 與右衛門紀知登明(彦宏)一 佐佐真一裕泰由雅淳武英治直 麻里智美高 橋川子石郡坂木慈田藤澤川山 藤田池花野崎 高中金赤阿彌鈴久(濱安星佐半 皆瀬丸齊吉菊立駒原石 |
| 期限付調査員 | | | |

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第421集

野古A遺跡第15次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成15年3月20日

発行 平成15年3月28日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

T E L (019) 638-9001・9002

F A X (019) 638-8563

印刷 南ジロー印刷企画

〒020-0066 盛岡市上田二丁目17番4号

T E L (019) 651-6644

F A X (019) 652-2610

